

科目名称:スポーツ					
担当者名:松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	実習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21101101
授業概要:現在の子どもたちは、自然の中で行う遊ぶ機会、しかも集団遊びをする機会が失われてきた。その結果、若者たちの体力低下が指摘され、仲間づくりが不得意な学生が増えている。次の世代を担う学生たちが心身共に健全であることを願い、生涯親しむことの出来るスポーツの生活化を実践していく。					
到達目標:技術の修得時や競技では、コミュニケーション能力を発揮し、仲間と共にスポーツを心底から楽しみ、その魅力を認識できるようにする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 パドルテニス(1)ラケットとボールへの慣れ			ニュースポーツの基礎的知識(45)		
第2回 パドルテニス(2)歴史と運動特性、基礎技術の習得			パドルテニスの基礎的知識(45)		
第3回 パドルテニス(3)競技方法と戦術			パドルテニスの競技方法と戦術の復習(45)		
第4回 パドルテニス(4)リーグ戦による競技・1日目(4試合)			パドルテニス競技方法と戦術の復習(45)		
第5回 パドルテニス(5)リーグ戦による競技・2日目(4試合)			パドルテニス競技方法と戦術の復習(45)		
第6回 グラウンドゴルフ(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			グラウンドゴルフの基礎的知識(45)		
第7回 グラウンドゴルフ(2)競技方法と戦術			グラウンドゴルフの競技方法と戦術の復習(45)		
第8回 グラウンドゴルフ(3)8ホールポストによる競技			グラウンドゴルフの競技方法と戦術の復習(45)		
第9回 ネオホッケー(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			ネオホッケーの基礎的知識(45)		
第10回 ネオホッケー(2)競技方法と戦術			ネオホッケーの競技方法と戦術の復習(45)		
第11回 ネオホッケー(3)リーグ戦による競技			ネオホッケーの競技方法と戦術の復習(45)		
第12回 ソフトバレー(1)歴史と運動特性、基礎技術の習得			ソフトバレーの基礎的知識(45)		
第13回 ソフトバレー(2)競技方法と戦術			ソフトバレーの競技方法と戦術の復習(45)		
第14回 ソフトバレー(3)リーグ戦による競技・1日目(4試合)			ソフトバレーの競技方法と戦術の復習(45)		
第15回 ソフトバレー(4)リーグ戦による競技・2日目(4試合)総合評価			ソフトバレーの競技方法と戦術の復習(45)		
履修に必要な予備知識や技能:競技方法と戦術、運動特性などの知識を深めておくこと。					
課題に対するフィードバック:競技の技術と戦術を講評する。次回の競技に活かしてください。					
評価方法・基準:受講態度(50%)、コミュニケーション能力(30%)、競技成績(20%)を100点満点の減点法で評価する。第1回授業にて詳細を説明する。					
教科書:教科書は指定しない。授業時にプリントを配布する。参考書はニュースポーツ百科。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:スポーツ理論					
担当者名:松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21101102
<p>授業概要:健康科学の分野では、生活習慣病やウエイトコントロール、健康づくりなどの諸問題と運動との関連性について理解する。スポーツ科学の分野では、運動・スポーツの意義、体カトレーニング、スポーツ障害、運動生理学、スポーツ栄養学などを主として理解する。そして、生涯に渡って意欲的に運動・スポーツを楽しめるように身体づくりが行え、健康寿命を延長することのできる論理的思考を構築する。各授業内でフィードバックテストを行い、理解した内容や疑問点を確認し、次回授業時の冒頭で誤った理解の修正と疑問点の解説を行う。</p>					
<p>到達目標:1.健康科学・スポーツ科学の情報を収集し、簡潔に要約ができるようになる。  2.スポーツと健康との関連性について説明ができるようになる。  3.スポーツの意義について、自分の考えを文章で表現ができるようになる。  4.ディスカッションにおいて、相手が理解できるように工夫するコミュニケーション能力が向上する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	運動・スポーツの習慣について	シラバスの確認 自身の運動・スポーツ習慣をまとめておく。(60)		
第2回	運動・スポーツの意義		運動・スポーツの意義について情報を得ておく。(60)		
第3回	スポーツの競技性		スポーツの競技性について情報を得ておく。(60)		
第4回	運動・スポーツと健康		運動・スポーツと健康について情報を得ておく。(60)		
第5回	子どもの身体活動		子どもの身体活動について情報を得ておく。(60)		
第6回	ウォーキング		ウォーキングについて情報を得ておく。(60)		
第7回	健康づくり運動		健康づくり運動について情報を得ておく。(60)		
第8回	運動・スポーツと生活習慣病		運動・スポーツと生活習慣病について情報を得ておく。(60)		
第9回	運動生理学		運動生理学について情報を得ておく。(60)		
第10回	水中運動		水中運動について情報を得ておく。(60)		
第11回	脂肪と筋肉		脂肪と筋肉について情報を得ておく。(60)		
第12回	現代社会と運動不足		現代社会と運動不足について情報を得ておく。(60)		
第13回	肥満のメカニズムと運動		肥満のメカニズムと運動について情報を得ておく。(60)		
第14回	運動・スポーツの経済学		運動・スポーツの経済学について情報を得ておく。(60)		
第15回	応急処置・心肺蘇生法 まとめ		応急処置・心肺蘇生法について情報を得ておく。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:基礎的な事項について自主的に学んでおく。					
課題に対するフィードバック:授業内でフィードバックテストを行い、理解度を確認する。					
評価方法・基準:フィードバックテスト70% 受講態度(授業への積極的参加)30%					
教科書:参考書:「実践に生かすスポーツ教養」加藤知己 東京電機大学出版局					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:レクリエーション活動 I					
担当者名:利岡 理香					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年前期	講義・演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200011
<p>授業概要: 楽しさを通して元気や活力を再創造するレクリエーションは、生活の中に位置づくことでQOLの向上を図ることができる。本授業においてレクリエーションの基本的な考え方や社会的意義について理解を深め、さらに多様な場面にて対象にふさわしいレクリエーション支援のあり方および支援技術につけて学ぶ。</p> <p>到達目標: 1. レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解し、主体的に関わることができる。 2. レクリエーションの基礎知識、レクリエーション支援の多様性や基本的な考え、目的や手段について理解し明確に言語化できる。 3. リーダーシップ、フォロアシップを身につけエンゲージメント向上できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 授業の概要説明、レクリエーション体験にて関心をもつ			【事前】シラバスおよびテキストを読み概要を把握しておく(30)		
第2回 人と社会をつなぐレクリエーション			【事前】「レクリエーション」という言葉から連想できるものをワークシートに記入しておく(30)		
第3回 レクリエーション概論 ～ 語源・定義・歴史とその背景 ～			【事後】授業の復習プリント(30)		
第4回 楽しさと心の元気づくりの理論① ～ レクリエーション活動からもたらされる楽しさを感じる心のしくみ ～			【事前】自身が楽しいと感じる時の事についてワークシートに記入しておく(30)【事後】留意点についてまとめる(30)		
第5回 楽しさと心の元気づくりの理論② ～ レクリエーション活動を心の元気づくりを活かす視点化 ～			【事後】レクリエーションの効果についてまとめる(30)		
第6回 楽しさと心の元気づくりの理論③ ～ ライフステージごとの課題(子ども・高齢者・障がい者)、地域のきずな ～			【事後】前回授業①②③の復習プリント(30)		
第7回 ニュースポーツ体験			【事前】ニュースポーツについて調べワークシートに記入しておく(30)		
第8回 レクリエーション支援の理論 ～ レクリエーション支援におけるコミュニケーション ～			【事前】コミュニケーションとは何か調べ、自分の考えをワークシートに記入しておく。(30)		
第9回 レクリエーション支援の方法 ～ 言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーション ～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第10回 レクリエーション支援の理論 ～ レクリエーション活動を通じた良好な集団づくり ～			【事後】レクリエーションにおける集団の留意点についてまとめる(30)		
第11回 レクリエーション支援の方法 ～ 集団内のコミュニケーションの促進 ～			【事後】演習を振り返り要点をまとめる(30)		
第12回 レクリエーション支援の理論 ～ 段階的に成功体験を通じた集団づくり ～			【事後】演習を振り返り要点をまとめる(30)		
第13回 レクリエーション支援の方法 ～ 自主的・主体的を高める力を育む ～			【事前】外発的動機づけ・内発的動機づけ・自己効力感を調べ例示してワークシートに記入しておく(30)【事後】演習まとめ(30)		
第14回 チャレンジ・ザ・ゲーム体験			【事後】やる気の変化と成功体験の関連性を振り返りまとめる(30)		
第15回 授業の振り返り、質疑応答			【事前】既習内容のプリント(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 授業内のレクリエーション活動はチームでのアプローチのひとつであり、グループ内での協調性、積極性を身につけて活かすことを意識して受講すること。					
課題に対するフィードバック: 授業内で随時フィードバックを行う。					
評価方法・基準: 定期試験 50%、受講姿勢(個人・グループ活動・発表含) 30%、課題 20%を勘案して総合評価を行うが、欠席時数によっては評価が下がる。					
教科書: 書名: 楽しさをとoshした心の元気づくり — レクリエーション支援の理論と方法 — 補足として適宜レジュメ使用 発行: 公益財団法人 日本レクリエーション協会					
備考: 授業は講義と演習形式で進行するので欠席しないよう注意。またレク財を知るためにメディア情報やインターネットなど積極的に情報収集する意欲を持ってほしい。					
実務経験の内容・期間: レクリエーション・インストラクター(16年3か月)、レクリエーション・コーディネーター(8年11か月)、福祉レクリエーションワーカー(15年)、スポーツレクリエーションインストラクター(8年)、音楽レクリエーション(16年)					

科目名称:レクリエーション活動Ⅱ					
担当者名:利岡 理香					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年後期	講義・演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200012
<p>授業概要:「レクリエーション活動Ⅱ」では「レクリエーション活動Ⅰ」で学んだ内容を深める。 理論と実践を通してレクリエーションの価値(求められる役割)を、自身を取り巻く社会環境や現代社会の様々な課題と共に学ぶ。また活動環境に合わせた演習を行い実践力を習得する。</p>					
<p>到達目標:1. レクリエーション支援の考え方と方法を説明できる。 2. レクリエーション活動の基本的かつ実践的な理論と技能を習得している。 3. 目的・対象に合わせたレクリエーション活動を立案し実施することができる。 4. リーダーシップ、フォロアーシップを身につけエンゲージメント向上できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 授業の概要説明			【事前】シラバスおよびテキストを読み概要を把握しておく(30)		
第2回 レクリエーション活動を効果的に用いるために① ～ 気持ちをひとつにするコミュニケーション技術(ホスピタリティ)～			【事後】課題(30)		
第3回 レクリエーション活動を効果的に用いるために② ～ 良好な集団づくりの方法(アイスブレイキング)～			【事後】課題(30)		
第4回 レクリエーション活動を効果的に用いるために③ ～ レクリエーション活動の展開法(ハードル設定)～			【事後】課題(30)		
第5回 レクリエーション活動を効果的に用いるために④ ～ 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術(CSS プロセス)～			【事後】課題(30)		
第6回 チャレンジ・ザ・ゲームのアレンジ			【事後】前回授業①②③④の既習プリント(30)		
第7回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動① ～ 子ども～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第8回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動② ～ 高齢者～			【事後】演習を振り返り要点をまとめておく(30)		
第9回 目的・対象に合わせたレクリエーション活動③ ～ リハビリの視点としてのグループレクリエーション～			【事後】演習を振り返りまとめる(30)		
第10回 ニュースポーツ			【事前】対象者別にアレンジ法を考えておく(20)		
第11回 レクリエーション支援におけるリスクマネジメントの視点と方法			【事後】前回授業①②③およびリスクマネジメント既習プリント(30)【事前】具体的なレク財を考えておく(30)		
第12回 対象者に合わせたプログラム立案①(小集団)			発表準備 作成・加筆・修正(30)		
第13回 立案したプログラムのグループ発表			【事後】フィードバック要点をまとめておく(30)		
第14回 対象者の合わせたプログラム立案②(集団)			発表準備 作成・加筆・修正(30)		
第15回 立案したプログラムのグループ発表、講評、授業のまとめ			【事後】フィードバック要点をまとめておく(30)		
履修に必要な予備知識や技能:各種レクリエーションの基礎的知識を深めておく。発表に向けて各グループで入念に構想を練る。					
課題に対するフィードバック:当該授業中にフィードバックを行う。また課題は添削して次時に返却する。					
評価方法・基準:定期試験 50%、受講姿勢(個人・グループ活動・発表含)30%、課題 20%を勘案して総合評価を行うが、欠席時数によっては評価が下がる。					
教科書:書名:楽しさをとおした心の元気づくり ― レクリエーション支援の理論と方法 ― 適宜レジュメ使用 発行:公益財団法人 日本レクリエーション協会					
備考:理論を実践へと結びつけるため、講義の他グループワークにて演習を行う。 授業中にの私語は慎み、積極的に授業に参加すること。					
実務経験の内容・期間:レクリエーション・インストラクター(16年3か月)、福祉レクリエーションワーカー(15年)、レクリエーション・コーディネーター(8年11か月)、スポーツレクリエーションインストラクター(8年)、音楽レクリエーション(16年)、医療レクリエーション(8年)					

科目名称:英語 I					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		21101121
<p>授業概要:英語の4技能(スピーキング, リスニング, ライティング, リーディング)の土台となる英文法を学ぶ。音読練習を繰り返すことによって、単なる知識ではなく無意識のうちに使うことができる技能となるまで習熟することを目指す。オンデマンド動画配信(解説・問題演習45分)と対面授業(質問対応・音読練習45分)を併用する反転授業の形式をとる。上級者向けと初・中級者向けの2つのコースを用意する。対面授業は90分授業を45分ずつに2分割し、前半を初・中級、後半を上級の授業とする。</p>					
到達目標:身近な話題に関する平易な英文(1文あたり8語程度)を文法的に正確に書いたり、英語母語話者に理解できるように発音したりすることができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション, 文法の必要性(初・中級と上級合同)			授業後に解説動画「文法を学ぶ意味」を視聴する。(30)		
第2回 Unit 1 英語表現の基本:主部と述部, 節と句, 目的語, 補語			<初中級>[前]教科書 Unit 1 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 1 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第3回 Unit 2 時間の表現Ⅰ:時間と時制			<初中級>[前]教科書 Unit 2 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 2 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第4回 Unit 3 時間の表現Ⅱ:進行形			<初中級>[前]教科書 Unit 3 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 3 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第5回 Unit 4 時間の表現Ⅲ:完了形			<初中級>[前]教科書 Unit 4 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 4 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第6回 Unit 5 話し手の視点:能動と受動			<初中級>[前]教科書 Unit 5 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 5 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第7回 Unit 6 つなぐ表現:接続詞			<初中級>[前]教科書 Unit 6 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 6 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第8回 Unit 7 動詞のさまざまな形Ⅰ:不定詞			<初中級>[前]教科書 Unit 7 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 7 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第9回 Unit 8 動詞のさまざまな形Ⅱ:分詞			<初中級>[前]教科書 Unit 8 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 8 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第10回 Unit 9 動詞のさまざまな形Ⅲ:動名詞			<初中級>[前]教科書 Unit 9 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 9 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第11回 Unit 10 修飾の表現Ⅰ:形容詞と副詞			<初中級>[前]教科書 Unit 10 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 10 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第12回 Unit 11 修飾の表現Ⅱ:関係詞			<初中級>[前]教科書 Unit 11 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 11 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第13回 Unit 12 程度の表現:比較			<初中級>[前]教科書 Unit 12 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 12 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第14回 Unit 13 空間と時間の表現:前置詞			<初中級>[前]教科書 Unit 13 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 13 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
第15回 Unit 14 主観を反映する表現:法助動詞			<初中級>[前]教科書 Unit 14 Exercise, 動画「初中級編」[後]音読練習。 <上級>[前]教科書 Unit 14 CC, 動画「上級編」[後]音読練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対するフィードバック:解説動画で解説し、質問には対面授業とeメールで応じる。					
評価方法・基準:定期試験 100%(定期試験問題は両コース統一問題とする。(試験範囲は各 Unit の Exercise と Comprehension Check の両方を含む。))					
教科書:教科書:『基礎からの英文法』(三修社)					
備考:事前事後学修欄の CC は Comprehension Check の略記。 初・中級と上級のコース選択は第1回の授業での説明を参考に各自で行う。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅱ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21101122
授業概要:英語の4技能(スピーキング,リスニング,ライティング,リーディング)の総合的な向上を目指す。大量の平易な英文を聞き,読み,話し,書く練習を繰り返すことによって,英語の音声,語彙,文構造,発想方法を身につける。授業内容の詳細は担当者により異なるので,第1回授業で説明する。20名程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。					
到達目標:(1)身近な話題に関する100語程度の文章や会話を素早く正確に理解できるようになる。 (2)身近な話題について50語以上用いて素早く正確に表現できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 品詞と文型/音節			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 句と節/強弱リズム(語強勢)			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 動詞の語法/日本語のカタカナ語の英語発音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 文の種類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)/強弱リズム(文強勢)			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 名詞/機能語の強形と弱形			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 代名詞/強勢移動			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 冠詞/連結			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 関係詞/脱落			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 時制/縮約			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 準動詞/同化			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 仮定法/音調句			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 否定/イントネーション			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 倒置・挿入・省略/アメリカ英語とイギリス英語			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅲ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21100023
授業概要:英語Ⅱに引き続き、英語の4技能(スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング)の更なる向上を目指す。既習の知識を定着・活性化させる。授業内容の詳細は担当者により異なるので、第1回授業で説明する。15名程度の少人数クラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。					
到達目標:(1)身近な話題に関する200語程度の文章や会話を素早く正確に理解できるようになる。 (2)身近な話題について100語以上用いて素早く正確に表現できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ※下の計画は一例。各担当教員の計画は第1回授業で説明する。 授業の概要・進め方等の説明			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第2回 自己紹介/音節と強弱リズム			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第3回 天気/音声変化			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第4回 大学生生活/英語の音韻体系と発音記号			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第5回 家族・友人/短母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第6回 休日・休暇/長母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第7回 電話/二重母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第8回 電子メール/破裂音 /p/, /b/, /k/, /g/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第9回 ニュース/破裂音 /t/, /d/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第10回 空港・飛行機/摩擦音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第11回 観光、公共交通機関、道を尋ねる/摩擦音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第12回 ホテル//l/と/r/			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第13回 買い物・レストラン/半母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第14回 海外でのトラブル/半母音			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
第15回 まとめ			授業の復習と予習(具体的内容は授業中に指示する。)(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80~90%、受講態度 10~20%					
教科書:担当者により異なるので、学期初めのガイダンスで指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:英語Ⅳ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200024
<p>授業概要:受講者の関心に合った活動を通して総合的な英語力の向上を目指す。授業活動の詳細は第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p>&lt;授業活動例&gt; 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞, 小説, 漫画, 論文)の精読・多読/ディベート/検定試験対策</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(&lt;映画&gt;と表記)」と「新聞を題材にした演習(&lt;新聞&gt;と表記)」の2つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
<p>到達目標:(1) 難易度の高い文章や会話を素早く正確に理解する力を身につける。</p> <p>(2) 難易度の高い語彙と構文を用いて自分の考えを素早く正確に表現する力を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面, <新聞> 9月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面, <新聞> 9月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面, <新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面, <新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面, <新聞> 10月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面, <新聞> 10月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面, <新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面, <新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面, <新聞> 11月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面, <新聞> 11月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面, <新聞> 12月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面, <新聞> 12月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面, <新聞> 12月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得済みのこと。この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:授業中の活動・課題 100%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語) I					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200025
<p>授業概要:英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p>&lt;授業活動例&gt; 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読/ディベート/その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(&lt;映画&gt;と表記)」と「小説を題材にした演習(&lt;小説&gt;と表記)」と「新聞を題材にした演習(&lt;新聞&gt;と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する理解に基づいた、英語によるコミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面, <小説> 本文冒頭~10ページ辺り, <新聞> 3月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面, <小説> 10ページ~20ページ辺り, <新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面, <小説> 20ページ~30ページ辺り, <新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面, <小説> 30ページ~40ページ辺り, <新聞> 4月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面, <小説> 40ページ~50ページ辺り, <新聞> 4月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面, <小説> 50ページ~60ページ辺り, <新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面, <小説> 60ページ~70ページ辺り, <新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面, <小説> 70ページ~80ページ辺り, <新聞> 5月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面, <小説> 80ページ~90ページ辺り, <新聞> 5月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面, <小説> 90ページ~100ページ辺り, <新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面, <小説> 100ページ~110ページ辺り, <新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面, <小説> 110ページ~120ページ辺り, <新聞> 6月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面, <小説> 120ページ~130ページ辺り, <新聞> 6月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:定期試験 80% 授業中の活動・課題 20%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語)Ⅱ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200026
<p>授業概要:言葉と文化(英語)Ⅰに引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p>&lt;授業活動例&gt; 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読/ディベート/その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(&lt;映画&gt;と表記)」と「小説を題材にした演習(&lt;小説&gt;と表記)」と「新聞を題材にした演習(&lt;新聞&gt;と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面、<小説> 本文冒頭~10ページ辺り、<新聞> 9月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面、<小説> 10ページ~20ページ辺り、<新聞> 9月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面、<小説> 20ページ~30ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面、<小説> 30ページ~40ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面、<小説> 40ページ~50ページ辺り、<新聞> 10月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面、<小説> 50ページ~60ページ辺り、<新聞> 10月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面、<小説> 60ページ~70ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面、<小説> 70ページ~80ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面、<小説> 80ページ~90ページ辺り、<新聞> 11月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面、<小説> 90ページ~100ページ辺り、<新聞> 11月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面、<小説> 100ページ~110ページ辺り、<新聞> 12月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面、<小説> 110ページ~120ページ辺り、<新聞> 12月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面、<小説> 120ページ~130ページ辺り、<新聞> 12月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:中学校・高校で学習する英単語・英文法の基礎知識					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:(受講者数10人以下の場合) 授業中の活動・課題 100% (受講者数11人以上の場合) 定期試験 50%、授業中の活動・課題 50%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(中国語) I					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200031
<p>授業概要: 初心者を対象に中国語の基礎からはじめる授業である。中国語の特徴、簡体字と繁体字、声調、音節の構造などの基礎的知識を習得し、子音と母音、ピンイン表記の規則、人称代名詞、指示代名詞、常用疑問詞、副詞、形容詞、動詞「是」と「有」の用法を的確に理解して覚える。さらに「話す、聞く、読む、書く」の練習を繰り返すことで勉強内容を記憶に定着させる。</p> <p>中国語圏の社会・歴史・文化にも触れつつ、授業を進めていく。</p>					
<p>到達目標: ①発音 ローマ字と声調記号から構成されている中国語のピンインを読める、正しく発音できるようになる。  ②文法 教科書第7課～第15課に収録されている動詞述語文・形容詞述語文に関する基礎的な文法を習得する。  ③作文 既習の文法事項や語彙を使って簡単な単文が書けるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 中国語の基礎知識/ピンインの構造と声調/単母音・複母音			【予習】テキスト「発音編」第1課・第2課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の母音と声調を覚えること(30分)。		
第2回 子音/声調変化/親族名称			【予習】テキスト「発音編」第3課・第4課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の子音を覚えて正確に発音できること(30分)。		
第3回 鼻母音/r化音/数字1-10/人称代詞/あいさつ			【予習】テキスト「発音編」第5課・第6課を読んでおくこと(30分)。【復習】指定される youtube チャンネルを視聴して、中国語の鼻母音を覚えること(30分)。		
第4回 動詞「是」/「吗」疑問文/名前の尋ね方と答え方			【予習】テキスト「文法編」第7課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回 動詞述語文/副詞「也」と「都」			【予習】テキスト「文法編」第8課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回 「呢」疑問文/「吧」/数字11-99			【予習】テキスト「文法編」第9課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回 指示代詞(1)「これ、あれ(それ)」/「的」			【予習】テキスト「文法編」第10課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回 第7課～第10課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回 時点(1)「今日、今週、今月」など/疑問詞疑問文			【予習】テキスト「文法編」第11課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回 形容詞述語文/助動詞「想」			【予習】テキスト「文法編」第12課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回 所有を表す動詞「有」/量詞/「几」と「多少」			【予習】テキスト「文法編」第13課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回 反復疑問文/連動文/指示代詞(2)「ここ、あそこ(そこ)」			【予習】テキスト「文法編」第14課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第13回 100以上の数/金額の言い方/補充語句——量詞			【予習】テキスト「文法編」第15課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第14回 第11課～第15課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回 授業内容の整理/模擬問題と解説			教科書第1課～第15課の文法・フレーズ・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能: 中国語を公用語と定めている国・地域(中国・シンガポール・台湾・香港・マカオ)の文化に関する初歩的な知識を持ち、第2外国語を勉強する意欲がある。					
課題に対してのフィードバック: 授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。毎回授業の後に Google Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。					
評価方法・基準: 定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度) 10%					
教科書: 教科書: 杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46回』、白帝社、2022年。					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:言葉と文化(中国語)Ⅱ					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200032
授業概要:「言葉と文化(中国語)Ⅰ」で習得した品詞や構文の知識を再確認し、さらに語彙や表現のパターンを増やす。連用修飾語や連体修飾語になる形容詞・動詞・前置詞・副詞の用法に重点を置き、名詞述語文・主述述語文の基本語順、時点と時間量の表現、時制とアスペクトに関する基本的な文法事項の習得を目指す。音読、聴き取り、書き取り、会話などの練習を通して中国語の基礎力をつける。					
到達目標:①発音 中国語の単語・簡単な単文を正確に読めるようになる。 ②文法 教科書第16課～第26課に収録されている中国語の過去形・現在形・未来形の時制表現を理解できるようになる。また、連用修飾語・連体修飾語の基本的な使い方を確実に身につける。 ③作文 既習の文法事項や語彙を使って作文ができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 言葉と文化(中国語)Ⅰの復習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第2回 選択疑問文/名詞の修飾			【予習】テキスト「文法編」第16課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第3回 前置詞“在”/動詞の重ね型			【予習】テキスト「文法編」第17課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第4回 方位詞/存在を表す動詞“在”と“有”			【予習】テキスト「文法編」第18課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回 文末の“了”/年齢の尋ね方/名詞述語文			【予習】テキスト「文法編」第19課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回 時点(2)年月日、曜日/前置詞“跟”			【予習】テキスト「文法編」第20課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回 時点(3)時刻/主述述語文			【予習】テキスト「文法編」第21課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回 第16課～第21課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回 動詞の後の“了”/副詞“就”と“才”			【予習】テキスト「文法編」第22課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回 経験の“过”/動作量補語			【予習】テキスト「文法編」第23課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回 疑問詞“怎么”/疑問詞のまとめ			【予習】テキスト「文法編」第24課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回 時間量/時間量補語			【予習】テキスト「文法編」第25課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第13回 前置詞“从”“到”“离”/二重目的語			【予習】テキスト「文法編」第26課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第14回 第22課～第26課のまとめ/視聴練習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回 授業内容の整理/模擬問題と解説			教科書第16課～第26課の文法・フレーズ・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能:「言葉と文化(中国語)Ⅰ」を履修済み、ピンイン表記の規則、動詞述語文・形容詞述語文に関する基礎的な文法を身につけている。					
課題に対してのフィードバック:授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。 毎回授業の後にGoogle Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。 受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。					
評価方法・基準:定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書:教科書:杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46 回』、白帝社、2022 年。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語)Ⅲ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200027
<p>授業概要:言葉と文化(英語)Ⅰ・Ⅱに引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p>&lt;授業活動例&gt; 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習/旅行英会話/各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読/ディベート/その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(&lt;映画&gt;と表記)」と「小説を題材にした演習(&lt;小説&gt;と表記)」と「新聞を題材にした演習(&lt;新聞&gt;と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面, <小説> 本文冒頭~10ページ辺り, <新聞> 3月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面, <小説> 10ページ~20ページ辺り, <新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面, <小説> 20ページ~30ページ辺り, <新聞> 4月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面, <小説> 30ページ~40ページ辺り, <新聞> 4月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面, <小説> 40ページ~50ページ辺り, <新聞> 4月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面, <小説> 50ページ~60ページ辺り, <新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面, <小説> 60ページ~70ページ辺り, <新聞> 5月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面, <小説> 70ページ~80ページ辺り, <新聞> 5月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面, <小説> 80ページ~90ページ辺り, <新聞> 5月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面, <小説> 90ページ~100ページ辺り, <新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面, <小説> 100ページ~110ページ辺り, <新聞> 6月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面, <小説> 110ページ~120ページ辺り, <新聞> 6月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面, <小説> 120ページ~130ページ辺り, <新聞> 6月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:言葉と文化(英語)Ⅰ、Ⅱの単位を修得済みのこと。					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:授業中の活動・課題 100%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(英語)Ⅳ					
担当者名:竹腰 敦					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200028
<p>授業概要:言葉と文化(英語)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。授業内容の詳細は受講者の関心に合わせるため、第1回授業での話し合いにより決める。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。(上級者向け)</p> <p>&lt;授業活動例&gt; 映画・テレビドラマ・歌を利用した聞き取り・発音練習／旅行英会話／各種英文(新聞、小説、漫画、論文)の精読・多読／ディベート／その他</p> <p>* 授業計画欄には近年採用した「映画を題材にした演習(&lt;映画&gt;と表記)」と「小説を題材にした演習(&lt;小説&gt;と表記)」と「新聞を題材にした演習(&lt;新聞&gt;と表記)」の3つの計画を記載した。他の題材を扱う場合の計画については初回授業で決める。</p>					
到達目標:英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 受講者の話し合いによる授業活動の決定			この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。(30)		
第2回 <映画> 0:00~8:00 辺りの場面、<小説> 本文冒頭~10ページ辺り、<新聞> 9月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第3回 <映画> 8:00~16:00 辺りの場面、<小説> 10ページ~20ページ辺り、<新聞> 9月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第4回 <映画> 16:00~24:00 辺りの場面、<小説> 20ページ~30ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第5回 <映画> 24:00~32:00 辺りの場面、<小説> 30ページ~40ページ辺り、<新聞> 10月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第6回 <映画> 32:00~40:00 辺りの場面、<小説> 40ページ~50ページ辺り、<新聞> 10月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第7回 <映画> 40:00~48:00 辺りの場面、<小説> 50ページ~60ページ辺り、<新聞> 10月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第8回 <映画> 48:00~56:00 辺りの場面、<小説> 60ページ~70ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第9回 <映画> 56:00~64:00 辺りの場面、<小説> 70ページ~80ページ辺り、<新聞> 11月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第10回 <映画> 64:00~72:00 辺りの場面、<小説> 80ページ~90ページ辺り、<新聞> 11月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第11回 <映画> 72:00~80:00 辺りの場面、<小説> 90ページ~100ページ辺り、<新聞> 11月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第12回 <映画> 80:00~88:00 辺りの場面、<小説> 100ページ~110ページ辺り、<新聞> 12月上旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第13回 <映画> 88:00~96:00 辺りの場面、<小説> 110ページ~120ページ辺り、<新聞> 12月中旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第14回 <映画> 96:00~104:00 辺りの場面、<小説> 120ページ~130ページ辺り、<新聞> 12月下旬の記事			授業範囲の音読と英作文課題(60)		
第15回 まとめ			英作文課題の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:言葉と文化(英語)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得済みのこと。					
この授業でどのような活動をしたいのか、できるだけ具体的に考えておく。					
課題に対してのフィードバック:課題を出した次の授業で解説する。					
評価方法・基準:授業中の活動・課題 100%					
教科書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(中国語)Ⅲ					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200033
授業概要:「言葉と文化(中国語)Ⅱ」の修了者を対象とする授業である。すでに学んできた発音、語彙、文法を復習しながら、離合詞・助動詞の使い方、形容詞述語文の比較表現、動詞述語文の状態補語・結果補語・方向補語および疑問詞・数詞の不定用法などを習得し、しっかり中国語の基礎を固めていく。また、流行語が示す現代中国語圏の文化と社会的課題にも触れて授業を進めていく。					
到達目標:①発音 中国語の単文を正確に読めるようになる。 ②文法 教科書第27課～第36課に収録されている離合詞・助動詞の使い方、述語動詞の意味を補う補語の用法、比較文、不定用法などの重要文法を習得し、中国語の語順感覚を身につけるようになる。 ③作文 既習の文法事項や語彙を使って作文できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 言葉と文化(中国語)Ⅰ・Ⅱの復習			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第2回 “是～的”構文／疑問詞・数詞の不定用法			【予習】テキスト「文法編」第27課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第3回 離合動詞／補充語句——離合動詞			【予習】テキスト「文法編」第28課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第4回 助動詞“要”／前置詞“给”			【予習】テキスト「文法編」第29課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回 助動詞“会”／助動詞“能”			【予習】テキスト「文法編」第30課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回 助動詞“可以”／“多”＋形容詞			【予習】テキスト「文法編」第31課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回 比較文			【予習】テキスト「文法編」第32課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回 “一点儿”／“有点儿”			【予習】テキスト「文法編」第33課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回 状態補語／人の場所化			【予習】テキスト「文法編」第34課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回 方向補語(1)単純方向補語／方向補語(2)複合方向補語			【予習】テキスト「文法編」第35課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回 結果補語／補充語句——結果補語になる動詞と形容詞			【予習】テキスト「文法編」第36課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回 映像教材を視聴する①			【予習】事前に配布されるストーリー概要を読んでおくこと(30分)。【復習】映像資料に関するクイズを完成させて提出すること(30分)。		
第13回 映像教材を視聴する②			【予習】事前に配布されるストーリー概要を読んでおくこと(30分)。【復習】映像資料に関するクイズを完成させて提出すること(30分)。		
第14回 定期試験に備え、授業内容を整理し、要点をまとめる			【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回 会話練習／模擬問題と解説			テキスト第27課～第36課のフレーズ・文法・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能:「言葉と文化(中国語)Ⅱ」を履修済み、中国語の基本語順、過去形・現在形・未来形の時制表現、連用修飾語や連体修飾語になる形容詞・動詞・前置詞・副詞の用法を習得している。					
課題に対してのフィードバック:授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。 毎回授業の後にGoogle Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。 受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。					
評価方法・基準:定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書:教科書:杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46回』、白帝社、2022年。 *前年度に言葉と文化(中国語)Ⅰ・Ⅱを履修した(『新ゼロからスタート中国語』文法編(王丹、Jリサーチ出版、2015年)を購入した)場合は、教科書を新たに購入する必要がない。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:言葉と文化(中国語)Ⅳ					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200034
<p>授業概要:「言葉と文化(中国語)Ⅰ～Ⅲ」で習得した語彙と文型を復習しながら、やや難易度の高い文法事項を学ぶ。可能補語・方向補語の用法、現在進行形の時制表現、存現文・使役文・受け身文・処置文などの構文および複文に使われる接続詞の習得に重点を置き、文章の読み上げとリスニングを繰り返し行うことでコミュニケーション能力と読解力のさらなる向上を図る。中国語で書かれた簡単なニュース記事などを辞書や翻訳アプリを適切に利用して読めるようになることを目標とする。</p>					
<p>到達目標:①発音 簡単な中国語の短文を正確に読めるようになる。  ②読解 簡単な中国語の短文を理解するための文法力や語彙力、総合的な知識を身につけるようになる。  ③文法 教科書第37課～第46課に収録されている補語、時制表現、構文及び接続詞の用法を身につけるようになる。  ④作文と翻訳 既習の文法事項や語彙を使って平易な文章の翻訳と作文ができるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	言葉と文化(中国語)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習		【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第2回	可能補語／禁止		【予習】テキスト「文法編」第37課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第3回	方向補語(3)方向補語の派生的用法／補語のまとめ		【予習】テキスト「文法編」第38課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第4回	進行の“在”“正在”／“在”のまとめ		【予習】テキスト「文法編」第39課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第5回	持続の“着”／副詞“再”と“又”		【予習】テキスト「文法編」第40課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第6回	存現文／自然現象		【予習】テキスト「文法編」第41課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第7回	近い未来／前置詞のまとめ		【予習】テキスト「文法編」第42課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第8回	処置文／“給”のまとめ		【予習】テキスト「文法編」第43課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第9回	受け身文／使役文		【予習】テキスト「文法編」第44課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第10回	複文(1)因果／複文(2)逆接／複文(3)仮定		【予習】テキスト「読解編」第45課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第11回	複文(4)累加／複文(5)並列／複文(6)目的		【予習】テキスト「読解編」第46課の文法ポイントを確認し、新出語句を予習すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第12回	映像教材を視聴する①		【予習】事前に配布されるストーリー概要を読んでおくこと(30分)。【復習】映像資料に関するクイズを完成させて提出すること(30分)。		
第13回	映像教材を視聴する②		【予習】事前に配布されるストーリー概要を読んでおくこと(30分)。【復習】映像資料に関するクイズを完成させて提出すること(30分)。		
第14回	定期試験に備え、授業内容を整理し、要点をまとめる		【予習】補充資料を確認すること(30分)。【復習】課題を完成させて提出すること(30分)。		
第15回	会話練習／模擬問題と解説		テキスト第37課～第46課のフレーズ・文法・単語をまとめて覚えること(90分)。		
履修に必要な予備知識や技能:「言葉と文化(中国語)Ⅲ」を履修済み、離合詞・助動詞の使い方、述語動詞の意味を補う補語の用法、比較文、不定用法などの重要文法を習得している。					
<p>課題に対してのフィードバック:授業連絡、補充資料・課題の配信は Google Classroom を利用する。  毎回授業の後にGoogle Classroom に語彙・文型の練習などの課題を掲示する。  受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。</p>					
評価方法・基準:定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					
<p>教科書:教科書:杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語 46 回』、白帝社、2022 年。  * 前年度に言葉と文化(中国語)Ⅰ・Ⅱを履修した(『新ゼロからスタート中国語』文法編(王丹、J リサーチ出版、2015 年)を購入した)場合は、教科書を新たに購入する必要がない。</p>					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:学習方法演習 I					
担当者名:高島 智世、松田 淳、野村 智宏、岡野 大輔、木谷 葉子、川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21100091
授業概要:大学での学習に必要な知識・技能を演習形式で学ぶ。また、大学で必要な手続きや取得可能口、就業観についても職業と関連付けながらとら上げる。					
到達目標:ノートテイク・レポート・プレゼンテーション等に必要な基礎能力、人間社会科学部に学ぶ学生として最低限必要な「社会」に関する基礎的知識と考え方を修得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 授業概要と成績評価、入学前課題の確認、履修登録の方法など			シラバス・学生便覧・オリエンテーション資料を確認する(60)		
第2回 履修登録の修正、自己紹介、新入生研修の概説			自己紹介の内容を考えてくる(10)		
第3回 偏愛マップ予行演習			「偏愛マップ」の構想を練ってくる(30)		
第4回 新聞スクラップブック、eポートフォリオの使い方演習			入学前課題である新聞スクラップの確認(20)		
第5回 ノートテイク			履修科目の授業の特徴と、自分のノートについて確認しておく(20)		
第6回 大学を知る:キャンパス探検隊(1)調査			大学内を散策し、建物の名称と配置を頭に入れる(60)		
第7回 大学を知る:キャンパス探検隊(2)発表			グループワークで効果的な発表になるように工夫し探検の内容をまとめる(60)		
第8回 大学を知る:研究室訪問(1) 概要とアポイントメントの取り方			大学ウェブページの社会福祉学部の教員紹介を閲覧する(20)		
第9回 大学を知る:研究室訪問(2) インタビューの作法			対象教員の情報を集める。テレビのインタビュー番組を見る(30)		
第10回 大学図書館の活用方法			図書館を訪れ、館内の配置を頭に入れ、興味を覚えた本を手にとって見る(30)		
第11回 文章修行のワーク			入学前課題のブックレポートが要件を満たしたのものになっているかを確認する(20)		
第12回 新聞スクラップとリテラシー			大学入学以降、自分のスクラップがどのように変化したかを分析する(20)		
第13回 キャリア開発講座(1) キャリアとは			将来自分がどんな人生を送りたいかを想像してみる(30)		
第14回 大学を知る:研究室訪問3 プレゼンテーション			グループワークで効果的な発表になるように工夫し研究室訪問の結果をまとめる(60)		
第15回 定期試験に関する注意、学習方法演習Ⅱの紹介、夏期課題の提示			試験形式・内容についての情報を集め、整理してくる(30)		
履修に必要な予備知識や技能:入学前に提示された、新聞記事のスクラップ、社会学用語の基礎知識、ブックレポートを完成させておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内の課題は、必要に応じて添削して返却します。					
評価方法・基準:課題の提出状況・内容や出席状況、参画態度等を 90 点満点からの減点法で評価します。例えば、課題未提出や無断欠勤が-10 点、課題提出期限遅れや遅刻が-5 点など。またスクラップブックなど優秀なものについては加点を行います。第 1 回授業にて詳細を説明します。					
教科書:教科書:なし(資料を配布します)					
備考:グループワークを中心に進めます。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:学習方法演習Ⅱ					
担当者名:高島 智世、松田 淳、野村 智宏、岡野 大輔、木谷 葉子、川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21100092
授業概要:「学習方法演習Ⅰ」の成果を受け、この授業では、大学での学習に必要な知識・技能を演習形式で学ぶ。また、就業観についても職業と関連付けながらとり上げる。					
到達目標:大学におけるレポートがどのようなものかを理解する。レポート執筆に必要な作業、技術を理解して、グループワークを行いながら実際にレポートを作成する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 授業概要と成績評価、夏期課題回収、履修登録			シラバス・学生便覧・オリエンテーションの資料を確認する(60)		
第2回 スクラップブック合評会			過去のスクラップブックを確認しておく(30)		
第3回 ノートテイキング 映像資料編			題材となるメディアリテラシーについて下調べを行う(30)		
第4回 大学におけるレポートの作成法(1) レポートとはなにか			課題レポートのテーマを検討し絞り込む(30)		
第5回 レポート作成法 特別編 A 対立意見とレポート			大学におけるレポート作成法(1)での課題を進める(30)		
第6回 大学におけるレポートの作成法(2) 主張と議論の見通しをたてよう			大学におけるレポート作成法(1)での課題を終える(30)		
第7回 レポート作成法 特別編 B 定義と理由付け基礎練習			前期の文書修行のワークの内容を復習する(30)		
第8回 レポート作成法 特別編 C 論証と批判の基礎練習			レポート作成法で選んだテーマに応用している(30)		
第9回 大学におけるレポートの作成法(3) アウトラインをつくろう			大学におけるレポート作成法(2)での課題を終える		
第10回 大学におけるレポートの作成法(4) レポートの書式・形式について学ぶ			大学におけるレポート作成法(3)での課題を終える		
第11回 ヤリヤ開発講座 2 コミュニケーションカ			「コミュニケーションカ」とはなにか WEB を用いる、本を読むなどして考えてみる(60)		
第12回 大学におけるレポートの作成法(5) 推敲をする			レ大学におけるレポート作成法(4)での課題を終える		
第13回 キャリア開発講座 3 自己理解			自分の好きなこと、嫌いなこと、得意なこと、苦手なことなど考えてみる(30)		
第14回 レポートの推敲			レポートの添削結果を確認する(60)		
第15回 後期の学びをふりかえる 定期試験・「基礎演習Ⅰ」の説明など			資料を確認する(30)		
履修に必要な予備知識や技能:夏季休暇課題として提示された新聞スクラップブックと図書要約を完成させておいてください。					
課題に対してのフィードバック:授業内の課題は、必要に応じて添削して返却します。					
評価方法・基準:課題の提出状況・内容や出席状況、参画態度等を 90 点満点からの減点法で評価する。例えば、課題見未提出や無断欠勤が-10 点、課題提出期限遅れや遅刻が-5 点など。またレポート、スクラップブックなど優秀なものについては加点を行う。第 1 回授業にて詳細を説明します。					
教科書:教科書:なし(資料を配布します)					
備考:本授業は、ディスカッションやグループワークを中心に進めていきます。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎演習Ⅰ					
担当者名:高島 智世、野村 智宏、岡野 大輔、木谷 葉子、渡邊 亮士、川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21100093
授業概要:新聞記事・ブックレット・新書・論文等、比較的身近で平易なものを題材として、担当教員から指示された課題について、調査した結果を各自発表する。詳細については、担当教員が授業内で説明するが、授業計画については一例をあげる。					
到達目標:「学習方法演習Ⅰ・Ⅱ」で身につけた知識・技能を応用し、大学でレポートを執筆することに不自由しない程度まで「調べる・整理する・まとめる・発表する」能力等を伸ばすことが目標である。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 授業概要・評価基準など、および準備ワーク1			シラバス・学生便覧・オリエンテーション資料を確認する(60)		
第2回 テキスト精読のための準備ワーク2			テーマの新聞記事を探してワークシートに記入する(45)		
第3回 テキスト精読のための準備ワーク3			テキストの「はじめに」「序章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第4回 テキストをもとにディスカッションを行う			テキストの「1章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第5回 テキストをもとにディスカッションを行う			テキストの「2章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第6回 テキストをもとにディスカッションを行う			書評文を書く(120)		
第7回 書評発表会 第1弾			テキストの「3章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第8回 テキストをもとにディスカッションを行う			テキストの「4章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第9回 テキストをもとにディスカッションを行う			テキストの「5章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第10回 テキストをもとにディスカッションを行う			書評文を書く(120)		
第11回 書評発表会 第2弾			テキストの「6章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第12回 テキストをもとにディスカッションを行う			テキストの「終章」を読み学習シートに要旨および疑問点を記入(60)		
第13回 テキストをもとにディスカッションを行う、プロジェクトの説明			プロジェクトの発表準備(60)		
第14回 グループワークにてプロジェクトの発表準備			プロジェクトの発表準備(60)		
第15回 プロジェクト発表、課題提示等、定期試験に関する注意事項、基礎演習Ⅱの紹介			学習便覧の該当部分を読む(15)		
履修に必要な予備知識や技能:「学習方法演習Ⅰ・Ⅱ」の内容を復習しておいてください。					
課題に対するフィードバック:毎回の学習シートを提出してもらい、それにコメントを入れ、ポイントを添加して返却します。					
評価方法・基準:準備課題 10%、毎回の学習シート 50%、書評会における発表 20%、書評文の提出 10%、最終成果レポートの提出 10%。					
教科書:竹信三恵子『家事労働ハラスメント 生きづらさの根にあるもの』岩波 新書 2013					
備考:このシラバスは一例です。教員によって授業計画、教科書、評価方法等は異なりますので、第1回目の授業で教員から配布されるシラバスと説明を参照してください。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎演習Ⅱ					
担当者名:高島 智世、野村 智宏、岡野 大輔、木谷 葉子、渡邊 亮士、川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21100094
授業概要:あらかじめ公表された各担当教員のテーマにしたがってゼミナールが行われる。各教員のテーマ内容については学期始めのオリエンテーションで案内する。詳細については、担当教員が授業内で説明するが、授業計画については一例をあげる。					
到達目標:「学習方法演習Ⅰ・Ⅱ」と「基礎演習Ⅰ」で身につけた知識・技能を応用し、3年次から始まる基礎ゼミに備え、「調べる・整理する・まとめる・発表する」能力等を伸ばすことが目標である。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 授業概要・評価基準など			シラバス・学生便覧・オリエンテーション資料を確認する(60)		
第2回 ポートフォリオの活用、時間割確認・履修登録時間割修正など自己紹介			自己紹介に必要な自分史をまとめる(60)		
第3回 調べることの意味 なぜ調査するのか 皆はどんな調査結果を目にしているか、クラスで共有			自分が興味ある調査結果内容を調べておく(60)		
第4回 グループ分けとテーマの選定 実際に基礎演習の全員に調査して発表するまでの説明			各自調査テーマを考えておく(60)		
第5回 テーマを決め、アンケート調査の内容をグループで作成する。アンケート用紙には、調査で何を明らかにしたいのかといった文章も作成			各自アンケートの質問項目を考えておく(60)		
第6回 作成したアンケート用紙を全員に配布し、アンケート用紙を各グループに戻し、内容を分析する。			発表のパワーポイント資料を作成(90)		
第7回 調査結果のプレゼンテーション			調査を行っての調査レポートの作成(90)		
第8回 文章を読んで、賛成と反対、双方の意見を考え論述する。クラスで個人がどちら側の意見も上手に掘り下げられているか共有する。			文章を事前に読んで考える(30)		
第9回 河合隼雄の文章を読んで、読解力を高める。主人公・男と女・自己実現等			事前に文章を読んで理解する(30)		
第10回 絵本から学べる事 100万回生きた猫から 社会福祉を学ぶ 学生間で何を学んだか社会福祉の視点を発表			社会福祉の視点で物事を考えてみる(60)		
第11回 ミニミニ卒業論文 研究発表 テーマの選定			テーマを各自考えておく(30)		
第12回 調査内容を作成 アンケート項目と記述式を作成する。			調査内容 アンケート項目を考えておく(60)		
第13回 アンケートの回答とプレゼン資料の作成			プレゼン資料の作成(60)		
第14回 調査結果をプレゼンし質疑応答を行う。			ミニミニ論文の作成(120)		
第15回 まとめ・課題提示等、定期試験に関する注意事項、基礎ゼミ配属活動について			学生便覧の該当部分を読む(15)		
履修に必要な予備知識や技能:前期に身につけた内容を復習してください。					
課題に対するフィードバック:毎授業の提出物や皆さんの発表をクラスで共有します。また、教員はそれらの課題をより深められるよう補足します。					
評価方法・基準:積極的授業態度、課題後の提出物等から評価します。					
教科書:授業で配布します。					
備考:本授業は、ディスカッションやグループワークを中心に進めていきます。なおこのシラバスは一例です。教員によって授業計画、教科書、評価方法等は異なりますので、第1回目の授業で教員から配布されるシラバスと説明を参照してください。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:情報処理演習 I					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21201161
授業概要:表計算ソフトウェアの基礎、データベースの操作、アンケートの集計、グラフによるデータの可視化、回帰分析によるデータの推定、投票による社会的選択、階層分析法による意思決定、モンテカルロシミュレーションを学ぶ。					
到達目標:「情報の処理及び表現の能力」、「問題解決能力」の修得を目的に、いくつかの問題解決技法と問題解決のための表計算ソフトウェア利用技術の修得を目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要解説、コンピュータの操作、学内ネットワークの利用、情報セキュリティ			PCの操作法を思い出しておくこと(15)。USBメモリを用意しておくこと。		
第2回 作表と印刷			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、操作法の予習をしておくこと(15)。		
第3回 表の外見とデータの書式			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、表の外見や書式の種類について理解しておくこと(15)。		
第4回 計算			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、計算機能の特徴について把握しておくこと(15)。		
第5回 データベース			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、データベースについて調べておくこと(15)。		
第6回 アンケート集計(1)コード化と集計表			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、アンケート調査法について調べておくこと(15)。		
第7回 アンケート集計(2)関数によるデータ件数の集計			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、関数機能について再確認しておくこと(15)。		
第8回 アンケート集計(3)フィルタ機能によるデータ件数の集計			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、データベース機能について再確認しておくこと(15)。		
第9回 集計表(条件付き合計)			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。また、関数機能について再確認しておくこと(15)。		
第10回 グラフ表現によるデータの可視化			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。グラフの種類と使い分けについて調べておくこと(15)。		
第11回 回帰分析によるデータの推定			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、回帰分析について調べておくこと(15)。		
第12回 移動平均による平滑化			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、移動平均について調べておくこと(15)。		
第13回 判別分析による意思決定			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、判別分析について調べておくこと(15)。		
第14回 モンテカルロシミュレーション			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、モンテカルロシミュレーションについて調べておくこと(15)。		
第15回 微分方程式の数値計算			前回授業の内容を復習しておくこと(15)。教科書の該当部分を熟読し、コンピュータでの数値計算について調べておくこと(15)。		
履修に必要な予備知識や技能:PCの操作法を思い出しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:演習課題の成果物は点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。					
評価方法・基準:課題演習レポートでの評価を90%とし、残りを欠席状況等で評価する。					
教科書:自作の電子テキストを使用する。					
備考:課題演習では、学生間でのディスカッション・相談を歓迎する。課題が完成した学生が他の学生のサポートを行うことも構わない。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:情報処理演習Ⅱ					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
基礎	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		21200162
授業概要:この授業ではプレゼンテーションに必要な、①情報の収集と取捨選択、②ストーリーの構築、③訴求力の高い資料の作成、④説得力ある口頭発表、についての技能を解説・演習する。					
到達目標:この授業では、プレゼンテーションのための、①情報の収集と取捨選択ができること、②ストーリーを構築できること、③訴求力の高い資料を作成できること、④説得力ある口頭発表ができること、を目標としている。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要、プレゼンテーションの概要			学内ネットワーク・コンピュータの使い方の確認(60)		
第2回 情報収集、ストーリーの構築と展開(1)			教科書 p.5-63 の予習(60)		
第3回 ストーリー構築と展開(2)			教科書 p.5-63 の予習(60)		
第4回 訴求力の高い資料			教科書 p.64-79 の予習(60)		
第5回 効果的な視覚的表現(1)表とグラフ			教科書 p.80-90 の予習(60)		
第6回 効果的な視覚的表現(2)図解表現			教科書 p.91-112 の予習(60)		
第7回 課題演習、発表会用プレゼンテーションテーマの提示			Microsoft Word の使い方の確認と PowerPoint の使い方の予習(60)		
第8回 発表会用プレゼンテーションテーマの決定、取材とストーリー作成			発表会用プレゼンテーションテーマについて概要を調査し、候補を決めておく(60)		
第9回 取材とストーリー作成、プレゼンテーションスライドの作成			取材とストーリー作成 プレゼンテーションスライドの作成(60)		
第10回 プレゼンテーションスライドの作成、発表練習			プレゼンテーションスライドの作成(60)		
第11回 発表会リハーサル(1)			発表練習(60)		
第12回 発表会リハーサル(2)			プレゼンテーションスライドの修正、発表練習(60)		
第13回 発表会リハーサル(3)			プレゼンテーションスライドの修正、発表練習(60)		
第14回 発表会(1)			プレゼンテーションスライドの修正、発表練習(60)		
第15回 発表会(2)			プレゼンテーションスライドの修正 発表練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:学内ネットワーク・コンピュータの使い方を確認しておくこと。					
課題に対するフィードバック:発表会以前の提出物は添削後返却する。					
評価方法・基準:発表会での評価を70%とし、残りを課題演習の出来映えと欠席状況等で評価する。					
教科書:よくわかる 自信のつくプレゼンテーション、FOM 出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: ボランティア入門					
担当者名: 非常勤講師					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22100001
授業概要: 講義形態により、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題に至るまで、具体的事例を織り交ぜながら、学習する。大学ボランティアセンターに寄せられるボランティア募集情報を授業時間内に周知し、具体的な活動につなげて行くことができるようになる。					
到達目標: ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題に至るまで理解できるようになる。 ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めることができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			書籍や新聞、インターネットを活用しながら、日本・海外のボランティア活動の活動種別や活動先・活動者数などについて調べ、現状を大まかに把握しておくこと(60)		
第2回 現代社会とボランティア① 現代におけるボランティアの捉え方・考え方			前回配布プリント「活動の種類と内容」について、書籍や新聞、インターネットを活用しながら、活動内容や活動者数の推移などの今日的動向を把握しておくこと(30)		
第3回 現代社会とボランティア② 日本のボランティア活動者数・活動内容			前回配布プリント「現代社会におけるボランティアの捉え方と考え方」について、活動内容や活動先の推移を踏まえつつ現代社会における存在意義と役割について把握しておくこと(30)		
第4回 ボランティアの歴史① 中世から現代まで			前回授業で配布したプリント「日本の活動者数と活動内容」について、内閣府の国民調査データを参考に、活動内容や活動先の推移を把握しておくこと(30)		
第5回 ボランティアの歴史② 中世から現代まで			前回授業で配布したプリント「中世から戦前における海外 volunteer」について、中世欧州と戦前日本における双方のボランティアの意味の違いについて把握しておくこと(30)		
第6回 ボランティアの理念と思想① ボランティアと慈善			前回配布プリント「戦後における海外 volunteer・日本ボランティア」について、福祉だけではなく環境保護、スポーツ文化の振興など他領域にわたり活動している現状を理解しておくこと(30)		
第7回 ボランティアの理念と思想② ボランティアと慈善			前回配布プリント「ふたつのボランティア」について、利他の基礎となる内部概念「主義主義」と、外部概念「自由な寄付行為」の双方について理解しておくこと(30)		
第8回 ボランティアと関連領域① ボランティアセンター			前回配布プリント「慈善とチャリティ」について、慈善活動の萌芽となった英国でのチャリティ組織活動(COS)と日本の慈悲活動(四箇院・光明皇后)の概要について把握しておくこと(30)		
第9回 ボランティアと関連領域② 特定非営利活動(NPO)法人			前回配布プリント「ボランティアセンター」について、その機能と役割・現場での活動内容を、書物や新聞、インターネットを活用しながら、具体的に理解しておくこと(30)		
第10回 ボランティアと関連領域③ 関連する政策、企業の社会貢献等			前回配布プリント「NPO法人の概要」について、現代社会における役割と意義をはじめ、北陸地方の許認可数と活動内容、法人が抱える問題と課題などについて把握しておくこと(30)		
第11回 具体的なボランティア活動の紹介			前回配布プリント「関連政策と企業の社会貢献」について、90年代の日本におけるフィラソロピー・メセナから、現代社会における企業活動の概要、そして実態の差について把握しておくこと(30)		
第12回 ボランティア・コーディネート意義と役割			前回配布プリント「活動の実際」について、北陸地方のボランティア活動先や活動者数などについて把握しておくこと(30) 東日本大震災と熊本北海道胆振地震について理解しておくこと(30)		
第13回 災害支援ボランティア①			前回配布プリント「センター&コーディネーターの仕事」について、県市町ボランティアセンター情報を調べ、センターの役割とコーディネーターの具体的な活動について理解しておくこと(30)		
第14回 災害支援ボランティア②			前回配布プリント「災害支援ボランティアセンターの役割と活動」について、雑誌や新聞、インターネットを活用しながら、現状と問題点・課題について把握しておくこと(30)		
第15回 第15回 まとめ 現代社会におけるボランティアの課題および展望			前回配布プリント「災害支援ボランティアセンターの役割と活動」について、東日本大震災や広島豪雨土砂災害、熊本～北海道胆振地震などの実態と関わらせながら理解しておくこと(30) 全ての授業の復習(90)		
履修に必要な予備知識や技能: 調整中					
1 毎回、配布～学習したプリントをもとに復習して理解できるようになる。					
2 ボランティア関連書籍などにより、日本のボランティア活動の現状(活動者数や活動領域など)について理解できるようになる。					
3 災害支援ボランティア活動に関して、新聞や書籍、インターネットなどにより調べて把握できるようになる。					
課題に対してのフィードバック: 調整中					
授業内で実施した小テストなどについては添削・返却するが、試験問題・用紙は返却しない。					
評価方法・基準: 調整中					
定期試験 70% 小テスト 20% 受講態度 10% ※無断欠席の場合は欠席回数分を減点する					

教科書:調整中

備考:

実務経験の内容・期間:1 市社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティアコーディネーターの方が担当予定(年)

科目名称:ボランティア活動 I					
担当者名:内 慶瑞 永坂晃子 岡村綾子 柴田紀子 松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年通年	実習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200002
授業概要: 正課外の時間帯(休日等)を利用して地域のボランティア活動に参加し、学習したことを所定のレポートに記し提出する。					
到達目標: 社会福祉施設・病院・団体の行事や、児童育成、健康保健、自然保護などの各種活動への参加を通して、ボランティア活動の意義と役割を体験的に理解できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1 年間を通して、述べ5日間以上のボランティア活動(以下「活動」)に取り組み、事後に所定のレポートを提出する。</p> <p>2 活動分野は、福祉・保健・医療分野に限らず地域活動・社会貢献活動全般を対象とする。 (ただし、金員授受を目的とするアルバイト的要素のある活動は認めない)</p> <p>3 活動日は、活動受入先と履修学生の都合により自由であるが、レポートは所定の手順に従い提出する。(別途説明会あり)</p> <p>4 活動時間の単位認定要件</p> <p>1) 年間を通して「5日間以上」の活動を行う。</p> <p>2) 活動時間が、およそ5時間以上の場合「</p>			<p>事前学修 活動前に、活動受入側の事業・活動などの概要を理解し、同時に活動目的と内容、活動に臨む際の心構えやルール、マナー等の基本的態度についても、事前に理解・把握しておくこと(30)。また、ボランティア活動保険について理解し、活動日までには必ず加入を済ませておくこと(別途説明会あり)</p> <p>事後学修 活動後は、速やかに所定のレポートに、反省点や疑問点、課題、提案事項などについてまとめて記すこと(30)</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 活動予定先の概要や活動内容・ルールについて事前に把握して理解できるようになる。					
課題に対するフィードバック: 年度を通して提出されたレポートは、年度末に一括評価するが、返却はしない。なお、記載不備や表記不十分な点などについては、適宜、担当教員からの指導が行われる場合がある。					
評価方法・基準: 所定のレポートにより担当教員が評価する 100% ※ 詳細は、上記「講義計画」に記載					
教科書: 使用テキストなしだが、ボランティアに関する新聞や雑誌、書籍、メディア、インターネットなどを活用すること					
備考: 諸事情により途中で履修を取り消す場合は、教学支援部掲示板にて自分の担当教員を確認のうえ、修学指導担当教員に取消許可・承認を得ること					
実務経験の内容・期間: 1 実務経験の内容・期間: 全国ボランティア活動振興センター ボランティアコーディネータープログラム教材開発委員(2年) 2 市社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティアコーディネーター・福祉活動専門員(10年)					

科目名称: ボランティア活動Ⅱ					
担当者名: 内 慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年通年	実習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200003
授業概要: 正課外の時間帯(休日等)を利用して地域のボランティア活動に参加し、学習したことを所定のレポートに記し提出する。					
到達目標: 社会福祉施設・病院・団体の行事や、児童育成、健康保健、自然保護などの各種活動への参加を通して、ボランティア活動の意義と役割を体験的に理解できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1 年間を通して、定期的もしくは継続的な、同じ活動先でのボランティア活動(以下「活動」)に取り組み、事後に所定のレポートを提出する。</p> <p>2 活動分野は、福祉・保健・医療分野に限らず地域活動・社会貢献活動全般を対象とする。 (ただし、金員授受を目的とするアルバイト的要素のある活動は認めない)</p> <p>3 活動日は、活動受入先と履修学生の都合により自由であるが、レポートは所定の手順に従い提出する。(別途説明会あり)</p> <p>4 活動時間の単位認定要件</p> <p>1) 活動が、「定期的」もしくは「継続的」であること</p> <p>2) 活動先が同一</p>			<p>事前学修 活動前に、活動受入側の事業・活動などの概要を理解し、同時に活動目的と内容、活動に臨む際の心構えやルール、マナー等の基本的態度についても、事前に理解・把握しておくこと(30)。また、ボランティア活動保険について理解し、活動日までに必ず加入を済ませておくこと(別途説明会あり)</p> <p>事後学修 活動後は、速やかに所定のレポートに、反省点や疑問点、課題、提案事項などについてまとめて記すこと。また、活動予定先の組織・事業における、今後の展望や課題についても考察すること(30)</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 履修に必要な予備知識や技能: 活動予定先の概要や活動内容・ルールについて事前に把握して理解できるようになる。					
課題に対するフィードバック: 年度を通して提出されたレポートは、年度末に一括評価するが、返却はしない。なお、記載不備や表記不十分な点などについては、適宜、担当教員からの指導が行われる場合がある。					
評価方法・基準: 所定のレポートにより担当教員が評価する 100% ※ 詳細は、上記「講義計画」に記載					
教科書: 使用テキストなしだが、ボランティアに関する新聞や雑誌、書籍、メディア、インターネットなどを活用すること					
備考: 諸事情により途中で履修を取り消す場合は、教学支援部掲示板にて自分の担当教員を確認のうえ、修学指導担当教員に取消許可・承認を得ること					
実務経験の内容・期間: 1 実務経験の内容・期間: 全国ボランティア活動振興センター ボランティアコーディネータープログラム教材開発委員(2年) 2 市社会福祉協議会ボランティアセンター ボランティアコーディネーター・福祉活動専門員(10年)					

科目名称:健康科学					
担当者名:中口 義次					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200011
授業概要:人がよく生きるためには、その身体だけではなく、精神も健康でなければならない。また、身体や精神の健康は、その人が生活している環境や社会的な条件が健全でなければ保てない。そのような問題を論理的、体系的に研究する学問が健康科学である。この健康科学を理解するために、からだの働きと仕組みについて簡単に学び、その後、病むとは何か、病気を予防する方策、心身の健康維持・増進の方策、環境問題や日本人の生命観など、いわゆる健康問題につき総合的・包括的に学習する。					
到達目標:生理学を学ぶ上で、基本となる正常な身体についての基礎的な現象と疾患を関連させて理解することができる。さらに、健康を維持するための要因について考えることができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 生体の階層性と細胞の機能から身体機能を理解する。			生理学教科書の 1-2 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、中学・高校で学習した細胞について予習する(60)。		
第2回 細胞の機能的構造について理解する。細胞内小器官について学ぶ。			生理学教科書の 3-8 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第3回 細胞膜の機能と物質移動について理解する。細胞膜の構造と物質移動様式について学ぶ。			生理学教科書の 9-12 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第4回 浸透圧と拡散現象が生体内でどのように働いているのかを理解する。			生理学教科書の 10-11 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第5回 細胞の機能から身体機能を理解する。細胞内呼吸とエネルギー(ATP)産生について学ぶ。			生理学教科書の 7 頁および 211-212 頁、生物学教科書の該当ページを予習(予めその範囲を読む)する(30)		
第6回 基礎代謝、熱平衡について理解する。エネルギー出納不均衡による肥満について考える。			生理学教科書の 201-204, 209-210 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)		
第7回 栄養素と代謝調節について理解する。食後、食間、飢餓状態での代謝を学ぶ。			生理学教科書の 205-208, 212 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)		
第8回 熱の産生と体温調節、健康維持について理解する。体温調節のしくみを学ぶ。			生理学教科書の 331-336 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第9回 生体の恒常性維持を理解する(その1)。リンパ管の構造と生体防御機能(免疫系)の基本を学ぶ。さらに、アレルギーについて考える。			生理学教科書の 266, 244-248 頁を予習(予めその範囲を読む)しておく(30)。		
第10回 生体防御系の異常から起こる疾患を学び、健康維持について理解する。感染症について考える。			前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第11回 生体の恒常性維持を理解する(その2)。内分泌系の基本、フィードバック性調節について学ぶ。			生理学教科書の 139-142, 147 頁を予習(予めその範囲を読む)しておく(30)。		
第12回 ホルモンの一般的性質、視床下部-下垂体ホルモンについて、生理作用と過剰、欠損の症状を理解する。			生理学教科書の 143-146, 149-159 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第13回 内分泌系による血中カルシウム濃度及び血糖調節機構について理解する。骨粗鬆症、糖尿病について考える。			生理学教科書の 163-182 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
第14回 生体の恒常性維持を理解する(その3)。自律神経の種類と働きの基本について学ぶ。			生理学教科書の 57-58, 63-64, 95-99 頁を予習(予めその範囲を読む)しておく(30)。		
第15回 自律神経と内臓反射について理解する。化学伝達物質と受容体、支配様式について学ぶ。			生理学教科書の 100-101, 28-31, 96 頁を予習(予めその範囲を読む)すると共に、前回の講義内容を復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)しておく(30)。		
履修に必要な予備知識や技能:日頃から疾患について興味を持ち、基礎的な事項について自主的に学んでおく。					
課題に対するフィードバック:提出物等は、点検したうえで次回以降の授業内で解説します。					
評価方法・基準:平常点 20-30% 定期試験 70-80%で評価する。					
教科書:教科書:シンプル生理学(南江堂) 参考書:必要に応じてプリントを配布する。					
備考:生理学Ⅰ及びⅡを受講する場合には、本講義が概論的な意味合いをもつことから、受講を勧めます。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:生命科学					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200012
<p>授業概要: 私たち人間はどこから来て、どこへ行くのかというのは、昔から興味のないテーマである。また、近年の生命科学の発展には目を見張るものがある。生命のはじまりや生命を形づくっているもの、老化や死の訪れ、病気と免疫、食と栄養、生命科学の技術が社会に与える影響などを解説して、生命とは何か、社会における生命科学を論じていく。授業内で提示する種々の質問・疑問を題材に教員と学生、学生間で議論しつつ授業が展開される。</p>					
到達目標: 生命とは何かや生命現象、人間の生命や死を通して、これからの人生を送るうえでのものの見方や考え方を修得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 生命科学と現代社会のかかわり			教科書第1章を熟読し、生命の起源と進化について疑問点をまとめておく。(30)		
第2回 生命はどのように設計されているか			教科書第2章を熟読し、細胞内器官について疑問点をまとめておく。(30)		
第3回 ゲノム情報はどのように発現するのか			教科書第3章を熟読し、ゲノムについて疑問点をまとめておく。(30)		
第4回 1から3回目までの授業の確認とまとめ			教科書第1章から第3章を熟読し、授業の内容をまとめておく。(60)		
第5回 複雑な体はどのようにしてつくられるか			教科書第4章を熟読し、発生について疑問点をまとめておく。(30)		
第6回 脳はどこまでわかったか			教科書第5章を熟読し、脳の構造について疑問点をまとめておく。(30)		
第7回 がんとはどのような現象か			教科書第6章を熟読し、がん発症の仕組みについて疑問点をまとめておく。(30)		
第8回 4から6回目までの授業の確認とまとめ			教科書第4章から第6章を熟読し、授業の内容をまとめておく。(60)		
第9回 私たちの食と健康の関係			教科書第7章を熟読し、健康に与える食の影響について疑問点をまとめておく。(30)		
第10回 ヒトは病原体にどのように備えるか			教科書第8章を熟読し、病原体による発病の仕組みについて疑問点をまとめておく。(30)		
第11回 環境と生物はどのようにかわるか			教科書第9章を熟読し、環境が生物に与える影響について疑問点をまとめておく。(30)		
第12回 7から9回目までの授業の確認とまとめ			教科書第7章から第9章を熟読し、授業の内容をまとめておく。(60)		
第13回 生命科学技術はここまで進んだ			教科書第10章を熟読し、生命科学技術の利用についての疑問点をまとめておく。(30)		
第14回 生命倫理はどこに向かいつつあるのか			教科書第11章を熟読し、他教科で学んだ生命倫理についてまとめておく。(30)		
第15回 生命や生物の不思議をどのように理解するか			教科書第12章を熟読し、疑問点をまとめておく。(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 中学校、高等学校における生物学の分野を復習しておく。					
課題に対するフィードバック: 確認とまとめのショートテストは採点の後、次回以降の授業で返却します。					
評価方法・基準: 確認とまとめのショートテスト: 3×20%、定期試験または課題レポート: 40%					
教科書: 現代生命科学第3版(東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社)、該当ページ番号をレジュメに記載する					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:自然科学					
担当者名:川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200013
<p>授業概要: 高度に発展した自然科学とその成果を負の側面も含め知ることは、現代に生きる人間の基礎的素養のひとつとして重要である。本講義では、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的とし、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得することを目標とする。講義は単なる科学史や現代自然科学の解説ではなく、科学者が到達した自然観や科学哲学にも触れる。また、自然科学における抽象化・モデル化の具体例を通して、科学的な議論の仕方や仕組みに言及する。</p>					
到達目標: 古今の自然科学的物質観を知り、自然現象の背後で働く原理を理解し、自然科学の基礎的な知識や考え方を習得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	本時について、宇宙(1)古代、中世		資料第1章を熟読し、古代、中世の宇宙論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第2回	宇宙(2)中世、現代		資料第1章を熟読し、中世、現代の宇宙論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第3回	物質(1)古代、中世		資料第2章を熟読し、古代、中世の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第4回	物質(2)中世、近世		資料第2章を熟読し、中世、近世の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第5回	物質(3)近世、現代		資料第2章を熟読し、近世、現代の物質観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第6回	生命(1)古代、中世		資料第3章を熟読し、古代、中世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第7回	生命(2)中世、近世		資料第3章を熟読し、中世、近世の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第8回	生命(3)近世、現代		資料第3章を熟読し、近世、現代の生命観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第9回	エネルギー(1)古代、近世		資料第4章を熟読し、古代、近世のエネルギー観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第10回	エネルギー(2)近世、現代		資料第4章を熟読し、近世、現代のエネルギー観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第11回	人体(1)古代、中世		資料第5章を熟読し、古代、中世の人体観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第12回	人体(2)中世、近世		資料第5章を熟読し、中世、近世の人体観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第13回	人体(3)近世、現代		資料第5章を熟読し、近世、現代の人体観についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第14回	脳(1)古代、近世		資料第6章を熟読し、古代、近世の脳理論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
第15回	脳(2)近世、現代		資料第6章を熟読し、近世、現代の脳理論についてその特徴や疑問点をまとめておく。(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 高校理科の教科書を見直しておくこと。					
課題に対してのフィードバック: 期末試験の結果を知りたい場合、研究室を訪ねて欲しい。					
評価方法・基準: 期末試験または課題レポートで評価するが、授業態度が良好でない等の場合、評価を最大 20%減ずる。					
教科書: 使用テキストなし。					
備考: 授業中に私が発した種々の質問・疑問を題材に教員と学生、学生間で議論しつつ授業が展開される。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:日本文学					
担当者名:和田 康一郎					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22201031
授業概要:立場を入れ替えての他者理解や自己の客観視は、物語の登場人物の言動を通して会得される部分が少なくない。社会や人間の理解に有益な小説を読むことで、人間関係の中での生きる知恵、職業人としての資質を、表現世界を楽しみながら身につける。					
到達目標:小説作品の梗概を時系列に即して詳細にまとめる課題を通して、重要な業務となる日誌作成の能力の育成を図る。幅広いタイプの作品の読みどころを理解して、保育教諭等の感性伸長に資することがテーマである。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 人物造型(フラット・キャラクターとラウンド・キャラクター)			太宰治「ろまん燈籠」を読む。(30)		
第2回 語り手は時に全能でなく、立場に基づく。			夏目漱石「こころ」か芥川龍之介「地獄変」を読む。(60)		
第3回 児童文学・少年小説			松谷みよ子「モモちゃんとアカネちゃん」を読む。(60)		
第4回 場所(トポス)			坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む。(30)		
第5回 金銭			宮部みゆき「火車」を読む。(60)		
第6回 出会い・初めての体験・再会			村上春樹「ノルウェイの森」か、辻村深月「ツナグ」を読む。(60)		
第7回 死と生を考える。			吉本ばなな「キッチン」を読む。(60)		
第8回 迂言法・逆説			梶井基次郎「檸檬」か三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む。(30)		
第9回 怪異とマジック・リアリズム			江國香織「デューク」を読む。(30)		
第10回 ユーモア			森見登美彦「太陽の塔」を読む。(60)		
第11回 組織・世間と人間			有川浩「県庁おもてなし課」を読む。(60)		
第12回 戦争を描く。			百田尚樹「永遠の0」か井伏鱒二「黒い雨」を読む。(60)		
第13回 切なく、感動できる小説			遠藤周作「沈黙」か小川洋子「博士の愛した数式」を読む。(60)		
第14回 芥川賞と直木賞			宇佐見りん「推し、燃ゆ」か朝井リョウ「何者」を読む。(60)		
第15回 不思議な味わい、もしくはしみじみとした余韻			夏目漱石「夢十夜」を読む。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:文学史などを記した、高校国語の便覧資料を読み返しておくこと。					
課題に対するフィードバック:成績をつけるレポートを講評付きで返却するので、なぜこの成績となったかを読んで理解し、大学・社会での今後の課題取り組みの参考としてほしい。					
評価方法・基準:日本の近現代小説のあらすじをまとめたレポート 80% 受講態度 20%					
教科書:教科書・参考書:使用テキストなし。毎回プリントを配布する。参考書は「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)。					
備考:公務員試験対策として各回に、世界の名作も一作紹介する。レポート対象外につき注意。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:自然地理					
担当者名:青木(林) 賢人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22201055
授業概要:自然地理学を構成する気候・地形・水文・生物の各分野について、その基礎的な事項を理解し、日本や世界の自然環境に関する理解を深める。					
到達目標:気候・地形・水文・生物の各分野について、その基礎的な知識を取得するとともに、自然環境と人間社会の関係性について思考できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション			講義内容に関する自主学習を行うこと(60)		
第2回 惑星としての地球			教科書 第1章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第3回 日本と世界の気候① 大気の運動と気候の成り立ち			教科書 第2・4章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第4回 日本と世界の気候② 世界の気候区分			教科書 第3章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第5回 日本と世界の気候③ 日本の気候			教科書 第6章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第6回 日本と世界の気候④ 地域スケールの気候			教科書 第5章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第7回 日本と世界の気候⑤ 気候の変化と第四紀			教科書 第7・9章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第8回 日本と世界の地形① 世界の大地形			教科書 第8章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第9回 日本と世界の地形② 日本の地形			教科書 第10・11章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第10回 日本と世界の地形③ 石川県の地震と津波			教科書 第14章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第11回 生物の自然地理学			教科書 第12章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第12回 水の循環と水資源			教科書 第13章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第13回 人間社会と自然環境—地球温暖化現象—			教科書 第15章を予習(予めその範囲を読む)(60)		
第14回 (学外授業)			学外授業を講義2回分の時間で行います(リモートで実施します)。講義の内容を踏まえ、映像を通して金沢の街を歩きながら、金沢の街の成り立ちと災害対策のあり方について考えます。		
第15回 (学外授業)			学外授業を講義2回分の時間で行います(リモートで実施します)。講義の内容を踏まえ、映像を通して金沢の街を歩きながら、金沢の街の成り立ちと災害対策のあり方について考えます。		
履修に必要な予備知識や技能:特になし					
課題に対してのフィードバック:毎回の授業で振り返りのカードを提出してもらい、その内容について次の授業で解説・フィードバックを行います。					
評価方法・基準:定期試験 50% レポート 30% 受講態度 20%					
教科書:教科書・参考書:高橋・小泉編『地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論』朝倉書店					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:地誌					
担当者名:青木(林) 賢人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22201057
授業概要:金沢・石川・北陸の地域性を例に、自然と社会の関係性を読み解く視点を理解する。					
到達目標:自然環境と人間社会の関係性について理解し、自分自身の生活や将来と関連付けて思考できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 地理学・地誌学とはなにか			講義内容に関する自主学習を行うこと(60)		
第2回 石川の地誌概観 石川の酒と肴① 酒編			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第3回 石川の地誌概観 石川の酒と肴② 肴編			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第4回 北陸の気候①—世界の気候の中の北陸—			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第5回 北陸の気候②—北陸の気候の特徴—			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第6回 手取川扇状地とくらし①—手取川の恵み—			白山手取川ジオパークのホームページを見ておく(60)		
第7回 手取川扇状地とくらし②—手取川の災害—			白山手取川ジオパークのホームページを見ておく(60)		
第8回 白山手取川ジオパーク			白山手取川ジオパークのホームページを見ておく(60)		
第9回 金沢の自然とくらし 平野と水			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第10回 北陸の地震災害① 金沢地震に備える			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第11回 北陸の地震災害② 能登半島地震と東日本大震災			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第12回 日本の中の北陸地方—西日本と東日本—			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第13回 世界の中の北陸地方—地球温暖化と石川県—			新聞、ニュースなどに注意し、石川県・北陸地方の自然環境や社会に意識を払う(60)		
第14回 学外授業			学外授業を講義2回分の時間で行います(休日に実施します)。講義の内容を踏まえ、実際に街を歩きながら、自然環境と暮らしの関係について考えます。		
第15回 学外授業			学外授業を講義2回分の時間で行います(休日に実施します)。講義の内容を踏まえ、実際に街を歩きながら、自然環境と暮らしの関係について考えます。		
履修に必要な予備知識や技能:特になし					
課題に対するフィードバック:毎回の授業で振り返りのカードを提出してもらい、その内容について次の授業で解説・フィードバックを行います。					
評価方法・基準:定期試験 50% レポート 30% 受講態度 20%					
教科書:使用テキストなし 授業で使ったスライドは Classroom で公開する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: 白山市の自然と文化					
担当者名: 松田 淳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200014
<p>授業概要: 本学のある白山市は、海岸部から海拔2702mの白山の山頂にいたる起伏に富んだ地形からなっており、豊かな自然環境に恵まれ、その中に暮らす人々の関わりによって、様々な歴史・文化・産業がはぐくまれてきた。白山市では地域資源を保全し、教育や地域振興につなげていくため、「白山手取川ジオパーク」活動を推進している。本講義ではこうした地元白山市の自然と文化、産業について学ぶ。</p>					
<p>到達目標: 1. 白山市の県内における位置や自然・人為環境の概要を理解する。  2. 白山手取川ジオパーク、白山国立公園、白山ユネスコエコパークの位置づけを理解し、その諸活動の意義を理解する。  3. 豊かな動植物の生態系やブナ林・高山の自然などに特徴づけられる白山の自然を理解し、今後の課題について考察する。  4. 白山市の各地域の長い歴史とその中で育まれてきた文化や産業を知る。  5. 白山ならびに白山市の文献や資料を通して知識と理解を深め、自ら白山市の紹介と情報を発信できる役割を個々に担う。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 「活動グラウンドを知る意義とは」			自身の活動拠点を知る・調べる意義と必要性を理解し、白山市の基本データとその姿を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第2回 「白山市の魅力」(2021 金城大学公開講座 vol.2 より)			白山市の自然、文化、歴史の概略を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第3回 「白山～祈りの道をたどる旅～」			美濃禪定道から見た白山の様相と歴史を知り、自分たちとは違った別視点で白山を客観視する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第4回 「千代女に思いを馳せる」			白山市公式 CN『千代女 季と生きた生涯』から千代女の人物像と様々な心情を推しはかる。(60)→ワークシートの活用(30)		
第5回 「白山市の食の文化」			白山市の伝統的な食文化と名産品の知識について、他県人に PR できるように探究する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第6回 「白山手取川ジオパークとは」			白山市全域を対象とするジオパークの活動を学び、人々の生活との関わり方を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第7回 「国立公園からエコパーク、そしてジオパークへ」			白山を中心とした国立公園、エコパーク、ジオパークへの歴史と変遷、それぞれの活動の相違点を学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第8回 「白山および白山市の動植物の生態について」			白山および白山市の豊かな動植物の生態系と人間との関わりを理解する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第9回 「白山市の自然環境保全への課題」			白山市が今後取り組む自然環境保全への視点と課題を理解する。(60)→ワークシートの活用(30)		
第10回 「白山市の文化①白山麓地区」			白山麓地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第11回 「白山市の文化③鶴来地区」			鶴来地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第12回 「白山市の文化③美川地区」			美川地区の文化を通じて、人々の生活とその歴史を知る。(60)→ワークシートの活用(30)		
第13回 「白山市の歴史三選」			近代史の中で忘れてはならない白山市の歴史を取り上げ、当時の人々の生き様や知恵を受け継ぐ。(60)→ワークシートの活用(30)		
第14回 「10 年後の白山市について議論する～良いシナリオと悪いシナリオ」			10 年後の白山市を展望して、強みと弱み、良いシナリオと悪いシナリオを議論し発表し合う。(60)→ワークシートの活用(30)		
第15回 外部講師による特別講義			開かれた大学として白山市と所縁の深い外部講師を招き、白山市の歴史と今、その思いを学ぶ。(60)→ワークシートの活用(30)地域検定「白山検定」の実問題を活用しながら、白山市の知識と魅力を発信できるよう		
履修に必要な予備知識や技能: 配付するプリント以外にも、白山市のホームページ、白山市公式観光サイト「うらら白山人」、一般社団法人白山観光協会「白山ベストガイド」、道の駅めぐみ白山などに常設されている資料など、自身で検索や情報収集を図ると興味関心が深まります。					
課題に対してのフィードバック: ワークシートや講義の中で考察した疑問点などについて、次回の講義の中で講評し解説します。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、ワークシート提出 20%、受講姿勢(ワークシートの完成度) 20% 等					
教科書: 使用テキストなし					
備考: 講義への参加については単位修得のための基本要件ととらえます。まずは出席を重視します。					
実務経験の内容・期間: 高校教諭 36 年					

科目名称:日本史 I					
担当者名:加納宏志					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22201051
授業概要:原始時代から鎌倉時代まで、いわゆる日本古代史の歴史の流れについて概説していきます。中学レベルの日本史知識は当然持っていることを前提として講義します。					
到達目標:原始時代から鎌倉時代までの日本古代史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解してもらいます。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 インTRODククション			授業で視聴したDVDの内容についての感想をまとめておく(60)		
第2回 旧石器時代をめぐる問題			教科書 P14~P17 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第3回 縄文文化の特異性			教科書 P18~P19 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第4回 本格的な稲作農業の伝播			教科書 P20~P23 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第5回 邪馬台国			教科書 P24~P25 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第6回 空白の4世紀と日本書紀			教科書 P26~P27 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第7回 内乱を繰り返すヤマト王権			教科書 P28~P31 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第8回 なぜ大化の改新は起こった			教科書 P36~P43 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第9回 律令制度の完成まで			教科書 P44~P47 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第10回 律令制度の崩壊			教科書 P52~P57 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第11回 荘園制の拡大と武士の発生			教科書 P66~P67 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第12回 摂関政治			教科書 P62~P65 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第13回 院政と源平の台頭			教科書 P70~P73 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第14回 関東武士の意識改革			教科書 P68~P69 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第15回 源頼朝と鎌倉幕府			教科書 P82~P87 に関連する内容を調べておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:履修するに当たっては、最低限、中学校で学習するレベルの日本史の知識は身に付けておいてください(特に留學生の方)。授業はその前提で進みます。					
課題に対するフィードバック:毎回の出席調査票に授業内容に関する質問・意見等のコメントを記入。必要に応じて、次回以降の授業内で回答・反映します。					
評価方法・基準:平常点25%、期末試験(論述式)75%で評価します。					
教科書:「オールカラーでわかりやすい! 日本史」西東社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本史Ⅱ					
担当者名:加納宏志					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22201052
授業概要:戦国時代から明治維新まで、いわゆる日本近世史の歴史の流れについて概説していきます。中学レベルの日本史知識は当然持っていることを前提として講義します。					
到達目標:戦国時代から明治維新までの日本近世史を概観しながら、視点が変わると歴史の評価がどのように変わるか、歴史の捉え方・考え方について理解してもらいます。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション			授業で視聴したDVDの内容についての感想をまとめておく(60)		
第2回 武士の歴史			教科書 P108～P109 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第3回 戦国大名たちが目指したもの(強兵編)			教科書 P116～P117 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第4回 戦国大名たちが目指したもの(富国編)			教科書 P118～P119 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第5回 織田信長の統一事業			教科書 P122～P127 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第6回 豊臣政権から徳川幕府へ			教科書 P128～P133 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第7回 260年の安定政権			教科書 P140～P149 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第8回 徳川幕府の矛盾			教科書 P152～P155 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第9回 三大改革の評価			教科書 P158～P165 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第10回 田沼意次の先見性			教科書 P166～P167 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第11回 外国船の来航			教科書 P170～P171 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第12回 ペリー来航と日米和親条約			教科書 P184～P185 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第13回 阿部正弘と井伊直弼			教科書 P186～P189 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第14回 幕末の薩摩外交			教科書 P190～P197 に関連する内容を調べておくこと(60)		
第15回 大政奉還から江戸開城へ			教科書 P198～P201 に関連する内容を調べておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:履修するに当たっては、最低限、中学校で学習するレベルの日本史の知識は身に付けておいてください(特に留學生の方)。授業はその前提で進みます。					
課題に対するフィードバック:毎回の出席調査票に授業内容に関する質問・意見等のコメントを記入。必要に応じて、次回以降の授業内で回答・反映します。					
評価方法・基準:平常点25%、期末試験(論述式)75%で評価します。					
教科書:「オールカラーでわかりやすい! 日本史」西東社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本語表現					
担当者名:三浦 哲志					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200032
<p>授業概要:日常生活や大学の授業のみならず就職においても必要不可欠な国語の知識と文章表現力を身につけることを目的とする授業である。高校までに学習した知識の再確認から応用的な内容まで幅広く取り扱う予定である。</p> <p>授業においては、知識・理論だけでなく実践を重視し、問題演習と作文の時間を多くとる予定である。それを通じて、知識の確実な定着と文章表現力の向上をはかりたい。</p> <p>毎回、確認のための小テストを行うので、受講者には欠かさず復習を行って欲しい。</p>					
到達目標:実社会で働いていくために必要な文章能力や知識の獲得が目標である。具体的には、専門用語も含め語句を漢字で正確に表記でき、自分の意志を正確かつ適当な分量で表現できる状態を目指したい。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、実力チェック			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第2回 文章の構成・要素、文体の統一			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第3回 原稿用紙の使い方、手紙の書き方			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第4回 作文演習			作文演習に備えて執筆するテーマとその材料を準備する(30)		
第5回 主語と述語			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第6回 修飾語と被修飾語			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第7回 句読点、			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第8回 ダラダラ文			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第9回 敬語			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第10回 敬語の実践演習			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第11回 作文演習			作文演習に備えて執筆するテーマとその材料を準備する(30)		
第12回 ローマ字、仮名			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第13回 漢字			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第14回 四字熟語、ことわざ			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、小テストに備える(30)		
第15回 重複表現、慣用句			授業内に配付した課題を復習(ノートや教科書を見て確認)し、期末テストに備える(30)		
履修に必要な予備知識や技能:特になし					
課題に対するフィードバック:演習課題の作文は添削・講評後、次回以降の授業で返却します。					
評価方法・基準:<授業への取り組み姿勢(受講態度を含む)などに加えて、小テスト・作文といった課題の提出状況と内容>20%、<期末試験>80%の点数を合算して評価する。					
教科書:『すぐに役立つ国語表現 第3版』国語表現法研究会編 学術図書出版社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:哲学					
担当者名:土佐 明					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200041
授業概要:哲学の存在意義の一つは、さまざまな「常識」に対して疑問を投げつけ、その根拠を問い、その限界を見極めることである。その観点からこの授業では、人間理解や世界理解を軸とした哲学の諸問題からいくつかを選び、それぞれ紹介し考察する。そして、古代から現代にいたるまでの哲学の歴史の中で問われてきたものが他ならぬ私たち自身の問いにもなることを受講者に理解できるように、講義する。					
到達目標:1. 哲学の諸問題について理解する。 2. 自分の関心がある哲学的問題について自分で考察することができるようになる。 3. 自分自身の関心に気づく。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 哲学とは何なのだろうか①「哲学」という語の由来から			「哲学(philosophy)」の語義について、辞書やインターネット等を利用して各自で調べる。(40分)		
第2回 哲学とは何なのだろうか② 古代ギリシアにおける哲学のはじまり			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(古代ギリシアの哲学史について調べる)。(40分)		
第3回 哲学とは何なのだろうか③ 知を愛するということについて			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(古代ギリシアの哲学史について調べる)。(40分)		
第4回 疑うことから始めてみる① 懐疑主義について			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(懐疑主義について各自で調べる)。(40分)		
第5回 疑うことから始めてみる② デカルトの方法的懐疑			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(デカルトについて各自で調べる)。(40分)		
第6回 心をめぐる問題① 心身問題			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「心と身体の関係をどのように考えるか」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第7回 心をめぐる問題② 他我問題など			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「他人の心はどのように知ることができるか」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第8回 ことばの意味とは何か			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「言語とは何か」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第9回 人間に自由は存在するのか① 帰責可能性から考える			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「人に責任を問うための条件とは何か」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第10回 人間に自由は存在するのか② 自由と決定論			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「自由とは何か」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第11回 人の同一性をどう考えるか			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「人の同一性とは何か」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第12回 行為の(よさ)とは何か① 功利主義			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(功利主義について各自で調べる)。(40分)		
第13回 行為の(よさ)とは何か② 義務論			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(カントの倫理学について各自で調べる)。(40分)		
第14回 哲学にとって宗教とは			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、および今回の予習(「宗教とは何か」を自分の言葉で考える)。(40分)		
第15回 まとめと補足			配布資料や参考文献等によって前回範囲の復習、およびこれまでの講義全体の復習(質問を考える)。(40分)		
履修に必要な予備知識や技能:特に予備知識がなくても理解できるように講義するつもりですが、次回に取り扱われる予定となっている問題や立場について、インターネットなどを用いてあらかじめ自分で調べてみてください。					
課題に対するのフィードバック:質問票に書いていただいたものは、必要に応じて回答、解説します。					
評価方法・基準:定期試験 60% 出席票へのコメント・質問等 20% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:使用テキストなし 資料を配付します。講義中に適宜、参考文献を紹介します。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:宗教学					
担当者名:内 慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200042
授業概要:1 仏教や神道、キリスト教、イスラム教の教義の基本について学び、今日的諸問題に関わらせながら授業を展開する。 2 時代による宗教への理解・解釈のされ方の違い、本質的な教義との齟齬や乖離が存在・一般化していることなど、近年の宗教関連事案・事件をもとに具体的に紹介説明する。					
到達目標:1 宗教の意味・機能を理解できるようになる 2 仏教の独自性を理解できるようになる 3 仏教と日本人、今日的諸問題との関わりについて考えることができるようになる 4 キリスト教・イスラム教の概要について理解できるようになる					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			書籍や新聞、インターネットを活用しながら、世界の宗教の宗派や基本的な教義、信者数などについて調べ、その概要を大まかに把握しておくこと(60)		
第2回 宗教の意味・機能 世界の宗教			書籍や新聞、インターネットを活用しながら、日本の宗教の宗派や基本的な教義と、北陸で信仰が多い宗派について、把握しておくこと(30)		
第3回 日本人の宗教意識 1)芸術と宗教 2)砂漠と森の宗教			前回配布プリント「意味・機能」「世界の宗教」について、宗教が教えていることの意味を復習し、「死者のための宗教」と「生きるための宗教」の違いについて理解しておくこと(30)		
第4回 日本人の宗教意識 3)国家と宗教 ～神道と仏教			前回配布プリント「日本人の宗教意識」について、古代信仰から幕末・明治時代の日本宗教の概要を大まかに理解できていること(30)		
第5回 日本人の宗教意識 4)神仏共存と神仏分離(本而垂迹・神仏習合)			前回配布プリント「日本人の宗教意識」について、明治維新の時代の宗教イデオロギーと宗教政策、地方集落の宗教観について把握しておくこと(30)		
第6回 日本人の宗教意識 5)先祖崇拜			前回配布プリント「日本人の宗教意識」について、明治政策としての廃仏毀釈・国家神道統一の歴史と実態について理解しておくこと(30)		
第7回 小乗仏教と大乘仏教 1)彼岸と此岸			前回配布プリント「日本人の宗教意識」について、江戸時代に始まる「イエと墓」「先祖への畏怖概念」「戸籍管理」などについて理解しておくこと(30)		
第8回 小乗仏教と大乘仏教 2)顕教と密教			前回配布プリント「彼岸と此岸」について、インドの小乗仏教と大乘仏教の観点から、それぞれの意味と用いられ方について把握しておくこと(30)		
第9回 南方仏教と北方仏教 1)仏教の伝来と広がり			前回配布プリント「顕教と密教」について、聖道門と浄土門、難行道と易行道、それぞれと合致する日本の宗派を大まかに把握しておくこと(30)		
第10回 大乘仏教のころ			前回配布プリント「南方仏教と北方仏教」について、インドからシルクロード、中国、朝鮮半島そして日本へ渡る過程と変遷について理解できていること(30)		
第11回 キリスト教 1)隣人愛と十字架			小乗仏教＝小さな劣った舟、大乘仏教＝大きな優れた船、の意味を理解し、現代社会における大乘仏教の重要性について理解しておくこと(30)		
第12回 キリスト教 2)イエス・キリストの生涯			前回配布プリント「キリスト教」について、キリスト教の基本教義を理解し、欧米圏で多数を占める信仰の姿や生活文化とキリストの関係を把握しておくこと(30)		
第13回 キリスト教 3)祈禱と宣教、教会			前回配布プリント「キリスト教」について、イエス(名)とキリスト(救世主)の意味を理解し、Xmasの意味や関連行事について把握しておくこと(30)		
第14回 イスラム教 1)アッラーとムハンマド			前回配布プリント「キリスト教」について、キリスト教の「三位一体(父 子 聖霊)」を理解し、祈禱と教会の関係についても把握しておくこと(30)		
第15回 イスラム教 2)コーランとムスク まとめ 今日の諸問題と宗教			現代におけるイスラム過激主義反社会組織の実例と、本来の教義(コーランとムスク、開祖、ジハード(聖教義を知らし広める))との、乖離について理解・把握しておくこと(30) 全内容を復習すること(90)		
履修に必要な予備知識や技能:1 前回の授業内容を踏まえて次回の授業を行なうため、前回配布したプリントをもとに復習しておくこと 2 書籍やメディアを活用しながら、「日本国民の宗教観」について調べておくこと					
課題に対してのフィードバック:授業内で実施したレポートなどについては添削・返却するが、試験問題・用紙は返却しない					
評価方法・基準:定期試験 85% 受講態度(出席確認票のコメント含む)15% ※無断欠席の場合は、欠席回数分を減点する					
教科書:使用テキストなし 毎授業時、各自でプリントをクラスルームでダウンロード、印刷、持参する					
備考:なし					
実務経験の内容・期間:寺院僧侶・住職 僧正(50年)					

科目名称:東洋史					
担当者名:呂 夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200053
<p>授業概要: 近年の考古学発見と最新の研究成果を踏まえ、中国史を中心として東アジアにおける諸民族や諸文明の衝突と融合の歴史について、時代背景を確認しながらわかりやすく解説する。扱う時代は、黄河文明の誕生から清王朝の滅亡までである。東洋古代・中世・近世史の基礎的事項および主要な歴史人物を理解するとともに、中国・韓国・日本を中心とした東アジアの伝統社会の形成過程についての基礎的な知識を修得し、歴史に対する多角的な視野を養う。</p> <p>課題・補充資料の配信、授業連絡はGoogleClassroomを利用する。</p> <p>受講者からの提出物に対する評点とフィードバックコメントを翌週授業の前に返却する。</p>					
到達目標:① 東アジア先史時代から近代までの大まかな流れを捉え、歴史変動の要因とメカニズムを理解できるようになる。					
② 東洋古代・中世・近世史の基礎的事項および主要な歴史人物を覚えるようになる。					
③ ②に関連してさまざまな角度から歴史の流れを分析できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 中国の歴史:文献史料と考古資料			【予習】テキスト「年表 日本と中国 世界と中国」と第1章「新石器時代」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第2回 殷周革命と天命			【予習】テキスト第1章「青銅時代—殷王朝」「西周王朝」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第3回 春秋戦国と諸子百家			【予習】テキスト第1章「春秋・戦国時代」「春秋・戦国時代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第4回 秦王朝の成立と滅亡			【予習】テキスト第1章「秦王朝」「秦の滅亡～漢の成立」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第5回 前漢王朝と儒教			【予習】テキスト第1章「前漢王朝」「漢代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第6回 後漢から魏晋へ:皇権の衰退と名族の興起			【予習】テキスト第1章「新と後漢王朝」、第2章「魏晋南北朝 1」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第7回 十六国・東晋・南北朝:中国の分裂と多様化			【予習】テキスト第2章「魏晋南北朝2」「魏晋南北朝の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第8回 隋唐王朝と中央集権体制の成立			【予習】テキスト第2章「隋王朝」「唐王朝1」「唐代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第9回 安史の乱以降の唐王朝と律令制の崩壊			【予習】テキスト第2章「唐王朝2」「五代十国」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第10回 東アジアにおける律令体制の拡散			【予習】テキスト第2章「唐代の社会と文化」「東アジア諸国の成立」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第11回 宋王朝と唐宋変革			【予習】テキスト第2章「宋王朝 1・2・3」「宋代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第12回 モンゴル帝国と元王朝			【予習】テキスト第3章「モンゴル帝国」「元王朝」「元代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第13回 明王朝と皇帝専制体制の確立			【予習】テキスト第3章「明王朝 1・2」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第14回 清王朝と明清代の社会・文化			【予習】テキスト第3章「清王朝 1・2」「明清代の社会と文化」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
第15回 アヘン戦争から辛亥革命へ			【予習】テキスト第4章「清朝末期～中華民国の成立」を読んでおくこと(30分)【復習】GoogleClassroomに掲載された補充資料を読み、課題を完成させて提出すること(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校の必修科目である「世界史」「日本史」「地理」に関する基礎的な知識を有すること。					
課題に対してのフィードバック:課題を添削し返却することにより、学生の理解度を向上させる。オフィス・アワーを利用して質疑応答を行なう。					
評価方法・基準:定期試験 60% 課題 30% 受講態度(授業への参加度)10%					

教科書:教科書:小田切英『すぐわかる中国の歴史』(改訂版)、(株)東京美術、2012年  
補充資料:担当教員による作成、GoogleClassroomに掲載

備考:

実務経験の内容・期間:なし

科目名称:西洋史					
担当者名:田中 俊之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200054
授業概要:西洋の古代から中世の歴史を概観しながら、西洋の社会や文化、今日の世界情勢への理解を深めていく。					
到達目標:西洋の歴史の流れを把握し、歴史上のおもな出来事を正確に理解できていること。 試験は複数の問題すべてが論述式なので、授業内容を正確に理解し、日本語の文章を正しく書けることが求められる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 西洋の歴史の古代から現代まで			西洋の歴史の流れの特徴をつかむこと(60)		
第2回 近代歴史学の誕生			ランケ、ピレンヌといった歴史家たちの世界観とそれが歴史学に及ぼした影響について復習し、理解すること(60)		
第3回 古代ギリシア世界の興亡			エーゲ海を中心に繰り広げられた古代ギリシア諸ポリスの対外戦争、対内戦争について復習すること(60)		
第4回 アレクサンドロスの帝国の形成と分裂			巨大なアレクサンドロスの帝国の形成と分裂の原因とプロセスについて復習すること(60)		
第5回 古代ローマ世界:ローマ帝国の誕生			古代ローマ人がイタリア半島を中心に帝国を築き上げるまでのプロセスについて復習すること(60)		
第6回 古代ローマ世界:キリスト教の誕生			イエス・キリストがローマ帝国のどのような状況下で登場し、なぜ処刑されたかについて復習し、理解すること(60)		
第7回 古代ローマ世界:危機の時代のローマ帝国			巨大化したローマ帝国の機能不全に諸皇帝はどのように向き合ったかについて復習すること(60)		
第8回 ゲルマン人の侵入			ゲルマン人のローマ帝国への侵入の意味について復習すること(60)		
第9回 フランク王国の発展			クローヴィス、カール・マルテル、ピピン、シャルルマーニュの事績を復習し、フランク王国の発展について理解すること(60)		
第10回 ノルマン人の進出			ノルマン人とは何者か、彼らがヨーロッパ中世世界に与えた影響について復習すること(60)		
第11回 叙任権闘争			ローマ教皇権とローマ皇帝権について復習し、神聖ローマ帝国について理解を深めること(60)		
第12回 十字軍			十字軍が行われた約200年間のプロセスを復習すること(60)		
第13回 教皇インノケンティウス3世とその時代			ローマ教皇権と異端カタリ派、托鉢修道会の関係について復習すること(60)		
第14回 中世都市の発展			商業の復活と中世都市の関係、様々なタイプの中世都市について復習すること(60)		
第15回 中世後期の危機			何が中世世界に危機をもたらしたのかを復習し、理解すること(60)		
履修に必要な予備知識や技能:世界史(ここでは特にヨーロッパの古代から現代まで)の基本的な知識。					
課題に対するフィードバック:課題等の解説、返却については、その都度、説明する。					
評価方法・基準:学期末試験 80% 受講態度(質疑応答)20%					
教科書:教科書:『最新世界史図説タベストーリー』(帝国書院) 参考書:『図解雑学世界の歴史』(ナツメ社)					
備考:受講に際しての注意事項:①授業中、(隠れて)スマホ等に熱中する、近隣の学生とおしゃべりする、ノートを取らないなど、受講態度に問題がある学生、ただ出席しているだけの学生、授業放棄とも取れる学生は、たとえ授業への出席回数が基準を満たしていようと、単位を取得できない可能性が高いことを心得ておいてほしい。②授業中に教員側から問いかける質問に答えられるよう勉強をしておいてほしい。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:人文地理					
担当者名:柴田 紀子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200056
授業概要:人文地理学の諸分野(都市地理学、経済地理学、社会地理学、文化地理学など)の基礎となる概念や理論について、地理的事象の事例を踏まえ、解説する。また、具体的に地域がどのように変貌してきたのかなどについて、主題に基づいた地図の作成や考察を通して、空間や地域の成立要件などについて学ぶ。現代社会で起こる事象について地理的知識を深める。					
到達目標:人文地理学の基本的な概念や理論が理解できる。現代の地域の諸問題に関する理解を深め、空間的な視点からその要因等を考察することができる。豊かな人間性を支える教養としての地理学の知識を身につけることができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	第1回	イントロダクション 地理学の諸分野の特性	『講義概要』を事前に読み、授業の概要を理解する。中学や高等学校の地理の教科書や地図帳等を再読する。(30)		
第2回	第2回	地域概念と地図の活用(1)	国土地理院発行の地図の種類や、自分の生活に身近なマップ類などについて調べ学習する。(60)		
第3回	第3回	地域概念と地図の活用(2)	前回授業範囲を復習し、一般的な主題図の種類について調べ学習する。(60)		
第4回	第4回	文化と地理(1)	居住地域の衣食住などの特性や文化的な行事等について調べ学習する。(60)		
第5回	第5回	文化と地理(2)	前回授業範囲を復習し、地域の文化継承の課題について調べ学習する。(60)		
第6回	第6回	産業と地理(1) 工業・農業	日本の工業・農業の特色と居住地域にどのような工場や農産物があるかなど調べ学習する。(60)		
第7回	第7回	産業と地理(2) 商業	日本の商業の特色と居住地域にどのような商業施設があるかなど調べ学習する。(60)		
第8回	第8回	交通と地理観光と地理	日本の交通の歴史と身近な交通機関について調べ学習する。(60)		
第9回	第9回	観光と地理	日本の代表的な観光地と観光地の観光産業にはどのようなものがあるか調べ学習する。(60)		
第10回	第10回	人口と地理 都市地理(1)	日本の人口の特色と居住地域の人口実態について調べ学習する。(60)		
第11回	第11回	都市地理(1)	日本や世界の主要な都市についてその特徴について調べ学習する。(60)		
第12回	第12回	都市地理(2)	前回授業範囲を復習し、現代の都市問題について新聞やニュースなどで調べ学習する。(60)		
第13回	第13回	知覚の地理(1) メンタルマップと人間の行動	特定の地域で一般的にどのようなイメージが持たれているかについて調べ学習する。(60)		
第14回	第14回	知覚の地理(2) 地域イメージと「場所」の意味	前回授業範囲を復習し、特定地域のイメージの歴史的形成過程について調べ学習する。(60)		
第15回	第15回	環境と地理	現代の環境問題について新聞やニュースなどで調べ学習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:これまでに習得してきた地理の知識(中学や高等学校で学んだことを中心に)整理し、最近関心をもった地理的事象について文献や地図などで学習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業中に提出したレポートは、次回授業で講評し、フィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 90% レポート 10%					
教科書:教科書は指定しない。授業時にプリントを配布する。また、参考書は授業時に紹介する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:器楽 I					
担当者名:枝村 美夏、坂井 美香、水上 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22107021
授業概要:歌の伴奏で思いつくのはピアノである。そこでピアノ奏法と子どもの歌を中心に、ピアノの基礎的技能(コード伴奏の知識・技能)を学んでいく。また、意欲的な学習法となる個人の技量を考慮した個別指導の徹底を図り、保育・幼児教育に必要な独奏力・伴奏力を身につける。					
到達目標:曲を暗譜で演奏しつつ、1題目を歌うこと(弾き歌い)ができる。暗譜で演奏できる弾き歌い曲のレパートリーを持つ。コード(ハ長調)で和音伴奏、曲のリズムを理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 予習課題の確認と技量に応じた指導			予習課題の練習(60)		
第2回 課題曲の選択と指導			課題曲の選択と指導を行うための演奏練習(60)		
第3回 曲を暗譜で演奏(メロディ)			曲を暗譜で演奏(メロディ)を行うための演奏練習(60)		
第4回 曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)			曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)を行うための演奏練習(60)		
第5回 弾き歌い			弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第6回 コード(ハ長調)の和音伴奏			コード(ハ長調)の和音伴奏を行うための演奏練習(60)		
第7回 曲のリズム(マーチ)の理解			曲のリズム(マーチ)の理解を行うための演奏練習(60)		
第8回 曲のリズム(ワルツ)の理解			曲のリズム(ワルツ)の理解を行うための演奏練習(60)		
第9回 コードの和音伴奏を意識した弾き歌い			コードの和音伴奏を意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第10回 コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌い			コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第11回 弾き歌いの応用			弾き歌いの応用を行うための演奏練習(60)		
第12回 弾き歌いのレパートリーを持つ			弾き歌いのレパートリーを持つを行うための演奏練習(60)		
第13回 これまで練習してきた楽曲の確認			これまで練習してきた楽曲の確認を行うための演奏練習(60)		
第14回 これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定			これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定を行うための演奏練習(60)		
第15回 達成曲の申告とその練習			達成曲の申告とその練習を行うための演奏練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習課題の練習をしっかりと行ってください。					
課題に対するフィードバック:個人指導による授業内の演奏に対する講評を行います。楽曲の練習に活かしてください。					
評価方法・基準:演奏技術、準備学習と提出課題で評価する。(定期試験 80% 提出課題 10% 受講態度 10%)					
教科書:いろいろな伴奏で弾ける 選曲 こどものうた 100(小林美実監修、チャイルド本社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:器楽Ⅱ					
担当者名:枝村 美夏、坂井 美香、水上 和子、朝倉 喜裕					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22107022
授業概要:独奏力は元より、子どもの歌唱に合わせた伴奏力を伸ばすことに重点をおく。さらに、子どもの動きに合わせたピアノ伴奏ができるようになること、歌唱の技能も習得していく。また、読譜力の向上を目指し、ソルフェージュを徹底する。					
到達目標:暗譜で演奏できる弾き歌い曲のレパートリーが増える。コード(ト長調、ヘ長調)で和音伴奏ができる。曲のリズム(マーチ、スキップ、ワルツ)を理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 予習課題の確認と技量に応じた指導			予習課題の練習(60)		
第2回 課題曲の選択と指導			課題曲の選択と指導を行うための演奏練習(60)		
第3回 曲を暗譜で演奏(メロディ)			曲を暗譜で演奏(メロディ)を行うための演奏練習(60)		
第4回 曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)			曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)を行うための演奏練習(60)		
第5回 弾き歌い			弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第6回 コード(ト長調)の和音伴奏			コード(ト長調)の和音伴奏を行うための演奏練習(60)		
第7回 コード(ト長調、ヘ長調)の和音伴奏			コード(ト長調、ヘ長調)の和音伴奏を行うための演奏練習(60)		
第8回 曲のリズム(スキップ)の理解			曲のリズム(スキップ)の理解を行うための演奏練習(60)		
第9回 コードの和音伴奏を意識した弾き歌い			コードの和音伴奏を意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第10回 コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌い			コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第11回 弾き歌いの応用			弾き歌いの応用を行うための演奏練習(60)		
第12回 弾き歌いのレパートリーを持つ			弾き歌いのレパートリーを持つを行うための演奏練習(60)		
第13回 これまで練習してきた楽曲の確認			これまで練習してきた楽曲の確認を行うための演奏練習(60)		
第14回 これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定			これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定を行うための演奏練習(60)		
第15回 達成曲の申告とその練習			達成曲の申告とその練習を行うための演奏練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習課題の練習をしっかりとっておいてください。					
課題に対するフィードバック:個人指導による授業内の演奏に対する講評を行います。楽曲の練習に活かしてください。					
評価方法・基準:演奏技術、準備学習、提出課題で評価する。(定期試験 80% 提出課題 10% 受講態度 10%)					
教科書:続こどものうた 200(小林 美実編集、チャイルド本社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:器楽Ⅲ					
担当者名:枝村 美夏、坂井 美香、水上 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22107023
授業概要:更なるピアノ伴奏能力の向上を図る。ソルフェージュによる読譜力の向上から、新曲視奏力や新曲視唱力の技術の向上を図ると共に、より多くの子どもの歌を知ること、曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)しつつ、弾き歌いができる力を修得する。					
到達目標:暗譜で演奏できる弾き歌い曲のレパートリーが増える。コード(二長調、変ロ長調)で和音伴奏ができる。曲のリズム(マーチ、スキップ、ワルツ、ラン)を理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 予習課題の確認と技量に応じた指導			予習課題の練習(60)		
第2回 課題曲の選択と指導			課題曲の選択と指導を行うための演奏練習(60)		
第3回 曲を暗譜で演奏(メロディ)			曲を暗譜で演奏(メロディ)を行うための演奏練習(60)		
第4回 曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)			曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)を行うための演奏練習(60)		
第5回 弾き歌い			弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第6回 コード(二長調)の和音伴奏			コード(二長調)の和音伴奏を行うための演奏練習(60)		
第7回 コード(二長調、変ロ長調)の和音伴奏			コード(二長調、変ロ長調)の和音伴奏を行うための演奏練習(60)		
第8回 曲のリズム(ラン)の理解			曲のリズム(ラン)の理解を行うための演奏練習(60)		
第9回 コードの和音伴奏を意識した弾き歌い			コードの和音伴奏を意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第10回 コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌い			コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第11回 弾き歌いの応用			弾き歌いの応用を行うための演奏練習(60)		
第12回 弾き歌いのレパートリーを持つ			弾き歌いのレパートリーを持つを行うための演奏練習(60)		
第13回 これまで練習してきた楽曲の確認			これまで練習してきた楽曲の確認を行うための演奏練習(60)		
第14回 これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定			これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定を行うための演奏練習(60)		
第15回 達成曲の申告とその練習			達成曲の申告とその練習を行うための演奏練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習課題の練習をしっかりと行ってください。					
課題に対するフィードバック:個人指導による授業内の演奏に対する講評を行います。楽曲の練習に活かしてください。					
評価方法・基準:準備学習、提出課題で評価する。(定期試験 60% 提出課題 30% 受講態度 10%)					
教科書:続こどものうた 200(小林 美実編集、チャイルド本社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:器楽Ⅳ					
担当者名:枝村 美夏、坂井 美香、水上 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22207024
授業概要:器楽の集大成と位置づける。ソルフェージュの徹底と新曲視奏・視唱力の向上、独奏力と伴奏力、弾き歌いの技術の更なる向上を図り、保育現場に即応できるように、人前での演奏発表なども通して総合的な実践力を身につける。					
到達目標:暗譜で演奏できる弾き歌い曲のレパートリーが増える。調性とコードが判れば和音伴奏ができる。曲調から曲のリズムを理解でき、説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 予習課題の確認と技量に応じた指導			予習課題の練習(60)		
第2回 課題曲の選択と指導			課題曲の選択と指導を行うための演奏練習(60)		
第3回 曲を暗譜で演奏(メロディ)			曲を暗譜で演奏(メロディ)を行うための演奏練習(60)		
第4回 曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)			曲を暗譜で演奏(メロディ+伴奏)を行うための演奏練習(60)		
第5回 弾き歌い			弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第6回 和音伴奏における調性の理解			和音伴奏における調性の理解を行うための演奏練習(60)		
第7回 和音伴奏におけるコードの理解			和音伴奏におけるコードの理解を行うための演奏練習(60)		
第8回 曲調から曲のリズムを理解する			曲調から曲のリズムを理解するを行うための演奏練習(60)		
第9回 コードの和音伴奏を意識した弾き歌い			コードの和音伴奏を意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第10回 コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌い			コードの和音伴奏と曲のリズムを意識した弾き歌いを行うための演奏練習(60)		
第11回 弾き歌いの応用			弾き歌いの応用を行うための演奏練習(60)		
第12回 弾き歌いのレパートリーを持つ			弾き歌いのレパートリーを持つを行うための演奏練習(60)		
第13回 これまで練習してきた楽曲の確認			これまで練習してきた楽曲の確認を行うための演奏練習(60)		
第14回 これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定			これまで練習してきた楽曲の総まとめと達成曲の確定を行うための演奏練習(60)		
第15回 達成曲の申告とその練習			達成曲の申告とその練習を行うための演奏練習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:予習課題の練習をしっかりと行ってください。					
課題に対するフィードバック:個人指導による授業内の演奏に対する講評を行います。楽曲の練習に活かしてください。					
評価方法・基準:演奏技術、準備学習、提出課題で評価する。(定期試験 60% 提出課題 30% 受講態度 10%)					
教科書:続こどものうた 200(小林 美実編集、チャイルド本社)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: 幼児体育					
担当者名: 松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200004
授業概要: 保育内容を理解し、ボール・長短縄・マット・平均台・跳び箱・リング・棒・新聞紙・風船・トランポリン等の教材遊具を用いてその特性や活用方法を学ぶ。子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつけ、子どもの発達に即した遊びの展開に関する知識と技術を身につける。また、遊具の安全管理方法についても学ぶ。					
到達目標: 各運動遊びの基礎的知識を学び、保育者として必要な安全性最優先の環境整備と指導方法を習得して、幼児に身体を動かす事の楽しさや、友達、保育者と共にあそぶ楽しさを伝えられるようにする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 幼児の身体運動に関する基本的な知識			幼児の健康と運動あそびの基礎的知識(45)		
第2回 運動あそびにおける安全管理			幼児の身体運動に関する基本的な知識の復習(45)		
第3回 マットを使った運動あそび(1) マット運動の基礎知識			マット運動の基礎的知識(45)		
第4回 マットを使った運動あそび(2) 実践と評価			マットを使った運動あそび(1)の復習(45)		
第5回 ボールを使った運動あそび(1) ボール運動の基礎知識			ボール運動の基礎的知識(45)		
第6回 ボールを使った運動あそび(2) 実践と評価			ボールを使った運動あそび(1)の復習(45)		
第7回 長短縄を使った運動あそび(1) 長短縄運動の基礎知識			長短縄運動の基礎的知識(45)		
第8回 長短縄を使った運動あそび(2) 実践と評価			長短縄を使った運動あそび(1)の復習(45)		
第9回 平均台を使った運動あそび(1) 平均台運動の基礎知識			平均台運動の基礎的知識(45)		
第10回 平均台を使った運動あそび(2) 実践と評価			平均台を使った運動あそび(1)の復習(45)		
第11回 跳び箱を使った運動あそび(1) 跳び箱運動の基礎知識			跳び箱を使った運動の基礎的知識(45)		
第12回 跳び箱を使った運動あそび(2) 実践と評価			跳び箱を使った運動あそび(1)の復習(45)		
第13回 リングを使った運動あそび(1) リング運動の基礎知識			リングを使った運動の基礎的知識(45)		
第14回 リングを使った運動あそび(2) 実践と評価			リングを使った運動あそび(1)の復習(45)		
第15回 棒・新聞紙・風船を使った運動あそび			これまでの授業の復習(45)		
履修に必要な予備知識や技能: 各種運動あそびの基礎的知識を深めておくこと。					
課題に対してのフィードバック: 課題とした運動技能が到達目標に達しない場合は補習を行う。					
評価方法・基準: 受講態度(50%)、コミュニケーション能力(30%)、運動技能(20%)を100点満点の減点法で評価する。第1回授業にて詳細を説明する。					
教科書: 参考書: 「幼児期からのアクティブチャイルドプログラム」「子どもの心と体を育む楽しいあそび」 日本スポーツ協会					
備考:					
実務経験の内容・期間: 幼児体育協会公認指導員(21年) 幼児体育教室(15年)					

科目名称:子どもと文化					
担当者名:木谷 葉子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22201033
授業概要:保育内容を理解し、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験を通して、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を学ぶ。また、子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術を修得する。					
到達目標:児童文化財を理解し、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や、それらに係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び 具体的展開の技術を修得し、実践できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 児童文化の解説			身近な児童文化について再考し、レポートにまとめる (90)		
第2回 伝承文化と子どもの遊び・生活			伝承文化の中での児童文化財を調べ、伝承遊びに使われているものを準備する (90)		
第3回 保育における伝承遊びの展開(計画・立案)			幼児に合った園でできる伝承遊びの展開を考え、立案しておく (90)		
第4回 保育における伝承遊びの実践①(室内遊び)			室内でできる伝承遊びの準備しておく (90)		
第5回 保育における伝承遊びの実践②(戸外遊び)			伝承遊びを実践しての考察レポートを書く 戸外でできる伝承遊びの準備しておく (90)		
第6回 おはなし(素話)の展開(日本の昔話を通して)			伝承遊びを実践しての考察レポートを書く 日本の昔話・民話を1つ素話で覚える (90)		
第7回 おはなし(素話)の展開(外国の童話を通して)			外国の童話・民話を1つ素話で覚えておく (90)		
第8回 保育における人形劇の展開と実践①(課題発表:子どもに見せる人形劇)			素話から人形劇にしたフィギュア(人形)を作り、子どもに対する演技方を考え工夫する (90)		
第9回 保育における人形劇の展開と実践②(課題発表:子どもが参加する人形劇)			フィギュア(人形)を使った子ども参加型の人形劇の展開を考え、準備する (90)		
第10回 保育における劇遊びの展開①フィギュア(人形)を使った劇遊び			人形劇から劇遊びへの遊びの展開を考え工夫し、準備する (90)		
第11回 保育における劇遊びの展開②身体や言葉で表現する劇遊び			子ども主体の劇遊びの展開を考え、必要なものを準備する (90)		
第12回 保育における劇遊びの展開と実践①			劇遊びに必要なものを作り、お話の進め方や演技方をイメージし準備する (90)		
第13回 保育における劇遊びの展開と実践②			劇遊びに必要なものに不足や、不備がないか確認し、準備する。(90)		
第14回 保育における劇遊びの展開と実践③ 発表			劇遊びをおこなう手順を確認し、終了後、実践しての考察レポートを書く (90)		
第15回 まとめ グループ討議による児童文化の理解			子どもの園環境とアニメなどのキャラクターについて考察し、レポートを書く (90)		
履修に必要な予備知識や技能:『保育所保育指針解説』第2章 2.3、『幼稚園教育要領』第2章を精読しておくこと。日本の昔話、外国の民話や童話を数多く読んでおくこと。					
課題に対してのフィードバック:前回の授業の要点を授業初めに確認する。演習課題の制作物やレポートは授業で講評する。					
評価方法・基準:定期試験 50%、課題・レポート 30%、実技 20%をめやすとしますが、受講態度など総合的に評価します。					
教科書:使用テキストなし 必要に応じて、プリントを配布する。 『保育所保育指針解説』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館					
備考:自らが伝承遊び等の体験をすることによって様々な児童文化財に親しむことが求められます。					
実務経験の内容・期間:保育士(6年)、幼稚園教諭(21年)					

科目名称:法学(憲法) I					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200143
授業概要:法学一般は法の目的、法規範、法の分類と体系等、憲法は日本国憲法の特徴と基本原理、基本的人権の特質と分類、最後に統治機構の問題として三権各々の内容と特色等基礎知識と理論を講義する。					
到達目標:法学一般及び憲法の基礎知識と理論の実用的修得を主要な目的とする。社会及び日常生活における法の作用や役割についても言及し、福祉関係職員が常識や教養として知っておくべき法律の重要性を理解していく。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、法学(1) 法とは何か			事前に配布する資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 法学(2) 法と裁判、その他			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第3回 日本国憲法の定める国のあり方(1) 国会			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第4回 日本国憲法の定める国のあり方(2) 内閣			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第5回 日本国憲法の定める国のあり方(3) 裁判所			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第6回 日本国憲法の定める国のあり方(4) 地方自治			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第7回 日本国憲法と国際社会(1) 憲法と安全保障、憲法改正			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第8回 日本国憲法と国際社会(2) 憲法と国際法			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第9回 日本国憲法の保障する権利(1) 人権総論、幸福追求権、法の下の平等			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第10回 日本国憲法の保障する権利(2) 思想良心の自由、表現の自由			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第11回 日本国憲法の保障する権利(3) 信教の自由、職業選択の自由、財産権			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第12回 日本国憲法の保障する権利(4) 生存権			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第13回 日本国憲法の保障する権利(5) 教育を受ける権利、人身の自由、裁判を受ける権利			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第14回 日本国憲法の保障する権利(6) 参政権、その他			教科書の該当部分を熟読すること(90)		
第15回 まとめ			これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校等で使用する「現代社会」「政治・経済」「公共」の教科書等の該当部分を熟読しておくこと					
課題に対してのフィードバック:資料配布及び個別対応によって行う					
評価方法・基準:定期試験 100%					
教科書:教科書:「法学・憲法ナビゲーション」(Bookway)					
参考書:第1回のガイダンスで紹介する					
備考:シラバスの変更箇所は、事前配布の資料を参照のこと					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:法学Ⅱ					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200044
<p>授業概要:「法学」とは、法に関する学問の総称のことであるが、法の理論的な解明を目的とする基礎法学と、司法や立法、行政における法原理や法的技術を中心とする実用法学に大別できる。この授業では、まず、法体系及び法規範の構造や機能、法形式や法の分類、法律用語や法の解釈などの基礎法学分野における知識や考え方について講義を行う。次に、憲法や民法、刑法、商法、労働法等といった主要な法律について概観し、現代社会における実用法学の意義や役割について講義を行う。</p>					
<p>到達目標:わが国の法体系や法の分類、法律用語、法の解釈などの基本的な知識や考え方を修得すること、民法や商法、労働法などが現代社会においてどのような役割を果たしているかを考察することを通じて、基本的な法的知識と法的な考え方(「リーガル・マインド」)の修得を図ることを目標とする。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス・法学概論			別途配布する資料及び教科書第1編から第3編を熟読しておくこと(120)		
第2回 憲法(1)ー憲法総論、人権総論			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第3回 憲法(2)ー人権各論			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第4回 憲法(3)ー統治その他			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第5回 刑法			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(120)		
第6回 行政法(1)ー行政行為、行政組織など			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第7回 行政法(2)ー行政事件訴訟、国家賠償、地方自治法など			教科書第4編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第8回 民法(1)ー総則、債権			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第9回 民法(2)ー物権			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第10回 民法(3)ー親族・相続			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第11回 商法・会社法			教科書第5編の該当箇所を熟読しておくこと(120)		
第12回 労働法(1)ー労働契約、賃金、解雇、労働時間、休日など			教科書第6編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第13回 労働法(2)ー年少者、女性の保護規定、就業規則、労働組合など			教科書第6編の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第14回 民事訴訟法、刑事訴訟法など			教科書第7編を熟読しておくこと(90)		
第15回 個人情報保護法、国際法、その他補足			教科書第8編～第9編を熟読しておくこと(90)		
履修に必要な予備知識や技能:高等学校等で使用する「現代社会」「政治・経済」「公共」の教科書等の該当部分、及び、「法学Ⅰ」で使用する教科書等の該当箇所を熟読しておくこと					
課題に対するフィードバック:資料配布または個別対応にて行う					
評価方法・基準:レポート(100%)で評価する。					
教科書:教科書:法学研究会『面白いほど理解できる法学の基礎の基礎』(早稲田経営出版、2023年)					
参考書:別途配布する資料を参照					
備考:シラバスに変更があるときは、事前に案内する。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:政治学					
担当者名:松田 淳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200045
授業概要:政治を学ぶ意義は、理想を現実に変えていく実践への知恵、法律や経済や社会から漏れてしまった困窮者を救う、などの意義が様々な研究者らにより唱えられてきた。本講義では、社会福祉マインドを持つ学生の教養面の陶冶を念頭に置き、時事的テーマも加味し広範な視野で解説する。					
到達目標:政治学に関する一般的事項を理解し、政治を身近に捉えることを目標とし、社会を向上させる学びの機会とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 政治学を学ぶ意義(ガイダンス)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第2回 日本の政治のしくみから見える課題			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第3回 地方の政治のしくみから見える課題			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第4回 日本の選挙のしくみから見える課題(Ⅰ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第5回 日本の選挙のしくみから見える課題(Ⅱ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第6回 日本の政党(与党と野党)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第7回 地方自治体の首長とその役割			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第8回 地方自治の諸課題			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第9回 日本の歴代の首相と政策の変遷			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第10回 政治に関する諸テーマについて議論しよう			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第11回 政治と福祉(Ⅰ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第12回 政治と福祉(Ⅱ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第13回 日本の政治と外交・安全保障(Ⅰ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第14回 日本の政治と外交・安全保障(Ⅱ)			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第15回 まとめ			直近の国内外の政治ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
履修に必要な予備知識や技能:新聞記事やテレビのニュース等に日頃から接し、政治、社会保障、外交・安全保障などがキーワードとして使われているニュースをチェックしておく。					
課題に対するフィードバック:毎回の授業で配付使用されるワークシートの中での学生からの質問や意見・主張に対して、教員からコメント・解説(助言)を伝えるなどして返却し、双方向で課題への理解を深化させる。					
評価方法・基準:定期試験 60%、授業への取り組み(授業ごとのワークシートの内容、受講態度を含む) 40%					
教科書:毎回、自作の資料を配付					
備考:特記事項なし					
実務経験の内容・期間:高校教諭 36年					

科目名称:経済学 I					
担当者名:松田 淳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22201046
<p>授業概要:経済学は社会科学分野の中心にあり体系化されている学問である。この授業を通じて基本的な理論を理解し、社会生活の上で状況に応じた判断ができる能力を身につける。そして、社会生活と経済が常に一体化していることを実感した時にそれらの学びは活かされる。</p> <p>特に、経済学 I は体系化した基本理論の理解のための歴史的変遷と激変する現代社会の事象に触れる。現代の市場は人為的にコントロールされ、適正な方向に向かわせるためにさまざまな経済政策がとられていることを知り、現在のわが国にとって改革の必要性や今後の展望について主体的に考察できる能力を磨く。</p>					
到達目標:(1)経済の体系的理論と変遷を知る (2)激変する現代社会を適正な方向に向けるためのさまざまな経済政策を思考することができる (3)国内外報道記録に関心を持ち、経済の事象とデータを客観的に読み解く中で今後の経済を「予測」する思考力を磨く					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業ガイダンス、「経済」とは(経済の動きを読み解くことの重要性を知る)			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第2回 「経済学」とは(古来からの思想と歴史的変遷について)			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第3回 経済学の父アダム・スミスの経済理論について			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第4回 マルクスの『資本論』と時代背景について			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第5回 ケインズの有効需要の理論について			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第6回 経済学の三大思想について			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第7回 「経済は生き物である」(常に化する経済の局面とその法則性を考察する)			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第8回 経済政策のタイムラグとは(なぜ政策に遅れが出るのか、その仕組みを知る)			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第9回 インフレーションとデフレーションを考察する			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第10回 行動経済学.その1ー賢い消費者へー			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第11回 行動経済学.その2ー賢い生き方のスマー			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第12回 演習(1)現代日本の経済問題①<グループワークと発表>			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第13回 演習(2)現代日本の経済問題②<グループワークと発表>			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第14回 演習(3)世界における経済の動き<グループワークと発表>			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
第15回 演習(4)今後の日本経済についての展望<グループワークと発表>			直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30)→ワークシートの活用(30)		
履修に必要な予備知識や技能:高校「現代社会」「政治・経済」の教科書を復読しておくこと。毎回授業に向けて国内外の経済ニュースをチェックしておく。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題、ワークシート、レポートの講評・解説をする。					
評価方法・基準:定期試験 80%、毎授業ごとのワークシートの作成内容と受講態度 20%					
教科書:特に指定なし。その都度、資料を配付する。					
備考:特記事項なし					
実務経験の内容・期間:高校教諭 36年					

科目名称:経済学Ⅱ					
担当者名:松田 淳					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22201047
<p>授業概要:経済は社会生活と人間との関係性と一体化したものであり、社会科学分野の中心にある経済学は体系化しているため、この基本を理解して状況に応じた補充があれば、理論背景のない発言の嘘と本当がすぐに判断できるおもしろさがある。</p> <p>メインテーマに関連付けて国家予算、金融・株式の仕組み、円高・円安の国際経済に与える影響やさまざまな国内外の経済活動にも触れ、世界経済が激変する中でこれまでにない改革の必要や日本がこれからどう変わるのか理解すること、自ら思い考えるための学習である。</p> <p>到達目標:「経済は社会生活と人間との関係性と一体化したものであるからこそ、誰もが語れるために誤解や混乱も多い。根拠ある理論を背景として、経済事象や経済政策が理解でき、これからの日本や国際社会の経済を通じた関係性を知ることができる。経済常識とされる過去事象を、データ分析も含めて客観的に見つめ直し予測することの必要を感じる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	マクロ経済学は、ミクロ経済学と対をなすとマクロ・モデル	マクロ経済現象	直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第2回	ケインズ経済学と新古典派経済学		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第3回	家計の経済活動と企業経済活動		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第4回	マクロ経済と政府の役割		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第5回	GDPは国の経済活動の指標		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第6回	GDPはフローの概念		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第7回	生産面のGDPと分配面のGDP		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第8回	名目GDPと実質GDPとは		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第9回	GDPが大きければ良いのか?		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第10回	完全雇用の実現は重要な政策目標		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第11回	物価指数で何がわかるのか(消費者物価指数と企業物価指数、GDPデフレーター)		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第12回	インフレやデフレの理解で日本にある多くのチャンスを知る		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第13回	資産価格とバブル(キャピタル・ゲイン、キャピタル・ロス、ファンダメンタル)		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第14回	景気循環と経済成長の関係性理解		直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)		
第15回	マクロ経済活動と国際分業におけるグローバル化とは これからの経済社会のあるべき姿と課題		こ	直近の国内外の経済ニュースと関連用語を調べる(30) →ワークシートの活用(30)	
履修に必要な予備知識や技能:「経済学Ⅰ」で学修した内容を見返しておくこと。 毎回、授業前に直近の国内外のマクロな経済ニュースをチェックしておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題、ワークシート、レポートの講評・解説をする。					
評価方法・基準:定期試験 80%、授業毎のワークシートの作成内容と受講態度 20%					
教科書:特に指定なし。その都度、資料を配付する。					
備考:特記事項なし					
実務経験の内容・期間:高校教諭 36年					

科目名称:データサイエンス					
担当者名:齊藤 実祥					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年後期	講義	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200060
授業概要:データサイエンスの基本的概念およびデータの収集・管理・分析の基礎知識、数理的思考を身につける。データ分析・活用の手法を理解するとともに、データサイエンスの具体事例を通じて、社会におけるデータの分析・活用についても理解する。理解を確実にするために、授業では分析手法の選択についての討論やICTを活用した分析等のレポートを予定している。					
到達目標:データを適切に収集および管理できる。 データ収集と管理に関する知識を活用し、データ分析に役立てることができる。 データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 イントロダクション、授業の説明、現代社会におけるデータサイエンス(1):データサイエンスの役割			「情報処理演習 I」の内容を再確認する(30)		
第2回 現代社会におけるデータサイエンス(2):データ分析のためのデータの取得と管理			データの取得・管理と個人情報の保護に関して、どのような社会問題が生じているか調べる(30)		
第3回 データ分析の基礎(1):ヒストグラム/箱ひげ図/平均と分散			高等学校「数学」での統計的な内容を再確認する(30)		
第4回 データ分析の基礎(2):散布図と相関係数/回帰直線/データ分析で注意すべき点			サンプルデータでデータ分析してみる(90)		
第5回 データサイエンスの手法(1):クロス集計/回帰分析/ベイズ推論/アソシエーション分析			「データサイエンスの手法」に関する教科書の該当部分を精読し、理解できない部分を抜き出しておく(90)		
第6回 データサイエンスの手法(2):クラスタリング/決定木/ニューラルネットワーク/機械学習と人工知能(AI)			手法の得手・不得手をまとめる(60)		
第7回 データサイエンスの応用事例:マーケティング/金融/品質管理/画像処理/音声処理/医学			あなたの専門分野でのデータサイエンスの応用事例を調べる(30)		
第8回 まとめ			今後、データサイエンスは社会でどのように使われるようになるか、考察する(30)		
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
履修に必要な予備知識や技能:「情報処理演習 I」の履修・単位修得が望ましい。					
課題に対してのフィードバック:課題レポートは評価後、返却します。					
評価方法・基準:定期試験 60%、課題レポート 40%					
教科書:教科書:データサイエンス入門第2版(データサイエンス大系)、竹村彰通他著、学術図書出版社					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:統計学					
担当者名:宮本 加奈					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		22200015
授業概要:社会調査などによって得られたデータは、適切にまとめられ、提示されなければならない。本講義では、データの集計方法と、基本的な推定、および検定手法について学習する。					
到達目標:標本調査によって得られたデータの特徴の表し方を修得した上で、場合に応じて母集合の統計量を推定できるようになること。また、統計的検定法の基礎を習得し、調査で得られたデータに対して基本的な統計的処理を行い、その結果を表現できるようになること。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 統計的なものの見方			Excel による表やグラフの作成、および基本的な関数を使ったデータの集計についての学習(30分)		
第2回 記述統計			記述統計の復習(30分)		
第3回 記述統計演習			記述統計演習の復習(30分)		
第4回 確率			確率の復習(30分)		
第5回 推測統計			推測統計の復習(30分)		
第6回 推測統計演習			推測統計演習の復習(30分)		
第7回 統計的仮説検定1			検定の復習(30分)		
第8回 統計的仮説検定2			検定の復習(30分)		
第9回 統計的仮説検定演習			検定演習の復習(30分)		
第10回 相関と回帰			相関と回帰の復習(30分)		
第11回 クロス集計			クロス集計の復習(30分)		
第12回 相関と回帰、クロス集計演習			相関と回帰、クロス集計演習の復習(30分)		
第13回 分散分析			分散分析の復習(30分)		
第14回 多重比較検定とノンパラメトリックな手法			多重比較検定とノンパラメトリックな手法の復習(30分)		
第15回 分散分析演習			分散分析演習の復習(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:Excel による表やグラフの作成、および基本的な関数を使ったデータの集計の学習					
課題に対するフィードバック:演習課題は、添削結果を次回以降の講義内で返却し、講評する					
評価方法・基準:課題1(20%)、課題2(20%)、レポート課題(60%) 但し、講義への参加状況により最大40%まで減点					
教科書:Excel で学ぶ統計・データ解析入門(丸善出版)					
備考:なし					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:教養ゼミ I					
担当者名:野村 智宏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200091
授業概要:教養とは何かを考えプレゼンテーションやグループワークを行い、自己覚知と他者理解力を高めます。					
到達目標:1. 自己分析することで、自己覚知と他者理解ができる。 2. 価値観を共有、共感することで視野を広げることができる。 3. グループワークを行うことで、コミュニケーションスキルを身につけられる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			講義内容に関する自主学習を行うこと(60)		
第2回 教養とは何か			日頃のニュースをしっかりと確認しておくこと(30)		
第3回 社会生活と教養			日々の生活で一般教養と教養をどのように活用しているか考える(30)		
第4回 教養とコミュニケーション技法(相手を考えて物事を伝える重要性)			現代社会においてコミュニケーションの重要性を考えてみる(30)		
第5回 プレゼンテーション技法 テーマ「物の価値」 グループの選定			各グループで発表の打ち合わせ(60)		
第6回 プレゼンテーション技法 価値を他者にどう伝えるか発表			他のグループの発表を聞いて学んだことをまとめる(60)		
第7回 プレゼンテーション技法 テーマ「興味関心」 グループの選定			各グループで発表の打ち合わせ(60)		
第8回 プレゼンテーション技法 興味関心を他者にどう伝えるか発表			他のグループの発表を聞いて学んだことをまとめる(60)		
第9回 対人援助技術 4人の登場人物それぞれの思いがあり文章を読んでグループワークを通して自分の価値観を知る			自分にとって、お金・愛・友情・愛情・健康について考えておく(30)		
第10回 対人援助技術 電車内でトラブルが生じ4人の登場人物の思いを文章から理解し、グループワークを通して自分の価値観を知る			グループワークに登場する4人の視点から文章を読み理解しておく(30)		
第11回 対人援助技術 学生4人が山で遭難に合います。誰の行動に共感を持てるかグループワークを通して自分の価値観を知る			事前にグループワークのテーマを伝え、文章を読み理解しておく(30)		
第12回 今までのグループワークを通して自分と他人の価値観の相違を分析する			自分の価値観を分析したことを文章としてまとめる(60)		
第13回 ポジティブな自分とネガティブな自分の特性とマイナスをプラスに変えるために必要なことを分析する			自己分析をまとめてみる(30)		
第14回 知識と知恵を理解する			知識と知恵の違いを考えておく(30)		
第15回 振り返り 自己分析シートを記載して提出			今までの振り返りをしておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:一般教養以外の生きるために必要な教養とは何かを考えて授業に臨むこと					
課題に対するフィードバック:グループワーク等での提出した課題は、その内容を次回の振り返りに活用する					
評価方法・基準:授業での課題提出物と演習授業への積極的な取り組みを評価の80%とし、残りを授業態度や欠席状況等で評価する					
教科書:テキストなし					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:教養ゼミⅡ(キャリア教育)					
担当者名:浅井 啓介					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	講義・演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200092
<p>授業概要:授業では大学でのキャリア教育の3本柱である①自分の特性を理解する「自己理解」、②日本と世界の動き、生活環境の変化を学ぶ「社会理解」、③将来の職業と資格について考える「職業理解」の3つの分野を通して、これからの大学生活や社会で求められるコミュニケーション力や主体性など「社会人基礎力」の重要性について示し、それらを身に付けるための有用なスキルや手法、能力を高める方法を解説します。グループ演習を適宜実施し、その過程で自己と他者との関係や社会背景についての理解を深め、事例研究を通して人間関係の構築とキャリア・デザインの基礎的な考え方を学びます。</p>					
<p>到達目標:学生の皆さんが、「キャリア」の意味と「キャリア教育」の意義を理解し、自分の言葉で述べることができ、これから活用できることを目指します。具体的には、将来の就職活動や社会生活の中で求められる一般常識やコミュニケーション能力、自己表現力など、人間関係構築スキルの知識と基礎を学び、自らのキャリア・デザインを意識し行動していくことを到達目標とします。授業の成果は、自らの「反応力」「発信力」「傾聴力」等を高め、一歩前に踏み出す力を身に付け、大学生活の中で社会性を意識して行動につなげていくことにあります。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション『キャリアとは何か?』・キャリアの意味とキャリア教育の意義			サブノート記入「キャリアの付く言葉とその意味」(20分)		
第2回『自分のキャリアを考える』・キャリアデザインとライフキャリアの行程			サブノート記入「今までとこれから」(30分)		
第3回『大学生活とキャリアの関係性』・グループ演習「うん・そう屋」			サブノート記入「大学期でやりたいこと」(30分)		
第4回『学生期のキャリア』・能力開発/大学生活で身に付けておきたいチカラ			サブノート記入「自分の基礎的能力を確認する」(20分)		
第5回『キャリアの指向性』・内的キャリアと外的キャリア			サブノート記入「キャリア・アンカー」(30分)		
第6回『自分に適したキャリアの模索』・キャリア理論に基づく自己理解			ワークシート記入「計画された偶発性」(30分)		
第7回『自分を取り巻く他人の力』・グループ演習「自己理解」			ワークシート記入「自分の3つの側面」(20分)		
第8回『目標を持つ意識』・「キャリア・ビジョン」と「キャリアドリフト」			サブノート記入「大学期のキャリア・ビジョン」(30分)		
第9回『社会と仕事の関係』・グループ演習「働く意義を考える」			サブノート記入「常識力とは」(30分)		
第10回『職業に興味を持つ』・グループ演習「学食から職業を考える」			ワークシート記入「学生と社会人の違い」(20分)		
第11回『世間情勢の変化とキャリア形成』・個人要因と環境要因			サブノート記入「雇用され得る能力」(20分)		
第12回『キャリアと経済性の関係』・グループ演習「ライフイベントと人生の三大資金」			ワークシート記入「未来想像図」(30分)		
第13回『社会人基礎力とは』・3つの能力と12の能力要素			ワークシート記入「社会人基礎力自己点検シート」(20分)		
第14回『社会人基礎力 ケーススタディ』・グループ討論&プレゼンテーション「Kinjo 株式会社」			キャリアデザインマップの作成「30歳の私」(30分)		
第15回 総括『ライフキャリアを考える』・可能性への挑戦 プレゼンテーション:「夢」			ワークシート記入「夢の具現化ーライフキャリアの行程」作成(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:随時指示する課題を事前に「サブノート」に記入して授業に臨んでください。					
課題に対するフィードバック:提出が必要な課題は点検・添削した後、次回以降の授業で返却し、ステップアップに向けた講評をします。試験の答案用紙と評価基準に基づいた成績評価票を試験後に併せて返却し、履修の成果を振り返り、確認できるようにします。					
<p>評価方法・基準:知識能力面の達成領域と一般常識を含む対人関係能力の向上領域を合わせて評価の基準とします。 理解度確認試験100点(60%)、課題提出・サブノート記入度30点(20%)、演習参画度(グループワーク、プレゼンテーションを含む)30点(20%)の160点満点(100%)の達成率で評価します。詳細は第1回授業にて説明します。</p>					
<p>教科書:教科書:教科書の指定なし。担当講師が作成し配付するサブノート(授業必携)を使用する他、随時ワークシートを使用します。 参考書:参考書の指定なし。必要に応じて、ニュース素材や統計資料等を参考資料として随時配布、使用します。</p>					
備考:学生の皆さんと双方向で意思疎通を図りながら進めて行く授業です。受講に際しては傾聴するだけでなく、問いかけに対して反応し、主体的に自らの想いや意見を発信されることを期待します。					
<p>実務経験の内容・期間:国家資格2級キャリアコンサルティング技能士/15年(キャリアカウンセリング歴/20年) 職業能力開発短期大学校(職業社会論・キャリア形成概論/18年) 大学等のキャリア開発講座・就職活動基礎講座/14年 特別支援学校就労サポート業務/8年</p>					

科目名称:教養ゼミⅡ(現代の社会課題)					
担当者名:竹村 裕樹					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200092
<p>授業概要:人間は社会の中で生かされている一方、社会を協働して創り上げていると言える。近年、人口減少・少子高齢化の進展、豪雨豪雪や地震等による災害の多発、地域のまちづくり、ITやAIの進化など人間を取り巻く社会環境は大きく変化している。</p> <p>この講義では、現代社会における重要なテーマ(少子高齢化、観光まちづくり、防災まちづくり)について、その現状と課題を理解するとともに現地学習(フィールドワーク)を踏まえて、グループ討議しながら、社会的課題の解決策について検討することを目的とする。</p>					
<p>到達目標:現代における様々な社会課題について幅広い視点から理解を深め、その現状と課題に対し自分達はどうか考え、行動すべきかを学ぶ機会としたい。特に、大学や地域社会で生活する際にもすぐに役立つテーマを選んでいるので、前向きに取り組んで自己の成長に繋げてほしい。</p> <p>1. 現代社会での諸課題の現状と問題点を把握するとともに、学生達の課題解決策を考える能力を育成する。</p> <p>2. 現地学習を踏まえたグループ討議により、社会的課題の解決策を取りまとめ、発表することにより、学生達のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション:本講義の目的と概要、全体の進め方、受講の留意点、社会課題の主な事例			現代における様々な社会課題について、どのようなテーマがあるか、関心を持って調べる。(30分)		
第2回 人口減少・少子高齢化の現状と課題①:都市と地方、高齢者と福祉、女性参画など			人口減少・少子高齢化について関心を持って調べる(30分)		
第3回 人口減少・少子高齢化の現状と課題②:移住定住、働き方改革、子育て環境、課外実習の説明			前回の授業を振り返りながら、左記の項目について調べる。(45分)		
第4回 課外実習「白山の歴史文化まちづくり」:白山市鶴来本町歴史地区や手取川ジオパーク拠点、獅子吼高原、白山比咩神社等のフィールドワーク(現地調査、半日)			白山市の魅力あるまちづくりや古民家・空き家の活用事例について関心を持って調べる(30分)		
第5回 課外実習「白山の歴史文化まちづくり」:白山市鶴来本町歴史地区や手取川ジオパーク拠点、獅子吼高原、白山比咩神社等のフィールドワーク(現地調査、半日)			白山市の魅力あるまちづくりや古民家・空き家の活用事例について関心を持って調べる(30分)		
第6回 課題テーマⅠ:「人口減少時代における移住定住のススメ、空地空き家の活用策」フィールドワークの整理、グループ討議、課題の整理、解決案の提案			フィールドワークの整理を行うとともに、グループ討議の準備をする(60分)		
第7回 課題テーマⅠ「人口減少時代における移住定住のススメ、空地空き家の活用策」:各グループによる解決案Ⅰの取りまとめ、プレゼン発表と意見交換			グループ討議での課題解決案の取りまとめについて準備する。(30分)		
第8回 北陸新幹線延伸と観光まちづくり①:観光の歴史と構造、ニューツーリズム、観光公害			北陸新幹線延伸と観光まちづくりについて関心を持って調べる(30分)		
第9回 北陸新幹線延伸と観光まちづくり②:北陸新幹線金沢開業・敦賀延伸の効果と影響、課外実習の説明			前回の授業を振り返りながら、左記の項目について調べる。(45分)		
第10回 課外実習「金沢の観光まちづくり」金沢市ひがし茶屋街、金箔工芸館、浅野川園遊会館等のフィールドワーク(現地調査、半日)			金沢の観光歴史地区や伝統産業・文化、観光公害事例などについて関心を持って調べる(30分)		
第11回 課外実習「金沢の観光まちづくり」金沢市ひがし茶屋街、金箔工芸館、浅野川園遊会館等のフィールドワーク(現地調査、半日)			金沢の観光歴史地区や伝統産業・文化、観光公害事例などについて関心を持って調べる(30分)		
第12回 課題テーマⅡ:「観光まちづくり～観光公害対策」フィールドワークの整理、グループ討議、課題の整理、解決案の提案			フィールドワークで学んだ事を整理するとともに、グループ討議について準備する。(30分)		
第13回 課題テーマⅡ:「観光まちづくり～観光公害対策」各グループによる解決案Ⅱの取りまとめ、プレゼン発表と意見交換			グループ討議での課題解決案の取りまとめについて準備する。(30分)		
第14回 災害に強いまちづくり①:災害(地震、水害、雪害、土砂災害)の現状、共助、地域コミュニティ			能登地震等の災害の事例や災害に強いまちづくりについて関心を持って調べる(30分)		
第15回 災害に強いまちづくり②:災害時の対応策(ハザードマップ、避難、防災グッズ)上記のグループ討議、解決案の提案、全体のまとめ			災害の現状や対応策について整理するとともに、グループ討議での課題解決案の取りまとめについて準備する。(30分)		
履修に必要な予備知識や技能:現代の社会課題について新聞、テレビ、インターネットなどの情報を得る等、日頃より関心を持つようにする。					
課題に対してのフィードバック:グループワークでの成果は、次回以降の振り返りに活用する。					
評価方法・基準:授業への受講姿勢(30%) 個人課外実習シート(20%) 課題Ⅰ・Ⅱの協働シート(20%) 期末課題レポート(30%)					
教科書:教科書特になし。適宜プリントを配付する。					
参考書川上光彦『地方都市の再生戦略』(竹村共同執筆)					
備考:・課外実習 2回(予定):①10月下旬(土)午前中 白山市鶴来地区 ②11月下旬(土)午前中 金沢市東山歴史観光地区					
・休講:課外実習の伴い4回休講					
・グループ作業があるので、休まないように。積極的に発言し、提案を取りまとめましょう。					
実務経験の内容・期間:県庁職員36年(都市計画、街づくり、総合土木等)					

科目名称:教養ゼミⅢ					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200093
<p>授業概要:この授業では、保育職・児童福祉職に求められる幅広い教養を修得することを目的として、次の3つの知識・能力を身につけるために必要な演習と解説を行います。</p> <p>(1)政治、経済、社会などに関する一般的な知識</p> <p>(2)数理問題、論理問題、言語問題などを処理できる能力</p> <p>(3)提示された課題に対して、具体的な解決案を提示できる問題解決力と文章表現力及びコミュニケーション能力</p>					
<p>到達目標:保育職・児童福祉職に求められる一般的な知識や論理的な問題を適切に処理できるようになること、及び、提示された課題に対して問題の所在や背景を踏まえ、具体的な解決案を分かりやすく提示できるようになることを目標とします。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス・学習計画の立て方・グループ分けなど			授業教材及び事前に配付する資料を見ながら、各自の学習計画を立てること(60)		
第2回 保育職・児童福祉職に求められる政治に関する一般的な知識			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第3回 保育職・児童福祉職に求められる経済に関する一般的な知識			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第4回 保育職・児童福祉職に求められる社会に関する一般的な知識			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第5回 保育職・児童福祉職に求められる時事問題に関する一般的な知識			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第6回 保育職・児童福祉職に求められる数理問題の解法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第7回 保育職・児童福祉職に求められる資料解釈の解法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第8回 保育職・児童福祉職に求められる論理問題の解法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第9回 保育職・児童福祉職に求められる言語問題の解法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第10回 保育職・児童福祉職に求められる文章理解の方法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第11回 保育職・児童福祉職に求められる問題把握の方法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第12回 保育職・児童福祉職に求められる課題解決の方法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第13回 保育職・児童福祉職に求められる日本語表現の方法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第14回 保育職・児童福祉職に求められるコミュニケーションの方法と技術			授業教材の該当部分を熟読し、提示された問題を繰り返し解くこと(90)		
第15回 まとめ・補足			これまでの授業で扱った部分を再読し、関連する問題を繰り返し解くこと(90)		
履修に必要な予備知識や技能:前提として、保育・幼児教育及び児童福祉に関する知識や技能が求められます					
課題に対してのフィードバック:個別に解説及び質問対応等を行います 文章表現を問う課題については、添削の上、返却・指導を行います					
評価方法・基準:提出物の添削結果(50%)及び質疑応答の内容(50%)で判断します					
教科書:第1回のガイダンスで紹介します					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:教養ゼミⅢ(海外文化)					
担当者名:ガート・ウエスタハウト					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200093
授業概要:World Culture! このセミナーは英語で行われ、学生に世界中の地理、文化、習慣を学ぶ機会を提供します。毎週、学生はグループディスカッションをして、プレゼンテーションを行います。英語を通して世界について学ぶ良い機会です。					
到達目標:学生は、低年齢の子どもたちと英語を楽しむためのスキルを習得し、教材一式を作成する。創意工夫と独自の考えが奨励される。 6. グループ内・グループ間でのコミュニケーションを取りながら、問題解決のプロセスを円滑に行うことができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 Introduction			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第2回 Africa (north)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第3回 Africa (south)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第4回 Asia (west)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第5回 Asia (east)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第6回 Europe (west)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第7回 Europe (east)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第8回 Mid-term summary			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第9回 Oceania (Australia and New Zealand)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第10回 Oceania (smaller island countries)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第11回 North America (Canada, USA, Mexico)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第12回 Central America			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第13回 South America (large countries)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第14回 South America (small countries)			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
第15回 End of term summary			ノートと教科書を見て自分の理解を確認・発表の準備(45分)		
履修に必要な予備知識や技能:なし					
課題に対するフィードバック:授業内で課題を提出し、採点后に返却して間違えたところを修正後、再提出する。					
評価方法・基準:レポート 40%(2 x 20%), 宿題 30%, 受講態度(授業への参加度)20%, クラスノート 10%					
教科書:英語で比べる「世界の常識」 足立 恵子					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:教養ゼミⅢ(課題解決学修)					
担当者名:川辺弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
主題	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		22200093
授業概要:与えられた課題を解決するには、事実の把握、本質的な問題点の発見、導かれた仮説の検証、事実だけに基じた最適な解決策の立案、計画的に実行できる能力が必要である。本授業では、問題解決能力に必要な手法・スキルを、講義と討論、ケーススタディの演習を通して実践的に学ぶ。					
到達目標:1. 問題解決の基本プロセスを理解する。 2. 問題解決に必要な情報収集能力を身につける。 3. 論理的に思考を進めるための手法・ツールの使い方を身につける。 4. 得られたデータ、導かれた仮説の検証ができる。 5. 問題解決策の立案・実行計画が建てられる。 6. グループ内・グループ間でのコミュニケーションを取りながら、問題解決のプロセスを円滑に行うことができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 序論(問題解決とは)			情報処理、データサイエンス、統計学などの授業で学んだ内容を思い出しておく。(30)		
第2回 問題解決演習			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第3回 情報の収集と整理統合			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第4回 演習(情報の収集と整理統合)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第5回 情報分析			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第6回 演習(情報分析)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第7回 論理的に思考を進めるための手法・ツール			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第8回 演習(論理的に思考を進めるための手法・ツール)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第9回 得られたデータ、導かれた仮説の検証			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第10回 演習(得られたデータ、導かれた仮説の検証)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第11回 問題解決策の立案			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第12回 演習(問題解決策の立案)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第13回 プレゼンテーションと交渉			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
第14回 演習(プレゼンテーションと交渉)			前回の授業の内容について疑問点がないか確認しておく。(30)		
第15回 総合事例演習			前回の演習について、別の処方を検討してみる。(30)		
履修に必要な予備知識や技能:情報処理、データサイエンス、統計学などの授業を履修していることが望ましい。					
課題に対するフィードバック:演習レポートは内容の確認・添削の後、返却します。					
評価方法・基準:期末レポート60% 受講態度(授業への参加度)40%					
教科書:使用テキスト:なし					
参考書:問題解決の発想と表現(東千秋・柴山盛生他 著 放送大学教育振興会)、実戦!問題解決法(大前研一・斎藤顕一 著 小学館)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:社会福祉概論 I					
担当者名:内 慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23112001
<p>授業概要:指定教科書を用いながら、下記について学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉の原理を学ぶ。</li> <li>2 社会福祉の歴史を学ぶ</li> <li>3 現代の社会問題について学ぶ。</li> <li>4 社会福祉の思想と哲学について学ぶ。</li> <li>5 社会福祉の理論について学ぶ。</li> <li>6 社会福祉政策について学ぶ。</li> </ol>					
<p>到達目標:1 現代の社会問題について社会福祉の視点から理解することができる。</p> <p>2 社会福祉の担い手と施設・事業の実態、その援助や支援の方法について説明することができる。</p> <p>3 福祉政策の概念・理念、その動向と課題について理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 福祉政策の原理			事前に現代における社会福祉の対象(高齢者・障がいのある人・子ども等)や福祉専門職について調べる。(60)		
第2回 社会福祉の歴史1 日本			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第3回 社会福祉の歴史2 海外			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第4回 現代の社会問題1 社会問題への視点			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第5回 現代の社会問題2 グローバル時代の社会問題			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第6回 現代の社会問題3 日本			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第7回 社会福祉の思想			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第8回 社会福祉の哲学			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第9回 社会福祉の理論1 社会福祉の原理論			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第10回 社会福祉の理論2 福祉国家			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第11回 社会福祉の理論3 福祉政策			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第12回 福祉政策の機能1 機能と実施過程			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第13回 福祉政策の機能2 政策の決定			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第14回 福祉政策の機能3 政策の実施方法			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第15回 まとめ			全授業の総復習(90)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会の抱える問題について幅広く関心をもって、ニュースや新聞紙上において情報を収集しておくこと					
課題に対するのフィードバック:小テストを実施した場合は返却する。アクティブラーニングを適宜取り入れ、次回授業でフィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 80% 小テスト 10%、受講態度 10%					
教科書:教科書:『社会福祉の原理と政策』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:社会福祉概論Ⅱ					
担当者名:内慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23110002
<p>授業概要:指定教科書を用いながら、下記について学修する。</p> <p>1 福祉政策の財政について学ぶ。</p> <p>2 福祉政策の供給と利用について学ぶ。</p> <p>3 関連政策(保育 医療 教育など)の動向について学ぶ。</p> <p>4 社会福祉の国際比較について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:1 福祉政策の概要(財政 供給と利用)について理解することができる。</p> <p>2 関連する政策について理解することができる。</p> <p>3 社会福祉の国際比較の概要を理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 福祉政策の財政1 財政の役割			社会福祉概論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと(90)		
第2回 福祉政策の財政2 福祉国家の財政			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第3回 福祉政策の財政3 日本の福祉財政の課題			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第4回 福祉政策の供給と利用1 公的部門			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第5回 福祉政策の供給と利用2 民間部門			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第6回 福祉政策の供給と利用3 部門間の調整・連携・協働			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第7回 福祉政策の供給と利用4 福祉人材			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第8回 福祉政策の供給と利用5 利用者支援			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第9回 関連政策の動向1 保健医療政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第10回 関連政策の動向2 教育政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第11回 関連政策の動向3 住宅政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第12回 関連政策の動向4 労働政策とソーシャルワーク			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第13回 社会福祉の国際比較1 比較福祉国家研究			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第14回 社会福祉の国際比較2 比較福祉国家研究の中の日本			教科書(次回分)の予習(範囲は授業時に伝達する) 先週の分の復習(60)		
第15回 社会福祉の国際比較3 新しい福祉国家に向けて まとめ			全授業の総復習(90)		
履修に必要な予備知識や技能:社会福祉概論Ⅰおよびソーシャルワーク論Ⅰで学んだ内容をしっかりと復習して理解しておくこと					
課題に対するフィードバック:小テストは次回の授業時に補足説明および解説する。アクティブラーニングを適宜実施して、翌週にフィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 80% 小テスト 10% 受講態度 10%					
教科書:教科書:『社会福祉の原理と政策』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:高齢者福祉論					
担当者名:野村智宏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23110011
<p>授業概要:現代社会における高齢者の現状と介護保険制度を中心に学習します。  今後益々高齢者は増え、社会は大きく変化していきます。超高齢社会とどう向き合うかがこれからの日本にとってとても大切です。医療福祉従事者として活躍する学生は当然ですが、誰もが関係していることを認識しなくてはなりません。祖父母・親・親戚を考えると、とても身近な問題を学習します。</p>					
<p>到達目標:1. 今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について理解できる。  2. 介護保険制度成立の意義及び、制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について理解できる。  3. 高齢者に関わる他の法制度について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 評価に関して			高齢者に関するニュースには、どのようなものがあるか新聞やニュースをまとめる(60)		
第2回 高齢者福祉を学ぶ理由			授業では、多面的に高齢者像を伝えます。今までにない視点から高齢者福祉を考えまとめる(60)		
第3回 高齢者をとりまく状況と高齢者問題			高齢者問題とは果たしてどんなことが問題視されているのか調べてまとめる(60)		
第4回 少子高齢化について			少子高齢化によって変化してきたことや今後起こる問題についてまとめてみる(60)		
第5回 核家族化における高齢者の現状の実際			核家族化によってどのような問題が生じているかまとめてみる(60)		
第6回 少子高齢化問題の問題の分析			少子化、高齢化を分けて考えることで、どのようなことが気付けたかまとめてみる(60)		
第7回 東日本大震災を通しての高齢者福祉のあり方			東日本大震災を通しての介護職の働きを学び、学んだことをまとめる(60)		
第8回 高齢者福祉におけるの自己覚知と他者理解の視点の必要性			配布されたテスト対策復習プリントの前半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第9回 高齢者の現状とニーズについて			配布されたテスト対策復習プリント中盤部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第10回 高齢者の現状とニーズについて 介護保険の概要と発足した理由			介護保険について、教科書に記載されている介護保険の概要をまとめる(60)		
第11回 介護保険制度における専門職の役割			介護保険について、教科書に記載されている専門職の役割をまとめる(60)		
第12回 介護保険サービスについて			介護保険サービスについて、どのようなサービスがあるのか教科書を読みまとめる(60)		
第13回 これからの高齢者福祉における課題と展望			配布されたテスト対策復習プリント後半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第14回 高齢者福祉のあり方と高齢者福祉における真のニーズについて			介護の質向上と人材確保に関して、どのようなことが必要か考えまとめる(60)		
第15回 まとめと今までの復習			テスト対策の配布プリントを完成させておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:高齢者をとりまく現在の問題状況(特に介護保険制度の動向)について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業の出席票はコメントが記載できますので、学んだことや講義を聞いて考えたことを記載ください。その内容を基に次の講義でフィードバックし、前回の授業の復習と学生の授業理解を確認します。					
評価方法・基準:学期末試験の成績を100%とする。ただし、出席率や授業態度は減点の対象とする。					
教科書:新 エssenシャル高齢者福祉論					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:障害者福祉論					
担当者名:野村智宏、岡森正吾					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23113012
<p>授業概要:現代社会における障害者の現状と障害者福祉制度について学習します。</p> <p>授業を通して、障害とは何かを再確認し、障害者の可能性について考えます。</p> <p>社会で活躍する障害者のスライドを視聴すると、障害者の活躍の場がこれから益々広げられることが分ります。</p>					
<p>到達目標:1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む。)について理解できる。</p> <p>2. 障害者福祉制度の発展過程について理解できる。</p> <p>3. 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション 評価に関して			障害者に関するニュースには、どのようなものがあるか新聞やニュースをまとめる(60)		
第2回 障害とは何か			授業では、多面的に障害者像を伝えます。今までにない視点から障害者福祉を考えまとめる(60)		
第3回 社会における障害者の現状と実態			障害者の現状と実態の講義を受けて、現状としてどのような問題があるのか整理しまとめる(60)		
第4回 障害者雇用について			障害者の雇用の改善がとても大切であることを講義で聞いたことを整理しまとめる(60)		
第5回 障害者の雇用を踏まえた障害者の現状			障害者を雇用する上での課題と展望について整理しまとめる(60)		
第6回 軽度の障害者の現状と可能性			軽度の知的障害者が抱える問題と可能性を整理しまとめる(60)		
第7回 障害者の歴史 戦前			戦前の障害者の歴史について教科書を読んでまとめておく(60)		
第8回 障害者の歴史 戦後			戦後の障害者の歴史について教科書を読んでまとめておく(60)		
第9回 障害者スポーツを通しての障害者の可能性			活躍するパラリンピック選手の映像を観て、学んだことをまとめる(60)		
第10回 相談支援事業所の役割と実際			相談支援事業所の役割について調べてまとめる(60)		
第11回 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律			配布されたテスト対策復習プリント前半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第12回 障害者自立支援制度の概要			配布されたテスト対策復習プリント中盤部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第13回 障害者自立支援制度の詳細			配布されたテスト対策復習プリント後半部分を教科書、講義ノートを見てまとめる(60)		
第14回 障害者差別解消法と合理的配慮について			障害者差別解消法における合理的配慮の内容を教科書を読み整理しまとめる(60)		
第15回 今までの復習と後期試験に関して			テスト対策の配布プリントを完成させておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:障害者を取りまく現在の問題状況(自立支援制度や人権に関して)について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業でリアクションペーパーとして出席票を活用します。学んだことや気づきを記載し、次回の授業で前回の復習や学生の考えを共有します。					
評価方法・基準:学期末試験の成績を100%とする。ただし、出席率や授業態度は減点の対象とする。					
教科書:障害者福祉論 障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法					
備考:					
実務経験の内容・期間:障害者ナショナルチーム強化担当 ロンドンパラリンピックまで(卓球競技8年)					

科目名称:児童・家庭福祉論					
担当者名:三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23112013
<p>授業概要:子どもを取り巻く問題は多岐にわたり、深刻化している。こうした現状において、福祉専門職には子どもと家庭を適切にアセスメントするだけでなく、他職種へのコンサルテーションや連携のまとめ役としてのマネージメントを遂行することが求められる。この授業では子どもと家庭を支えるために必要な社会資源やその根拠となる法制度等について理解を深める。</p>					
<p>到達目標:1. 子ども家庭問題を考えていく上での専門的な知識を理解することができる。  2. 近年の子どもや家庭が抱える問題(子育て不安、ひとり親家庭、児童虐待及びDV等)について理解することができる。  3. 近年の子どもや家庭が抱える問題について必要な支援や社会的資源について関連法と関係づけて説明できる。  4. 子どもと家庭を支援する専門職についてその役割と専門性について説明できる。  5. 児童相談所の業務、権限、相談内容について説明できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念について、教科書の該当箇所を熟読する P2~22を予習(60)		
第2回	子ども家庭福祉と子どもの権利擁護の発展過程		前回講義の復習と子ども家庭福祉と子どもの権利擁護の歴史について、教科書の該当箇所を熟読する P24~36を予習(60)		
第3回	子ども家庭を取り巻く現代社会		前回講義の復習と子どもを取り巻く現代社会について、教科書の該当箇所を熟読する P38~46を予習(60)		
第4回	子育てを巡る動向と課題		前回講義の復習と子育てを巡る動向と課題について、教科書の該当箇所を熟読する P81~98を予習(60)		
第5回	子ども家庭福祉の法体系		前回講義の復習と子ども家庭福祉の法体系について、教科書の該当箇所を熟読する P48~56を予習(60)		
第6回	子ども家庭福祉の実施体制と専門職		前回講義の復習と子ども家庭福祉の実施体制と専門職について、教科書の該当箇所を熟読する P57~80を予習(60)		
第7回	多様化する保育、ひとり親家庭への支援		前回講義の復習と多様化する保育、ひとり親家庭への支援について、教科書の該当箇所を熟読する P107~115、P138~146を予習(60)		
第8回	要保護児童、児童虐待への対応		前回講義の復習と要保護児童、児童虐待への対応について、教科書の該当箇所を熟読する P116~129を予習(60)		
第9回	虐待を受けた子どもへの支援		前回講義の復習と虐待を受けた子どもへの支援について、教科書の該当箇所を熟読する P194~213、P222~229を予習(60)		
第10回	DVと女性への支援		前回講義の復習とDVと女性への支援について、教科書の該当箇所を熟読する P147~153、P238~241を予習(60)		
第11回	非行児童とその家族への支援		前回講義の復習と非行児童とその家族への支援について、教科書の該当箇所を熟読する P161~167を予習(60)		
第12回	社会的養護		前回講義の復習と社会的養護について、教科書の該当箇所を熟読する P130~137、P230~233を予習(60)		
第13回	障害のある子どもと家族への支援		前回講義の復習と障害のある子どもと家族への支援について、教科書の該当箇所を熟読する P176~186、P250~253を予習(60)		
第14回	母子保健と若者支援		前回講義の復習と母子保健と若者支援について、教科書の該当箇所を熟読する P99~106、P168~175、P214~217、P246~249を予習(60)		
第15回	子ども家庭福祉実践の課題と展望		これまでの学習内容を振り返る(60)		
履修に必要な予備知識や技能:子どもを取り巻く諸問題について、日頃から関心を持つことが望ましい。児童虐待に関する論文や書籍等を読んでおくことが望ましい。					
課題に対してのフィードバック:小テスト及び課題レポート実施の翌週に振り返りを行う。					
評価方法・基準:小テスト40%、課題レポート提出30% 授業への参加度30%					
教科書:教科書:最新 社会福祉士養成講座3『児童・家庭福祉』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規 2021 教科書の該当ページを開きながら、解説する。					
参考書:保育者養成のための『子ども家庭福祉』 川並治治・和田一郎・鈴木勲 大学図書出版					
備考:小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る					
実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士21年 公認心理師5年					

科目名称:介護福祉論 I					
担当者名:磯貝 サエ子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23100021
<p>授業概要:介護福祉論は介護に必要な知識・技術・価値・倫理の基礎であるため、学ぶ範囲は幅広い。そこで、介護福祉論 I では、人間の生活、家庭生活における家族の役割、高齢者、障害者の生活の理解、障害者の生活の困難性や障害者の権利を考える。次に介護福祉の歴史と発展、社会的役割を理解する。その上で介護の対象者や看護など関連領域との連携を学び、介護の具体的な業務内容を理解する。また、諸外国における介護福祉の現状と課題について考える機会とする。介護福祉に必要な対人援助の技法を消化し実践的な学びにつなげる。</p>					
<p>到達目標:1. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。  2. 介護における介護福祉士の役割と支援の視点が理解できる。  3. 利用者本位のサービスを提供するため他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。  4. 自立に向け高齢者の介護が理解できる。  5. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を理解する。  6. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 介護福祉士を取り巻く状況:介護の歴史、介護問題の背景			介護の概念や対象について下調べをする(60分)		
第2回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み①:介護需要、社会福祉士・介護福祉士法			社会福祉士および介護福祉士法について下調べをする(60分)		
第3回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み②:介護保険法、その他の法制度			介護保険法について下調べをする(60分)		
第4回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み③:専門職団体の役割と活動、専門職団体の日本介護福祉士会			専門職団体について下調べをする(60分)		
第5回 介護従事者への倫理:職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護①			介護福祉士の専門性について下調べする(60分)		
第6回 介護従事者への倫理:職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護②			介護従事者の目指すべき姿勢についてまとめる(60分)		
第7回 介護を必要とする人の理解①:人間の多様性・複雑性の理解			自身の生活活動についてまとめる(60分)		
第8回 介護を必要とする人の理解②:人間の生活の場、高齢者の生活と暮らし			日本の暮らしの歴史について調べてくる(60分)		
第9回 介護を必要とする人の理解③:障害のある人の暮らし、介護を必要とする人の生活環境の理解			障がいのある方の暮らしにおける介護の必要性についてまとめる(60分)		
第10回 自立に向けた介護①:自立の考え方、自立支援の理解			自立と自律の違いについて下調べをする(30分)		
第11回 自立に向けた介護②:個別ケア、ICF と自立支援			前回の授業をもとに自立と自律についてまとめる(60分)		
第12回 自立に向けた介護③:リハビリテーション			リハビリテーションの意味について下調べをする(30分)		
第13回 尊厳を支える介護①:人の尊厳とは、QOL の考え方			尊厳について下調べをする(30分)		
第14回 尊厳を支える介護②:ノーマライゼーションの実現、利用者主体の介護			前回の授業をもとに尊厳に関して自身の考えをレポートにまとめる(60分)		
第15回 まとめ			介護サービスのあり方について自身の考えをレポートにまとめる(60分)		
履修に必要な予備知識や技能:福祉施設見学、ボランティアを体験すること					
課題に対してのフィードバック:必要時コメント記入し、口頭説明を加え返却します。					
評価方法・基準:定期試験 80%、受講態度(参加度)10%、小テスト 10%					
教科書:教科書:最新・介護福祉士養成講座「3 介護の基本 I」中央法規出版、教科書の該当ページを開きながら解説する。					
参考書:授業時に適宜紹介する					
備考:授業内では、グループワーク、発表、ディスカッション等、アクティブラーニングを実施します。					
実務経験の内容・期間:介護福祉士(9年)					

科目名称:社会福祉史					
担当者名:					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	4年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		23200061
授業概要:日本の社会福祉史について、人々の生活・制度・政策・実践・思想の変容を中心に、総合的に解説します。また、歴史的な観点から現在の社会福祉を取り巻く諸問題を理解し、社会福祉の意味について考察します。					
到達目標:①日本における社会福祉の歴史について時代背景や要因を踏まえて説明することができる。②主要な制度・施設・人物などについて基礎知識を身につけることができる。③歴史的な視点から社会福祉の諸課題について理解し考察することができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第1回は日本における社会福祉史の概要と成績評価について説明を行います。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第2回 第2回は海外の社会福祉史と日本に与えた影響について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第3回 第3回は古代社会と救済制度・慈善について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第4回 第4回は中世封建社会と慈善・救済について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第5回 第5回は近世封建社会と救済政策・慈善について講義します。			事前に配布資料を一読し、近代以前の社会の相互扶助の関係性や社会の仕組みについて確認してください。事後は配布資料を再読してください。(60)		
第6回 第6回は幕末から明治維新にかけての公的救済・慈善について講義します。			事前に配布資料を一読し、救済や慈善の理念とそれに基づく実践の関連性や論理を考えてきてください。事後に配布資料を再読してください。(60)		
第7回 第7回は近代国家形成期の公的救済、慈善事業、社会改良思想について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第8回 第8回は産業革命期の公的救済・慈善事業について講義します。			事前に配布資料を一読し、慈善事業に携わる人物について関心や理解を深めてください。事後は配布資料を再読してください。(60)		
第9回 第9回は日露戦後期の感化救済事業について講義します。			事前に配布資料を一読し、社会福祉行政の機能について確認してください。事後に配布資料を再読してください。(60)		
第10回 第10回は第一次世界大戦後の社会と社会事業について講義します。			事前に配布資料を一読し、日本の社会事業の特質について確認してください。事後に配布資料を再読してください。(60)		
第11回 第11回は昭和恐慌、準戦時体制への移行と社会事業について講義します。			事前に配布資料を一読し、救護に関わる5つの法制度について対象を確認してください。事後に配布資料を再読してください。(60)		
第12回 第12回は日中戦争・太平洋戦争と戦時厚生事業について講義します。			事前に配布資料を一読し、戦時下に成立する法制度について確認してください。事後に配布資料を再読してください。(60)		
第13回 第13回は戦後改革と社会福祉について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第14回 第14回は高度成長期の社会福祉について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
第15回 第15回はグローバル時代の社会福祉について講義します。			事前に配布資料を一読してください。事後、再読してください。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:社会福祉概論Ⅰおよびソーシャルワーク論Ⅰで学んだ内容をしっかり理解しておいてください。そのうえで日本における現在の社会福祉の法制度や実践について関心をもっておいてください。					
課題に対するフィードバック:小テストの内容や解答方法については、提出後の次の授業時に補足説明および解説します。なお質疑のある場合は、随時研究室で受け付けます。					
評価方法・基準:小テスト、受講態度、試験の結果等を総合的に評価します。 小テスト15%、受講態度15%、定期試験70%					
教科書:使用テキストなし 参考書:授業時に適宜、紹介します。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:介護福祉論Ⅱ					
担当者名:磯貝 サエ子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23200022
授業概要:介護保険制度や介護サービスの理解とサービス提供にともなう他職種連携を考え、その根底には「尊厳の保持」「自立・自律支援」の考えがあって成り立つことを学んでいきます。学習する内容は幅広く安全面・リスクマネジメント・介護過程・介護サービス・認知症ケア・終末期・住環境などがあり、知識を活用できる学びとします。					
到達目標:1. 介護を必要とする人の存在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる 2. 介護における介護福祉士の役割と支援の視点が理解できる 3. 利用者本位のサービスを提供するため他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる 4. 自立に向けた高齢者の介護が理解できる 5. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を理解する 6. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 介護サービス(介護保険と介護サービスの概要)			介護保険制度について厚生労働省のホームページから調査してくる(45分)		
第2回 介護サービス(介護サービス提供の場の特性)			介護保険制度について厚生労働省のホームページから調査してくる(45分)		
第3回 介護実践における他職種との連携とチームアプローチ			チームアプローチの意味について調べてくる(45分)		
第4回 介護実践における地域との連携			自分の住んでいる地域の高齢者人口や介護サービスの実態について調べてくる(60分)		
第5回 介護における安全の確保とリスクマネジメント(介護における安全の確保)			自身の実家における家屋状況や環境について調べてくる(60分)		
第6回 介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全の確保)			自身の実家における家屋状況や環境について調べてくる(60分)		
第7回 介護における安全の確保とリスクマネジメント(事故予防)			自身の実家で高齢者が事故の起こりやすい場所について調べてくる(45分)		
第8回 介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全対策・感染対策)			自身の日常の感染対策について、インフルエンザ、胃腸炎の対処法をまとめてくる(45分)		
第9回 介護過程の考え方と介護展開			身近に介護を受けている人の状況についてインタビューしてくる(90分)		
第10回 認知症ケアと相談援助			認知症について新聞や本を読み症状や病態、対応についてまとめてくる(45分)		
第11回 介護の場における終末期ケアと相談援助			終末期について辞書で意味を調べてくる(45分)		
第12回 介護を必要とする場と住環境整備			自身の実家の家屋状況を想起し住環境の整備の必要性について考えまとめる(45分)		
第13回 住環境整備と福祉用具			福祉用具の効果について福祉用具販売店に行き調べてくる(90分)		
第14回 介護従事者の心身の健康管理と安全			介護者に健康管理が必要な理由を調べてくる(45分)		
第15回 全体のまとめ			介護サービスのあり方についてレポートにまとめる(120分)		
履修に必要な予備知識や技能:居住地の介護保険パンフレットを読み、理解しておく。居住地周辺にある福祉施設について調べる。施設見学やボランティア活動を行う。自宅の住環境を理解しておく。					
課題に対するフィードバック:授業中に提出したワークシート、課題については点検・添削後、次回以降の授業で返却します。その際に講評します。					
評価方法・基準:定期試験70% 受講態度(授業への参加度)30% 等					
教科書:教科書:最新 介護福祉士養成講座「4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版、教科書の該当ページを開きながら解説する。 参考書:必要に応じて紹介する					
備考:					
実務経験の内容・期間:介護福祉士(9年)					

科目名称:心理学 I					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23211051
授業概要:心理学の基礎について学ぶ。DVD視聴や簡単な体験学習も交えながら、知覚、学習、記憶、および欲求と動機づけといった領域の基礎知識を習得する。					
到達目標:1. 心理学の基礎分野で使われている用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 授業で学んだ内容と身近な体験をつなげて理解し、心理学用語を用いて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要 心理学とは			教科書 第1章の予習(60)		
第2回 求める(1) 欲求と動機づけ			教科書 p.36-44を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第3回 求める(2) 葛藤と防衛機制			教科書 p.36-44の復習、防衛機制の具体例を考える(60)		
第4回 外界を捉える(1) 物理的世界と知覚			教科書 第2章3節の予習(60)		
第5回 外界を捉える(2) 視覚はおもしろい			教科書 第2章3節の復習(60)		
第6回 外界を捉える(3) 聴覚と注意			教科書 第2章3節の復習(60)		
第7回 外界を捉える(4) 触覚、パターン認識			教科書 第2章3節の復習、第4-7回の授業内容を復習する(60)		
第8回 学ぶ(1) 学習とは レスポンデント条件づけ			教科書 第2章4節の予習、レスポンデント条件づけの具体例を考える(60)		
第9回 学ぶ(2) オペラント条件づけ			教科書 第2章4節の復習、オペラント条件づけの具体例を考える(60)		
第10回 学ぶ(3) 試行錯誤学習、洞察学習、および観察学習			教科書 第2章4節の復習(60)		
第11回 学ぶ(4) 知覚運動学習、学習理論の応用			教科書 第2章4節、第8-11回の授業内容を復習する(60)		
第12回 覚える(1) 記憶とは 感覚記憶			教科書 p.67-71を丁寧に読み、要点を確認する(60)		
第13回 覚える(2) 短期記憶			教科書 p.67-71の復習(60)		
第14回 覚える(3) 長期記憶と忘却 体験してみよう:系列位置効果			記憶の種類を復習し、それぞれの記憶の具体例を考える(60)		
第15回 覚える(4) 記憶と脳			教科書 p.67-71、第12-15回の授業内容を復習する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:自分や他者の身体、思考、感情、行動に対して、より意識的になり、興味と関心を持つこと。					
課題に対してのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2「心理学と心理的支援」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:3年次開講の「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講する際に、履修が必要な科目です。 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」の受講を考える学生は、本講義を必ず履修してください。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:心理学Ⅱ					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23211052
授業概要:「心理学Ⅰ」に引き続き、心理学の基礎について学ぶ。DVD視聴や簡単な体験学習も交えながら、情動、パーソナリティ、コミュニケーション、集団心理といった領域の基礎知識を習得する。					
到達目標:1. 心理学の基礎分野で使われている用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 授業で学んだ内容と身近な体験をつなげて理解し、心理学用語を用いて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 感じる(1) 情動とは			教科書 p.29-36 の予習(60)		
第2回 感じる(2) 情動生起のメカニズム			教科書 p.29-36 の復習、第1-2回の復習(60)		
第3回 パーソナリティ(1) 性格とは何か 類型論と特性論			教科書 p.79-85 の予習(60)		
第4回 パーソナリティ(2) 遺伝と環境			教科書 p.26-28 の予習(60)		
第5回 パーソナリティ(3) 知能			教科書 p.75-79 の予習(60)		
第6回 パーソナリティ(4) 創造性的思考			教科書 p.71-74 の予習、第3-6回の復習(60)		
第7回 コミュニケーション(1) 準拠枠の違い			準拠枠について下調べする(60)		
第8回 コミュニケーション(2) 言語的・非言語的コミュニケーション			教科書 p.110-114 の予習(60)		
第9回 コミュニケーション(3) アサーション、NVC			アサーションについて下調べする、第7-9回の復習(60)		
第10回 人とのかかわり(1) 社会脳と対人知覚			ハロー効果、ピグマリオン効果について下調べする(60)		
第11回 人とのかかわり(2) 態度と説得			バランス理論、認知的不協和理論について下調べする(60)		
第12回 人とのかかわり(3) 集団と群衆			集団のしくみとはたらきについて下調べする(60)		
第13回 人とのかかわり(4) 集団思考			集団のしくみとはたらきについて下調べする(60)		
第14回 人とのかかわり(5) 役割期待とリーダーシップ			PM理論について下調べする、第10-14回の復習(60)		
第15回 ポジティブ心理学からの知見			ポジティブ心理学について下調べする(60)		
履修に必要な予備知識や技能:自分や他者の身体、思考、感情、行動に対してより意識的になり、興味と関心を持つこと。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2「心理学と心理的支援」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規 (「心理学Ⅰ」で使用したものを継続して使用する) 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:3年次開講の「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講する際に、履修が必要な科目です。 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」の受講を考える学生は、本講義を必ず履修してください。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:社会学					
担当者名:高島 智世					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	1年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23211053
授業概要:この授業では、現代社会でクローズアップされている様々な事象や社会問題を題材にして、社会学の基本概念・複眼的に社会を見る「社会学的なものの方」を学びます。また、高校までは取り上げられなかった現実の「社会のしくみ」についても理解が深まります。社会福祉士国家試験科目「社会学と社会システム」、「社会福祉の原理と政策」の一部に該当します。					
到達目標:1現代社会の基本的な構造についてわかる。 2社会学の基本概念を修得する。 3複眼的に社会をみる「社会学的視点」を修得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション ～社会を見る「メガネ」を点検する(WEB 投票システム使用)			授業課題 1「世の中認識調査1」(60)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第2回 社会と個人 ～「それは世間が許しません」の「世間」とはなにか?			授業課題 2「世の中認識調査2」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第3回 社会的逸脱 ～犯罪と自殺とそれを見る「メガネ」			授業課題 3「社会調査に関する課題」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第4回 社会調査・社会統計の方 ～社会を測る方法			授業課題 4「学歴に関する聞き取り調査」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第5回 教育 ～大学生はなぜ「生徒」ではないのか?			授業課題 5「職業に関する思考実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第6回 職業 ～「非正規雇用」が増えたのはなぜか?			授業課題 6「動画を見ての課題」(60)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第7回 知識基盤社会 ～社会はどこに向かう?			授業課題 7「ライフコースに関する思考実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第8回 家族 ～結婚したくない人が増えている?			授業課題 8「少子化に関する考察」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第9回 ジェンダー ～日本は男女平等な社会か?			授業課題 9「地域に関する思考実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第10回 地域社会 ～新幹線開通は必ず豊かさをもたらすのか?			授業課題 10「エスニシティに関する思考実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第11回 エスニシティ ～「日本人」とはだれのことなのか?			授業課題 11「動画を見ての課題」(90)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第12回 特別プログラム			授業課題 12「資源配分に関する思考実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第13回 分配と再分配 ～日本社会を考える			授業課題 13「WEB を用いた政治的立場に関する実験」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第14回 政治と権力 ～「投票しない」ことは何をしていることになるのか?			授業課題 14「メディア視聴に関する考察」(30)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第15回 マスメディア ～フェイク情報にだまされないために			授業ブログでの発展学習(10-)		
履修に必要な予備知識や技能:社会問題に幅広く興味を持っていることが望ましい。短い時間ですがグループ学習を行います。					
課題に対してのフィードバック:毎回の成果レポート、質問については、授業ブログを用いてフィードバックを行います。 授業ブログ: <a href="http://kinjosocio.seesaa.net/">http://kinjosocio.seesaa.net/</a> (パスワードは授業で告知します)					
評価方法・基準:平常点(準備課題および授業終了時 10 分間の成果レポート)60%+学期末試験 40%+【特別加点】成果レポート・質問の掲載					
教科書:決まった教科書は使用しません。授業時には毎時プリントを配布します。参考文献は授業時に紹介します。また授業ブログにて、論文・参考記事・動画等を紹介합니다。					
備考:毎時ごとに次回の授業をうけるための準備課題を配布しますので、その課題を行ってからコピーをとって出席してください。また授業ブログをチェックし授業で学んだことに関して発展学習を行ってください。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: 社会保障論 I					
担当者名: 岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210031
授業概要: 社会保障の総論部分である、社会保障の理念や機能、体系について講義を行う。また、社会保障の歴史や、諸外国の社会保障制度についても解説を行う。					
到達目標: ①社会保障の概念や理念、制度を正確に理解し説明できるようになること、②社会保障に関する課題について理論的に考察できるようになることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 社会保障論入門			事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 現代社会における社会保障制度の課題① 人口動態の変化、少子高齢化			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回 現代社会における社会保障制度の課題② 労働環境の変化			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回 社会保障の概念・対象・理念① 社会保障の概念と範囲			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回 社会保障の概念・対象・理念② 社会保障の役割と意義			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回 社会保障の概念・対象・理念③ 社会保障の理念・対象			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回 社会保障の概念・対象・理念④ わが国の社会保障制度の体系、各制度の概要			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回 社会保障の概念・対象・理念⑤ 社会保障制度の歴史的発展と沿革			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第9回 社会保障の財源と費用① 社会保障の財源			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第10回 社会保障の財源と費用② 社会保障給付費			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第11回 社会保険と社会扶助の関係①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第12回 社会保険と社会扶助の関係②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第13回 諸外国における社会保障制度の概要①			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第14回 諸外国における社会保障制度の概要②			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第15回 まとめ・補足			これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能: 「社会福祉概論 I II」で使用した教科書等に記載の関連部分を再読しておくこと					
課題に対するフィードバック: 講評・解説を記載した資料を配付し、必要に応じて個別対応を行う。					
評価方法・基準: レポート(100%)					
教科書: 教科書: 事前配布の資料参照					
参考書: 事前配布の資料参照					
備考: シラバスに変更があるときは、事前に案内する。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称: 社会保障論Ⅱ					
担当者名: 岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210032
授業概要: 社会保障論の各論部分である、社会保険と、公的扶助や社会手当、その他の社会福祉制度について講義を行う。具体的には、年金・医療・労働・介護の社会保険制度、生活保護制度を中心とした公的扶助制度、児童・高齢者・障害福祉に関する社会福祉制度について学ぶことになる。					
到達目標: ①社会保険の各制度を正確に理解し説明できるようになること、②社会保険制度に関する課題について理論的に考察できるようになることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	ガイダンス	社会保障制度の体系	事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回	年金保険①	年金保険制度の概要、歴史、財源、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回	年金保険②	国民年金	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回	年金保険③	厚生年金、各種共済組合の年金	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回	医療保険①	医療保険制度の概要、歴史、財源、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回	医療保険②	国民健康保険、高齢者医療制度	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回	医療保険③	健康保険、各種共済組合の医療保険	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回	介護保険①	介護保険制度の概要、財源	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第9回	介護保険②	介護保険制度の問題点	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第10回	労働保険①	雇用保険制度の概要、財源、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第11回	労働保険②	労災保険制度の概要、財源、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第12回	公的扶助制度	生活保護法の概要、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第13回	社会福祉制度	児童・高齢者・障害者福祉制度の概要、課題	教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第14回	公的保険制度と民間保険制度		教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第15回	まとめ・補足		これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能: 「社会福祉概論ⅠⅡ」「社会保障論Ⅰ」で使用した教科書等に記載の関連部分を再読しておくこと。					
課題に対するのフィードバック: 資料配布または個別対応にて行う					
評価方法・基準: レポート(100%)					
教科書: 教科書: 事前配布の資料参照					
参考書: 事前配布の資料参照					
備考: シラバスに変更があるときは、事前に案内する。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称: 公的扶助論					
担当者名: 岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210014
授業概要: 公的扶助とは何か、その考え方や歴史、制度の仕組みについて講義を行う。具体的には、公的扶助の役割や機能、生活保護制度を中心とする各種制度の仕組みや動向などについて学ぶことになる。					
到達目標: ①貧困・低所得者問題について、その背景や対処方法、及びこの分野における福祉職の役割や他職種との連携に関する知識を修得すること、②公的扶助のあり方や制度の問題点などについて考察できるようになることを目標とする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス「公的扶助」とは何か、その役割・機能について			事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第2回 貧困・低所得者問題と社会的排除			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第3回 公的扶助制度の歴史と近年の動向			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第4回 社会保障制度における公的扶助			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第5回 生活保護制度①ー趣旨・基本原理			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第6回 生活保護制度②ー内容・方法・施設			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第7回 生活保護制度③ー権利義務・不服申立て			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第8回 最低生活保障水準と保護基準			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第9回 生活保護の運営実施体制、関連機関等			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第10回 生活保護の動向			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第11回 低所得者対策 生活福祉資金貸付制度、ホームレス対策など			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第12回 貧困・低所得者に対する相談援助活動①			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第13回 貧困・低所得者に対する相談援助活動②			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第14回 生活保護における自立支援 自立支援プログラムの概要、課題など			教科書の該当箇所を熟読しておくこと(90)		
第15回 まとめ・補足			これまでの授業で扱った教科書の該当箇所を再読しておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能: 「社会福祉概論ⅠⅡ」「社会保障論ⅠⅡ」で使用した教科書等に記載の関連部分を再読しておくこと					
課題に対するのフィードバック: 資料配布または個別対応にて行う					
評価方法・基準: レポート(100%)					
教科書: 教科書: 事前配布の資料参照 参考書: 事前配布の資料参照					
備考: シラバスに変更があるときは、事前に案内する					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:地域福祉論 I					
担当者名:西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210041
授業概要:身近な地域を例にして、地域を捉えるための視点や枠組みについて学ぶ。また、現代社会において地域が抱える課題を例にとり、自身が当事者(地域住民)として行動していくために必要な課題の考察と知識の習得を図る。授業内で実施するグループワークにも積極的に参加する事が求められる。					
到達目標:地域を捉える上で必要な概念や知識を習得している。また、地域が抱える課題について理解し、課題解決のための対応策について自分なりの考えを持ち、それを第三者に説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 地域福祉とは何か / 地域福祉実践 6つの要素			履修にあたっての自己目標を設定(30)		
第2回 地域福祉を支える価値・理念			前回講義内容の復習(60)、ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションについて「ソーシャルワーク論 I」「障害者福祉論」で学んだ内容を復習(30)		
第3回 人間性の尊重と地域生活～「愛する人がいればこそ～知的障害者の恋愛・結婚・子育て」			前回講義内容の復習(60)、コミュニティについて「社会学」で学んだ内容を復習(30)		
第4回 「地域」をどう捉えるか ①コミュニティ論・圏域			前回講義内容の復習(60)、自分の地域を象徴する写真の撮影(30)		
第5回 「地域」をどう捉えるか②奥田道大の地域モデル			前回講義内容の復習(60)		
第6回 地域の主役は誰? / つながりとは～ソーシャルサポートネットワーク			前回講義内容の復習(60)、ソーシャルサポートネットワークについて「ソーシャルワーク論 II」で学んだ内容を復習(30)		
第7回 町内会・自治会の存在意義			前回講義内容の復習(60)、自分の地域の町内会・自治会組織を調査(30)		
第8回 行政、NPO、企業のそれぞれの強みとは			前回講義内容の復習(60)		
第9回 身近だけど知らない民生委員・児童委員			前回講義内容の復習(60)、自分の地域の担当民生委員を調査(30)		
第10回 社会福祉協議会を知ろう			前回講義内容の復習(60)、自分の市の社会福祉協議会が行っている事業を調査(30)		
第11回 制度の狭間の問題にどう向き合うか～コミュニティ・ソーシャルワーカー			前回講義内容の復習(60)		
第12回 社会的孤立と福祉			前回講義内容の復習(60)		
第13回 災害と福祉			前回講義内容の復習(60)		
第14回 地域共生社会は実現可能か			前回講義内容の復習(60)、包括的支援について「社会福祉概論」「ソーシャルワーク論 II」で学んだ内容を復習(30)		
第15回 総まとめ			第 2-14 回講義で使用した資料の復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:社会福祉の基本理念・価値、社会福祉政策の動向について理解しておくこと。また、地域住民としての当事者意識をもつことが求められる。					
課題に対してのフィードバック:確認テストについては、毎回授業内で解説を行う。グループワーク課題については、授業で成果を共有する。定期試験の正答は試験終了後 classroom に掲載するので、各自見直しをしておくこと。					
評価方法・基準:出席レポート 15% 定期試験 85%					
教科書:テキスト使用なし。参考書は授業内で提示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:地域福祉論Ⅱ					
担当者名:西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210042
授業概要:地域福祉に関係する政策動向、福祉行財政システム、福祉計画、地域福祉の歴史・理論について、事例を踏まえながら講義を行う。地域福祉論Ⅰで獲得した地域住民当事者の視点に加えて、コミュニティ・ソーシャルワークを実践する専門職の視点の獲得を目指す。					
到達目標:生活困窮者支援、災害支援、包括的支援について、現行制度の内容や方向性を理解する。また、地域福祉に関する行政組織と専門職、福祉計画について概要を理解し説明する事が出来る。あわせて、地域福祉の歴史・理論や実践事例を踏まえ、地域を意識した社会福祉実践が具体的にイメージできるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 地域包括ケアシステム			テキスト p.38-43 を読んでおく(30)、地域包括支援センターについて「高齢者福祉論」で学んだ内容を復習しておく		
第2回 生活困窮者自立支援の考え方 / その他の包括的な相談支援体制			テキスト p.44-54 を読んでおく(30)		
第3回 地域共生社会と各種政策 / 事例演習			テキスト p.55-74 を読んでおく(30)		
第4回 地域福祉ガバナンスと他機関協働 / 事例演習			テキスト p.76-114 を読んでおく(30)		
第5回 地域福祉の理論			テキスト p.116-124 を読んでおく(30)		
第6回 地域福祉の歴史①			テキスト p.125-134 を読んでおく(30)		
第7回 地域福祉の歴史② / 地域福祉の動向			テキスト p.135-138 を読んでおく(30)		
第8回 災害時における総合的かつ包括的な支援体制			テキスト p.200-237 を読んでおく(30)		
第9回 福祉計画の意義と種類、政策と運用①			テキスト p.240-258 を読んでおく(30)		
第10回 福祉計画の意義と種類、策定と運用② / 事例演習			テキスト p.259-283 を読んでおく(30)		
第11回 福祉行財政システム①行政とは			テキスト p.286-300 を読んでおく(30)		
第12回 福祉行財政システム②福祉行政の組織および専門職の役割			テキスト P.301-311 を読んでおく(30)		
第13回 福祉行財政システム③福祉における財源			テキスト P.312-323 を読んでおく(30)		
第14回 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 / 事例演習			テキスト P.158-197 を読んでおく(30)		
第15回 総まとめ			第1-14回講義で使用した資料、教科書の復習(120)		
履修に必要な予備知識や技能:法制度に関する知識や抽象的な理論の内容について、現実の事象と結びつけながら理解する必要がある。また、他の科目で学んだ内容についても、地域福祉の視点で再度理解を深めることが望ましい。					
課題に対するフィードバック:確認テストについては、毎回授業内で解説を行う。グループワーク課題については、授業で成果を共有する。定期試験の正答は試験終了後 classroom に掲載するので、各自見直しをしておくこと。					
評価方法・基準:出席レポート 15% 定期試験 85%					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:社会福祉施設経営論					
担当者名:堂田 俊樹					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210054
<p>授業概要:「福祉における経営とは何か。」福祉サービスの特質を理解した上で、福祉サービスを提供する法人形態を営利、非営利を含め多面的に理解し、福祉サービスを提供する際に必要な「経営」について学ぶ。法人の組織体のあり方、経営戦略、リーダーシップ論、サービスマネジメント、苦情対応、労務・人材管理、会計・財務管理、情報管理まで網羅する。社会福祉サービス関連法人での勤務、起業、独立型事務所の経営、国家試験においても学ぶ。授業は主にスライドを使用しプロジェクターを利用する。一般企業の労務管理関係についても網羅する。</p>					
<p>到達目標:① 福祉サービスにおける組織と経営について説明できるようになる。          ② 福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できるようになる。          ③ 組織と経営に関する基礎理論について解説できるようになる。          ④ 福祉サービスにおける管理・運営の方法について説明できるようになる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション:社会福祉経営とは何か			「経営」と「運営」に対する具体的イメージについて調査。親、知人等勤務している者にインタビュー(240)		
第2回 福祉サービスと組織・経営			「直接援助技術」と「経営」は両立するか事前調査(120) 事後学習(120)		
第3回 福祉サービスと制度			社会福祉サービスに市場は成立するか事前調査。(120) 事後学習(120)		
第4回 法人と社会福祉法人			「法人」とは何か、社会福祉法人の成立を事前調査(150) 事後学習(90)		
第5回 特定非営利活動法人とその他の組織・団体			NPO 法人、医療法人、株式会社等について事前調査。(150) 事後学習(90)		
第6回 戦略・事業計画・組織体のあり方(発表、ディスカッションを行う)			達成を目的(資格試験、アルバイト、サークル、ダイエット等)とする戦略について考える(240)		
第7回 管理運営・集団・リーダーシップ・対人関係のあり方			集団・組織におけるリーダーシップとは何か事前調査(150) 事後学習(90)		
第8回 サービスマネジメントとサービスの質の評価			サービスマネジメントについてテキスト等で事前学習(120) 事後学習(120)		
第9回 苦情対応・リスクマネジメントと福祉サービスにおける提供のあり方			社会福祉サービスにおける苦情の内容を事前調査(120) 事後学習(120)		
第10回 福祉サービスの人事・労務管理(給与、昇進、昇格、配置、異動、職務内容、労働時間、評価、やりがい、雇用形態、研修内容についてディスカッションを行う。)			雇用先に求める内容に優先順位をつけ意見をまとめる(150) 事後学習(90)		
第11回 福祉サービスにおける人材育成のあり方(レポート課題発表)			会社の人材育成の意義について事前学習(120) 事後学習(120)		
第12回 社会福祉法人における財務管理			介護サービスの報酬について事前学習(150) 事後学習(90)		
第13回 社会福祉法人における会計制度と財務諸表			インターネットで社会福祉法人の財務諸表を事前学習(200) 事後学習(40)		
第14回 福祉サービスと情報管理			介護サービスにはどのような記録が存在するか、情報管理とは何かを事前学習(120) 事後学習(120)		
第15回 福祉サービスにおける戦略的広報			社会福祉サービスをどのように広報するか事前学習(150) 事後学習(90)		
履修に必要な予備知識や技能:組織を理解し効率的に動かす計画と実行力は自ら考え、行動し、そして解決へと導くマネジメント力への理解が必要です。アルバイトやサークル活動、資格試験の取組等々、現在の状況を戦略的に考える問題意識を持ちましょう。その問題について、あらゆるメディアの情報を区別し選別してください。また、事前調査方法は紙媒体を1つは参考にしてください。					
課題に対してのフィードバック:レポート、試験結果、授業態度等の評価については、受講者に個別に講評し、説明する。質問においても、個別に回答し、受講者全てにフィードバック必要な場合、次の講義で回答する。					
評価方法・基準:毎回の小テスト20% 受講態度(授業への積極性、問題意識、集中度等)10% 定期試験70%					
教科書:参考書:新・社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営」第5版 中央法規					
備考:社会福祉サービスと「経営」は水と油でないかと感じる方もいるでしょう。就職すれば雇用先は必ず経営をしています。所属会社の組織・労務・事業計画等々について自分はどう関係しているのか。福祉実践と「経営」の関係を理解することが何故求められるのか、あなたなりの答えを見つけてください。起業に興味がある方も会社の仕組みを理解しましょう。					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(28年)、精神保健福祉士(9年)、介護支援専門員(25年)、市福祉行政担当課(12年)、介護サービス事業経営(15年)、ソーシャルワーカー歴(35年)、施設長・管理者(15年)					

科目名称:社会調査					
担当者名:高島 智世					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210055
<p>授業概要:社会調査とは、社会における問題を解決するためにデータを集め、それを使って社会について考えるための方法です。この授業では社会調査に関する基本的な考え方を知るとともにその進め方(調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方)を学びます。なお社会福祉士国家試験科目「社会福祉調査の基礎」に該当しています</p>					
<p>到達目標:1 社会調査の意義と目的及び方法について理解・修得する。 2 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報について理解する。 3 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解・修得する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			テキスト1章3節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第2回 社会調査の歴史			テキスト1章1, 2, 4節に目を通し授業ブログのクイズゲーム重要語句を確認する+5章を参考にしながら論文探し課題(30)		
第3回 研究と社会調査			テキスト3章1, 2, 3節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する+5章を参考にしながら論文探し課題(30)		
第4回 社会調査の対象と方法			テキスト4章1節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第5回 量的調査1 調査の手順			テキスト4章2節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第6回 量的調査2 母集団と標本			テキスト4章3節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(60)		
第7回 量的調査3 調査票の作成			テキスト4章4節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第8回 量的調査4 調査票の点検とデータ作成			テキスト4章5節、3章4節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第9回 量的調査5 変数間の関係を把握する			テキスト4章5節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第10回 量的調査6 母集団を推定する			テキスト5章1, 2, 3節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第11回 質的調査1 質的調査の種類と考え方			テキスト5章4節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第12回 質的調査2 インタビュー調査			テキスト5章4節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第13回 質的調査3 フィールドワークの方法と倫理			テキスト5章5節に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第14回 質的調査4 質的データの分析方法			テキスト6章に目を通し、授業ブログのクイズゲームで重要語句を確認する(30)		
第15回 まとめ			全体を通しての復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:社会学を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。グループワークを行います。					
課題に対するフィードバック:授業の最後にGoogleフォームを用いた小テストを行いますので、自分の理解度を確認してください。ただし小テストの点評価にカウントされません。質問には授業ブログで答えます。					
評価方法・基準:2回の課題40%+学期末試験60%					
教科書:日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『社会福祉調査の基礎』(中央法規出版)					
備考:該当箇所の自習を行い、授業ブログの基礎用語クイズゲームを利用して確認を行ってから、授業に出席してください。 授業ブログ <a href="http://kinjoresearch.seesaa.net/">http://kinjoresearch.seesaa.net/</a> (パスワードは授業で)					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:医療福祉論					
担当者名:岡村 綾子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		23210034
授業概要:①医療保険制度を含む保健医療領域における政策・制度について ②保健医療の動向について ③保健医療領域における専門職の役割や連携について 講義を行う。					
到達目標:①医療保険制度を含む保健医療領域における政策・制度について理解できる。②保健医療領域の動向について理解できる。③保健医療領域におけるソーシャルワーカーを含む専門職の役割や連携について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	保健医療の課題をもつ人の理解	テキスト p.2-22 を読んで、保健医療の課題をもつ人についてまとめ、概要を把握しておく。(60)		
第2回	患者の権利について		テキスト p.23-31 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第3回	医療倫理①(医療倫理と倫理的課題)		テキスト p.34-50 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第4回	医療倫理②(患者の意思決定をめぐる課題)		テキスト p.34-50 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第5回	保健医療の動向①(疾病構造の変化)		テキスト p.52-83 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第6回	保健医療の動向②(入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ)		テキスト p.52-83 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第7回	保健医療の動向③(保健医療における福祉的課題)		テキスト p.52-83 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第8回	保健医療領域に必要な政策・制度①(保健医療の政策・制度)		テキスト p.86-125 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第9回	保健医療領域に必要な政策・制度②(保健医療サービスの提供体制)		テキスト p.86-125 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第10回	保健医療領域に必要な政策・制度③(医療費の保障)		テキスト p.86-125 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第11回	保健医療領域における専門職の役割と連携①(保健医療領域における専門職と院内連携)		テキスト p.128-160 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第12回	保健医療領域における専門職の役割と連携②(地域の関係機関と連携の実際)		テキスト p.128-160 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第13回	保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割		テキスト p.162-223 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第14回	保健医療領域における支援の実際		テキスト p.162-223 を読んで、授業前課題に取り組み、期限までに提出する。(90)		
第15回	総括		第1回から第14回までの授業内容について、テキスト・配布した資料等で復習しておく。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:医療保険制度, 介護保険制度, 障害者福祉サービスについて復習し, 理解しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業前課題については, 授業の内容そのものが解答・解説になる。また, 授業内で行った小テスト等の返却・解説等は, 次回以降の授業において実施する。					
評価方法・基準:定期試験 50%・授業内課題(レポート等) 30%・受講態度(授業前課題・小テスト) 20%					
教科書:テキスト:一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新 社会福祉士養成講座 専門科目 5 保健医療と福祉』中央法規出版					
参考書:必要に応じて授業時に紹介する					
備考:授業前課題は Google Classroom を通して行うので, 履修する者は事前に知らせるクラスコードを入力して Google Classroom の「医療福祉論」に登録してください。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: 権利擁護と成年後見					
担当者名: 岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210036
<p>授業概要: ソーシャルワーカーが権利擁護活動を行う際に求められる法的知識や、ソーシャルワークと法の関わりについて講義を行う。具体的には、相談援助活動と憲法・民法・行政法・福祉関連法との関係や、成年後見及び関連制度の背景・趣旨・仕組み・運用の実際・課題などを学ぶことになる。また、権利擁護活動の必要性や、各種機関及び他の専門職との連携方法などについても解説を行う。</p>					
<p>到達目標: ①ソーシャルワーカーに求められる法的スキルを習得すること、②「権利擁護」とは何か、その課題やあり方について考察できるようになることを目標とする。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス「権利擁護」とは			事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 相談援助活動において想定される法律問題			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回 相談援助活動と法① 憲法の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回 相談援助活動と法② 行政法の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回 相談援助活動と法③ 社会福祉関連法の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回 相談援助活動と法④ 民法(契約)の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回 相談援助活動と法⑤ 民法(親族)の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回 相談援助活動と法⑤ 民法(相続)の理解			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第9回 成年後見制度① 制度の趣旨、概要、実務			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第10回 成年後見制度② 法定後見制度、任意後見制度			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第11回 成年後見制度③ 成年後見人等の責任・義務			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第12回 日常生活自立支援事業等、権利擁護にかかわる専門職や組織等			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第13回 権利擁護活動の実際① 虐待事例を中心に			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第14回 権利擁護活動の実際② 少年問題や貧困事例などを中心に			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第15回 まとめ・補足「権利擁護」のあり方・課題			これまでの授業で扱った部分を再読すること(120)		
履修に必要な予備知識や技能: 「社会福祉概論ⅠⅡ」で使用した教科書等に記載の関連部分を再読しておくこと。 なお、「法学(憲法)Ⅰ」または「法学Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。					
課題に対するフィードバック: 資料配布または個別対応にて行う。					
評価方法・基準: レポート(100%)					
教科書: 教科書: 事前配布の資料参照 参考書: 事前配布の資料参照					
備考: シラバスに変更があるときは、事前に案内する					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:刑事司法と福祉					
担当者名:西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門基本	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		23210037
授業概要:刑事司法の基本的考え方や仕組みを踏まえた上で、犯罪・非行をした人、及び、その被害者が抱える支援ニーズについて問題意識を持ち、司法と福祉の連携について理解を深めることを目的としている。まだ発展途中の領域であり、学習する中で積極的に自身の考えや意見をもつことが期待される。					
到達目標:刑事司法の基本的考え方や仕組みについて理解し説明することが出来る。また、犯罪・非行をした人、及び、その被害者が抱える支援ニーズを踏まえ、司法と福祉の具体的な連携方法を考えることが出来る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 刑事司法とは何か / なぜソーシャルワーカーがかかわるのか			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第2回 犯罪とは何か / 刑務所の役割と弊害			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第3回 犯罪原因論			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第4回 刑罰とは何か			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第5回 刑事司法の理解			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第6回 少年司法の理解			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第7回 施設内処遇①成人			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第8回 施設内処遇②少年			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第9回 社会内処遇①更生保護の理念と概要			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第10回 社会内処遇②更生保護の実際			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第11回 精神障害者を対象とした医療観察制度			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第12回 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第13回 アディクションを抱える人と刑事司法			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第14回 犯罪被害者等支援			テキスト該当ページを読んでおく(30)		
第15回 コミュニティと刑事司法 / まとめ			テキスト該当ページを読んでおく(30)、1-14回講義で使用した資料、教科書の復習(120)		
履修に必要な予備知識や技能:ニュースで取り上げられる犯罪や関連する社会状況について、その要因や刑事手続きの流れに着目しておくことが望ましい。					
課題に対するフィードバック:確認テストについては、毎回授業内で解説を行う。出席レポートについては、classroom内で成果を共有する。定期試験の正答は試験終了後 classroomに掲載するので、各自見直しをしておくこと。					
評価方法・基準:出席レポート 15% 定期試験 85%					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉』中央法規出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:障害児保育演習 I					
担当者名:岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206054
授業概要:一般保育と障害児保育との連続性の理解と個別の発達上の課題に対する障害児ニーズと位置づけを明らかにし、対象別にみた障害に関する基本的な知識理解、支援法について概説する。					
到達目標:障害児保育支援の理解を深め、併せて保育の変遷と現状及び今後の課題を理解し、対象別にみた障害児の理解を深め、支援の方法を学習する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 障害児保育の歴史			障害児保育の歴史について事前に調べておく(60)		
第2回 障害児保育の現状			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする(60)		
第3回 発達の理解			定型発達について事前に調べておく(60)		
第4回 障害児保育と合理的配慮			合理的配慮について事前に調べておく(60)		
第5回 対象別にみた障害児の理解(肢体不自由・重症心身障害)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第6回 対象別にみた障害児の理解(知的障害)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第7回 対象別にみた障害児の理解(視覚障害)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第8回 対象別にみた障害児の理解(聴覚障害)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第9回 対象別にみた障害児の理解(言語障害)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第10回 障害別にみた障害児の理解(医療的ケア)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第11回 対象別にみた障害児の理解(ASD:自閉スペクトラム症)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第12回 対象別にみた障害児の理解(ADHD:注意欠如多動症)			対象の障害について事前に調べておく。(60)		
第13回 対象別にみた障害児の理解(SLD:限局性学習症)			対象の障害について事前に調べておく(60)		
第14回 特別な配慮を必要とする子どもの理解(虐待・多文化共生・貧困)			事前に対象のワード(虐待・多文化共生・貧困など)について調べておく。(60)		
第15回 まとめ			配布資料を用いて学期の学習内容を振り返る(60)		
履修に必要な予備知識や技能:障害児保育に関する書籍を読むことが望ましい。					
課題に対するフィードバック:前授業での小テスト等については、授業時に解説する。					
評価方法・基準:複数回の小レポートまたはテスト及び授業態度から総合して評価する。定期試験 60% 小テスト 10% 小レポート 10% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:「障害児保育ワークブック」萌文書林・該当ページを開きながら、解説する。 参考書:「よくわかる保育士エクササイズ・障害児保育演習ブック」ミネルヴァ書房 「障がい児保育」中山書店					
備考:・保育の変遷と現状及び今後の課題を理解し、各障害児の理解を深め、支援の方法について考える。 ・グループワークやディスカッションなども取り入れるので積極的に参加して欲しい。					
実務経験の内容・期間:幼稚園教諭 22年					

科目名称:ソーシャルワーク論 I					
担当者名:三和直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210001
授業概要:ソーシャルワーク論I・IIを通して、ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践の特徴について講義を行う。ソーシャルワーク論Iでは、①ソーシャルワーカーの実践の実際、②ソーシャルワークの概念、③ソーシャルワークの原理、④ソーシャルワークの理念、の4つの事項を取り扱う。					
到達目標:①ソーシャルワーク実践の概要とその特徴について理解できる。 ②ソーシャルワークの概念について理解できる。 ③ソーシャルワークの原理について理解できる。 ④ソーシャルワークの理念について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション: 本学でのソーシャルワークの学びの全体像			『シラバス』にて、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 わが国のソーシャルワーク実践の実際①: 高齢者・障害者・児童・医療・地域・公的扶助 分野			各々の持つソーシャルワーク像及びソーシャルワーカー像を整理しておくこと。(30)		
第3回 社会福祉士の法的位置づけ			テキストのp2~14を読んでおくこと。(60)		
第4回 ソーシャルワーク実践の特徴(事例を通じて)			テキストのp23~35を読んでおくこと。(60)		
第5回 ソーシャルワークのグローバル定義			テキストのp52~67を読んでおくこと。(60)		
第6回 ソーシャルワークの構成要素(1)「クライアント」と「ニーズ」			テキストのp68~73を読んでおくこと。(60)		
第7回 ソーシャルワークの構成要素(2)「ソーシャルワーカー」と「社会資源」			テキストのp73~83を読んでおくこと。(60)		
第8回 ソーシャルワークの原理(1)「社会正義」と「人権尊重」			テキストのp86~94を読んでおくこと。(60)		
第9回 ソーシャルワークの原理(2)「集団的責任」と「多様性の尊重」			テキストのp94~102を読んでおくこと。(60)		
第10回 ソーシャルワークの理念(1)「当事者主権」と「尊厳の保持」			テキストのp103~108を読んでおくこと。(60)		
第11回 ソーシャルワークの理念(2)「権利擁護」とその実践事例 ~ オンブズパーソン~			テキストのp108~109を読んでおくこと。(60)		
第12回 ソーシャルワークの理念(3)「自立支援」			テキストのp109~111を読んでおくこと。(60)		
第13回 ソーシャルワークの理念(4)「エンパワメント」と「ノーマライゼーション」			テキストのp111~116を読んでおくこと。(60)		
第14回 ソーシャルワークの理念(5)「ソーシャルインクルージョン」			テキストのp116~118を読んでおくこと。(60)		
第15回 まとめ			第1回から第14回までの授業内容について、ノート・資料等を見直しておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会が抱える問題状況について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。また授業で理解したことを文章で端的に表現出来る力を身につけておくことが望ましい。					
課題に対してのフィードバック:毎回提出のコメントカードの記載内容について、次回授業のはじめの時間を使って講評を行う。					
評価方法・基準:定期試験、及び毎回提出のコメントカードの記載内容を点数化して評価する。 (定期試験 70% コメントカード記載内容 30%)					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版 ・毎回の授業は教科書の記述の解説を中心に進める。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士 18年(病院の医療ソーシャルワーカー5年、児童相談所の児童福祉司4年、福祉事務所の現業員6年、福祉事務所の老人福祉指導主事3年)					

科目名称:ソーシャルワーク論Ⅱ					
担当者名:三和直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210002
<p>授業概要:ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを通して、ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践の特徴について講義を行う。</p> <p>ソーシャルワーク論Ⅱでは、① ソーシャルワークの倫理と倫理的ジレンマ、②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、③ソーシャルワークの形成過程、④総合的かつ包括的な支援(ジェネラリスト・ソーシャルワーク)と多職種連携の意義と内容、⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、の5つの事項を取り扱う。</p>					
<p>到達目標:① ソーシャルワークの倫理と倫理的ジレンマについて理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解できる。</p> <p>③ソーシャルワークの形成過程について理解できる。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援(ジェネラリスト・ソーシャルワーク)と多職種連携の意義と内容について理解できる。</p> <p>⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション: ソーシャルワーク論Ⅱで何を学ぶか			『シラバス』中の「ソーシャルワーク論Ⅱ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 ソーシャルワークの倫理(1) 専門職倫理の概念と倫理綱領			テキストの p172~180 を読んでおくこと。(60)		
第3回 ソーシャルワークの倫理(2) 日本社会福祉士会の倫理綱領と行動規範			テキストの p180~187 及び事前配布資料の『日本社会福祉士会行動規範』を読んでおくこと。(90)		
第4回 ソーシャルワークの倫理(3) ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ			テキストの p192~203 を読んでおくこと。(60)		
第5回 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲			テキストの p206~218 を読んでおくこと。(60)		
第6回 社会福祉士の職域と役割			テキストの p219~226 を読んでおくこと。(60)		
第7回 ソーシャルワーカーの職種と職場			テキストの p227~234 を読んでおくこと。(60)		
第8回 ソーシャルワークの形成過程(1) ソーシャルワークの源流と基礎確立期			テキストの p120~131 を読んでおくこと。(60)		
第9回 ソーシャルワークの形成過程(2) ソーシャルワークの発展期			テキストの p132~144 を読んでおくこと。(60)		
第10回 ソーシャルワークの形成過程(3) ソーシャルワークの展開期			テキストの p145~151 を読んでおくこと。(60)		
第11回 ソーシャルワークの形成過程(4) ソーシャルワークの統合化			テキストの p151~156 を読んでおくこと。(60)		
第12回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と特徴			テキストの p270~288 を読んでおくこと。(60)		
第13回 ジェネラリスト・ソーシャルワークにおける多職種連携とチームアプローチ			テキストの p289~302 を読んでおくこと。(60)		
第14回 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			テキストの p246~254 を読んでおくこと。(60)		
第15回 まとめ			第1回から第14回までの授業内容について、ノート・資料等を見直しておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会が抱える問題状況について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。また授業で理解したことを文章で端的に表現出来る力を身につけておくことが望ましい。					
課題に対してのフィードバック:毎回提出のコメントカードの記載内容について、次回授業のはじめの時間を使って講評を行う					
評価方法・基準:定期試験、及び毎回提出のコメントカードの記載内容を点数化して評価する。 (定期試験 70% コメントカード記載内容 30%)					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版 ・毎回の授業は教科書の記述の解説を中心に進める。					
参考書:『三訂 社会福祉士の倫理 倫理綱領実践ガイドブック』中央法規出版					
備考:ソーシャルワーク論Ⅰを履修済みであることが望ましい。					
実務経験の内容・期間:社会福祉士 18年(病院の医療ソーシャルワーカー5年、児童相談所の児童福祉司4年、福祉事務所の現業員6年、福祉事務所の老人福祉指導主事3年)					

科目名称:ソーシャルワーク論Ⅲ					
担当者名:柴田 紀子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210003
<p>授業概要:ソーシャルワーク論Ⅲ・Ⅳを通して、ソーシャルワーカーとして多様化・複雑化する課題に対応するために、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について講義を行う。</p> <p>ソーシャルワーク論Ⅲでは、①人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ、③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について学ぶ。</p>					
<p>到達目標:①人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解できる。</p> <p>③ソーシャルワークの過程について理解できる。</p> <p>④ソーシャルワークの記録について理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			ソーシャルワーク論Ⅲのシラバスを読み、教科書に目を通して、授業の概要を把握する(30)		
第2回 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(1)システム理論、生態学理論			教科書 p.1-15 を読んで、システム理論、生態学理論の下調べをしておくこと(60)		
第3回 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(2)バイオ・サイコ・ソーシャルモデル			教科書 p.16-27 を読んで、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの下調べをしておくこと(60)		
第4回 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク(3) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			教科書 p.28-40 を読んで、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの下調べをしておくこと(60)		
第5回 ソーシャルワークの過程(1) ケースの発見とインターク			教科書 p.41-56 を読んで、ケースの発見とインタークの下調べをしておくこと(60)		
第6回 ソーシャルワークの過程(2) アセスメント、プランニング			教科書 p.58-92 を読んで、アセスメント、プランニングの下調べをしておくこと(60)		
第7回 ソーシャルワークの過程(3) 支援の実施、モニタリング			教科書 p.93-104 を読んで、支援の実施、モニタリングの下調べをしておくこと(60)		
第8回 ソーシャルワークの過程(4) 支援の終結と事後評価、アフターケア			教科書 p.105-118 を読んで、支援の終結と事後評価、アフターケアの下調べをしておくこと(60)		
第9回 ソーシャルワークの展開過程 ケースの発見・インタークから終結・事後評価、アフターケアまでを振り返り総括			第5回から8回の授業の内容を教科書、資料、ノートを用いて見直しておくこと(60)		
第10回 ソーシャルワークの実践モデル			教科書 p.119-128 を読んで、ソーシャルワーク実践モデルの下調べをしておくこと(60)		
第11回 ソーシャルワークの実践アプローチ(1)心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ			教科書 p.128-137 を読んで、3つの実践アプローチの下調べをしておくこと(60)		
第12回 ソーシャルワークの実践アプローチ(2)課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ			教科書 p.138-150 を読んで、3つの実践アプローチの下調べをしておくこと(60)		
第13回 ソーシャルワークの実践アプローチ(3)危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ			教科書 p.150-165 を読んで、3つの実践アプローチの下調べをしておくこと(60)		
第14回 ソーシャルワークの実践アプローチ(4)解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ			教科書 p.150-165 を読んで、5つの実践アプローチの下調べをしておくこと(60)		
第15回 まとめ			第1回から14回の授業の内容を教科書、資料、ノートを用いて見直しておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を理解しておくこと。新聞・テレビ等の報道や文献を用いて、社会福祉制度の現状や現代社会の生活課題等について理解しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内でふりかえりシートを課し、その記載内容について、次の授業でフィードバックする。					
評価方法・基準:授業におけるふりかえりシート 20%、定期試験 80%					
教科書:『最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目』 中央法規出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:ソーシャルワーク論Ⅳ					
担当者名:柴田 紀子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210004
<p>授業概要:ソーシャルワーク論Ⅲ・Ⅳを通して、ソーシャルワーカーとして多様化・複雑化する課題に対応するために、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について講義を行う。</p> <p>ソーシャルワーク論Ⅳでは、①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術、②コミュニティワークの概念とその展開、③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて学ぶ。</p>					
<p>到達目標:①ケアマネジメントについて理解できる。</p> <p>②集団を活用した支援について理解できる。</p> <p>③コミュニティワークについて理解できる。</p> <p>④スーパービジョンとコンサルテーションについて理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			ソーシャルワーク論Ⅳのシラバスを読み、教科書に目を通して、授業の概要を把握する(30)		
第2回 ソーシャルワークの面接			教科書 p.185-207 を読んで、ソーシャルワークの面接の下調べをしておくこと(60)		
第3回 ソーシャルワークの記録			教科書 p.209-237 を読んで、ソーシャルワークの記録の下調べをしておくこと(60)		
第4回 ケアマネジメント(1) ケアマネジメントの原則			教科書 p.239-244 を読んで、ケアマネジメントの原則の下調べをしておくこと(60)		
第5回 ケアマネジメント(2) ケアマネジメントの意義と方法			教科書 p.245-253 を読んで、ケアマネジメントの意義と方法の下調べをしておくこと(60)		
第6回 集団を活用した支援(1)グループワークの意義と目的、グループワークの原則			教科書 p.255-267 を読んで、グループワークの意義と目的、原則の下調べをしておくこと(60)		
第7回 集団を活用した支援(2)グループワークの展開過程、セルフヘルプグループ			教科書 p.268-277 を読んで、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループの下調べをしておくこと(60)		
第8回 コミュニティワーク(1) コミュニティワークの意義と目的			教科書 p.279-285 を読んで、コミュニティワークの意義と目的の下調べをしておくこと(60)		
第9回 コミュニティワーク(2) コミュニティワークの展開1			教科書 p.286-294 を読んで、コミュニティワークの展開の下調べをしておくこと(60)		
第10回 コミュニティワーク(3) コミュニティワークの展開2			教科書 p.295-300 を読んで、コミュニティワークの下調べをしておくこと(60)		
第11回 ソーシャルアドミニストレーション			教科書 p.301-315 を読んで、ソーシャルアドミニストレーションの下調べをしておくこと(60)		
第12回 ソーシャルアクション			教科書 317-337 を読んで、ソーシャルアクションの下調べをしておくこと(60)		
第13回 スーパービジョンとコンサルテーション(1)			教科書 p.340-350 を読んで、スーパービジョンの下調べをしておくこと(60)		
第14回 スーパービジョンとコンサルテーション(2)			教科書 p.351-354 を読んで、コンサルテーションの下調べをしておくこと(60)		
第15回 まとめ			授業の内容を教科書、資料、ノートを用いて見直しておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した内容を理解しておくこと。新聞・テレビ等の報道や文献を用いて、社会福祉制度の現状や現代社会の生活課題等について理解しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内でふりかえりシートを課し、その記載内容について、次の授業でフィードバックする。					
評価方法・基準:授業におけるふりかえりシート 20%、定期試験 80%					
教科書:『最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』 中央法規出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:ソーシャルワーク論Ⅴ					
担当者名:内 慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210005
授業概要:①総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際、②ソーシャルワークにおける援助関係の形成、③ネットワークの形成、④ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について、基本となる概念や理論、技術を学ぶ。					
到達目標:社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解できる。支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための知識と技術について理解できる。社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	第1回	オリエンテーション	『講義概要』と教科書を事前に読み、授業の概要を理解する。(30)		
第2回	第2回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割(1)	教科書P.1～8を予習する。(60)		
第3回	第3回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割(2)	教科書P.9～14を予習する。(60)		
第4回	第4回	ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割(3)	教科書P.15～20を予習する。(60)		
第5回	第5回	ソーシャルワークにおける面接(1)	教科書P.21～25を予習する。(60)		
第6回	第6回	ソーシャルワークにおける面接(2)	教科書P.26～33を予習する。(60)		
第7回	第7回	ソーシャルワークにおける面接(3)	教科書P.34～45を予習する。(60)		
第8回	第8回	ソーシャルワークと援助関係(1)	教科書P.47～54を予習する。(60)		
第9回	第9回	ソーシャルワークと援助関係(2)	教科書P.55～59を予習する。(60)		
第10回	第10回	ソーシャルワークと援助関係(3)	教科書P.60～64を予習する。(60)		
第11回	第11回	社会資源の開発とソーシャルアクション(1)	教科書P.65～72を予習する。(60)		
第12回	第12回	社会資源の開発とソーシャルアクション(2)	教科書P.73～76を予習する。(60)		
第13回	第13回	社会資源の開発とソーシャルアクション(3)	教科書P.77～82を予習する。(60)		
第14回	第14回	ソーシャルワーク技法とアクティブラーニング	インターネットなどを活用してアクティブラーニングの内容について理解しておく。(30)		
第15回	第15回	まとめ	第1回～14回までの授業範囲を復習する。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳで学んだ内容を理解しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内で実施した小テストについては添削・返却するが、試験問題・用紙は返却しない。					
評価方法・基準:定期試験 85% 授業態度 15%					
教科書:使用予定の教科書『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:ソーシャルワーク論VI					
担当者名:内 慶瑞					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210006
授業概要:ソーシャルワークに必要な①カンファレンス、②事例分析、③ソーシャルワークに関連する方法について、基本となる概念や理論、技術を学ぶ。					
到達目標:社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解できる。個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	第1回	オリエンテーション	『講義概要』と教科書を事前に読み、授業の概要を理解する。(30)		
第2回	第2回	ソーシャルワークの関連技術・方法(1)	教科書P.83~89を予習する。(60)		
第3回	第3回	ソーシャルワークの関連技術・方法(2)	教科書P.89~94を予習する。(60)		
第4回	第4回	ソーシャルワークの関連技術・方法(3)	教科書P.95~101を予習する。(60)		
第5回	第5回	カンファレンス(1)	教科書P.103~107を予習する。(60)		
第6回	第6回	カンファレンス(2)	教科書P.107~113を予習する。(60)		
第7回	第7回	事例分析	教科書P.113~120を予習する。(60)		
第8回	第8回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報(1)	教科書P.121~125を予習する。(60)		
第9回	第9回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報(2)	教科書P.126~130を予習する。(60)		
第10回	第10回	ソーシャルワークにおけるICTと個人情報(3)	教科書P.131~141を予習する。(60)		
第11回	第11回	災害とソーシャルワーク(1)	教科書P.163~167を予習する。(60)		
第12回	第12回	災害とソーシャルワーク(2)	教科書P.168~172を予習する。(60)		
第13回	第13回	災害とソーシャルワーク(3)	教科書P.172~179を予習する。(60)		
第14回	第14回	総合的・包括的な支援(1)	教科書P.221~226を予習する。(60)		
第15回	第15回	総合的・包括的な支援(2)	教科書P.227~234を予習する。(60)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論I~Vで学んだ内容を理解しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内で実施した小テストについては添削・返却するが、試験問題・用紙は返却しない。					
評価方法・基準:定期試験 85% 小テスト 15%					
教科書:教科書『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房					
備考:					
実務経験の内容・期間:市社協福祉活動専門員 10年 県社会福祉士会副会長・理事 14年					

科目名称:ソーシャルワーク演習 I					
担当者名:内 慶瑞、岡村 綾子、柴田 紀子、西 郁代子、杉山 正樹、三和 直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210080
<p>授業概要:個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により以下の事項を実施する。</p> <p>①自己覚知について。  ②ソーシャルワークにおける基本的コミュニケーション技術について。  ③基本的な面接技術について。  ④ソーシャルワークの展開過程について。  ⑤ソーシャルワークの記録について  ⑥グループダイナミクスの活用について</p>					
<p>到達目標:①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することができる。  ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することができる。  ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を習得することができる。  ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク演習 I・II・III・IV・V」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 自己理解と他者理解			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第3回 基本的なコミュニケーション技術(1. 言語的技術)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第4回 基本的なコミュニケーション技術(2. 非言語的技術)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第5回 基本的な面接技術(1. 面接の構造化)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第6回 基本的な面接技術(2. 場の設定とールの活用)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第7回 ソーシャルワークの展開過程(1. ケースの発見とインテーク)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第8回 ソーシャルワークの展開過程(2. アセスメント)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第9回 ソーシャルワークの展開過程(3. プランニング)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第10回 ソーシャルワークの展開過程(4. 支援の実施)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第11回 ソーシャルワークの展開過程(5. モニタリングと支援の終結)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第12回 ソーシャルワークの記録			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第13回 グループダイナミクスの活用(1. グループワークの構成)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第14回 グループダイナミクスの活用(2. グループワークの展開過程)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第15回 まとめ・総括			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論 I～IIIで学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また課題を発見し解決する力の前提となる専門的知識・技能を修得しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度、試験の結果等を総合的に評価する。評価の割合は担当教員から初回の授業で案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク演習Ⅱ					
担当者名:内 慶瑞、岡村 綾子、柴田 紀子、西 郁代子、杉山 正樹、三和 直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210081
<p>授業概要:個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により以下の事項を実施する。</p> <p>①具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。</p> <p>②事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。</p>					
<p>到達目標:①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力の基礎を習得することができる。</p> <p>③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することができる。</p> <p>④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。</p> <p>⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク演習Ⅱ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 虐待についての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第3回 ひきこもりについての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第4回 貧困についての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第5回 認知症についての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第6回 終末期ケアについての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第7回 災害時についての事例検討			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第8回 ケース発見とインテークの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第9回 アセスメントの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第10回 プランニングの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第11回 支援の実施の実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第12回 モニタリングの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第13回 支援の終結と事後評価の実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第14回 アフターケアの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第15回 まとめ・総括			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳおよびソーシャルワーク演習Ⅰで学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また課題を発見し解決する力の前提となる専門的知識・技能を修得しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度、試験の結果等を総合的に評価する。評価の割合は担当教員から初回の授業で案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク演習Ⅲ					
担当者名:内 慶瑞、岡村 綾子、柴田 紀子、西 郁代子、杉山 正樹、三和 直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210082
<p>授業概要:個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により以下の事項を実施する。</p> <p>①具体的なソーシャルワークの場面及び過程で用いられる実践技術についての実技指導を行う。</p> <p>②地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用しての実技指導を行う。</p>					
<p>到達目標:①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力の基礎を習得することができる。</p> <p>③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することができる。</p> <p>④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することができる。</p> <p>⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク演習Ⅲ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 アウトリーチの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第3回 チームアプローチの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第4回 ネットワーキングの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第5回 コーディネーションの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第6回 ネゴシエーションの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第7回 ファシリテーションの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第8回 プレゼンテーションの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第9回 ソーシャルアクションの実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第10回 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握についての事例検討及び実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第11回 地域アセスメントについての事例検討及び実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第12回 地域福祉計画についての事例検討及び実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第13回 地域福祉の組織化についての事例検討及び実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第14回 社会資源の活用。調整・開発及びサービスの評価についての事例検討及び実技指導			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第15回 まとめ・総括			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳおよびソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また課題を発見し解決する力の前提となる専門的知識・技能を修得しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度、試験の結果等を総合的に評価する。評価の割合は担当教員から初回の授業で案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク演習Ⅳ					
担当者名:内 慶瑞、岡村 綾子、柴田 紀子、西 郁代子、杉山 正樹、三和 直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210083
授業概要:ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョンを行う。					
到達目標:①レジデンシャル・ソーシャルワーク実習を通じて体験した事例について、事例検討を行い、その意義や方法を具体的に理解することができる。 ②実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解することができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク演習Ⅳ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 事例検討の方法			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第3回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(1)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第4回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(2)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第5回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(3)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第6回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(4)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第7回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(5)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第8回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(6)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第9回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(7)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第10回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(8)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第11回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(9)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第12回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(10)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第13回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(11)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第14回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(12)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第15回 まとめ・総括			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳおよびソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲで学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また各自のソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱでの実践を題材にして事例研究を行うので、実習中に作成した実習記録や諸資料を用意しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度、発表内容・態度等を総合的に評価する。評価の割合は担当教員から初回の授業で案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク演習Ⅴ					
担当者名:内 慶瑞、岡村 綾子、柴田 紀子、西 郁代子、杉山 正樹、三和 直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210084
<p>授業概要:・ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョンを行う。</p> <p>・ソーシャルワーク実習Ⅲを実施した学生の実習報告及び総括を行う。</p>					
<p>到達目標:①実習を通じて体験した事例について、事例検討を行い、その意義や方法を具体的に理解することができる。</p> <p>②実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解することができる。</p> <p>③実習Ⅲを振り返り、フィールド・ソーシャルワークにおける地域支援の具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク演習Ⅴ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 事例検討の方法			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第3回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(1)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第4回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(2)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第5回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(3)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第6回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(4)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第7回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(5)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第8回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(6)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第9回 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの事例検討及びスーパービジョン(7)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第10回 ソーシャルワーク実習Ⅲの事例報告(1)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第11回 ソーシャルワーク実習Ⅲの事例報告(2)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第12回 ソーシャルワーク実習Ⅲの事例報告(3)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第13回 ソーシャルワーク実習Ⅲの事例報告(4)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第14回 ソーシャルワーク実習Ⅲの事例報告(5)			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
第15回 まとめ・総括			担当教員から指示された資料等を事前に読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳおよびソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳで学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また各自のソーシャルワーク実習での実践を題材にして事例研究を行うので、実習中に作成した実習記録や諸資料を用意しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度、発表内容・態度等を総合的に評価する。評価の割合は担当教員から初回の授業で案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:子育て支援					
担当者名:三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206051
授業概要:保育における子育て支援の特性を理解し、保護者との相互理解や信頼関係の形成について様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術や、保護者に対する保育に関する指導や支援について、実践例を通して具体的に理解する。					
到達目標:1. 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解している。 2. 保護者のニーズに気づき、多様な支援の展開について考えることができる。 3. 保育者による相談、助言、情報提供等の支援について、その特性と展開を理解している。 4. 保育者が行う子育て支援における基本的姿勢や技術を身につける。 5. 保育者が連携するべき社会的資源について関連法と関係づけて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	現代社会における子育て家庭の現状	事前に教科書を参考に子育て家庭の現状について情報を収集し理解しておく(60)		
第2回	保育士の行う子育て支援		前回講義の復習と保育所における子育て支援について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第3回	保育士と保護者との信頼関係		前回講義の復習と事前に保育士と保護者との信頼関係について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第4回	子育て支援事業と支援環境		前回講義の復習と事前に子育て支援事業と支援環境について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第5回	子育て家庭の相談面接		前回講義の復習と事前に子育て家庭の相談面接について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第6回	支援計画の立案		前回講義の復習と事前に支援計画の立案について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第7回	支援計画に実施と評価		前回講義の復習と事前に支援計画に実施と評価について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第8回	支援体制における連携・協議		前回講義の復習と事前に支援体制における連携・協議について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第9回	支援で活用する地域の社会資源		前回講義の復習と事前に支援で活用する地域の社会資源について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第10回	保育所における支援の実際		前回講義の復習と事前に保育所における支援の実際について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第11回	地域における子育て支援		前回講義の復習と事前に地域における子育て支援について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第12回	障害ある子どもとその家庭への支援		前回講義の復習と事前に障害ある子どもとその家庭への支援について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第13回	特別な配慮を必要とする子育て家庭への援助		前回講義の復習と事前に特別な配慮を必要とする子育て家庭への援助について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第14回	子ども虐待への予防と支援		前回講義の復習と事前に子ども虐待への予防と支援について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第15回	要保護児童等の家庭への援助		前回講義の復習と事前に要保護児童等の家庭への援助について、教科書の該当箇所を熟読する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:子どもに関する社会的動向、子育て家庭の現状等について、日頃から関心を持つ。地域における子育て支援体制や社会的資源について調べて確認しておく。					
課題に対してのフィードバック:小テスト及び課題レポート実施の翌週に振り返りを行う。					
評価方法・基準:小テスト 40%、課題レポート提出 30% 授業への参加度 30%					
教科書:教科書:教科書:新基本保育シリーズ⑩「子育て支援」西村重稀、青井夕貴 中央法規 参考書:「子育て支援-15のストーリーで学ぶワークブック」二宮祐子 萌文書林					
備考:授業においてはグループワークによる事例検討を行う。小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る。					
実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士21年 公認心理師5年					

科目名称:子ども家庭支援論					
担当者名:三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24202021
授業概要:現代社会における子ども家庭支援の意義とその役割を学ぶとともに、保育士等が行う子ども家庭支援の意義と基本について理解する。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解を深める。授業では、各回の内容及び事前・事後学習に応じて、ディスカッション、発表を取り入れ、その都度コメントし、学生の主体的学びや双方向授業を行う。					
到達目標:保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、さらに子育て家庭の現状と課題について理解し、子育て家庭に対する支援の体制、保育者としての具体的支援のポイントについて理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 現代の家庭を取り巻く環境について(講義、グループワーク、フィードバック)			日本の人口や世帯、雇用や働き方、子どもや子育ての環境の実態などについて下調べする(60分)		
第2回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義・目的(講義、グループワーク、フィードバック)			保育所保育指針、保育士倫理綱領について下調べする(30分)		
第3回 子育て支援事業、保育事業の体系、社会保障、社会資源の理解(講義、グループワーク、フィードバック)			子育て支援施策等の制度体系について、関連科目テキストに目を通し持参する(60分)		
第4回 障がいある子どもの支援に関する事業体系、社会資源の理解(講義、グループワーク、フィードバック)			障害児の支援について、関連科目テキストに目を通し持参する(60分)		
第5回 保育士に求められる相談の基本的態度及び技術(講義、グループワーク、フィードバック)			既に学んだソーシャルワークの基本的技術などを事前に復習してくる(60分)		
第6回 保育士に求められる相談の基本的態度及び技術:場面事例(グループワーク、ディスカッション、フィードバック)			聴くことに関する技術や意義などについて考えてくる(30分)		
第7回 保育を利用している家庭への子育てへの支援方法や留意点(講義、グループワーク、フィードバック)			事前に配付する課題に取り組み持参する(60分)		
第8回 発達や育ちに課題のある子どもと家庭への支援の理解(講義、グループワーク、フィードバック)			発達や育ちに課題のある子どものための社会資源について調べてくる(60分)		
第9回 発達や育ちに課題のある子どもと家庭への支援:事例検討(グループワーク、ディスカッション、フィードバック)			指定された演習課題を熟読し、支援に必要な資料を持参する(60分)		
第10回 不適切な養育環境の子どもやその家庭の理解と支援(講義、グループワーク、フィードバック)			子ども虐待や相談経路・体制等について下調べしその資料を持参する(60分)		
第11回 不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援(事例)(グループワーク、ディスカッション、フィードバック)			指定された演習課題を熟読し、支援の留意点や社会資源について調べてくる(60分)		
第12回 多様な家族、親子、家庭のあり方と支援(講義、グループワーク、フィードバック)			ひとり親、ステップファミリー、外国籍の子どもと保育等について調べ、資料を持参する(60分)		
第13回 多様な家族、親子、家庭のあり方と支援(事例)(グループワーク、ディスカッション、フィードバック)			指定された演習課題を熟読し、支援の留意点や社会資源について調べてくる(60分)		
第14回 子どもの貧困の理解と家庭への支援の理解(講義、グループワーク、フィードバック)			子どもの貧困がどのような面に現れるのかなどについて調べ、資料を持参する(60分)		
第15回 クレーム対応について。子ども家庭への支援の課題(映像視聴、講義)			これまでの授業内容についてテキスト・配布資料、課題シート等で復習する(90分)		
履修に必要な予備知識や技能:2年前期までに既習の児童・家庭福祉や社会的養護、ソーシャルワークに関する科目で得られた知見が求められる。					
課題に対してのフィードバック:課題は、授業内のパワーポイント、プリント配付、又は classroom に投稿します。フィードバックは、講義内容に取り込んで授業内で行い、レポート提出の場合は次回以降の授業での返却や全体講評などによって行います。					
評価方法・基準:小テスト 40% 課題レポート提出 30% 授業への参加度 30%					
教科書:教科書『保育と子ども家庭支援論』株式会社 みらい…該当箇所を開きながら授業やグループワークをします。パワーポイントでも該当頁を表示します。					
参考書:『保育福祉小六法』株式会社 みらい(保育実習1-B 実習指導の教科書です。持参を周知し、使用します。)					
備考:講義科目ですが、ときどきグループディスカッションを取り入れたりします。課題は、主体的な学びと気づきを得るために必要なもので、評価の対象にもしていますから、遅刻・早退・欠席などの場合は、受講生の自覚と自己責任で問い合わせてください。					
実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司 16年(心理判定係長 15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士 21年 公認心理師 5年					

科目名称:保育者論					
担当者名:岡田 優子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24202022
授業概要:保育者の役割と倫理について学ぶ。その上で、保育士の制度的な位置付けを理解し、その専門性について考察する。また、実際の保育現場の中でどのように、「保育の協働」が行われているか、保護者や他の専門機関、地域社会、家庭保育者との関わりについて考察し、求められる保育者の専門的成長について考察する。					
到達目標:・保育者の役割と倫理について理解でき、自己課題の意識をもって課題に取り組むようになる。 ・保育者としての資質、知識、技術、態度を身につけ、自らの適性を見つめ、自らを評価しながら保育者への意欲や自覚持つ。 ・保育士としての専門性について考察を深めていけるようになる。 ・保育者の協働について理解でき、思考する習慣と力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	ガイダンス、自己アピールする新聞づくりをする		自分自身を知るという点から、自己紹介新聞に載せる内容を考える。色を塗るもの(クーピー、クレヨン等)を持参する(30)		
第2回	保育者になるということ(グループワーク)		保育者に対するイメージをまとめる。自己紹介についての新聞を提出する(40)		
第3回	保育者の資格と責務、保育士の日を考える(DVDを使用する)		仕事内容と保育者に求められる責務と資質能力を考える。また幼稚園教諭、保育士、保育教諭の役割の違いを考える(40)		
第4回	保育士の体験談を聞き、ディスカッションをする		現場の保育士に聞きたい質問等をまとめておく、事後、保育士の体験談を聞いてのレポートをまとめる(40)		
第5回	子どもの思いや育ちを理解する仕事		保育士の体験談等を聞いてのレポート提出。子ども理解の2つの側面をテキストより調べてまとめる(30)		
第6回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(3~5歳)実践例を通してグループワークする		遊びを支える5つの役割をテキストより調べてまとめる。事前に渡した実践例を読んでおく(40)		
第7回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事(0~2歳)実践例を通してグループワークする		事前に渡した実践例を読んでおく。子どもが好む遊びを思い出し、遊びの流れにそった関わりをまとめる(40)		
第8回	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 グループの中で絵本の読み聞かせをする(絵本を通して)		子どもの頃、好きだった絵本を持参する。子どもと絵本について調べる(40)		
第9回	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事(自然を通して)		事前に知らせたテキストの中の演習問題は考えをまとめ、友達と話し合う(40)		
第10回	保護者や家庭と一緒に歩む仕事(グループワークと発表)		保育所、幼稚園、認定こども園における子育て支援の大切さをまとめる(40)		
第11回	地域における園の役割(グループワークと発表)		保育所、幼稚園、認定こども園が行なう地域の子育て支援を調べ、事後提出する(50)		
第12回	保育者の協働について考える(ディスカッション)		職員間、専門機関との協働についてそれぞれまとめておく(40)		
第13回	保育者の専門性について(グループワーク)		保育者の専門性とはどういうことか考えをまとめる(60)		
第14回	学び合う保育者(グループワーク)		子育てに関する記事やニュースをもとに考察する。(40)		
第15回	目指す保育者像を発表する。授業全体の学びを振り返る。		めざす保育者像を構築する(50)		
履修に必要な予備知識や技能:授業に参加する前に必ずテキストを読み、初めて出会う用語の意味を調べる。授業後は講義内容について自己課題を見つけ復習をする。保育者としての人間性、豊かな感受性、前向きな生き方の大切さを学ぶため幼児教育に関する本をたくさん読んで欲しい。子どもと関わる機会をもつ。子どもウォッチングをする。					
課題に対してのフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等は点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。その際、講評します。復習の材料とする。					
評価方法・基準:定期試験60% 課題・レポート20% 受講態度(取り組む姿勢)20%を総合的に評価する。(課題等の提出物の未提出、期限遅れなども評価の対象)					
教科書:テキスト:「新しい保育講座2 保育者論」汐見稔幸・大豆生田啓友 編著 ミネルヴァ書房 参考書 :全国保育士会倫理綱領ガイドブック、その他必要に応じて紹介する。					
備考:グループワークや発表も行うため、役割分担をし、責任をもって取り組む。発表後は、振り返りを行い、今後の課題に繋げていく。ICT 機器活用。 レポート、発表時には自分の意見を発信し、表現する。事前学習を行い積極的に授業に取り組み、課題提出日等のルールを守る。					
実務経験の内容・期間:保育士経験 39年のうち保育園園長10年経験する。					

科目名称: 幼児教育者論					
担当者名: 斎藤修啓					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24103315
授業概要: 幼稚園や認定こども園で教師達が実際に体験した事例や、現在の園での生活等について、具体的に紹介したり、親と教師との立場の違い、保育園や他の学校との相違等について考えながら、幼稚園の先生の役割について理解する。					
到達目標: 教職の意義について、歴史的・制度的背景をふまえて説明できる。幼稚園教諭及び保育士の職務内容とその責任を今日的課題と関連づけて説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業内容と授業計画の説明			保育所保育指針や幼稚園教育要領で保育者の役割が書かれている部分を予習(30)		
第2回 保育者への扉をあける			教科書序章(13-22頁)の予習(30)		
第3回 教育の目的と教員の存在意義、教員に求められる役割			教科書第1章(23-41頁)の予習(30)		
第4回 保育者になるための学び(1) 教養教育を学ぶ			教科書第2章前半(42-51頁)の予習(30)		
第5回 保育者になるための学び(2) 養成課程の概要			教科書第2章後半(52-61頁)の予習(30)		
第6回 保育者に求められる資質			教科書第3章(62-77頁)の予習(30)		
第7回 職場で学び続ける保育者			教科書第4章(78-93頁)の予習(30)		
第8回 校内連携による組織的な子育て支援(1) 子育て環境の変化			教科書第5章前半(94-100頁)の予習(30)		
第9回 校内連携による組織的な子育て支援(2) 子育て支援の政策動向			教科書第5章後半(101-113頁)の予習(30)		
第10回 現代社会の変化と保育者の役割、外部の専門家との協働			教科書第6章(114-127頁)の予習(30)		
第11回 保育者の職務の全体像と服務上の義務			教科書第7章(128-146頁)の予習(30)		
第12回 日本の保育者のあゆみ(1) 近代保育の幕開け			教科書第8章前半(147-155頁)の予習(30)		
第13回 日本の保育者のあゆみ(2) 昭和期以降			教科書第8章後半(155-162頁)の予習(30)		
第14回 保育者の研修とキャリアプラン			教科書第9章(163-174頁)の予習(30)		
第15回 資料にみる保育者の姿			教科書第10章(175-198頁)の予習(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 教科書等を事前に読み、各自なりの理想の保育者像を考えておく。					
課題に対するフィードバック: 授業中に示された課題などの提出物は、点検されたあと、次回以降の授業で返却する。復習・理解度のチェックに活用してください。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、課題や提出物 20%、授業への参加度 20%。					
教科書: 「新時代の保育双書 今に生きる保育者論[第4版]」秋田喜代美(みらい)					
参考書: 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称: 幼児教育原理					
担当者名: 斎藤修啓					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24102314
授業概要: 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性について学んでいくとともに、教育の基礎的概念、理論、歴史について理解し、教育に関する体系的知識の修得を目指す。また、教育制度と基本的な実践原理及び指導原理についても理解を深めていく。					
到達目標: 幼児教育に関する理念や歴史を理解し、幼児教育の今日的な課題について考える。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業内容と授業計画の説明			新聞等で幼児教育・保育に関する社会的動向を調べておく(30)		
第2回 教育を実践する者になるために			教科書第1章(11-23頁)の予習(30)		
第3回 子どもへの理解(1)子どもの生活			教科書第2章前半(24-33頁)の予習(30)		
第4回 子どもへの理解(2)子どもの発達			教科書第2章後半(33-39頁)の予習(30)		
第5回 教育の意義と目的(1)人間形成と教育			教科書第3章前半(40-46頁)の予習(30)		
第6回 教育の意義と目的(2)教育の目的			教科書第3章後半(46-54頁)の予習(30)		
第7回 教育の意義と目的(3)保育者の役割			教科書第4章(55-68頁)の予習(30)		
第8回 教育の歴史と教育家の思想(1)諸外国における教育			教科書第5章(69-84頁)の予習(30)		
第9回 教育の歴史と教育家の思想(2)日本の教育			教科書第6章(85-98頁)の予習(30)		
第10回 教育の歴史と理念(1)教育と法			教科書第7章前半(99-108頁)の予習(30)		
第11回 教育の歴史と理念(2)幼稚園と保育所			教科書第7章後半(109-114頁)の予習(30)		
第12回 教育の歴史と理念(3)教育課程・保育課程			教科書第8章(115-127頁)の予習(30)		
第13回 教育の歴史と理念(4)遊びと指導・援助のあり方			教科書第9章(128-143頁)の予習(30)		
第14回 教育の歴史と理念(5)保育の評価			教科書第10章(144-157頁)の予習(30)		
第15回 今日の幼児教育を考える			教科書第11章(158-173頁)の予習(30)		
履修に必要な予備知識や技能: 予習として教科書を読んでおくとともに、日頃から保育・幼児教育に関する報道等に意識を向ける。					
課題に対してのフィードバック: 授業中に示された課題などの提出物は、点検されたあと、次回以降の授業で返却する。復習・理解度のチェックに活用してください。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、課題や提出物 20%、授業への参加度 20%。					
教科書:「新時代の保育双書『幼児教育の原理』(第2版)」菱田隆昭編(みらい) 参考書:「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:教育課程総論					
担当者名:岡田 優子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義・演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106316
授業概要:保育所保育指針及び幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を理解し、保育内容の歴史の変遷を通して理解を深める。子どもやその集団の発達特性や発達過程を踏まえ、指導計画の作成、観察や記録の観点の修得し、保育内容と子ども理解との関わりについて学ぶ。					
到達目標:・保育目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて保育内容が理解できるとともに、保育の全体的な構造が理解できるようになる。・保育内容の歴史の変遷について理解できるようになる。 ・子ども理解を深め、興味や関心、実情に応じた具体的な指導の在り方を理解し、子どもの生活全体を通して養護と教育が一体的に展開することを保育実践につなげて習得できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、「保育内容」とは。戦後における保育内容の展開			子どもの頃の記憶に残る遊びや好きだった遊びをまとめる(30)		
第2回 保育の基本と保育内容を理解する(子どもになって保育内容を理解する)			事前に様々な遊びと保育内容との関連をまとめる。事後提出する(30)		
第3回 保育の基本と保育内容を展開する(グループワーク)			遊びが子どもの重要な学びであるという体験し、レポートにまとめる。事後提出する。(60)		
第4回 遊びや生活を通して学ぶ(実践記録をもとにディスカッションする)			事前に実践記録を目を通しておく(30)		
第5回 現場の保育体験もしくは、DVD からの、エピソード記録をとる			保育体験、もしくは DVD の感想をまとめ、提出する(40)		
第6回 領域と保育内容(グループワーク)			領域について調べてまとめる。グループワークに積極的に参加できるようにする(40)		
第7回 領域と保育内容を事例で学ぶ(グループワークとディスカッション)			5領域についての演習問題(事例)は考えをまとめる(40)		
第8回 指導計画の作成の理解			指導計画にはどのような計画があるか、評価の考え方等調べておく。事後提出する(30)		
第9回 養護と教育が一体的に展開する保育			養護と教育について事前に調べる。事後提出する(30)		
第10回 子どもの主体的性を尊重する保育(事例をもとにグループワーク・発表)			幼児の主体的な遊びを展開する事例を読み考えをまとめる(40)		
第11回 環境を通して行う保育(ディスカッション)			環境とは何か。子どもの育ちを保障する環境について考えをまとめ提出する(50)		
第12回 個と集団の育ちを支える保育			一人一人に応じた保育の重要性をまとめる。事後提出する(40)		
第13回 家庭や地域との連携を踏まえた保育(グループワークと発表)			小学校への接続をふまえた保育の重要性を考え、まとめる(40)		
第14回 多様な保育ニーズについて(グループでテーマを決めて話し合い、発表)			多様な保育の実態を調べ配慮や支援の在り方についてレポートをまとめる。事後提出する(50)		
第15回 手作り遊具の発表。まとめと保育内容の課題			子どもが楽しめる手作り遊具を発達に合わせたものを考え、事前に少しづつ作成し発表できるようにしておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業に参加する前に必ずテキストを読み、演習問題は考えをまとめておく。また初めて出会う用語の意味を調べる。授業後は、講義内容について復習をし、自己課題を見つけ探求する。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等は点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。その際、講評します。復習の材料とする。					
評価方法・基準:定期試験 60%、小テスト・ミニレポート 20%、受講態度(取り組む姿勢・参加度)20%を総合的に評価する					
教科書:テキスト:「新しい保育講座4 保育内容総論」大豆生田啓友(ミネルヴァ書房)					
参考書:「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「保育所保育指針解説書」					
備考:テキスト以外にプリントや ICT 機器なども使用する。事前学習を行い、積極的に授業(グループワーク)に取り組んだり、課題提出日等のルールを守る。					
実務経験の内容・期間:保育士経験39年、そのうち保育園園長10年経験する。					

科目名称:教育課程論					
担当者名:斎藤修啓					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106317
授業概要:保育の計画と評価の基本について解説し、保育所における保育計画を保育所保育指針と幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連を踏まえ保育課程の編成と指導計画作成について事例等を通して具体的に理解する。さらに、その計画、実践、省察・評価、改善の過程について全体構造をとらえて理解する。					
到達目標:保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。保育計画および教育計画の作成に関する方法や重要事項を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 保育の基本と計画			教科書第1章(pp.2-11)の予習(30)		
第2回 幼児教育の遊びと学び(1)遊びから学びへ			教科書第2章前半(pp.14-20)の予習(30)		
第3回 幼児教育の遊びと学び(2)幼児期から児童期への教育			教科書第2章後半(pp.20-26)の予習(30)		
第4回 保育における計画の変遷(1)幼稚園の創設期から			教科書第3章前半(pp.28-37)の予習(30)		
第5回 保育における計画の変遷(2)昭和期の幼稚園			教科書第3章後半(pp.38-45)の予習(30)		
第6回 幼稚園における教育課程			教科書第4章(pp.48-57)の予習(30)		
第7回 保育所における保育課程			教科書第5章(pp.60-68)の予習(30)		
第8回 教育課程・保育課程の編成と実際			教科書第6章(pp.70-84)の予習(30)		
第9回 教育課程・保育課程の実施と指導計画作成			教科書第7章(pp.86-98)の予習(30)		
第10回 幼稚園における指導計画作成の実際			教科書第8章(pp.100-114)の予習(30)		
第11回 保育所における指導計画作成の実際(1)長期の指導計画			教科書第9章前半(pp.116-131)の予習(30)		
第12回 保育所における指導計画作成の実際(2)短期の指導計画			教科書第9章後半(pp.131-139)の予習(30)		
第13回 保育における評価			教科書第10章(pp.142-152)の予習(30)		
第14回 教育課程・保育課程の課題と展望(1)海外の動向			教科書第11章前半(pp.154-162)の予習(30)		
第15回 教育課程・保育課程の課題と展望(2)日本への示唆と今後の課題			教科書第11章後半(pp.163-166)の予習(30)		
履修に必要な予備知識や技能:幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通読しておくことが望ましい。					
課題に対するのフィードバック:授業中に示された小課題などの提出物は、点検されたあと、次回以降の授業で返却する。復習・理解度のチェックに活用してください。					
評価方法・基準:定期試験 60%、小課題や提出物 20%、授業への参加度 20%。					
教科書:「教育課程論」神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香編(光生館、2018年)					
参考書:「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:保育方法論					
担当者名:川邊 音生、川邊 弘之					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24107031
授業概要:保育の方法について、その理論と実際の方法をできるだけ具体的な実践事例を取り上げながら理解していく。また、保育を深めるための視点として子どもを理解し、保育現場での実践経験から総合的に把握する力を養う。					
到達目標:1. 保育の基本を踏まえた考え方や乳幼児期にふさわしい保育方法への理解を深める。 2. 保育の本質を探りながら子どもの発達や状況に応じた保育のあり方を考え、子ども主体の視点をもつ。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 保育方法の基本的な考え方(川邊音生)			保育実習のファイルから保育者の子どもへのかかわり方について探る(60)		
第2回 子ども理解と保育の方法(保育実習から見えた子どもへのかかわり方:グループディスカッション)(川邊音生)			教科書第1章のP.5~10のエピソードを読み、保育の方法について一つの遊びからイメージし、気づきをまとめる(90)		
第3回 環境を生かした保育の方法(DVD 視聴による考察:グループディスカッション)(川邊音生)			教科書第3章、保育所保育指針解説第1章総則を精読する(60)		
第4回 個と集団を生かした指導方法(『遊び』の模擬実践による考察:グループディスカッション)(川邊音生)			前回の授業内容「保育の環境」についてレポートを書く。教科書第5章を精読する(90)		
第5回 保育の方法と形態①(実践経験からの考察と協働企画への立案:グループディスカッション)(川邊音生)			これまでの企画実践した経験を子どもの視点で考察し、レポートを書く(90)		
第6回 保育の方法と形態②(DVD の場面を通しての考察:グループディスカッション)(川邊音生)			課題レポートでの補足点を再考する。教科書第6章のP.87~94を精読する(60)		
第7回 遊びによる総合的な指導方法①(幼児の遊びの企画・立案:グループワーク)(川邊音生)			集団で行う幼児の遊びを調べ、企画案を作る(90)		
第8回 遊びによる総合的な指導方法②(『遊び』の実践と考察:グループディスカッション)(川邊音生)			計画した遊びの準備をする(60)		
第9回 3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法(川邊音生)			子どもの主体的な遊びについて考察し、レポートを書く 教科書第7章、保育所保育指針解説第2章3を精読する(60)		
第10回 0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法(川邊音生)			教科書第8章、保育所保育指針解説第2章1,2を精読する(60)		
第11回 保育の展開の方法(身近なものを使った『遊び』の展開の仕方:グループワーク)(川邊音生)			保育実習のファイルに目を通し、指導案の内容を調べておく(60)		
第12回 保育の計画・実践・評価(グループディスカッション)(川邊音生)			保育の計画について、身近なものを使った遊びの指導案を作る(90)		
第13回 家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育(川邊弘之)			家庭に連絡する事項等について考慮し、お知らせボードを作る 保育所保育指針解説書第2章4を精読しておく(90)		
第14回 配慮を要する子どもへの保育方法(事例による保育カンファレンス)(川邊弘之)			教科書第12章のP.217~226のエピソードを読み、イメージした子どもの姿についてレポートにまとめる(90)		
第15回 多様なニーズに伴った保育方法(まとめ(課題によるグループディスカッション)(川邊弘之)			これまでの授業の項目に沿って復習をしておく(90)		
履修に必要な予備知識や技能:保育所・こども園で行った実習記録のファイルから保育の方法についてまとめておく。『保育所保育指針解説』、『幼稚園教育要領解説』の第1章、第2章を精読しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:前回の授業の要点について、授業初めに確認する。事後課題・レポートは点検後に返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験60% レポート20% 受講態度20%					
教科書:『保育方法・指導法』大豆田啓友・渡辺英則・森上史朗 編 ミネルヴァ書房 『保育所保育指針解説』(フレーベル館)、『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)					
備考:保育実習を振り返り、経験したことから保育の方法についての学びを具体化していく。					
実務経験の内容・期間:川邊 音生(保育教諭 2年)					

科目名称:保育原理 I					
担当者名:石倉 瑞恵					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24102023
授業概要:保育の意義・本質について解説する。明確な認識をもたせ、保育の場における歴史と類型について理解していく。そして、保育所や認定こども園における保育の原理と特徴、環境、類型について理解していく。また、発達過程区分における保育の内容についても学んでいく。					
到達目標:人間形成における幼児期の位置づけ、子どもの世界の独自性、保育者のまなざしについて、保育思想を手掛かりとして説明することができる。環境を通した保育の意義を理解し、保育環境を構成する様々な要素の教育的効果を分析し、説明することができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			本日のまとめを文章化(30)		
第2回 子どもの特性			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第3回 子どもの感性			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第4回 ルソーの子ども観			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第5回 フレーベルと子どもの世界			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第6回 フレーベルの遊びと恩物			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第7回 東基吉とくめ:子どもの世界を歌う			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第8回 大正自由教育と子どもの文化・遊び			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第9回 モンテッソーリの教育観と感覚教具			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第10回 モンテッソーリの子どもの家と環境			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第11回 恩物と感覚教具の構成を比べてみよう			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第12回 現代社会とメディア:ジェンダーからの課題			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第13回 現代社会とメディア:アニメの影響			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第14回 倉橋惣三と保育の一日			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第15回 保育者としての着眼点			本日のまとめを文章化(60)		
履修に必要な予備知識や技能:保育のみならず、教育、社会問題等に関心を広げ、情報を収集する。課題やレポート作成に必要な表現力や論理的記述力を向上させるために、様々な文章(図書)を進んで読むように心がける。					
課題に対してのフィードバック:授業で提出した課題レポートについては、点検の後、次回以降の授業で講評する。					
評価方法・基準:最終試験(70%)、小課題、予習・復習の実施状況 30%。					
教科書:教科書:使用テキストなし、プリントを配布 参考書:『最新保育原理 一わかりやすく保育の本質に迫る』(島田ミチコ 監修、教育情報出版) 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』『幼保連携型認定こども園保育・教育要領』					
備考:講義を中心とする。学生の意見交換、発表を適宜取り入れる。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:保育原理Ⅱ					
担当者名:石倉 瑞恵					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24203031
授業概要:「保育原理Ⅰ」で学んだことを踏まえ、現代の多様化・高度化する保育ニーズに対する専門性について理解していく。また、保育所や認定こども園における保育の健康と安全、家庭・地域との連携にも関連付けて学んでいき、相談援助の基本的原理と実践についても理解を深めていく。					
到達目標:多様化する日本社会の様相を理解して、子どもを取り巻く環境や子育て・保育の中に課題を見出し、その課題を解決する方策や援助者のあり方について考えを深め、説明することができる。先進的な保育事例を学び、その保育方法について説明するとともに、日本の状況に照らして応用することができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第2回 日本の子育てと家族支援			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第3回 フランスの子育てと家族支援			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第4回 フランスの保育の独自性			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第5回 ドイツの特色ある保育:フレールハウスと森の幼稚園			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第6回 シュタイナーの遊びとその応用			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第7回 スウェーデンの保育が大切にしている価値観			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第8回 日本のこれからの課題?:スウェーデンに学ぶ自然教育			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第9回 環境との親和性:グリーン・スクール・バリの保育環境に学ぶ			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第10回 日本社会と子どもの遊びの変化			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第11回 空地時代の子どもの人間関係と遊び			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第12回 情報化社会の遊び:コンピュータゲームのよしあし			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第13回 子どもの権利と幸福を考える			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第14回 子どもの権利と幸福を世界的視野で考える			本日のまとめを文章化(30)、次回授業のキーワードに基づいた予習(30)		
第15回 これからの保育のあり方を探る			本日のまとめを文章化(60)		
履修に必要な予備知識や技能:保育のみならず、教育、社会問題等に関心を広げ、情報を収集する。課題やレポート作成に必要な表現力や論理的記述力を向上させるために、様々な文章(図書)を進んで読むように心がける。					
課題に対するフィードバック:授業で提出した課題レポートについては、点検の後、次回以降の授業で講評する。					
評価方法・基準:最終試験 70% 小課題、予習復習の実施状況 30%					
教科書:教科書:使用テキストなし、プリントを配布 参考書:『最新 保育原理一わかりやすく保育の本質に迫る』(島田ミチコ 監修 教育情報出版) 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』、『幼保連携型認定こども園保育・教育要領』					
備考:講義中心であるが、アクティブラーニングを適宜導入					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:社会的養護 I					
担当者名:元田 英樹					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24102024
授業概要:現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について解説する。児童福祉との関連性や児童の権利擁護について解説し、社会的養護の制度や実施体系について理解する。その上で、施設養護の実際を人権擁護についての解説を交え、自立支援を中心に多方面から考察する。さらに、社会的養護の現状と課題について考察する。					
到達目標:①社会的養護とは何かについて理論面と実践例を通して理解する。②社会的養護と権利擁護の関連について理解する。③社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割について理解する。④社会的養護の現状と課題について理解する。⑤家庭的養護推進計画					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	現代社会における社会的養護の意義と変遷		教科書 p1~p18 予習(30)		
第2回	子どもの人権擁護と社会的養護		教科書p19~p33 の予習(30)、こどもの権利条約の成り立ちとポイントについて調べておく		
第3回	家族の機能と社会的養護		教科書p34~48 の予習(30)		
第4回	社会的養護の基本原則 I 養育一日常生活支援一		教科書p49~p61 の予習(30)		
第5回	" II 保護一自己実現に向けた支援一		教科書p62~p73 の予習(30)		
第6回	" III 子どもであることへの回復一治療的支援一		教科書p74~p85 の予習(30)		
第7回	" IV 生活文化と生活力の習得一自立支援一		教科書p86~p100 の予習(30)		
第8回	" V 生命倫理観の醸成一生と性の倫理		教科書p101~p117 の予習(30)		
第9回	社会的養護の制度と実施体系		教科書p118~p134 の予習(30)		
第10回	施設養護の対象・形態・専門職 I 一乳児院と児童養護施設		児童養護施設のDVD鑑賞、DVDを見ての小レポート教科書教科書p135~p147 の予習		
第11回	" II 一障害児の入所施設		教科書p148~p159 の予習(30)		
第12回	" III 一児童自立支援施設と児童心理治療施設		教科書p160~p169 の予習(30)		
第13回	家庭養護の特徴・対象・形態一里親とファミリーホーム		教科書p170~p193 の予習(30)		
第14回	社会的養護の現状と課題		教科書p194~p237 の予習(30)		
第15回	まとめ		レジュメのまとめ及び補足説明		
履修に必要な予備知識や技能:毎回授業の前に教科書の指定箇所を予習して講義に臨む。					
課題に対するフィードバック:授業中に提出した課題、レポートは点検・添削された後次回以降の授業で返却されます。復習の材料として下さい。					
評価方法・基準:受講態度 20%、小レポート 10%、テスト 70%による総合評価。					
教科書:教科書:社会的養護 I (萌文書林)					
参考書:季刊 児童養護					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:社会的養護Ⅱ					
担当者名:元田 英樹					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24206052
授業概要:社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について触れ、施設養護及び他の社会的養護について学ぶ。具体的事例を通し、支援計画と内容を分析し、関連するソーシャルワークの方法と技術について理解する。さらに、社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解を深める。					
到達目標:①事例を通し、施設養護及び他の社会的養護に求められていることを学ぶ。②事例を通し、施設児童に必要とされる日常生活支援、治療的支援、自立支援等を学ぶ。③家庭支援や地域福祉についての理解を深める。④弱い立場に立たされている人間と共に生きることの苦しみと喜びを学ぶ。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 児童養護施設とは			予習(30)		
第2回 養育のはじまり①			予習(30)		
第3回 養育のはじまり②			予習(30)		
第4回 養育のはじまり③			予習(30)		
第5回 つながりの契機④			予習(30)		
第6回 つながりの契機⑤			予習(30)		
第7回 つながりの契機⑥			予習(30)		
第8回 再生・自立に向けて⑦			予習(30)		
第9回 再生・自立に向けて⑧			予習(30)		
第10回 再生・自立に向けて⑨			予習(30)		
第11回 自立支援・退所後の生活⑩			予習(30)		
第12回 自立支援・退所後の生活⑪			予習(30)		
第13回 自立支援・退所後の生活⑫			予習(30)		
第14回 子どもからのメッセージ⑬			予習(30)		
第15回 子どもからのメッセージ⑭			これまでの学習内容の振り返り		
履修に必要な予備知識や技能:その都度、テキストのエピソードを提示し、予習して講義に臨む。					
課題に対するのフィードバック:授業中に提出した課題、レポートは点検・添削された後次回以降の授業で返却されます。復習の材料として下さい。					
評価方法・基準:受講態度 20%、出力カードの質問・意見 10%、小レポート 70%					
教科書:教科書:「子どもの声に耳をすませて」全国児童養護施設協議会 参考書:季刊児童養護					
備考:昨年度のシラバスでは準備学習の箇所を事前に提示したが、今年度はその都度テキストのエピソードを学生と協議し、講義に望むスタイルを考えている。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:発達心理学 I					
担当者名:岡本 茜					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204412
<p>授業概要:障害のある子どもを含む幼児、児童の心身の発達および学習の過程を学習する。また、幼児教育、保育の実践にかかわる心理学の知識を学習し、発達にかかわる心理学の基礎を学び、子どもへの理解を深め、子どもが他者との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、幼児教育・保育との関連を考える。個人と環境との相互作用により発達過程が影響されることを理解し、代表的な発達理論に基づいて、生涯に渡る発達過程と発達過程を規定する要因について理解を深める。</p>					
到達目標:授業概要で示した内容について理解・考察し、説明できることを目標とします。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 こどもの発達を理解することの意義、教育・保育の評価と心理学との関連			大学図書館などで、関連図書を選択し、講義内容について自主学習を行うこと(90)		
第2回 発達とは、子どもとは			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第3回 発達に関する研究の方法			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第4回 発達と環境			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第5回 身体的機能、運動機能の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第6回 知覚と認知の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第7回 言葉と社会性の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第8回 感情の発達と自我			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第9回 愛着、基本的信頼感の獲得			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第10回 他者とのかかわり、社会的相互作用の基礎			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第11回 生涯発達と初期経験、発達援助			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第12回 胎児期及び新生児期の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第13回 乳幼児期の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第14回 児童期から高齢期の発達			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第15回 まとめ			学習内容について振り返り、まとめておく(120)		
履修に必要な予備知識や技能:大学図書館などで、発達心理学に関する図書を選択し読んでおくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。					
評価方法・基準:講義への取り組みの状況(20%)、定期試験(80%)等に基づいて総合的に評価します。					
教科書:教科書:中道主人・小川翔大編、(2021)「教育職・心理職のための発達心理学」、ナカニシヤ出版					
参考書:「中学校学習指導要領」文部科学省、「高等学校学習指導要領」文部科学省、「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省、「高等学校学習指導要領解説 公民編、福祉編」文部科学省					
備考:本科目は、教職課程などに関連する科目であるため、シラバスの基本的な内容を維持します。必要に応じて、Google Classroom や youtube などを用いることがあります。講義内容に関連した課題、テーマなどについて、考察・意見交換・発表などを行います。					
実務経験の内容・期間:医療領域(精神科、約4年)、教育領域(スクールカウンセラー・学生相談室、約16年)。臨床心理士・公認心理師。					

科目名称:発達心理学Ⅱ					
担当者名:奥田裕紀					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24205413
授業概要: 障害のある子どもを含む幼児、児童の心身の発達および学習の過程について学習する。また、様々な障害のある子どもを含む幼児、児童の理解の方法や、教育に関する心理学的研究の成果や、発達の支援などについても学習する。					
到達目標: 授業概要で示した内容について理解・考察し、説明できることを目標とします。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 発達心理学Ⅰのふりかえり			発達心理学Ⅰの講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと(90)		
第2回 発達障害とは			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第3回 自閉症スペクトラム障害とその援助・学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第4回 ADHDとその援助・学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第5回 学習障害および関連する障害とその援助・学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第6回 知能とは			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第7回 知的障害とその援助・学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第8回 胎児期の発達と学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第9回 新生児期の発達と学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第10回 乳幼児期の発達と学習過程(乳児期)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第11回 乳幼児期の発達と学習過程(幼児期)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第12回 児童期の発達と学習過程(基礎)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第13回 児童期の発達と学習過程(展開)			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第14回 青年期から高齢期の発達と学習過程			前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)		
第15回 まとめ			学習内容について振り返り、まとめておくこと(120)		
履修に必要な予備知識や技能: 発達心理学Ⅰの内容を再確認し、大学図書館などで、発達心理学Ⅱに関する図書を選択し、読んでおくこと。履修条件となっている科目: 発達心理学Ⅰ					
課題に対するフィードバック: 授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。					
評価方法・基準: 講義への取り組みの状況(20%)、定期試験(80%)等に基づいて総合的に評価します。					
教科書: 教科書は、特に指定しませんが、資料配布などをします。参考書: 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考: 本科目は、教職課程などに関連する科目であるため、シラバスの基本的な内容を維持します。必要に応じて、Google Classroomやyoutubeなどを用いることがあります。講義内容に関連した課題、テーマなどについて、考察・意見交換・発表などを行います。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:子どもの理解と援助					
担当者名:川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204041
授業概要:保育実践において、子どもの心身の発達や援助についての理解を深める。具体的には、保育実践例や保育の視聴覚映像などを手かかりとしながら、子どもの心身の状態や行動について把握する目を養う。また、生活や遊びを通して得られる学びや経験について理解を深め、子どもの取り巻く環境や育ちに応じた発達援助について学んでいく。					
到達目標:子どもの心身の発達にかかわる基本的な知識に基づきながら、個々の発達課題や個人差に応じた援助の在り方について考えることができる。実践演習やグループワークを通して、保育者に必要な協調性や柔軟性、主体性などを培うことができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 子ども理解とは	事前にこれまでの子どもとの関わりや保育実践などを振り返り、整理しておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第2回 子どもの発達理解	事前に教科書を参考にこれまで学習した子供の発達について復習しておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第3回 子ども理解と環境理解(グループワーク)	事前に教科書、配布資料を参考に環境理解とは何かについて考えをまとめる(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第4回 子ども理解を深めるための実態調査	事前に教科書、配布資料を参考に調査方法の違いなどについて理解する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第5回 子ども理解から始まる計画と援助	事前に教科書を参考に計画と支援について具体的に考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第6回 保育実践における子ども理解(グループワーク)	事前に教科書を読み実習経験などから考えをまとめる(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第7回 子ども理解と養護	事前に教科書、保育所保育指針を読み養護について復習しておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第8回 気になる子どもの理解	事前に教科書、配布資料、実習経験を参考に気になる子どもについて考えをまとめておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第9回 障害のある子どもの理解と援助	教科書を参考に「障害」について考えをまとめておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第10回 子ども理解と保護者理解(グループワーク)	事前に教科書、配布資料を参考に、保育における保護者理解について考える(60)学習内容を振り返りフォーム課題を提出する(60)				
第11回 子育て支援・家庭支援と子ども理解	事前に教科書、配布資料を参考に、子育て支援について復習しておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第12回 専門機関との子ども理解の共有	事前に協働できる地域の専門機関を調べておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第13回 子ども理解を深める実践と省察	事前に教科書を読み、「実践と省察」について理解する(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第14回 保育カンファレンスにおける子ども理解	事前に教科書を参考にして、保育カンファレンスについて理解を深める(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)				
第15回 子ども理解に基づく援助から生まれるもの	これまでの授業内容を整理し、復習する(60)				
履修に必要な予備知識や技能:これまで関わった子どもたちの姿や発達の様子を振り返り、自らの子ども観、発達観、保育観について考えをまとめておくこと。保育に関するさまざま実践例に関心を持ち、目を通しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:前回の授業の要点や、出席カードに記載された質問について授業初めに確認する。レポートは点検後に返却し、講評する。					
評価方法・基準:レポート 60% レポート 20% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:保育士を育てる③「子どもの理解と援助」―藝社 参考書:「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:グループワークや演習等を取り入れながら、より主体的・実践的に学べるようにする。					
実務経験の内容・期間:保育教諭(2年)					

科目名称: 幼児教育心理学					
担当者名: 田中 龍児					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200411
授業概要: 障害のある子どもを含む、幼児、児童の心身の発達および学習の過程について学習する。また、乳幼児期・児童期における学習・記憶・知能・動機付け・個人差・指導法と評価などについて学習する。また、障害のある子どもを含む乳幼児、児童の理解や家族へのかかわり、保育における教育的な課題や相談などについて学習する。					
到達目標: 授業概要で示した内容について理解・考察し、説明できることを目標とします。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	はじめに	大学図書館などで、関連図書を選択し、講義内容に関する自主学習を行うこと(90)			
第2回	教育心理学の目的と方法	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第3回	教育的評価	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第4回	学習過程の基礎	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第5回	学習過程と知能	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第6回	乳幼児・児童の学習過程	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第7回	記憶のしくみと学習過程	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第8回	こどもの特性の理解とその測定方法	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第9回	発達理論と学習過程	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第10回	こどもの家庭、幼稚園・保育所、こども園などの生活における社会的行動と学習過程	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第11回	各種の障害と障害のある子どもや周囲の人の理解とかかわり、学習過程(各種の障がい)	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第12回	各種の障害と障害のある子どもや周囲の人の理解とかかわり、学習過程(かかわりと学習過程)	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第13回	保育における教育的課題、学習過程と家族との相談(基礎)	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第14回	保育における教育的課題、学習過程と家族との相談(発展)	前回の講義内容を確認し、講義内容について自主学習を行うこと、指示された内容の学習を行うこと(90)			
第15回	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、まとめておくこと(120)			
履修に必要な予備知識や技能: 大学図書館などで、教育心理学に関する図書を選択し、読んでおくこと					
課題に対するフィードバック: 授業内で行った課題については、可能な限り当該授業、次回授業などで解説します。					
評価方法・基準: 講義への取り組みの状況(20%)、定期試験(80%)等に基づいて総合的に評価します。					
教科書: 教科書は、特に指定しませんが、資料配布などをします。参考書: 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考: 本科目は、教職課程などに関連する科目であるため、シラバスの基本的な内容を維持します。必要に応じて、Google Classroom や youtube などを用いることがあります。講義内容に関連した課題、テーマなどについて、考察・意見交換・発表などを行います。					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称:臨床心理学 I					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200061
授業概要:こころの不適応状態がどのように生じているのか、また、こころの健康がどのようにして促進されるのかについて理解を深めることができるよう解説する。					
到達目標:1. 生涯発達、こころの発達の基礎を学ぶことで、その人固有の歴史に対する理解を深める。 2. ストレスによる心理的問題について理解し、回復するための資源(リソース)を学ぶ。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 臨床心理学とは何か			異常と正常、生物-心理-社会モデルについて下調べする(60)		
第2回 こころの生物学的基盤			脳の構造と機能について下調べする(60)		
第3回 ライフサイクルと心理的問題(1) 生涯発達の視点、乳幼児期と心理的問題			ハイリスク児、虐待、アタッチメント理論について下調べする(60)		
第4回 ライフサイクルと心理的問題(2) 児童期の心理的問題、思春期の心理的問題			発達障害、いじめ、不登校、非行について下調べする(60)		
第5回 ライフサイクルと心理的問題(3) 青年期の心理的問題			ひきこもり、精神障害、適応障害について下調べする(60)		
第6回 ライフサイクルと心理的問題(4) 中年期の心理的問題			うつ病、自殺について下調べする(60)		
第7回 ライフサイクルと心理的問題(5) 老年期の心理的問題			認知症、高次脳機能障害について下調べする(60)		
第8回 ライフサイクルと心理的問題(6) 家族の発達と心理的問題			自分の家族のそれぞれのライフサイクルを考える(60)		
第9回 生物学的な視点からのストレス			脳の構造と機能について下調べする(60)		
第10回 ストレスに関するさまざまな心理学的理論			心理社会的ストレスモデルについて下調べする(60)		
第11回 ストレス反応と個人差			性格特性について下調べする(60)		
第12回 ストレッサーと関連した心理的反応			PTSD、物質関連障害について下調べする(60)		
第13回 ストレスから回復するための資源(リソース)			ソーシャルサポート、コーピングについて下調べする(60)		
第14回 ストレッサーに対処しながら生きる、健康生成論			健康生成論について下調べする(60)		
第15回 逆境と成長に関する諸概念			レジリエンスについて下調べする(60)		
履修に必要な予備知識や技能:履修に必要な予備知識や技能:身近で生じているこころの問題に対する感度を上げ、テレビや新聞等で情報を得ること。教科書の該当箇所を読んで分からない語句があれば、都度、調べる。					
課題に対してのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 2「心理学と心理的支援」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規 (2021年2月改訂前 新・社会福祉士養成講座「心理学理論と心理的支援」第3版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規でも可) (1年次「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」で使用したものを継続して使用する) 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:本講義を受講するには、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」の履修が必要です。 教科書は新旧どちらでも対応できるよう配布資料等で補足します。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:臨床心理学Ⅱ					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200062
授業概要:さまざまな心理療法の理論と主だった技法について広く学ぶ。また、対人支援の専門家が活躍するさまざまな関係機関の役割、現状、および心理的支援の課題について概説する。					
到達目標:1. 個人および集団への治療的介入にはどのようなものがあるかを理解し、主だった心理療法の概要を自分の言葉で説明できること。 2. さまざまな関係機関の役割、現状、および心理的支援における課題を理解すること。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 臨床心理学の基本概念			チームアプローチ、多職種連携について下調べをする(60)		
第2回 心理アセスメントの理論と技法(1) 面接法、観察法			面接者の基本的態度、参与しながらの観察について下調べする(60)		
第3回 心理アセスメントの理論と技法(2) 検査法			「心理学Ⅰ」で学んだ発達、知能、性格について復習する(60)		
第4回 ケースフォーミュレーション、ケースマネジメント、ケアマネジメント			見立て、心理的診断について下調べする(60)		
第5回 心理学的支援の基本的面接技法			ナラティブアプローチ、ヒューマニスティックアプローチについて下調べする(60)		
第6回 心理療法の理論と個人への介入技法(1) 精神分析と力動的心理療法			フロイトとユングの理論について下調べする(60)		
第7回 心理療法の理論と個人への介入技法(2) 行動理論と行動療法			「心理学Ⅰ」で学んだ学習理論について復習する(60)		
第8回 心理療法の理論と個人への介入技法(3) 認知理論と認知行動療法			認知理論について下調べする(60)		
第9回 心理療法の理論と個人への介入技法(4) プレイセラピー、箱庭療法			非言語的アプローチについて下調べする(60)		
第10回 心理療法のさまざまなパラダイム 家族療法、ブリーフセラピー、対人関係療法			家族療法、ブリーフセラピー、対人関係療法について下調べする(60)		
第11回 日本で生まれた心理療法 動作法、内観療法、森田療法			動作法、内観療法、森田療法について下調べする(60)		
第12回 集団・社会への介入技法 SST、心理劇			SST、心理劇について下調べする(60)		
第13回 実践の場での活用 (1)子ども・家庭福祉 (2)高齢者福祉			ライフストーリーワーク、回想法について下調べする(60)		
第14回 実践の場での活用 (3)障がい児・者福祉 (4)精神保健福祉			ストレングス、オープンダイアローグについて下調べする(60)		
第15回 実践の場での活用 (5)支援者支援福祉 (6)制度利用と心理的ケア			レスパイトケアについて下調べする(60)		
履修に必要な予備知識や技能:「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」および「臨床心理学Ⅰ」で学んだ知識と関連づけて、教科書を読みこなすこと。					
課題に対するフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:定期試験70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 2「心理学と心理的支援」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規 (2021年2月改訂前 新・社会福祉士養成講座「心理学理論と心理的支援」第3版 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規でも可) (1年次「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」および「臨床心理学Ⅰ」と同じものを継続して使用する。 参考書:講義内で適宜紹介する。					
備考:本講義を受講するには、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」の履修が必要です。 教科書は新旧どちらでも対応できるよう配布資料等で補足します。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:カウンセリング I					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200063
<p>授業概要: 相談面接技術は、対人支援専門職に不可欠な専門技術である。「傾聴」や「共感」の原点であるカール・ロジャースの来談者中心療法をベースにしてカウンセリングの核心を学ぶ。カウンセリングの歴史、プロセス、独自性、倫理を学ぶことを通じて、それぞれの専門職としてのあり方や支援関係の築き方について、考えを深めるきっかけを与える。</p>					
<p>到達目標: 1. カウンセリングとは何か、について自分なりの言葉で説明できる。  2. 「積極的傾聴」とは何か、について理解でき、態度の違いを弁別できる。  3. 将来、自分がなりたい対人援助職において、カウンセリングをどのように生かせるか、が考えられる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要 役に立つ支援とは			配布資料を読み返し、要点を確認する(60)		
第2回 カウンセリングの歴史			配布資料を読み返し、要点を確認する(60)		
第3回 クライアントの心理的経験からみたプロセス			配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第4回 支援者(カウンセラー)の行動からみたプロセス			配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第5回 カウンセリングの独自性			配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第6回 カール・ロジャースのパーソナリティ理論			教科書の該当箇所の予習、配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第7回 パーソナリティ変化のための必要十分条件 (1) 無条件の肯定的関心			教科書の該当箇所の予習、配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第8回 パーソナリティ変化のための必要十分条件 (2) 共感的理解			教科書の該当箇所の予習、配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第9回 パーソナリティ変化のための必要十分条件 (3) 自己一致			教科書の該当箇所の予習、配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第10回 コミュニケーションを促進するもの、阻むもの			配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第11回 専門職と倫理			配布資料を読み返し、要点をまとめる(60)		
第12回 援助として展開するということ			配布資料を丁寧に読み返し、要点を確認する(30)		
第13回 来談者のいるところから始める相談とは			配布資料を丁寧に読み返し、要点を確認する(30)		
第14回 潜在的な真のニーズをキャッチする			配布資料を丁寧に読み返し、要点を確認する(30)		
第15回 カール・ロジャースによる面接とまとめ【DVD「グロリアと3人のセラピスト」視聴】			これまでの配布資料全体を見返し、パーソナリティ変化の3条件をまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 自分や身近な家族、友達の対人関係の築き方、コミュニケーションの取り方について興味・関心を持ち、どのように違うか観察すること。					
課題に対するのフィードバック: 出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準: 課題レポート 70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書: 教科書: 「傾聴の心理学 PCAをまなぶ」坂中正義編著 創元社 参考書: 「逐語で学ぶ21の技法 対人援助のための相談面接技術」岩間伸之著 中央法規 ほか、講義内で適宜紹介する。					
備考: 必ず「カウンセリングⅡ」と同時に受講してください。 本講義ではロールプレイを多く行います。ロールプレイに取り組む態度も、受講態度の評価対象となります。 何らかの配慮が必要な場合には、直接申し出てください。					
実務経験の内容・期間: 精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称:カウンセリングⅡ					
担当者名:渡邊 亮士					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200064
授業概要:「カウンセリングⅠ」で学んだことを背景に「マイクロカウンセリング技法」に基づいて、カウンセリングの基本的な技術を学ぶ。講義の中にグループワークを織り交ぜ、基本的なかかわり行動を習得する。					
到達目標:1. カウンセリングの基本的な技法の名前が分かり、自分の言葉で説明できる。 2. 基本的なかかわり行動が習得できる。 3. 会話中の自分の応答がどの技法にあたるか、基本的なものであれば正しく識別できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業概要 準拠枠とマイクロカウンセリング			配布資料を読み返す(30)		
第2回 面接の外的要因と内的要因			教科書該当箇所の予習、配布資料の復習(60)		
第3回 信頼関係と基本的なかかわり行動			配布資料を読み返す(30)		
第4回 クライアントの観察技法			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第5回 はじめて出会う			配布資料を読み返す(30)		
第6回 応答技法 (1) 最小限のはげまし(あいづち、繰り返し)			教科書該当箇所の予習(60)		
第7回 質問技法 効果的な質問とは			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第8回 応答技法 (2) 言いかえ			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第9回 応答技法 (3) 言いかえ、要約			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第10回 感情の反映 (1) 感情表出を促す、表情で応える			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第11回 感情の反映 (2) 感情表現を繰り返す、言いかえる、言葉で返す			教科書該当箇所の予習、配布資料を読み返す(60)		
第12回 沈黙			教科書該当箇所の予習、配布資料の復習(60)		
第13回 質問技法のロールプレイ			第7回の復習、質問技法を使って身近な人と5分間会話する(60)		
第14回 最小限のはげまし、言いかえ、要約のロールプレイ			第6,8,9回の復習、各技法を用いながら身近な人と10分間会話する(60)		
第15回 感情の反映も含めた技法の統合			教科書および配布資料の総復習(60)		
履修に必要な予備知識や技能:身近な人とのコミュニケーションの中での自分の応答の仕方を観察してみること。					
課題に対するのフィードバック:出席カードに記載された質問・意見、講義内で求めた例題への応答、レポート等には、次回以降の講義で解説・講評する。					
評価方法・基準:課題レポート70% 受講態度(講義への参加度)30%					
教科書:教科書:「逐語で学ぶ21の技法 対人援助のための相談面接技術」岩間伸之著 中央法規 参考書:「傾聴の心理学 PCAをまなぶ」坂中正義編著 創元社 ほか、講義内で適宜紹介する。					
備考:必ず「カウンセリングⅠ」と同時に受講してください。 本講義ではロールプレイを多く行います。ロールプレイに取り組む態度も、受講態度の評価対象となります。 何らかの配慮が必要な場合には、直接申し出てください。					
実務経験の内容・期間:精神科・小児科・脳神経内科臨床(19年)、臨床心理士(19年)、公認心理師(5年)					

科目名称: 幼児理解と教育相談					
担当者名: 三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24100311
授業概要: 幼稚園教諭・保育士にとって必要な基礎理論および相談・援助の方法について講義する。幼児の特性の理解を深め、幼児期の発達、幼児への発達支援、保護者への援助・対応、教育相談活動と専門家との連携について事例を取り上げながら理解していく。					
到達目標: 幼児期の発達を理解し、子どもへの発達援助を説明できる。保護者への対応を理解し、子育て支援の視点から説明できる。教育相談活動と専門家との連携について理解し、説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 幼児の特性の理解(1)子どもを取り巻く環境			テキストのP10-17の予習(30)		
第2回 幼児の特性の理解(2)乳幼児の発達			テキストのP18-31の予習(30)		
第3回 幼児の特性の理解(3)発達に伴う諸問題			前回の内容を復習(30)		
第4回 遊びと幼児理解			前回の内容を復習(30)		
第5回 幼児理解と援助の手がかり			前回の内容を復習(30)		
第6回 子ども理解の技法			前回の内容を復習(30)		
第7回 発達障害や気になる子ども			テキストのP47-60の予習(30)		
第8回 発達検査・知能検査			関連科目の該当内容の復習(30)		
第9回 保護者への対応			テキストのP32-46の予習(30)		
第10回 カウンセリング技法のワーク			テキストのP80-85の予習(30)		
第11回 教育相談におけるコンサルテーション			テキストのP86-91の予習(30)		
第12回 専門家との連携			テキストのP92-96の予習(30)		
第13回 保育者の専門性と相談活動			テキストのP96-97,P99-109の予習(30)		
第14回 虐待の事例をどのように理解するか			第11、12、13回の内容の復習(30)		
第15回 現代社会の変化と発達援助			全体の復習(30)		
履修に必要な予備知識や技能: ①実習で関わった子どもの姿からその年齢の発達特性を整理しておくこと ②実習等で見聞した保護者に対する相談等の援助をまとめておくこと					
課題に対するフィードバック: 課題等への質問を講義時間内に受け付ける。					
評価方法・基準: 単位認定レポート50%、授業への参加度50%(毎回の提出物の記述が不十分だと減点対象)					
教科書: 教科書:「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊、秋田喜代美編(みらい)					
備考: 小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る					
実務経験の内容・期間: 家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士21年 公認心理師5年					

科目名称:子ども家庭支援の心理学					
担当者名:三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204042
授業概要:生涯発達について学ぶとともに、初期経験の重要性及び発達課題について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係について理解を深める。子育て家庭に関する現状と課題、子どもの精神保健とその課題についても解説する。					
到達目標:1. 子どもの発達に関する心理学的な知識、特に子どもの初期経験となる家族との関わり的重要性について説明できる。 2. 親子関係、家族関係が子どもの発達に及ぼす影響を理解することができる。 3. 現代の子育て家庭が直面しやすい問題を、社会的状況との関連の中で考えることができる。 4. 子どもの精神保健について理解することができる。 5. 子どもと家庭への適切な支援について、地域資源との連携を踏まえて考えることができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	オリエンテーション	生涯発達とは何か	事前に教科書を参考に、生涯発達について情報を収集し理解しておく(60)		
第2回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達		前回講義の復習と事前に乳幼児期から学童期前期にかけての発達について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第3回	学童期後期から青年期にかけての発達		前回講義の復習と事前に学童期後期から青年期にかけての発達について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第4回	成人期・老年期における発達		前回講義の復習と事前に成人期・老年期における発達について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第5回	家族・家庭の意義と機能		前回講義の復習と事前に家族・家庭の意義と機能について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第6回	子育てを取り巻く社会的状況		前回講義の復習と事前に子育てを取り巻く社会的状況について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第7回	現代の家庭における人間関係		前回講義の復習と事前に現代の家庭における人間関係について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第8回	子育て経験と親としての育ち		前回講義の復習と事前に現代の家庭における人間関係について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第9回	ワーク・ライフ・バランスと子育て		前回講義の復習と事前にワーク・ライフ・バランスと子育てについて教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第10回	多様な家庭環境とその理解		前回講義の復習と事前に多様な家庭環境とその理解について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第11回	特別な配慮を必要とする家庭		前回講義の復習と事前に特別な配慮を必要とする家庭について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第12回	地域社会における家庭支援		前回講義の復習と事前に地域社会における家庭支援について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第13回	子どもの生活環境と育ちへの影響		前回講義の復習と事前に子どもの生活環境と育ちへの影響について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第14回	子どもの精神保健とその問題		前回講義の復習と事前に子どもの精神保健とその問題について教科書の該当箇所を熟読する(60)		
第15回	振り返りとまとめ		前回講義の復習と事前にこれまでの小テスト及び課題レポートを振り返る(60)		
履修に必要な予備知識や技能:これまで関わった子どもたちの姿や発達の様子を振り返り、考えをまとめておくこと。保育現場での様々な家庭支援の実践例に関心を持ち、情報を検索して目を通しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:小テスト及び課題レポート実施の翌週に振り返りを行う。					
評価方法・基準:小テスト 40%、課題レポート提出 30% 授業への参加度 30%					
教科書:教科書:「子ども家庭支援の心理学」 青木紀久代 みらい					
備考:課題に応じ適宜グループワークを実施する。小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る					
実務経験の内容・期間:実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司 16年(心理判定係長 15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士 21年 公認心理師 5年					

科目名称:医学一般					
担当者名:佐久間 寛					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24210076
授業概要:人の成長と発達、心身の構造と機能、主な疾病や障害の概要、リハビリテーションや国際生活機能分類(ICF)、健康の概念を講義する。					
到達目標:心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて学ぶことで、多職種と連携し、支援するために必要な医学知識を得る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 人の成長・発達と老化			教科書の該当部分を予習(60)		
第2回 心身機能と身体構造の概要1:身体部位・器官の名称、体液、血液、環器			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第3回 心身機能と身体構造の概要2:腎臓、呼吸器、消化器、神経			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第4回 心身機能と身体構造の概要3:内分泌器官、生殖器、支持運動器官、皮膚、身体機能の調節			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第5回 疾病の概要1:生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第6回 疾病の概要2:高血圧、糖尿病、内分泌疾患、呼吸器疾患			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第7回 疾病の概要3:消化器疾患、血液疾患、膠原病			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第8回 疾病の概要4:腎臓疾患、泌尿器疾患			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第9回 疾病の概要5:骨・関節疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第10回 障害の概要1:視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第11回 障害の概要2:肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第12回 障害の概要3:認知症、高次脳機能障害、精神障害			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第13回 リハビリテーションの概要			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第14回 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
第15回 健康のとらえ方:健康の概念、職業と健康、終末期医療と緩和ケア			教科書の該当部分を予習、教科書および前回配布したプリントで復習(90)		
履修に必要な予備知識や技能:教科書あるいは参考書の該当部分を読んでおく。					
課題に対するフィードバック:講義中に行った小テストについては、次回の講義初めに解説する。					
評価方法・基準:期末試験 80%、小テスト 10%、受講態度 10%					
教科書:教科書:新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 ―医学一般、第3版、社会福祉養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社 参考書:病気がみえる vol.1~8、メデイックメディア					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:公衆衛生学					
担当者名:打出 喜義					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24200066
授業概要:「病気を治す」時代から「病気を予防する」時代になった今日、公衆衛生学は国民の健康の改善に役立つ学問として重要性が増してきている。そこで、公衆衛生学の立場から、国民の健康の改善について考えてみたい。					
到達目標:・公衆衛生の理念に基づき、健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について説明できる。 ・環境保健の意義と実際を説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 公衆衛生と健康の概念、疫学:疫学の概念、疾病・死亡の指標、疫学の効果指標			教科書 1-18 頁を予習しておく(60)		
第2回 疫学:疫学研究のデザイン、検査の指標とスクリーニング、EBMの実践			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第3回 疫学:統計解析の基礎			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第4回 保健統計:人口動態統計(国勢調査)、人口動態統計			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第5回 保健統計:死因統計、疾病統計			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第6回 医の倫理と患者の人権			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第7回 終末期医療と死の概念			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第8回 医療法と医療体制:医療計画、医療従事者の現状			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第9回 社会保障と医療経済			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第10回 地域保健			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第11回 成人保健と健康増進			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第12回 母子保健			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第13回 高齢者保健			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第14回 障害者福祉			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
第15回 環境保健			前回の講義内容を復習しておくと共に教科書該部分を予習しておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:教科書を利用して講義内容を復習し、ノートにまとめること。特に復習が重要で有り、授業の行われたその日のうちに復習することが大切です。					
課題に対するフィードバック:出席確認も兼ねて授業後に提出したリアクションペーパーの一部は次回の授業開始時に紹介します。					
評価方法・基準:定期試験 60%、受講態度(授業への参加度)20%、アクションペーパー内容 20%として評価する。					
教科書:公衆衛生がみえる 2024-2025(メディックメディア)					
備考:					
実務経験の内容・期間:医師(46年)					

科目名称:生理学					
担当者名:鬼頭 巧					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(2)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24200067
授業概要:生理学は人体のいろいろな働きについて学ぶ学問である。この授業では、広い生理学の分野から、われわれの人体がいかに巧妙に作られ働いているかについて、生体機能の恒常性(ホメオスタシス)の維持という観点から学んでいく。					
到達目標:到達目標:細胞の基本的構造と機能について説明できる。 ・人体を構成する器官について列挙でき、その位置や構造や機能を説明できる。 ・生体機能を、分子、細胞、器官、個体の各レベルでのメカニズムを説明できる。 ・生命活動として、その生体機能の重要性を説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	からだの成り立ちの理解:細胞	事後学修:当日の講義内容(講義レジメ)を復習する。(60)			
第2回	からだの成り立ちの理解:器官・器官系	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第3回	神経系の構造と機能	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第4回	五感の生理学(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第5回	呼吸器系の構造と機能	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第6回	体液・血液	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第7回	循環器系の構造と機能	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第8回	消化器系の構造と機能、栄養と代謝	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第9回	運動器系の構造と機能(1):骨・関節	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第10回	運動器系の構造と機能(2):筋の総論	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第11回	運動器系の構造と機能(3):全身の筋	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第12回	免疫系の機能	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第13回	泌尿器系の構造と機能	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第14回	内分泌系の構造と機能(1):視床下部、下垂体、松果体、甲状腺	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
第15回	内分泌系の構造と機能(2):上皮小体、膵臓、副腎、性腺	事前学修:事前配布される資料を予習する。事後学修:当日の講義内容を復習する。(60)			
履修に必要な予備知識や技能:各回の講義が行われた当日に講義レジメを復習すること。					
課題に対するフィードバック:記述したリアクションペーパーは、点検し次回以降の授業内で解説する。					
評価方法・基準:定期試験(90%)と授業への参加度(10%)で評価する。					
教科書:使用テキストなし					
備考:					
実務経験の内容・期間:理学療法士(13年)					

科目名称:母子保健					
担当者名:奥村 澄					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200068
授業概要:子どもが健やかに生まれ健やかに育つことは、母親・家族・社会にとって最大の願いである。その基盤は母親の健康であり、家族の健康である。現代の子ども健康問題を焦点に、子ども、母親、家族の健康を考える。					
到達目標:1. 母親が心身ともに健康であることの大切さを理解できる。 2. 子どもたちが健康であることの大切さを理解できる。 3. 家族が健康であることの重要性を理解できる。 4. 母親、子ども、家族の健康を促進することができるよう知識を学ぶ。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 母子保健の基本概念			健康の定義、生命の誕生等、調べる(60)		
第2回 母親の健康 生命の誕生 受精～着床			【レポート】気になる子どもの健康問題(60)		
第3回 母親の健康 生命の誕生 着床～出産			【レポート】一週間の食事内容(60)		
第4回 母親の健康 生命の誕生 胎児の変化と妊婦の変化			【レポート】胎児の健康(60)		
第5回 母親の健康 避妊法、人工妊娠中絶、性感染症			【レポート】性感染症(60)		
第6回 子どもの健康 乳児期 0～3か月			【レポート】0歳児の虐待はなぜ起こるか(60)		
第7回 子どもの健康 乳児期 3～6か月			【レポート】不慮の事故(60)		
第8回 子どもの健康 乳児期 まとめ			【レポート】乳児の健康(60)		
第9回 子どもの健康 幼児期 前期			【レポート】幼児期のからだのおかしさ(60)		
第10回 子どもの健康 幼児期 後期			【レポート】体を使った遊び(60)		
第11回 子どもの健康 幼児期 まとめ			【レポート】幼児期の健康(60)		
第12回 子どもの健康 学童期			【レポート】今どきの小学生とスマホの影響(60)		
第13回 子どもの健康 思春期 第二次性徴期と子ども			【レポート】放射能と子ども(60)		
第14回 家族の健康 家族・社会と子ども			【レポート】子どもの自殺の実態と予防策(60)		
第15回 家族の健康 健全な家庭づくり グループワーク			「子どもが健やかに生まれ育つ」ということ考えをまとめておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:テキストを読み子どもの健康問題について学習する。また、日頃から子どもを観察したり、関連記事を読んだり、自分の幼少期の様子を聞いたりし、子どもへ関心を寄せる。					
課題に対するフィードバック:授業内での課題レポートは、次講時に添削後返却し、講評・解説する。					
評価方法・基準:レポート、授業への参加度などを総合評価する。レポート 90% 受講態度(授業への参加度)10%					
教科書:教科書:子どものからだと心白書 2022 参考書:なし					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(5年)					

科目名称:子どもの保健					
担当者名:奥村 澄					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204043
<p>授業概要:子どもの身体的生理的特徴・心の健康・疾病について基本的事項を中心に理解を深め、保育の対象の理解に役立てる。          子どもの健康を守り育てるための必要な実践的理論・知識を習得する。          子どもを取り巻く環境の変化を踏まえながら子どもの身体的・生理的発育・発達を把握し、疾病・事故の予防に必要な基礎的知識や課題を理解する。</p>					
<p>到達目標:1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。          2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。          3.子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。          4.子どもの疾病とその予防法及び他職種との連携・協働の下での適切な対応について理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第1章 子どもの心身の健康と保健の意義 情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	1. 生命の保持と情緒の安定	子どもの健康問題、生命の誕生を調べておく(60)			
第2回 第1章 子どもの心身の健康と保健の意義 健康指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	2. 健康の概念と健康指標	子どもの出生・死亡統計をまとめる(60)			
第3回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 運動機能の発達と保健	1. 身体発育及び運動機能の発達と保健	身体発育のめやすを課題プリントに整理する(60)			
第4回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 運動機能の発達と保健	1. 身体発育及び運動機能の発達と保健	身体発育のめやすを課題プリントに整理する(60)			
第5回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健	2. 生理機能の発達と保健	生理機能発達のめやすを課題プリントに整理する(60)			
第6回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健	2. 生理機能の発達と保健	生理機能発達のめやすを課題プリントに整理する(60)			
第7回 第2章 子どもの身体的発育・発達と保健 基本的生活習慣の形成	3. 発達に即応した基本的生活習慣の形成	基本的生活習慣の形成のめやすを課題プリントに整理する(60)			
第8回 第3章 子どもの心身の健康状態とその把握 観察 2. 心身の不調等の早期発見	1. 健康状態の観察	子どもの症状の特徴をまとめる。(60)			
第9回 第3章 子どもの心身の健康状態とその把握 把握と健康診断 4. 保護者との情報共有 グループワーク「ママへの回答」	3. 発育・発達の把握と健康診断	グループワーク課題の準備をしておく(60)			
第10回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 疾病の特徴 2. 保育の現場でよくある疾患 感染症	1. 子どもの疾病の特徴	子どもの感染症と特徴をまとめる。感染症を調べ課題プリントにまとめる。(60)			
第11回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 現場でよくある疾患 先天異常 アレルギー疾患	2. 保育の現場でよくある疾患	子どもの先天異常、アレルギー疾患の特徴をまとめる。(60)			
第12回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 現場でよくある疾患 消化器・呼吸器・循環器疾患	2. 保育の現場でよくある疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。(60)			
第13回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 現場でよくある疾患 血液疾患・悪性腫瘍・神経系疾患	2. 保育の現場でよくある疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。(60)			
第14回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 現場でよくある疾患 腎・泌尿器・生殖器疾患・皮膚疾患	2. 保育の現場でよくある疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。(60)			
第15回 第4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応 現場でよくある疾患 目・耳・整形外科疾患・内分泌、代謝疾患、SIDS	2. 保育現場でよくある疾患	疾患の特徴と子ども生活への影響をまとめる。(60)			
履修に必要な予備知識や技能:高校生物基礎、人体の仕組み、各種器官の機能等を復習しておく。					
課題に対するフィードバック:1. 授業内プリントは評価し返却する。 2. 定期試験は、希望者には事務局を通して返却する。					
評価方法・基準:定期試験90%、課題提出10%、受講態度(授業への参加度)も考慮する。					
教科書:教科書:子どもの保健 中根淳子・佐藤直子編著 ななみ書房 参考書:「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省 2018年改訂版)「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省 2019年改訂版) 「教育・保健施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(内閣府・文部科学省・厚生労働省 2016年版) 「保育所における食事の提供ガイドライン」(厚生労働省 2013年)					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(5年)					

科目名称:子どもの健康と安全					
担当者名:奥村 澄					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206053
授業概要:保育における保健的観点を踏まえた子どもの健康と保育環境について理解する。また、子どもの発達や健康状態に即した適切な対応について具体的に学び、健康及び安全で衛生的な環境や援助について理解を深める。					
到達目標:1.子どもの発育・発達段階、健康状態を考えながら援助の方法を理解し、行動ができる。 2.子どもの発育・発達段階、健康状態を考えながら安全に行動ができる。 3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解し、安全に行動ができる。 4.保育における感染症対策について具体的に方法を理解し、安全かつ衛生的に行動ができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 第2章 保育における健康及び安全管理【演習】手洗い	教科書第2章p12~13 手洗いの手順を把握しておく。(45)				
第2回 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助【演習】バイタルサイン測定・身体測定	教科書第1章を参考に、体温、脈拍数、呼吸数の測定の手順を把握しておく。(45)				
第3回 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 身体発育評価の実際 児童虐待	発育評価方法、児童虐待について事前学習しておく。(45)				
第4回 第2章 保育における健康および安全管理【演習】感染性物質の処理	教科書第2章を参考に吐物の処理方法の手順を把握しておく。(45)				
第5回 第3章 子どもの体調不良等の対応【演習】誤飲予防・薬の与え方	教科書第3章を参考に薬の投与手順を把握しておく。(45)				
第6回 第3章 子どもの体調不良等の対応【演習】心肺蘇生・止血・包帯法	教科書第3章を参考に心肺蘇生法の手順を把握しておく。(45)				
第7回 第4章 子どもがよくかかる感染症の対策	教科書第4章を参考に感染症、予防接種、出席停止期間を事前学習しておく。(45)				
第8回 第5章 保育で必要な保健的対応【演習】睡眠習慣としつけ 寝かせ方・抱き方	教科書第5章を参考に抱き方・おんぶの手順を把握しておく。(45)				
第9回 第5章 保育で必要な保健的対応【演習】食事習慣としつけ 調乳方法・はみがき	教科書第5章を参考に人工乳の作り方、歯磨きの手順を把握しておく。(45)				
第10回 第5章 保育で必要な保健的対応【演習】更衣習慣としつけ 衣服の着脱方法	教科書第5章を参考に衣服の着せ方の手順を把握しておく。(45)				
第11回 第5章 保育で必要な保健的対応【演習】排泄習慣としつけ おむつ交換	教科書第5章を参考におむつのつけ方の手順を把握しておく。(45)				
第12回 第5章 保育で必要な保健的対応【演習】清潔習慣としつけ 沐浴	教科書第5章を参考に沐浴の手順を把握しておく。(45)				
第13回 第5章 保育で必要な保健的対応 個別的な配慮を要する子どもへの対応 グループワーク	教科書第5章を参考にグループワーク課題について調べておく。(45)				
第14回 第5章 保育で必要な保健的対応 障害を持つ子どもへの対応 グループワーク	教科書第5章を参考にグループワーク課題について調べておく。(45)				
第15回 第6章 健康および安全管理の実施体制	教科書第6章を参考に地域との連携・協働を予習しておく。(45)				
履修に必要な予備知識や技能:子どもの保健で学習した知識、身体的発育・発達段階についての知識をもって積極的に取り組むこと。					
課題に対するのフィードバック:授業内での課題レポートは、添削後返却し、講評・解説する。					
評価方法・基準:定期試験(40%)授業での演習等によるパフォーマンス(40%)授業内課題の提出物(10%)授業の参加度(10%)も考慮する。					
教科書:教科書・参考書:授業で現場で役に立つ!子どもの健康と安全演習ノート改訂第2版 小林美由紀著 診断と治療社 参考資料:「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省 2019年改訂版)「2018年改訂 保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省 2018年改訂版)					
備考:					
実務経験の内容・期間:看護師(5年)					

科目名称:障害児保育					
担当者名:岡森正吾					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24203421
授業概要:障害がある子どもへの保育が一般化してきつつある現代保育者にとって必須の条件となる障害児保育を「基本的知識」、「保育の進め方」、「実践事例」、「保育演習」の四つの柱から構成して概説する					
到達目標:社会的要請の高まりとともに、障害がある子どもへの保育が一般化してきつつある現代保育者にとって必須の条件となるこの障害児保育を「基本的知識」、「保育の進め方」、「実践事例」、「保育演習」の四つの柱から構成して講義を進める。特に、子ども個々の発達評価から発達援助の方法を明らかにし、各種障害幼児に対する 接し方等が分かるようになる					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 障害児保育とは I			障害児の概念・判別について調べる。また、障害児保育を行うため条件について調べる(60)		
第2回 障害児保育の変遷			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第3回 障害保育の諸制度			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第4回 障害児の基礎知識と発達支援(1)知的障害			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第5回 障害児の基礎知識と発達支援(2)病虚弱児			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第6回 障害児の基礎知識と発達支援(3) LD、ADHD などの発達障害			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第7回 障害児の基礎知識と発達支援(4) 肢体不自由児、重症心身障害児			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第8回 障害児理解と保育			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第9回 障害児保育の進め方(1)個に応じた支援			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第10回 障害児保育の進め方(2)療育支援			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第11回 障害児保育の進め方(3)保護者支援			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第12回 障害児保育の進め方(4)関係諸機関との連携			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第13回 障害児保育の実践(1) 発達支援のニーズ理解、療育計画の立案			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第14回 障害児保育の実践(2)ロールプレイ・発達検査			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする。(60)		
第15回 まとめ			配布資料を用いて学期の学習内容を振り返る(60)		
履修に必要な予備知識や技能:障害児保育に関する書籍を読んでおくことが望ましい。なお、書籍は指定する					
課題に対するフィードバック:前授業での小テスト等については、授業時に解説する					
評価方法・基準:複数回の小レポートまたはテスト及び授業態度から総合して評価する。定期試験 60% 小テスト 10% 小レポート 10% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:授業の中で、資料を配布する。使用テキストなし					
備考:各種障害を理解し、障害のある幼児の 接し方が分かるようになってもらいたい					
実務経験の内容・期間:特別支援学校教諭 5年					

科目名称:障害児保育演習Ⅱ					
担当者名:岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206055
授業概要:障害児の理解を深め、個別の指導の留意点について解説する。また、障害児保育の実践例から支援の方法を概説する。					
到達目標:障害児の理解を深め、個別の指導の留意点について学習する。障害児保育の実践例から支援の方法について理解する。相談機関・地域支援機関の現状理解と障害児の家庭支援の具体的実践例を通じた学習を深める。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 障害児保育の実際			障害児保育演習Ⅰで学んだことを復習する(60)		
第2回 障害児保育の支援方法(心の支援)			配布資料を用いて、前回授業範囲の復習をする(60)		
第3回 障害児保育の支援方法(発達論による支援)			教科書の該当ページを事前に読んでおく(60)		
第4回 障害児保育の支援方法(行動への支援)			教科書の該当ページを事前に読んでおく(60)		
第5回 障害児保育の支援方法(環境調整による支援)			教科書の該当ページを事前に読んでおく(60)		
第6回 障害児保育の支援方法(保育者の連携・協働①)			教科書の該当ページを事前に読んでおく(60)		
第7回 障害児保育の支援方法(保育者の連携・協働②)			グループで保育者の連携と協働について話し合っておく(60)		
第8回 障害児保育の支援方法(地域の専門機関との連携①)			教科書の該当ページを事前に読んでおく(60)		
第9回 障害児保育の支援方法(地域の専門機関との連携②)			グループで地域の専門機関について事前に調べておく(60)		
第10回 障害児保育の支援方法(小学校等との連携)			障害児の就学に向けた小学校等の役割について事前に調べておく(60)		
第11回 障害児の保育計画と評価			グループで保育計画を立案しておく(60)		
第12回 保護者に対する理解			障害児を持つ保護者の気持ちについて、参考文献や先行研究などを読んでおく(60)		
第13回 保護者支援			障害児を持つ保護者の気持ちについて、事前に参考文献や先行研究などを読んでおく(60)		
第14回 障害児保育の今後の課題			障害児保育の今後の課題について、事前に参考文献や先行研究などを読み自分なりにまとめておく(60)		
第15回 まとめ			配布資料を用いて学期の学習内容を振り返る(60)		
履修に必要な予備知識や技能:特別支援教育に関する書籍や先行研究を読む。					
課題に対するフィードバック:前授業での課題については、授業時に解説する					
評価方法・基準:複数回の小レポートまたはテスト及び授業態度から総合して評価する。定期試験 60% 小テスト 10% 小レポート 10% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:「障害児保育ワークブック」萌文書林・該当ページを開きながら、解説する。 参考書:「よくわかる保育士エクササイズ・障害児保育演習ブック」ミネルヴァ書房 「障がい児保育」中山書店					
備考:グループワークやディスカッション・ロールプレイなども取り入れるので積極的に参加して欲しい。					
実務経験の内容・期間:幼稚園教諭 22年					

科目名称:特別支援教育概論					
担当者名:三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200312
授業概要:障害とは何かを理解することから始め、特別支援教育の歴史と制度、障害の種類と程度に応じた教育の基本を学ぶ。また、特別支援教育の教育課程や支援の方法についても学ぶとともに、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についても学習する。					
到達目標:特別な支援が必要な幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達、さらにその教育課程及び支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 障害の概念・障害と人権			事前:障害児・者に関するニュースを調べる(30) 事後:障害者の人権についてまとめる(60)		
第2回 特別支援教育の歴史と制度			事前:県内の特別支援学校について調べる(30) 事後:特別支援教育の歴史についてまとめる(60)		
第3回 特別支援教育の教育課程			事前:特別支援学校の教育課程について調べる(40) 事後:知的障害教育に特徴的な指導の形態についてまとめる(60)		
第4回 障害の理解と支援(1)視覚障害、聴覚障害			事前:視覚障害、聴覚障害について調べる(30) 事後:盲学校、ろう学校の教育についてまとめる(60)		
第5回 障害の理解と支援(2)肢体不自由、病弱			事前:肢体不自由、病弱について調べる(30) 事後:肢体不自由特別支援学校、病弱特別支援学校の教育についてまとめる(60)		
第6回 障害の理解と支援(3)知的障害			事前:知的障害について調べる(40) 事後:知的障害特別支援学校の教育についてまとめる(60)		
第7回 障害の理解と支援(4)言語障害、重複障害			事前:言語障害について調べる(30) 事後:言語障害特別支援学級の教育と医療的ケアについてまとめる(80)		
第8回 障害の理解と支援(5)自閉症、情緒障害			事前:自閉症について調べる(30) 事後:自閉症スペクトラムへの対応についてまとめる(60)		
第9回 障害の理解と支援(6)LD、ADHD			事前:LD、ADHDについて調べる(30) 事後:LD、ADHDへの対応についてまとめる(60)		
第10回 通級による指導及び自立活動			事前:自立活動について調べる(30) 事後:通級指導教室の教育についてまとめる(60)		
第11回 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の実態把握			事前:国の調査について調べる(40) 事後:小・中学校、高等学校における対応についてまとめる(60)		
第12回 個別の指導計画及び個別の教育支援計画と指導方法			事前:IEPについて調べる(30) 事後:個別の指導計画、個別の教育支援計画と指導の関係をまとめる(60)		
第13回 特別な支援が必要な障害のない幼児児童生徒			事前:障害の定義について再確認する(30) 事後:事例を通して支援の在り方についてまとめる(60)		
第14回 福祉、医療、労働との連携			事前:障害者手帳について調べる(30) 事後:医療、労働との連携についてまとめる(60)		
第15回 まとめ			事前:講義資料を通読する(60) 事後:講義の要点をまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:新聞やテレビを通して伝えられる特別支援教育に関する内容について関心を持ち、分からないことがあればすぐに調べる。					
課題に対してのフィードバック:課題レポート実施の翌週に振り返りを行う。					
評価方法・基準:定期試験 60% レポート 20% 受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:①特別支援教育―共生社会の実現に向けて― 小林秀之/米田宏樹/安藤隆男編著 ミネルヴァ書房②特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 文部科学省					
参考書:特別支援学校教育要領・学習指導要領解説(自立活動編)文部科学省					
備考:適宜グループワークを実施する。					
実務経験の内容・期間:小学校特別支援学級教員1年 家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士21年 公認心理師5年					

科目名称:手話					
担当者名:新田 照予					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200071
授業概要:聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識、聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識の習得					
到達目標:聴覚障害について理解を深め、手話技術を習得する					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 手話の基本(表情・強弱・基本)			テキスト「知ってほしいこと」を参考に聴覚障害について自主学習を行う(60分)		
第2回 講義(聴覚障害者の生活)			テキストを参考に手話について自主学習を行う(60分)		
第3回 手話の基本(名前・挨拶)			テキストP6～12を読み自主学習を行う(60分)		
第4回 講義(ボランティア活動等)			テキストを読み自主学習を行う(45分)		
第5回 手話の基本(数字・生年月日・年齢・身長)			テキストP18～20を読み自主学習を行う(45分)		
第6回 手話の基本(家族)			テキストP18～20を読み自主学習を行う(45分)		
第7回 手話の基本(趣味・苦手・好き・嫌い・食べ物)			テキストP22～25を読み自主学習を行う(45分)		
第8回 手話の基本(仕事)			テキストを参考に手話単語を下調べする(60分)		
第9回 手話の基本(住所・県・市・町)			テキストP36を読み自主学習を行う(45分)		
第10回 講義(ろうあ運動・手話通訳)			前回の授業で指示(60分)		
第11回 手話の基本(季節・過去・現在・未来)			テキストを参考に手話単語を下調べする(60分)		
第12回 手話の基本(都道府県)			テキストを参考に手話単語を下調べする(60分)		
第13回 手話の基本(手話でゲーム)			指文字について下調べをする(45分)		
第14回 手話の基本(総復習)			テキストを読み単語や指文字を確認する(60分)		
第15回 手話の基本(自己紹介)			テキストを読み単語や指文字を確認する(60分)		
履修に必要な予備知識や技能:聴覚障害者の生活、手話についてイメージしておくこと。					
課題に対するフィードバック:課演習課題の成果物や授業中に提出したワークシートは点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。その際、講評します。復習の材料としてください。					
評価方法・基準:協調性 20% 授業態度 20% 手話技術 60%					
教科書:教科書・参考書:「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!」一般財団法人全日本ろうあ連盟発行					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:点字					
担当者名:古本 麻子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24200072
授業概要:主に点訳の講義・実践の学習を通して、視覚障害の概念(捉え方)の理解や、視覚障害についての理解と援助技術を深める。					
到達目標:点字を使って簡単な文章を読み書きできる程度の知識や技術の習得を目指す。また、視覚障害者との交流を通じて障害についての理解や知識を深める。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 視覚障害の概念(捉え方)についての理解を深め、情報伝達の支援に必要な点字の成り立ちについて学習する。			教科書「初めての点訳 第3版」P10～11、17、60～61 予習(予めその範囲を読む)(30)		
第2回 視覚障害と点字の歴史について学び、点字の濁音・半濁音・拗音などの表し方、読み方を単語レベルで学習する。			(教科書)P8～9 予習(予めその範囲を読む)(15)		
第3回 点字の数字・アルファベットの表し方、読み方を単語レベルで学習する。			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第4回 点字器の使い方、点字の書き方、点の修正の仕方などを学習する。単語を書く練習をする。(教科書 P19～20)			(教科書)P12～16 予習(予めその範囲を読む)。前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第5回 点字での語の書き表し方のルールを学習し、単語レベルで書く練習をする。(教科書 P21～24)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第6回 点字での数字の書き方のルールを学習し、単語レベルで書く練習をする。(教科書 P25～28)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第7回 点字でのアルファベットの書き方のルールを学習し、単語レベルで書く練習をする。(教科書 P29～32)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第8回 “分かち書き”のルールを学習し、短文を書く。(教科書 P33～35)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第9回 “分かち書き”のルールを学習し、短文を書く。(教科書 P35～36)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第10回 “分かち書き”のルールを学習し、短文を書く。(教科書 P37～38)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第11回 “分かち書き”のルールを学習し、短文を書く。(教科書 P38～40)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第12回 “分かち書き”のルールを学習し、短文を書く。(教科書 P41～43)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第13回 盲導犬を帯同する視覚障害者との交流を通じて、障害についての理解や知識を深める。			(教科書)P62～P66を予習(予めその範囲を読む)(30)		
第14回 いろいろな記号の書き表し方を学習し、文章を書く。(教科書 P44～48)			前々回の課題で添削された箇所の確認と理解 前々回の授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
第15回 点訳上のさまざまなルール、表記の仕方をまとめ、手紙や案内文を点訳する。(教科書 50～54)			前回の課題で添削された箇所の確認と理解 前回授業の復習(ノート、教科書を見て自分の理解を確認)(30)		
履修に必要な予備知識や技能:毎回の点訳実践で添削された箇所の確認と理解					
課題に対するフィードバック:毎回演習課題に取り組み授業中に提出。添削された後、次回以降の授業で返却されます。その際、講評します。間違えた箇所は確認して次回以降の課題に反映させてください。					
評価方法・基準:点字の読み書き技術の習得度を評価。[定期試験 30%・演習課題 40%・受講態度(授業への参加度)30%]					
教科書:「初めての点訳」第3版(全国視覚障害者情報提供施設協会)					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称: 幼児と健康					
担当者名: 任田 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24107210
授業概要: 乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。また、基本的な生活習慣は、食生活を中心に展開する。					
到達目標: 幼児期の健康課題と健康の発達の意味について学び、乳幼児の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。また、幼児の安全教育、安全管理、危機管理への意識づけを行うことに加え、運動発達の特徴と意義を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 健康の定義と乳幼児期の健康の意義			自分の周囲の乳幼児を見て健康に関する乳幼児期の現代的課題について下調べをする(60分)		
第2回 乳幼児を取り巻く生活環境と健康			テキストの幼児教育の目的と保育者の役割とを読み、環境に関しての下調べ(30分)		
第3回 乳幼児期の身体発達の特徴			幼児期の成長、発達について事後、各期の特徴をレポートにまとめる。(60分)		
第4回 生活リズムと心身の発達			基本的発達習慣としてのプロセスについて。(30分) 事前配布資料を参照。(30分)		
第5回 幼児期における食育の重要性			食育基本法により第4次推進基本計画の下調べ(30分)		
第6回 子どもの発育・発達と食生活			事前に参考資料「楽しく食べる子どもに」保育所における食育に関する指針(概要)を配布(30分)		
第7回 離乳食から学ぶ栄養指導と健康管理			事前に参考資料「授乳と離乳の支援ガイド」を配布。離乳のすすめ方について下調べ。(60分)		
第8回 幼児の安全管理と危機管理			事前に参考資料「子どもを事故から守る事故防止ハンドブック」を配布。(60分)		
第9回 幼児期の怪我の特徴と応急処置			テキストP123からを参照し、応急時の対応について下調べ(60分)		
第10回 幼児期の病気の予防			よくある幼児期の疾病及び体調不良の子どもについての対応を下調べ(60分)		
第11回 乳幼児期の運動発達の特徴			P60からを読み、運動の発達と個人差について考える(30分)		
第12回 幼児期における多様な動き			P139からを読み、自然現象、環境の中で遊びから動きを育てるケースを考える。(30分)		
第13回 運動遊び			プレゼンテーション発表準備(60分)		
第14回 幼児の身体活動体験を豊かにするための工夫と配慮			プレゼンテーションの評価と反省(60分)		
第15回 まとめ			各テーマの総合的視点と自己評価。		
履修に必要な予備知識や技能: 事前配布資料の読み取りと自己学習。自己の食生活を振り返り、「食育」から健康を考える。対象にあった子どもの食事にも関心を持つ。					
課題に対するフィードバック: 授業の振り返りよりグループでディスカッション後、まとめ回収。次回授業で疑問点を検討する。保育者が出来得る援助について自己評価した後、助言を行う。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、プレゼンテーション発表 20%、受講態度(授業への参加度) 20%					
教科書: 教科書: 保育内容 健康(光生館) 参考書: 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間: 管理栄養士 (35年)					

科目名称: 幼児と人間関係					
担当者名: 川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24107220
授業概要: 現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。また、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。					
到達目標: 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。また、幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 現代社会と幼児の人間関係			事前に現代社会における乳幼児の人間関係について、コロナ禍が影響している状況の変化について考えておく(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第2回 幼児期の仲間関係の構築過程			事前に幼児期の仲間関係の構築過程と特徴について、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第3回 未満児における人間関係の発達			事前に未満児における人間関係の構築過程と特徴について、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第4回 親や保育者との出会いとかかわり			事前に親や保育者との出会いとかかわりについて、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第5回 友だちとの出会いとかかわり			事前に園生活における友だちとの出会いとかかわりについて、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第6回 遊びの中で見られる人とかかわり(1)遊びと子どもの育ち			事前に遊びの意義、重要性について、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第7回 遊びの中で見られる人とかかわり(2)遊びの中の人とかかわり			事前に遊びの中で育まれる人とかかわりと特徴について、講義資料を読み、課題についての考えをまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第8回 生活の中で見られる人とかかわり(1)家庭生活			家庭生活の中で育まれる人とかかわりについて、講義資料を読み考えをまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第9回 生活の中で見られる人とかかわり(2)個と集団			事前に集団生活の中で育まれる人とかかわりについて、講義資料を読み、内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第10回 乳幼児期の自立心の育ち			乳幼児期の自立心の育ちと援助について、講義資料を読み課題についての考えをまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第11回 幼児期の協同性の育ち			事前に幼児期の協同性の育ちについて、講義資料を読み考えをまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第12回 幼児期の道徳性・規範意識の芽生え			事前に幼児期の道徳性や規範意識の芽生えについて、講義資料を読み内容を理解しておく(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第13回 家族や地域とかかわりと育ち			家族や地域とかかわりと子どもの育ちについて、講義資料を読み内容をまとめておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第14回 幼児期に育みたい資質と人間関係			事前に幼児期に育みたい資質と人間関係について、講義資料を読み内容を理解しておくこと(60) 事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第15回 まとめ			これまでの授業内容を整理し、復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を通読しておくことが望ましい。					
課題に対するフィードバック: 前回の授業の要点や、出席カードに記載された質問について授業初めに確認する。事前課題・レポートは点検後に返却し、講評する。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、小テスト 20%、受講態度(授業への参加度) 20%					
教科書: 使用テキストなし					
参考書: 「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考: 参考文献として『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊池篤子編(みらい)を使用する。 グループワークを適宜取り入れ、考える力を養う。					
実務経験の内容・期間: 保育教諭(2年)					

科目名称: 幼児と環境					
担当者名: 村上 知子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24107230
授業概要: 幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境とのかかわりの発達について学ぶ。					
到達目標: 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。また、幼児期の思考・科学的概念の発達を学ぶとともに、標識・文字等や情報・施設とのかかわりの発達を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 幼児を取り巻く環境			自分達を取り巻く環境について調べてくる(30分)		
第2回 幼児の発達における環境の諸側面の重要性(1) 物的環境、人的環境			身近にある物的環境と人的環境について調べてくる(90分)		
第3回 幼児の発達における環境の諸側面の重要性(2) 社会的環境、安全等			事前に配布するプリントを読み、グループワークで話し合う内容をまとめる(90分)		
第4回 幼児と環境とのかかわり			事前に配布する事例をもとに、幼児と環境とのかかわりについてまとめる(90分)		
第5回 環境とのかかわり方と専門的概念			保育の専門家として、どのように環境に関わるべきなのかをまとめる(90分)		
第6回 環境の現代的課題、幼児期に身近な環境とかわることの意義			現代的課題を調べ、グループワークで話し合う内容をまとめる(90分)		
第7回 認知的発達の特徴			乳幼児期・児童期の認知発達の特徴をレポートにまとめる(90分)		
第8回 物理的、数量・図形とのかかわりにおける興味・関心、理解の発達			幼稚園教育要領に記載されている物理的、数量・図形とのかかわりについてまとめる(90分)		
第9回 生物とのかかわりにおける興味・関心、理解の発達			幼稚園教育要領に記載されている生物や命とのかかわりについてまとめる(90分)		
第10回 自然とのかかわりにおける興味・関心、理解の発達			幼稚園教育要領に記載されている自然とのかかわりについてまとめる(90分)		
第11回 標識・文字とのかかわりにおける興味・関心			幼稚園教育要領に記載されている標識・文字とのかかわりについてまとめる(90分)		
第12回 幼児の生活に関係の深い情報・施設			乳幼児を取り巻く、情報について調べ、まとめる(90分)		
第13回 園の周囲にある自然と生物			周囲にある自然と生物について調べ、レポートにまとめ発表する準備をしてくる(90分)		
第14回 園の周囲にある標識と文字			周囲にある標識と文字について調べ、レポートにまとめ発表する準備をしてくる(90分)		
第15回 まとめ			全講義と通して、幼児と環境との関わりについてまとめる(90分)		
履修に必要な予備知識や技能: 幼稚園教育要領に記載されている「環境」について調べ、まとめておく					
課題に対するフィードバック: 提出された課題について、コメントする。レポートおよび定期試験の照会には、研究室にて対応する					
評価方法・基準: 定期試験 60%、受講態度(授業への参加度) 40%					
教科書: 教科書: 「保育内容環境」秋田喜代美(みらい)、「保育内容 環境」酒井幸子・守巧(萌文書林)、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、					
備考:					
実務経験の内容・期間: 保育士(8ヶ月)、幼稚園教諭(20年)					

科目名称: 幼児と言葉					
担当者名: 岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24107240
授業概要: 幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学ぶ。					
到達目標: 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践を学ぶ。また、言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財についても理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 人間にとっての言葉の意義と機能			乳幼児が発する言葉や特徴について関心を持っておく(60)		
第2回 子どもの言葉の発達過程(1)言葉の誕生			乳児期の言葉の発達過程について下調べをする(60)		
第3回 子どもの言葉の発達過程(2)書き言葉の習得			幼児期の言葉の発達過程について下調べをする(60)		
第4回 DVDを活用し、言葉の発達過程の理解する			前回授業範囲の復習(60)		
第5回 言葉の美しさ、楽しさ			乳幼児が発する言葉や特徴について下調べをする(60)		
第6回 言葉に対する感覚を豊かにする実践			乳幼児が発する言葉や特徴について下調べをする(60)		
第7回 言葉遊び			言葉遊びについて下調べをする(60)		
第8回 言葉を豊かにする実践と幼児の発達			幼児の発達に合った言葉遊びについて調べ、発表できるように準備しておく(60)		
第9回 子どもにとっての児童文化財の意義			児童文化財について下調べをする(60)		
第10回 児童文化財の種類と歴史			児童文化財について下調べをする(60)		
第11回 児童文化財の実際			児童文化財について種類ごとにレポートにまとめる。(60)		
第12回 DVDを活用し、児童文化財の保育実践での展開を理解する			前回授業で提示された課題に取り組む(60)		
第13回 模擬保育の計画・準備			発表に向けてグループ毎にしっかりと準備を進めておく(60)		
第14回 模擬保育			発表に向けてグループ毎によく練習しておく(60)		
第15回 まとめ			これまでの学習内容を見直し、しっかり復讐しておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 乳幼児が発する言葉やつづやきに関心を持ち、日頃から児童文化財に触れ、技術向上に努めること。					
課題に対してのフィードバック: 授業で提出した演習課題の成果物やワークシートについては、点検・添削された後、次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、受講態度(授業への参加度) 40%					
教科書: 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考: 参考文献として、『実践につなぐ ことばと保育』改定2版 近藤幹生他(ひとなる書房)を使用する。					
実務経験の内容・期間: 幼稚園教諭(22年)					

科目名称: 幼児と音楽表現					
担当者名: 枝村 美夏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24107250
授業概要: 幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などを実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を習得する。					
到達目標: 幼児の表現の姿やその発達について学び、音楽表現の基礎的な知識・技能を習得するとともに幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 音楽表現とは何か			子どもの表現について調べる(60) 講義の復習(30)		
第2回 幼児の音楽表現の発達			子どもの発達について調べる(60) 講義の復習(30)		
第3回 身近な自然に触れ、見て、聴いて、感じる			生活のなかの自然の音について調べる(60) 講義の復習(30)		
第4回 身近な素材の特性に触れ、見て、聴いて、感じる			身近にある音が何かを調べる(60) 講義の復習(30)		
第5回 身の周りの音・声・楽器による音楽遊び			子どもの歌、楽器の歴史を調べる(60) 講義の復習(30)		
第6回 身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに音楽で表現する			身近な音を聴く遊びが何かを調べる(60) 講義の復習(30)		
第7回 コミュニケーションとしての音楽表現活動			歌と楽器のアンサンブルについて調べる(60) 講義の復習(30)		
第8回 幼児の音楽表現との対話			保育現場の音や音環境について調べる(60) 講義の復習(30)		
第9回 表情豊かな歌唱表現			子どもにとっての歌唱の意義と支援について調べる(60) 講義の復習(30)		
第10回 文化との対話			文化のなかの音楽とは何かを調べる(60) 講義の復習(30)		
第11回 イメージを音に表現する			保育者に求められる表現力とは何かを調べる(60) 講義の復習(30)		
第12回 音遊びを「学び」の視点から捉える			子どもの音楽的表現の発達をふまえて音遊びを調べる(60) 講義の復習(30)		
第13回 歌遊びを「学び」の視点から捉える			子どもの声域や言語の発達をふまえて歌遊びを調べる(60) 講義の復習(30)		
第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			幼稚園教育要領、保育所保育指針を読む(60) 講義の復習(30)		
第15回 まとめ			教科書を中心に総復習をする(90)		
履修に必要な予備知識や技能: 小学校、中学校で学んだ音楽の分野を復習しておいてください。					
課題に対するフィードバック: 授業内の課題に対する講評を行います。今後の振り返りと復習に活かしてください。					
評価方法・基準: 定期試験 60% 提出課題 30% 受講態度(授業への参加度) 10%					
教科書: 幼児のための音楽教育(神原雅之著・教育芸術社)、幼稚園教育要領・保育所保育指針(文部科学省・厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省、フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)、保育所保育指針解説書(厚生労働省、フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間: なし					

科目名称: 幼児と造形表現					
担当者名: 永坂晃子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24107260
授業概要: 幼児の表現の姿や表現の発達及び発達を促す要因、さらに造形表現の意義について、体得的に理解する。幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などを実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を習得する。					
到達目標: 幼児の表現の姿やその発達について学び、造形表現の基礎的な知識・技能を習得するとともに幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 造形表現とは何か			前期保育・教職関連科目の理解と、授業への興味関心		
第2回 幼児の造形表現の発達			指示された物品の準備(20) 授業シートの作成(15)		
第3回 身近な自然に触れ、見て、聴いて、感じる			授業シートの作成(15)		
第4回 身近な素材の特性に触れ、見て、聴いて、感じる			授業課題のための材料・用具の収集(50) 授業シートの作成(15)		
第5回 身の回りのモノによる造形遊び			授業課題のための材料・用具の準備(40) 授業シートの作成(15)		
第6回 身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに造形で表現する			指示された物品の準備(20) 授業シートの作成(15)		
第7回 コミュニケーションとしての造形表現			第7回内容の自主補習(120)		
第8回 幼児の造形表現との対話			授業課題のための材料・用具の準備(40) 授業シートの作成(15)		
第9回 自閉症児・者の絵画への理解			レポート課題への取り組み(90)		
第10回 文化との対話			レポート課題への取り組み(90)		
第11回 イメージを造形で表現する			授業課題のための材料・用具の準備(40) 授業シートの作成(15)		
第12回 ICTを活用した表現活動			授業課題のための材料・用具の準備(40) 授業シートの作成(15)		
第13回 造形表現を「学び」の視点から捉える			レポート課題への取り組み(90)		
第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい資質・能力			レポート課題への取り組み(90)		
第15回 まとめ			レポート課題への取り組み(120)		
履修に必要な予備知識や技能: これまで履修した保育・教職関連科目の理解。 子どもや人間に対する興味と愛情! 向上心と学ぶ意欲!					
課題に対するフィードバック: 課題レポートは添削の上、課題ごとに10段階、5段階等の評価を付し、返却する。授業シートなど提出物へのコメント。					
評価方法・基準: 課題レポートおよび他提出物 70% 受講態度 30%					
教科書: 教科書: 「保育をひらく造形表現」槇英子(萌文書林) 参考書: 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型こども園 教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」					
備考: 本科目は大学・学科行事や他の関連科目の進行、次年度の造形表現系科目の内容等を考慮し、より効果的な学びを優先して創造的に展開します。 また、本科目は自らのからだと心の実感を通して「子ども」と「表現」の理論理解に繋げることを意図するため、講義は演習を伴うものとなります。					
実務経験の内容・期間: 特別支援学校教諭(2年)、保育士(2年)、中学校教諭(1年)、美術造形活動講師(12年)					

科目名称:保育内容(健康)指導法 I					
担当者名:任田 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24106211
授業概要:小児の健全な成長、発達のためには、保育者が健康、安全に関する基礎知識をもち、かつ適切な環境づくりとわかりやすく伝える力をもつことが必要である。主として「健康」について発表、討論し、指導根拠となる正常な成長過程とメカニズムに理解を深め、幼児の健康概念を確立する。					
到達目標:乳幼児の正常な発育、発達段階を踏まえて幼児期の健康指導の必要性を理解し、演習を通して幼児および保護者に向けての適切な指導を学ぶ。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業展開のオリエンテーション、幼稚園教育要領の健康に関する項の理解			幼稚園教育要綱を読む 指導媒体について調べる(60)		
第2回 保育所保育指針解説書の健康に関する項の理解			保育所保育指針解説書を読む(60)		
第3回 「からだ」の理解			事前配布資料の読み取り(60)		
第4回 幼児の健康とは			事前配布資料(幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド)の読み取り(60)		
第5回 乳幼児のからだの発達と健康(1)妊婦と胎児の健康管理			妊娠期の資料(妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針)の学習(60)		
第6回 乳幼児のからだと心の発達と健康(2)乳児の発育発達			事前配布資料の読み取り(60)		
第7回 乳幼児のからだと心の発達と健康(3)幼児の発育発達			事前配布資料の読み取り(60)		
第8回 乳幼児期の生活と食(1)乳児期の発育発達			事前配布資料の読み取り(60)		
第9回 乳幼児期の生活と食(2)幼児期の発育発達			事前配布資料の読み取り(60)		
第10回 子どもの健康に関わる問題の把握			事前配布資料の読み取り(60)		
第11回 健康指導の方法(グループ作業)(1)テーマ設定、企画、構想			健康指導の方法、媒体を考える(60)		
第12回 健康指導の方法(グループ作業)(2)準備			プレゼンテーション事前準備(作成・練習)(60)		
第13回 プレゼンテーション発表(1)内容の検討			プレゼンテーション発表準備(60)		
第14回 プレゼンテーション発表(2)発表			プレゼンテーション発表準備(60)		
第15回 まとめとプレゼンテーションの考察			プレゼンテーションの自己評価と反省(60)		
履修に必要な予備知識や技能:事前に渡す資料の読み取りと自己学習					
課題に対するフィードバック:授業でのデータ読み取りをグループワークで発表後回収。次回授業で返却し講評と学生からの疑問に返答する。グループでの指導計画書の提出後、授業内での実演発表を通して評価、助言を行う。					
評価方法・基準:定期試験 60%、プレゼンテーション発表 20%、受講態度(授業への参加度)20%					
教科書:教科書:演習「保育内容」健康 建帛社 参考書:「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間:管理栄養士(35年)					

科目名称:保育内容(健康)指導法Ⅱ					
担当者名:任田 和子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24106212
授業概要:小児の「安全」について発表、討論し、幼児期に獲得すべき生活習慣を理解し、健康につながる具体的な指導方法を学んでいく。また、生活環境の中で健康障害を予防できる要素を学び、環境整備も含めて健康に関する指導法を学んでいく。					
到達目標:幼児期に獲得すべき生活習慣を理解し、健康につながる具体的な指導を考える。生活環境の中で健康障害を予防できる要素を学び、環境整備も含めて健康指導に生かす。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 領域「健康」の狙い			幼稚園教育要領を読む(60)		
第2回 乳幼児期からの生活習慣病(1)生活習慣の認識は幼児期から			生活習慣病についての自己学習(60)		
第3回 乳幼児期からの生活習慣病(2)肥満、食習慣、社会環境			「現代の子供の健康課題」を調べて提出(60)		
第4回 乳幼児期からの生活習慣病(3)指導計画書の書き方、作成			乳幼児の生活習慣病予防のテーマを考える(60)		
第5回 運動あそびと健康(1)運動習慣と健康(ICTの活用)			幼児期の運動あそびについて自己学習(60)		
第6回 運動あそびと健康(2)指導計画書の書き方、作成			幼児期の運動あそびについて自己学習(60)		
第7回 幼児の安全管理と安全教育(1)安全管理			幼児の安全管理についての自己学習(60)		
第8回 幼児の安全管理と安全教育(2)安全教育(ICTの活用)			幼児の安全教育についての自己学習(60)		
第9回 子どもの健康と保育者の役割			事前配布資料の読み取り(60)		
第10回 健康指導の方法(グループ作業)(1)グループ内で各々の計画書を検討、テーマ設定			指導書をグループで説明できるようにしておく(指導書は返却します)(60)		
第11回 健康指導の方法(グループ作業)(2)準備			プレゼンテーション準備(作成・練習)(60)		
第12回 プレゼンテーション発表(1)内容の検討			プレゼンテーション発表準備(60)		
第13回 プレゼンテーション発表(2)発表			プレゼンテーション発表準備(60)		
第14回 プレゼンテーションの評価と助言			自己評価とPDCAを考える(60)		
第15回 まとめと健康指導の方法について			健康指導の考え方、方法についてまとめる(60)		
履修に必要な予備知識や技能:事前に渡す資料の読み取りと自己学習					
課題に対するフィードバック:提出された調べ学習から授業の進行に伴って関連事項について学生自身がレポートを発表する。学生の視点からの疑問や気づきについて全員でディスカッション、考察を行い理解を深める。個々の指導計画書を回収、講評後返却し、グループワークの指導計画書としてまとめ、グループ発表によって評価する。					
評価方法・基準:定期試験 50%、受講態度(授業への参加度)30%、指導計画書 20%					
教科書:教科書:演習「保育内容」健康 建帛社 参考書:「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間:管理栄養士(35年)					

科目名称:保育内容(人間関係)指導法 I					
担当者名:川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106221
授業概要:幼児は多様な人間関係を通じて自他理解、社会関係や社会性を発達させる。乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題について学び、乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解を深める。					
到達目標:①乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題について知る。 ②乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解を深める。 ③教材研究を通して、あそびの重要性を学ぶとともに、保育者に必要な協同性、実践力を養う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 保育の基本(保育とは何か、環境を通して行う保育について事例をもとに考える)			事前に教科書を読み事例について考えをまとめておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第2回 領域としての「人間関係」(各領域との関係をグループワークで話し合い理解する)			事前に当該部分の教科書を読み各領域について確認する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第3回 領域「人間関係」のねらい (仮想事例についてグループワークしねらいの内容を理解する)			事前に教科書、保育所保育指針でねらいを確認する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第4回 領域「人間関係」の内容 (事例についてのグループワーク実施)			事前に保育所保育指針を読み内容を確認する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第5回 新生児の人への関心 (赤ちゃんが持つ優れた能力を中心に新生児のコミュニケーションを理解する)			事前に教科書を読み赤ちゃんの持つ能力について理解する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第6回 人との関わりの基盤 (アタッチメントの形成と機能などについて理解する)			事前に教科書を読みアタッチメントについて理解しておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第7回 乳幼児の社会性の発達(乳児の具体的な行動から、認知や人との関わり、コミュニケーションの発達を理解する)			事前に配布資料を読み内容に取り組む(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第8回 乳幼児の社会性の発達(1歳から2歳の発達について理解する)			事前に配布資料を読み内容に取り組む(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第9回 乳幼児の社会性の発達(3歳から6歳の発達について理解する)			事前に配布資料を読み内容に取り組む(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第10回 遊びの中での関わりの育ち(遊びの発達と人との関わり、遊びの中で関わりを育てる事について学ぶ)			事前に配布資料を読み、自分の実習経験をもとに遊びについて考える。事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第11回 事例をもとに遊びの機能、人との関わりについて考える(グループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考えをまとめる(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第12回 事例をもとに遊びにおける関わりのいざごについて保育士の支援を考える(グループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考えをまとめる(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第13回 子どもの自己主張を支える			事前に配布資料を読み自我の発達について理解し、事例課題について考えをまとめておく(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第14回 自立と依存(グループワーク)			事前に教科書と配布資料を参考に事例課題についての考えをまとめる(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第15回 まとめ			これまでの授業内容を整理し、復習する(60)		
履修に必要な予備知識や技能:子ども同士が遊んでいる場面や子どもと養育者が遊んでいる様子などに関心をもち、気になる点があれば、書き留めておくこと					
課題に対してのフィードバック:前回の授業の要点や、出席カードに記載された質問について授業初めに確認する。事前課題・レポートは点検後に返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 60% レポート 20% 授業参加率(受講態度を含む)20%					
教科書:教科書:実践保育内容シリーズ「人間関係」-藝社 参考書:「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:参考文献として『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』無藤隆監修(萌文書林)を使用する。 適宜映像資料を使用する。					
実務経験の内容・期間:保育教諭(2年)					

科目名称:保育内容(人間関係)指導法Ⅱ					
担当者名:川邊 音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106222
授業概要:乳幼児期の「人とかかわる力」を支える保育者の役割および基本姿勢、環境構成について理解を深め、また、保育内容(人間関係の指導Ⅰ)での教材への認識を更に深め、保育実践に役立てる力を身につけていく。					
到達目標:乳幼児期の「人とかかわる力」を支える保育者の役割および環境構成について理解を深める。教材への認識を深め、保育実践に役立てる力を身につける。グループワーク等に積極的に参加し、事例について考える力を養う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 「人間関係の指導Ⅰ」復習および人間関係の指導Ⅱの概要について			事前に前期の内容を復習する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第2回 家族との関わり			事前に教科書を読み家族との関わりについて理解する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第3回 家庭生活を通しての価値やルールの学び(事例についてのグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第4回 保育者との関わり			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第5回 子どもとの信頼関係を築く(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第6回 子どもの自己主張を支える(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第7回 子ども同士の関係をつなぐ(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第8回 子ども同士の関係をつなぐ2(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第9回 子ども同士の関係をつなぐ3、子どもたちと一緒に遊びを楽しむ意義(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第10回 保育者との関わり 日々の保育において(子どもとの出会い、保護者との関わり)			事前に教科書、配布資料を参考に保育者との関わりについて理解する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第11回 保護者との関わり(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第12回 関わりが気になる子ども、一人一人を理解するとは(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第13回 多様な配慮と個別の配慮・特別な配慮について(事例についてグループワーク)			事前に配布資料を読み事例について考える(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第14回 特別な支援を必要とする子ども 発達障害の子どもの特性について(特性概要と具体的な支援方法など)			事前に教科書、配布資料を参考に発達障害の特性等について理解する(60)事後、学習内容を振り返りながらまとめる(60)		
第15回 特性に応じた構造化と個別の指導計画			事前に教科書、配布資料を参考に具体的な支援について考えておく(60)これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:「人間関係の指導Ⅰ」の学習内容を総復習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:前回の授業の要点や、出席カードに記載された質問について授業初めに確認する。事前課題・レポートは点検後に返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 60%、レポート 20%、授業参加率(受講態度を含む)20%					
教科書:教科書:実践保育内容シリーズ「人間関係」- 藝社 参考書:「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:参考文献として『事例で学ぶ保育内容(領域)人間関係』無藤隆監修(萌文書林)を使用する。 適宜映像資料を使用する。					
実務経験の内容・期間:保育教諭(2年)					

科目名称:保育内容(環境)指導法					
担当者名:村上 知子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106231
授業概要:社会の中で人間として生活していくための基礎的能力を養うため、乳幼児の心身の健康や発達における環境ー自然、社会、生活ーの影響について理解すると共に、乳幼児にとって望ましい環境条件について考察し、理解を深めていく。					
到達目標:乳幼児の心身の健康や発達における環境ー自然、社会、生活ーの影響について理解すると共に、乳幼児にとって望ましい環境条件について考え、提案することが出来る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 幼児教育の基本と領域「環境」のねらい			教科書「第1・2章」を読んでおくこと <90分>		
第2回 子どもの育ちと領域「環境」の指導上の留意点			教科書「第3章」を読んでおくこと <90分>		
第3回 自然に親しみ、植物や生き物に触れるーグループ発表に向けて、提案内容を考えるー			教科書「第7章」を読み、各自、興味・関心を もった内容についてまとめておく <90分>		
第4回 各自の提案内容を整理し、グループ発表に向けてまとめる			各自の内容を基に、グループで話し合う内容、発表テーマの案を練る <90分>		
第5回 グループ発表と質疑応答、コメント			テーマの理由、教育目標、教育内容(活動内容)をまとめておく <90分>		
第6回 ものや道具にかかわって遊ぶ(ICT の活用)ーグループ発表に向けて、提案内容を考えるー			教科書「第5章1・2・3節」を読み、各自、興味・関心を もった内容についてまとめておく <90分>		
第7回 各自の提案内容を整理し、グループ発表に向けてまとめる			各自の内容を基に、グループで話し合う内容、発表テーマの案を練る <90分>		
第8回 グループ発表と質疑応答、コメント			テーマの理由、教育目標、教育内容(活動内容)をまとめておく <90分>		
第9回 文字や標識、数量や図形に関心をもつーグループ発表に向けて提案内容を考えるー			教科書「第5章4・5節」を読み、各自、興味・関心を もった内容についてまとめておく <90分>		
第10回 各自の提案内容を整理し、グループ発表に向けてまとめる			各自の内容を基に、グループで話し合う内容、発表テーマの案を練る <90分>		
第11回 グループ発表と質疑応答、コメント			テーマの理由、教育目標、教育内容(活動内容)をまとめておく <90分>		
第12回 遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ(ICT の活用)ーグループ発表に向けて、提案内容を考えるー			教科書「第6章、第11章1節」を読み、各自、興味・関心を もった内容についてまとめておく <90分>		
第13回 各自の提案内容を整理し、グループ発表に向けてまとめる			各自の内容を基に、グループで話し合う内容、発表テーマの案を練る <90分>		
第14回 グループ発表と質疑応答、コメント			テーマの理由、教育目標、教育内容(活動内容)をまとめておく <90分>		
第15回 子どもと環境のかかわりを捉える視点、幼児教育の現代的課題			教科書「第9章、第10章、第11章2節」を読む 全講義内容の復習と確認 <90分>		
履修に必要な予備知識や技能:教科書を読み、発表に向けて、各自およびグループで具体案を考えておくこと。					
課題に対するフィードバック:発表内容と課題について、コメントする。レポートおよび定期試験の照会は、研究室にて対応する。					
評価方法・基準:定期試験 40%、グループ発表 40%、受講態度(授業への参加度、事前学習)20%					
教科書:教科書:「保育内容環境」秋田喜代美他(みらい)、「保育内容 環境」酒井幸子、守巧(萌文書林)					
参考書:「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(8ヶ月)、幼稚園教諭(20年)					

科目名称:保育内容(言葉)指導法 I					
担当者名:岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106241
授業概要:乳幼児期の言葉の発達を踏まえて、保育者の役割及び保育環境について考察していく。また、保育の中での言葉の指導として、劇的表現活動についても学習、実践することを通して、教材についての知識及びその活用法を理解していく。					
到達目標:乳幼児期の言葉の発達を支える保育者の役割および言語環境について理解を深める。劇的表現活動について学び、実践することを通して、教材についての知識およびその活用法を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス			乳幼児が発する言葉や特徴について関心を持っておく(60)		
第2回 領域「言葉」の特徴			保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説などの領域「言葉」を精読する(60)		
第3回 領域「言葉」について学ぶ(1)言葉で気持ちを表現する			保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説などの領域「言葉」を精読する(60)		
第4回 領域「言葉」について学ぶ(2)相手の言葉を聞く			保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説などの領域「言葉」を精読する(60)		
第5回 領域「言葉」について学ぶ(3)言葉で伝え合う			保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説などの領域「言葉」を精読する(60)		
第6回 言葉の発達と言語環境			言葉の環境と活動について下調べをする(60)		
第7回 言葉の育ちにかかわる諸問題			前回授業範囲の復習(60)		
第8回 言葉の育ちに課題を抱える子どもの理解と支援(1)言語障がい、気になる子			前回授業範囲の復習(60)		
第9回 言葉の育ちに課題を抱える子どもの理解と支援(2)事例から考える			前回授業で指示された課題に取り組む(60)		
第10回 劇的表現活動について知る			劇的表現活動の種類や内容について調べておく(60)		
第11回 劇づくりと劇あそび(1)グループ作り、話し合い			発表に向けてグループ毎にしっかりと準備を進めておく(60)		
第12回 劇づくりと劇あそび(2)準備			発表に向けてグループ毎にしっかりと準備を進めておく(60)		
第13回 劇づくりと劇あそび(3)発表			発表に向けてグループ毎によく練習をしておく(60)		
第14回 劇づくりと劇あそび(4)振り返り、講評			発表内容について自己の取り組み振り返り、整理しておくこと(60)		
第15回 まとめ			これまでの学習内容を見直し、しっかりと復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:乳幼児が発する言葉やつぶやきに関心を持ち、日頃から児童文化財に触れ、技術向上に努めること。					
課題に対してのフィードバック:授業で提出した演習課題の成果物やワークシートについては、点検・添削された後、次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 80%、実技試験 20%(受講態度を含む)					
教科書:「最新保育講座 10 保育内容 言葉」柴崎正行、戸田雅美、秋田喜代美(ミネルヴァ書房) 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:参考文献として『実践につなぐ ことばと保育』改定2版 近藤幹生他(ひとなる書房)を使用する。					
実務経験の内容・期間:幼稚園教諭(22年)					

科目名称:保育内容(言葉)指導法Ⅱ					
担当者名:岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106242
授業概要:言葉の発達は、乳幼児期に著しく、この時期の言葉に関する教育は、その後の人格形成に大きく影響を与えるものである。乳幼児期の言葉の発達を踏まえながら、言葉遊びや手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して、保育の実践力及び応用力を身につけていく。					
到達目標:乳幼児期の言葉の発達過程とその特徴を理解することができる。言葉あそびや手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して保育の実践力および応用力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス			保育内容(言葉)指導法Ⅰを復習しておく(60)		
第2回 乳幼児の言葉の育ち(1)言葉が生まれる前			0歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第3回 乳幼児の言葉の育ち(2)3歳未満児			1・2歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第4回 乳幼児の言葉の育ち(3)3歳以上児			3・4・5歳児の言葉の発達について調べておく(60)		
第5回 乳幼児の言葉の発達をどう理解するか(1)幼児音、幼児語			幼児音・幼児語について調べておく(60)		
第6回 乳幼児の言葉の発達をどう理解するか(2)指さし行為			指さし行為について調べておく(60)		
第7回 言葉あそびに触れる(ICTの活用)			乳幼児期の発達に合った言葉あそびについて調べ、発表できるように準備しておく(60)		
第8回 言葉に対する感覚とは			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第9回 保育の中での児童文化財(ICTの活用)			前回授業範囲の復習(60)		
第10回 絵本の読み聞かせについて知る			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第11回 手あそびに触れる			前時に提示された課題に取り組む(60)		
第12回 模擬演習・発表(1)グループ作り、話し合い			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に準備しておく(60)		
第13回 模擬演習・発表(2)準備			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に練習しておく(60)		
第14回 模擬演習・発表(3)発表			読み聞かせの発表に向けてグループ毎に練習しておく(60)		
第15回 模擬演習・発表(4)振り返り、講評			発表内容について自己の取り組みを振り返り、整理しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:保育内容(言葉)指導法Ⅰを総復習しておくこと。また、日頃から児童文化財に触れ、技術向上に努めること。					
課題に対するのフィードバック:授業で提出した演習課題の成果物やワークシートについては、点検・添削された後、次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 80%、実技試験 20%(受講態度を含む)					
教科書:「最新保育講座 10 保育内容 言葉」柴崎正行、戸田雅美、秋田喜代美(ミネルヴァ書房)					
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:参考文献として、『実践につなぐ ことばと保育』改定2版 近藤幹生他(ひとなる書房)を使用する。					
実務経験の内容・期間:幼稚園教諭(22年)					

科目名称:保育内容(音楽表現)指導法 I					
担当者名:枝村 美夏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106251
授業概要:「遊び」そのものが子どもの生活であることをふまえ、一人遊び・複数人遊びの中に音楽という手段を用いながら身近なものに対する感情の表現を学ぶ					
到達目標:子どもの生活・遊びのイメージから適切な曲目を選択することができる。状況に合わせて曲目をアレンジし、子どもたちの動き、遊びを誘導できる					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 領域「表現」のねらいと内容			幼稚園教育要領をよく読んでおくこと(45)		
第2回 生活の中での様々な音や動きに気付く(1)春の行事についての歌や遊び			どんな行事や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第3回 生活の中での様々な音や動きに気付く(2)春の自然についての歌や遊び			どんな自然や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第4回 生活の中での様々な音や動きに気付く(3)夏の行事についての歌や遊び			どんな行事や歌、遊びがあるか調べ歌の練習をする(45)		
第5回 生活の中での様々な音や動きに気付く(4)夏の自然についての歌や遊び			どんな自然や歌、遊びがあるか調べ歌の練習をする(45)		
第6回 感じたこと、考えたことを音や動きで表現する			前回授業で配布したプリントに基づき練習する(45)		
第7回 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう			図書館で絵本を選択し音読する(45)		
第8回 絵本を読む(1)「話す」と「語る」の違い			図書館で絵本を選択し音読する(45)		
第9回 絵本を読む(2)「聞く」と「聴く」の違い			図書館で絵本を選択し音読する(45)		
第10回 絵本を読む(3)文字間から感じるリズムを考える			図書館で絵本を選択しリズムを考える(45)		
第11回 絵本を読む(4)身体を使って表現する。無音表現			図書館で絵本を選択し無音表現する(45)		
第12回 家庭生活の中での音楽(1)屋内			家庭生活(屋内)における音を探す(45)		
第13回 家庭生活の中での音楽(2)屋外			家庭生活(屋外)における音を探す(45)		
第14回 模擬保育演習(1)教材研究と指導計画			各グループでどのような演奏発表をするか考え、練習する(45)		
第15回 模擬保育演習(2)実践と振り返り			第15回 模擬保育演習(2)実践と振り返りおよび全講義の振り返りと復習をする(45)		
履修に必要な予備知識や技能:幼稚園教育要領および保育所保育指針の「表現」を読んでおいてください。					
課題に対するフィードバック:授業内の演奏発表および模擬指導に対する講評を行います。今後の振り返りと復習に活かしてください。					
評価方法・基準:演奏発表・提出課題および受講態度・演習の参加度で評価します(定期試験 60% 提出課題 30%) 受講態度・授業への参加度 (10%)					
教科書:子どものための音楽表現技術(今泉明美著、萌文書林)、幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省、フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)、保育所保育指針解説書(厚生労働省、フレーベル館)					
備考:授業は、歌唱活動の模擬指導の発表を主に行います。また、指導法と指導法に必要な音楽基礎の内容の2本立てで行います。そのために講義計画を一部変更します。講義計画については、初回の授業で説明を行います。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:保育内容(音楽表現)指導法Ⅱ					
担当者名:枝村 美夏					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106252
授業概要:感性豊かな保育者を目指し、子どもの年齢別発達を捉え、成長する姿を視野に入れた簡易楽器演奏・歌唱・リトミックなどの実践・表現方法を学んでいく。また、身の回りにある物すべてを利用して「遊び」に繋がられるよう相違工夫する力を身につけていく。					
到達目標:遊びの周辺にあるものを楽器として使うことができる。一つの曲目を変奏・移調して演奏、指導できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 器楽演習の課題曲を歌う。イメージのつかみやすい曲を選択する			器楽演習の課題曲を練習する(45)		
第2回 幼稚園教育要領「表現」の内容1～8に適した曲目を選択する			幼稚園教育要領「表現」を読んでおくこと(45)		
第3回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説「表現」の内容に適した曲目を選択する			幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説「表現」を読んでおくこと(45)		
第4回 感じたこと、考えたことを音や動きで表現する			前回授業で配布したプリントに基づき練習する(45)		
第5回 保育所保育指針「表現」の内容1～10に適した曲目を選択する			保育所保育指針「表現」を読んでおくこと(45)		
第6回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説「表現」の内容に適した曲目を選択する			幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説「表現」を読んでおくこと(45)		
第7回 リズム楽器を使う楽しさを味わう			前回授業で配布したプリントに基づき練習する(45)		
第8回 リトミックの実践と表現方法(ICTの活用)			リトミックについて調べる(45)		
第9回 生活の中での様々な音や動きを楽しむ(1)秋の行事についての歌や遊び			どんな行事や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第10回 生活の中での様々な音や動きを楽しむ(2)秋の自然についての歌や遊び			どんな自然や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第11回 生活の中での様々な音や動きを楽しむ(3)冬の行事についての歌や遊び			どんな行事や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第12回 生活の中での様々な音や動きを楽しむ(4)冬の自然についての歌や遊び			どんな自然や歌、遊びがあるか調べ、歌の練習をする(45)		
第13回 自然の音に親しみ表現する(ICTの活用)			前回授業で配布したプリントに基づき練習する(45)		
第14回 模擬保育演習(1)教材研究と指導計画			各グループでどのような演奏発表をするか考え、練習する(45)		
第15回 模擬保育演習(2)実践と振り返り			全授業内容の振り返りと復習、リトミックの発表に向けてグループで考える(45)		
履修に必要な予備知識や技能:保育内容(音楽表現)指導法Ⅰの学修内容を復習しておいてください。					
課題に対してのフィードバック:授業内の課題、発表に対する講評を行います。今後の振り返りと復習に活かしてください。					
評価方法・基準:演奏発表・提出課題および受講態度・演習の参加度で評価する(定期試験 60% 提出課題 30% 受講態度・授業への参加度 10%)					
教科書:乳幼児の音楽表現(小西行郎著、中央法規)幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)幼稚園教育要領解説(文部科学省、フレーベル館)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館)、保育所保育指針解説書(厚生労働省、フレーベル館)					
備考:一部計画内容を変更して実施します。歌唱や身体表現を中心に演習や発表を行います。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:保育内容(造形表現)指導法 I					
担当者名:永坂晃子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106261
授業概要:子どもの造形表現について発達の基礎を学ぶ。また、表現行為を心理学的知見から理解し、保育・福祉の場での美術表現の意義を学んでいく。さらに保育現場における造形表現活動の具体的方法を身につける。 授業は主に自らが体験的に学ぶ演習形式である。演習から得た自分自身の感覚や感情、思考を分析することから理論の理解に繋げる。					
到達目標:各演習課題の意図と内容の理解から、五領域の一つである「表現」についての理解を深める。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 領域「表現」のねらいと内容			「幼児と造形表現」の振り返りと十分な理解(80) 課題レポート(30)		
第2回 生活の中での様々な色、形、手触りに気付く			課題レポート(30)		
第3回 子どもの「描く世界」を体験する(1)錯画期の子どもたち			指示された物品の準備(20) 課題レポート(30)		
第4回 子どもの「描く世界」を体験する(2)図式期の子どもたち			指示された物品の準備(20) 課題レポート(30)		
第5回 子どもの絵画表現の発達段階(1)心理的発達段階との呼応			第3回、第4回授業の課題レポートの振り返り、発達段階の復習、教科書 p.63~71 の予習(90)		
第6回 子どもの絵画表現の発達段階(2)描くという行為にみる内面			第5回授業の復習、発達段階の復習、教科書 p.71~79 の予習(90)		
第7回 障害児・障害者の絵画・美術表現の世界(1)障害特性と表現の特徴			課題レポート(120)		
第8回 障害児・障害者の絵画・美術表現の世界(2)表現をどのように理解すべきか			課題レポート(120)		
第9回 福祉現場における、絵画・美術の応用			課題レポート(90)		
第10回 造形活動のプランニング(1)実践演習			演習授業材料準備、グループでの事前相談(120)		
第11回 造形活動のプランニング(2)他領域とねらい			課題レポート、教科書 p.83~91 の予習(90)		
第12回 造形活動のプランニング(3)年齢とねらい			課題レポート(40)		
第13回 造形活動のプランニング(4)環境構成			課題レポート(120)		
第14回 身体的な表現活動			課題レポート(30)		
第15回 まとめ			全授業回の振り返り(90)		
履修に必要な予備知識や技能:子どもの発達段階の理解、他の保育内容科目の理解、科目「幼児と造形表現」の理解					
課題に対するフィードバック:課題レポートは添削の上、課題ごとに10段階、5段階等の評価を付し、返却する。授業シートなど提出物へのコメント。					
評価方法・基準:課題レポートおよび他提出物 70% 受講態度 30%					
教科書:教科書:「保育をひらく造形表現」槇英子(萌文書林)					
参考書:「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型こども園 教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」					
備考:保育は、他の分野とも連動して学ぶことが理想です。本科目は大学・学科行事や他の関連科目の進行等を考慮してフレキシブルに展開します。					
実務経験の内容・期間:特別支援学校教諭(2年)、保育士(2年)、中学校教諭(1年)、美術造形活動講師(12年)					

科目名称:保育内容(造形表現)指導法Ⅱ					
担当者名:永坂晃子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106262
授業概要:生活における子どもの「表現」の姿を理解し、どのように支えるかを考える保育者としての資質を養っていく。また、子どもの造形表現・あそびを教育的要素や文化的背景に照らして総合的に理解し、活動の対象となる子どもの年齢や実態に即した具体的な活動を実践し、現場に対応できる力を身につけていく。					
到達目標:各演習課題の意図と内容理解から、五領域の一つである「表現」についての理解を深める。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 感じたこと、考えたことを自由にかいたり、つくったりして表現する			「幼児と造形表現」「保育内容(造形表現)指導法Ⅰ」の復習(60)		
第2回 いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ(1)廃材を活かしてつくる			グループ討議、授業に必要な物品の準備(60) グループごとの自主製作(60)		
第3回 いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ(2)子どもが遊ぶ大型おもちゃをつくる			グループごとの自主製作(60) 課題レポート(120)		
第4回 いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ(3)子どもの紙工作(しかけを使った工作)			課題製作物のリサーチ、計画、材料・用具の準備(120)		
第5回 つくる活動の指導計画(1)ねらい			教科書 p.83~87 の予習(30) 授業課題(50)		
第6回 つくる活動の指導計画(2)直接的援助と間接的援助			教科書 p.88~100 の予習(30) 授業課題(50)		
第7回 つくる活動の環境構成(3)間接的援助			授業課題(50)		
第8回 おりがみ演習			課題製作物のリサーチ、検討(90) 課題レポート(30)		
第9回 あやとり演習			課題レポート(30)		
第10回 伝承遊びについて考える			第8回、第9回のレポートの振り返り、課題レポート(120)		
第11回 生活の中での様々な色、形、手触りを楽しむ(1)あそびの中から生まれる表現とその援助			「幼児と造形表現」「保育内容(造形表現)Ⅰ」、保育指針の理解(90)		
第12回 乳児の表現の発達			事前配布資料の予習、乳児の発達理解(90)		
第13回 表現の発達			事前配布資料の予習(60)		
第14回 生活の中での様々な色、形、手触りを楽しむ(2)子どもの心を支える表現と保育者の役割			事前配布資料の予習(60) 授業課題(60)		
第15回 まとめ			課題レポート(90)		
履修に必要な予備知識や技能:子どもの発達段階の理解、他領域の理解、「幼児と造形表現」、「保育内容(造形表現)指導法Ⅰ」の理解					
課題に対してのフィードバック:課題レポートは添削の上、課題内容に応じて10段階、5段階などの評価を付し、返却する。各提出物へのコメント。					
評価方法・基準:課題レポートおよび他提出物80%、受講態度20%					
教科書:教科書:「保育をひらく造形表現」槇英子(萌文書林)					
参考書:「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型こども園 教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」					
備考:保育は、他の分野とも連動して学ぶことが理想です。本科目は大学・学科行事や他の関連科目の進行等を考慮してフレキシブルに展開します。					
実務経験の内容・期間:特別支援学校教諭(2年)、保育士(2年)、中学校教諭(1年)、美術造形活動講師(12年)					

科目名称:子どもの食と栄養 I					
担当者名:井上 好美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義・演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204044
授業概要:健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、特に乳幼児期に必要な栄養素と適量について食品に結びつけて理解を深めていく。また、小児の栄養上の問題点や献立作成など実践面についても学んでいく。					
到達目標:自分自身が食事を柱とする生活リズムを保ち、正しい食生活を身につける。保育に携わる者に喜びや楽しみを持てるよう、地域社会との関わりの中で食育の実践が出来る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 子どもの健康と食生活の意義及び栄養に関する基本知識			“自分自身の現在の食生活をみなおしてみる。3日の食事記録をする。中口絵⑧参照”(20)		
第2回 栄養に関する基本的知識 炭水化物の種類と摂り方			成人の基本的な炭水化物を多く含む食品種類を調べる (20)		
第3回 基本的知識 脂質の種類と摂り方 たんぱく質の種類と摂り方			栄養素の種類と機能(20)		
第4回 基礎知識 ビタミン、ミネラル、水分からだに必要な栄養素とそれを多く含む食品			季節の食材・旬について調べる(地元の産物)(20)		
第5回 食べ物の消化過程と排泄			各消化管と消化酵素・栄養素の吸収・排泄(20)		
第6回 各栄養素の食事摂取基準の指標 献立と調理の基本			エネルギーの摂り方(各栄養素の配分)(20)		
第7回 “日本人の食事摂取基準と食品構成を生かした 献立と栄養バランスの学び方”			1日の献立をたてる…健康を考慮した日常食 3日間自身のメニューをもとに(20)		
第8回 献立の評価とチェック グループワークを通して			“対象に合わせた調理と作り方・教材の発表(メニュー例)提出”(20)		
第9回 衛生管理と調理の基本 子供の食べやすいおやつ実習			衛生管理・食品の表示制度…食品を購入する際、日常の中で調べてくる(20)		
第10回 子供の発育、発達の特徴			「現代の栄養管理と昨今の違いを調べる」(20)		
第11回 妊娠期の食生活と栄養の留意点			妊婦の体重管理(20)		
第12回 乳児期の授乳、離乳食の意義と食生活			母乳の利点を予習(20)		
第13回 家庭における離乳期の栄養問題			“中口絵⑥～⑦離乳食の調理例 前回授業の復習”(20)		
第14回 乳児期における栄養状態の評価			“心身の成長発達と食行動の変化 発育値 栄養状態による発育発達の評価”(20)		
第15回 前期のまとめ			栄養教育の教材を発表(20)		
履修に必要な予備知識や技能:予習として各回の授業テーマに関連する情報を収集しておくこと(メディアによるトピックスなど)。保育所における食育プログラムや行事食について可能な範囲で調べる(参加体験なども含む)。					
課題に対するフィードバック:授業内プリントは回収後に返却しない					
評価方法・基準:定期試験は、70%で評価する。レポート30% 受講態度(授業への参加度)					
教科書:“「最新 子どもの食と栄養」食生活の基礎を築くために「五訂増補 食品成分表」「日本人の食事摂取基準」(2020年版)他”					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:子どもの食と栄養Ⅱ					
担当者名:井上 好美					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義・演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24204045
授業概要:子どもの発達に不可欠な、食育の基本とその内容を学ぶ。また、食育のための環境を保護者への支援や地域社会との関連を含め学ぶ。また、ごく一般的な家庭から児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、アレルギーや障害のある子ども等特別な配慮が必要な子どもの食と栄養についても学ぶ。					
到達目標:自分自身が食事を柱とする生活リズムを保ち、正しい食生活を身につける。保育に携わる者に喜びや楽しみを持てるよう、地域社会との関わりの中で食育の実践が出来る。 家庭と保育施設を結ぶ専門的知識を身につけ、食をととした保護者への支援が出来る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 乳児期の離乳の意義と必要性			“前期で学んだ重点項目について、乳児期の離乳の必要性、基本的な考え方を再度調べる”(20)		
第2回 離乳食の進め方の原則、与え方の目安			離乳食の調理形態基本4段階を調べる(20)		
第3回 離乳食と成長の原則 離乳食の事例 グループワーク			食事摂取基準と食品構成の演習を入れて(20)		
第4回 離乳食のDVD 離乳食の与え方と食育の基本,ディスカッション			“食育のねらい及び内容 実際の乳幼児の 管理と実際を観察”(20)		
第5回 離乳食 調理実習 簡単に作れる方法と応用			“「食育の5項目」を厚生労働省の資料より予習「食生活指針」も参照”(20)		
第6回 幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の発達の特徴 身体の特徴 食行動の特徴			幼児期で家庭の食事が心身に与える役割について気づくことを箇条書きにして(20)		
第7回 幼児の食事摂取基準と食品構成と食品の選び方			供食上の留意点、間食も含めて事例を挙げる(20)		
第8回 幼児期の間食の必要性和意義、食生活の問題点			幼児の食事で困っていることを調べる(20)		
第9回 学童期の心身の発達と食生活 身体的特徴と精神的特徴 食生活の特徴と問題点 最近の情報			自身が小学生の時の身長、体重について覚えている記録する(20)		
第10回 食事摂取基準から学校給食と保育給食の目標 給食の課題と集団給食の利点			自身の給食で好き嫌いだったメニューを書く(20)		
第11回 食物アレルギーのある子どもへの対応 体調不良の子への対応 Q&A グループワーク			個々の「生活管理指導表」厚生労働省新資料に基づいた個別対応について(20)		
第12回 幼児や障害のある子どもへの対応 保護者への食育パンフレット作成 栄養バランスを考える			特に食べる機能に障害のある子どもへの食の対応例 保護者への食育パンフレット作製提出(20)		
第13回 食育の基本と内容 乳児幼児に対して、食育のための環境 食を通じた保護者への支援 ディスカッション			“幼児食の特徴と留意点 衛生管理を踏まえて”(20)		
第14回 食生活、昨今の栄養問題と課題 自身の健康管理			“レポート・「食育だより」Q&Aによる事例発表”(20)		
第15回 後期のまとめ			総復習(20)		
履修に必要な予備知識や技能:各回の復習や予習を小レポートにまとめておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業内プリントは回収後に返却しない					
評価方法・基準:定期試験は、70%で評価する。 レポート30% 受講態度(授業への参加度)					
教科書:“「最新 子どもの食と栄養」食生活の基礎を築くために 「五訂増補 食品成分表」 「日本人の食事摂取基準」(2015年版) 他”					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:乳児保育 I					
担当者名:山本 真里子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206056
<p>授業概要:乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割を学んだ上で多様な保育の場における乳児保育の現状について理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保育者の援助や関わりについて学び、さらに運営体制や職員間、保護者との連携・協働について理解を深める。</p>					
<p>到達目標:1. 乳児保育の意義や歴史的変遷について学び、多様な乳児保育の現状や課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や、職員間及び保護者との連携・協働について理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス 乳児保育の重要性			教科書全体に目を通してくる(30)		
第2回 乳児保育の意義と目的・歴史的変遷と現状 乳児が生活する場(家庭・保育所・乳児院等)			乳児保育に求めることは何かを考えてくる(30)		
第3回 乳児を預かるものとしての心構え・不適切な保育とは			事前資料に目を通してくる(30)		
第4回 保育所で過ごす一日の流れ(日課・保育者間の連携)映像視聴			事前配布資料に目を通してくる(30)		
第5回 0・1・2歳児の発達 アタッチメント			事前配布資料に目を通してくる(30)		
第6回 保育所保育指針にみる乳児保育(10の育ち・養護と教育)映像の読み取り・グループワーク			事前配布資料に目を通してくる		
第7回 乳児のからだ(体の発育と運動機能の発達)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第8回 乳児の育ちを知る(第2章・第3章)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第9回 乳児の育ちを知る(第4章・第5章)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第10回 乳児の育ちを知る(第6章)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第11回 乳児の育ちを知る(第7章)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第12回 乳児の育ちを知る(第8章)映像読み取り・グループワーク			教科書章を読み予習してくる(30)		
第13回 乳児の育ちを知る(第9章)映像読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第14回 乳児保育の育ちを知る(第9章)映像の読み取り・グループワーク			教科書を読み予習してくる(30)		
第15回 乳児保育の重要性をまとめる			乳児保育の重要性について考えてくる(30)		
履修に必要な予備知識や技能:新聞、雑誌などから乳児(0・1で・2歳)に関する情報をえておく。					
課題に対してのフィードバック:前回の授業においての要点を授業初めに確認する。課題や制作物は次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 80% レポート・課題等提出物・受講態度 20%					
教科書:教科書:『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい					
備考:乳児(3歳未満児)の姿を映像視聴や自分自身の乳児期から知り、乳児を身近に感じることから学びを広げていきます。またグループワークを通し様々な意見が吸収できるようにします。					
実務経験の内容・期間:保育所・こども園勤務(45年)					

科目名称:乳児保育Ⅱ					
担当者名:山本 真里子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24206057
授業概要:養護と教育の一体性を踏まえ、乳児保育の内容・方法について理解する。また、子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びを通して、援助や環境構成に基づく乳児保育の実際について具体的に学んでいく。					
到達目標:1. 3歳未満児の発育・発達の過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びの環境構成や保育者の援助について具体的に学び理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション グループワーク			前期で学んだ教科書第2～9章まで目を通してくる(45)		
第2回 演習:抱っこの仕方 おんぶの仕方			事前配布資料に目を通してくる(30)		
第3回 演習:授乳			教科書に目を通してくる(30)		
第4回 乳児の生活と養護の実際(離乳食)			教科書に目を通してくる(30)		
第5回 乳児の生活と養護の実際(離乳食)			教科書に目を通してくる(30)		
第6回 乳児の生活と養護の実際(排泄・睡眠)			教科書に目を通してくる(30)		
第7回 演習:オムツ交換			事前配布資料に目を通してくる(30)		
第8回 乳児の生活と養護の実際(清潔・着脱)			教科書に目を通してくる(30)		
第9回 演習:着脱			着脱について復習する(30)		
第10回 乳児に適した服装について知る			子ども服をしらべてくる(30)		
第11回 保護者支援の実際(子育て支援・連絡帳の書き方等)			事前資料に目を通してくる(30)		
第12回 ドキュメンテーションをつくってみよう			ドキュメンテーションについて調べてくる(30)		
第13回 保育室・必要な遊具について			教科書に目を通してくる(30)		
第14回 演習:わらべうた ドキュメンテーションの発表			ドキュメンテーションを仕上げる		
第15回 乳児保育のまとめ			乳児保育についてまとめてくる		
履修に必要な予備知識や技能:教科書全体に目を通し、乳児の保育への関心や知識を深めておく。					
課題に対してのフィードバック:前回の授業においての要点を授業初めに確認する。演習課題や制作物は次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準:定期試験 80% レポート・受講態度 20%					
教科書:教科書:『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい					
備考:映像やエピソードの読み取りを通して子どもの育ちをより身近に感じることができるようになります。様々な形態でのグループワークをしていきます。人形を使った授乳・オムツ交換などを行いイメージをより確かなものにします					
実務経験の内容・期間:保育施設勤務(45年)					

科目名称:保育実習指導Ⅰ-A					
担当者名:永坂晃子、斎藤修啓、枝村美夏、岡部智子、川邊音生、木谷葉子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24208082
授業概要:保育実習の意義・目的を理解し、実習内容の理解と課題を明確にする。保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシー保護、守秘義務、実習計画、実践、観察、記録、評価の方法等実習前に必要な事項を修得する。実習後は、事後指導を通して、実習総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
到達目標:保育実習Ⅰ-Aに向けた課題への積極的な取り組み、対象となる年齢の発達および実習園の保育方針等の十分な理解を踏まえた「あそびのプラン」作成、教材研究、教材製作を行う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			早期現場体験記録の完成、保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説の精読(90)		
第2回 早期現場体験の振り返り 自己課題の確認【永坂】			早期現場体験記録の読み返し、自己課題レポート(90)		
第3回 保育実習Ⅰの意義と目的【永坂】			保育所保育指針解説書と幼稚園教育要領解説の精読、実習園概要作成(90)		
第4回 保育実習Ⅰまでの流れと書類説明【永坂】			保育所保育指針解説書と幼稚園教育要領解説の精読 実習園概要作成(90)		
第5回 保育所の概要と1日の流れ「あそび」について【永坂】			実習簿必要項目の記入、教材製作課題(90)		
第6回 保育所の概要と1日の流れ【永坂】			教材製作課題、プラン作成課題、オリエンテーション実施(90)		
第7回 記録作成の意義【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			オリエンテーション実施、事前体験学習、プラン作成課題(90)		
第8回 記録の記入方法【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			自主実習実施、プラン作成課題、教材準備、記録演習課題(90)		
第9回 目標(ねらい)について①保育指針に基づいて【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			保育所保育指針解説書の精読、事前体験学習実施(90)		
第10回 目標(ねらい)について②年齢ごとの違い【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			プラン作成課題、事前体験学習実施(90)		
第11回 子どもの実態に即した部分指導計画の立案①3歳児を中心に【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			プラン作成課題、事前体験学習実施(90)		
第12回 子どもの実態に即した部分指導計画の立案②4歳児を中心に【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			プラン作成課題、事前体験学習実施(90)		
第13回 子どもの実態に即した部分指導計画の立案③5歳児を中心に【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			実習目標、心構え(90)		
第14回 プライバシー保護や守秘義務について【永坂】			諸証明手続き(90)		
第15回 まとめ【永坂、斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷】			実習準備(90)		
履修に必要な予備知識や技能:「早期現場体験」で得られる知見が求められる。					
課題に対してのフィードバック:授業内で提示される課題は、課題ごとに、担当教員やグループ担当教員によって提出期日や返却方法などが示されます。					
評価方法・基準:課題実施(事前学習、教材製作、オリエンテーション、事前体験学習、プラン作成)70%、受講姿勢30%。					
教科書:保育所保育指針解説、実習テキスト					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)					

科目名称:保育実習指導Ⅰ-B					
担当者名:三宅右久、枝村美夏、永坂晃子、木谷葉子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年通年	演習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24208083
授業概要:保育実習の意義・目的を理解し、実習内容の理解と課題を明確にする。保育所、認定こども園以外の児童福祉施設における子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシー保護、守秘義務、実習計画、実践、観察、記録、評価の方法等実習前に必要な事項を修得する。実習後は、事後指導を通して、実習総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
到達目標:到達目標:事前学習、実習、事後学習を通して以下に取り組むことを目標とする。 ①保育士資格取得に必要な社会福祉施設での実習の意義を知り、個別の実習目的を明確にし、目標を設定する。 ②実習施設・事業、入所児童・利用者についての理解および養育・療育・生活支援等に関して調べ、事前課題に取り組み、それらに関する現状と課題について記録、考察する。 ③保育士の施設での職務、勤務体制等を知り、それらに関する現状と課題について記録、考察する。 ④保育士を目指すための自分の課題解決と向上のための取り組み(報告会、レポート、体					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 保育実習の意義・実習指導展開・実習の心得【永坂、三宅】			実習の心得について考え記載する(45分)		
第2回 実習施設及び事業の理解①映像視聴、事前学習について【枝村、木谷】			視聴映像の感想等を記載する(45分)、実習施設・事業・利用等について調べ及び保育福祉小六法の関連箇所につ箋を貼る(90分)		
第3回 実習施設及び事業の理解②映像視聴、実習施設の概要、施設見学の事前準備及び実施要領【永坂、三宅】			映像視聴のまとめと感想をレポートする(45分)、実習先の施設・事業等の情報収集をする(90分)		
第4回 実習施設及び事業の概要、入所や利用児等に関して知る。グループワーク、フィードバックを実施【枝村】			実習に関する疑問点や質問事項を整理する(30分)		
第5回 実習体験及び実習での学びに関する理解(実習報告会)【三宅、木谷】			実習に関する疑問点や質問事項を整理する(30分)		
第6回 個人票・誓約書の意味と作成、実習目標の設定に向けて①グループワーク、フィードバックを実施【枝村】			個人票・誓約書の下書きをする(30分)、事前学習項目に取り組む、実習で学びたい事を考える(60分)		
第7回 講師講話による施設、実習内容、実習における留意点等の理解。グループワーク、フィードバックを実施【永坂】			学びや感想をレポートする(45分)、講話での学びを参考にし、実習目標の内容を考える(60分)		
第8回 講師講話による施設、実習内容、実習における留意点等の理解。グループワーク、フィードバックを実施【木谷、三宅】			学びや感想をレポートする(45分)、講話での学びを参考にし、実習目標の内容を考える(60分)		
第9回 実習目標の設定に向けて②グループワーク、フィードバックを実施【枝村、木谷】			自分の実習目標を具体的に実現できるための方法を考える(60分)		
第10回 施設オリエンテーション、自主的活動プラン、実習目標の設定に向けて③グループワーク、フィードバックを実施【永坂、三宅】			自主的活動プランの実施したい活動を考え、必要なものを準備する(90分)。施設の担当者とオリエンテーションの連絡調整をする(10分)		
第11回 実習記録簿記入方法①グループワーク、フィードバックを実施【永坂】			事前学習項目に取り組む、実習目標を明確にし、文章化する(90分)		
第12回 実習記録簿記入方法②映像視聴、実習での記録物提出についてグループワーク、フィードバックを実施【永坂、木谷】			事前学習項目に取り組む(60分)		
第13回 評価について実習成績報告書、評価の視点、自己評価等【三宅】			事前学習項目に取り組む(60分)		
第14回 感染予防対策(諸検査、手続き及び日程等)、出席及び補習、災害時等対応等について【枝村】			施設オリエンテーションについて報告できるようにする(10分)		
第15回 実習直前指導提出物、巡回指導、反省会、実習後対応、諸注意等の確認などについて。フィードバックを実施【永坂】			実習のためのすべての事前準備をする(90分)		
第16回 実習の振り返り:グループ①になり感想及び意見発表・意見交換、グループワークを実施【全員】			実習の記録物を見直す(30分)		
第17回 実習の振り返り:グループ②になり感想及び意見発表・意見交換、グループワークを実施【全員】			実習の記録物を見直す(30分)		
第18回 実習報告会レジメ及び実習報告書記載要領、後輩へのアドバイス等実習後書類の確認。グループワーク、フィードバックを実施【全員】			後輩へのアドバイスを下書きする(30分)		
第19回 出席票、実習記録、自主的活動プラン、まとめ等の確認し、実習後の自己評価をする。フィードバックを実施。【全員】			すべての記録物を適切な記述がされているか見直す(45分)		
第20回 実習総括(個別面談による実習の振り返り、課題の考察)①面談でフィードバックを実施。【全員】			振り返りができるように自分の実習を省察する(45分)		
第21回 実習総括(①の振り返りをもとに個別面談による実習の振り返り、課題の考察)②面談でフィードバックを実施【全員】			振り返りができるように自分の実習を省察し、エピソードを文章化する(45分)		
第22回 実習総括(②の振り返りをもとに個別面談による実習の振り返り、課題の考察)③面談でフィードバックを実施【全員】			振り返りができるように自分の実習を省察し、エピソードを文章化する(45分)		
第23回 実習総括(③の振り返りをもとに個別面談による実習の振り返り、課題の考察)④面談でフィードバックを実施【全員】			振り返った内容及びこれまでのエピソードの文章化を集約し、学びの成果となるようにする(60分)		
第24回 実習総括(④の内容をもとに個別面談し、学びと課題を考察す			これまでの振り返り、学び、課題を文章化する(90分)【全員】		

る)⑤面談でフィードバックを実施【全員】	
第25回 実習報告会準備(実習総括⑤をもとに個別面談し、振り返りの内容整理、レジメ作成)①面談でフィードバックを実施	面談を受けて、報告内容を再考し、レジメ案、発表原稿案をつくる(90分)【全員】
第26回 実習報告会準備(面談により及び再考した報告内容を検討、レジメ作成、発表原稿作成)②面談でフィードバックを実施	実習報告会での報告内容を最終確認し、レジメを作成、発表原稿を最終作成する(90分)【全員】
第27回 実習報告会(実習の学びや考察を取りまとめて発表する)①プレゼンテーションを実施	実習報告会で受けた質問や、さらなる疑問について考察する(60分)【全員】
第28回 実習報告会(他の実習生の報告を聞き自分の考察の参考にする)②プレゼンテーションを実施【全員】	実習報告会で受けた質問や、さらなる疑問について考察する(60分)
第29回 実習報告書原稿作成、フィードバックを実施。【全員】	実習報告会での質疑等を参考にふり返りを深め、実習報告書原稿にする(90分)
第30回 実習報告書原稿作成、まとめ【全員】	実習報告書の原稿を仕上げる(60分)
履修に必要な予備知識や技能:「早期現場体験」で得られる知見が求められる。	
課題に対するフィードバック:課題は、提示者が示す方法でフィードバックします。課題ごとに提出・返却等の方法が異なるため、説明に留意してください。保育実習指導Ⅰ-Bのフィードバックの成果物は、『保育実習指導Ⅰ-B(社会福祉施設実習)報告書』に集約、製本し履修者等に配付します。	
評価方法・基準:事前学習、事後のふり返りに関する内容(50%)、受講及び取り組み状況等(50%)を目安に総合的に評価します。	
教科書:『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編(株)みらい 授業内でグループワークや課題に用います。授業内で開いて、該当箇所や活用方法を説明します。	
備考:ほぼ毎回課題があり、その積み上げによって実習に臨むことができます。遅刻・早退・欠席などの場合は、受講生の自覚と自己責任で資料や内容、課題について問い合わせなどの取り組みをしてください。	
実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士20年 公認心理師4年	

科目名称:保育実習Ⅰ-A					
担当者名:斎藤修啓、枝村美夏、岡部智子、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子、松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	実習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24208084
授業概要:実習園の沿革や保育の一日の流れを知り、保育計画を把握し、自ら指導計画を立案実践する。また保育者の役割を知り、観察や関わり・気づきを記録に残すことで子ども理解を深め、理論と実践の結び付きを図る。					
到達目標:実習保育所において、保育参加および部分指導実践を通して自らの課題を見出し、保育士の役割、子どもの実態に即した活動と子どもに応じた援助に対する気づきを得る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>時期:2年次前期に実施する。</p> <p>期間:保育所にて、10日間の連続した実習を実施する。但し、実習保育所の都合により連続できないこともあり得る。</p> <p>条件:①早期現場体験で得られる知見を有していること。  ②保育実習指導Ⅰ-Aを受講していること。  ③オリエンテーション、事前体験学習を実施する。  ④実習中の無断欠席は、即時実習中止となる。  ④養成校の教員による巡回指導を受ける。  ⑤適切な実習とみなされない場合は、実習を即時中止する。  ⑥実習終了後、養成校にて行われる「振り返り」「まと</p>			<p>早期現場体験の十分な振り返り。  保育実習指導Ⅰ-Aを受講し、課題に適切に取り組むこと。  実習保育所のオリエンテーション、事前体験学習の実施。  現場での体験に相応しい態度、心構え。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:保育実習指導Ⅰ-Aを履修していること。					
課題に対してのフィードバック:事後指導を通して、実習での課題に関するフィードバックを行う。					
評価方法・基準:実習内容80%(うち実習園からの評価45%)、実習記録20%					
教科書:実習保育所のパンフレット、保育所保育指針解説、実習テキスト					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)					

科目名称:保育実習Ⅰ-B					
担当者名:枝村美夏、永坂晃子、木谷葉子、三宅右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年通年	実習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24208085
授業概要:実習施設を理解し、共に生きるという姿勢から援助技術を修得する。また生活と権利を守り、共存共生的な技術を担うという観点から、職員の具体的な役割、業務内容、勤務体制を理解する。					
到達目標:実習施設、入所や利用の児童等の背景、職種や機能等について現状と課題を理解する。またケアや支援の実践について、個性の尊重、自己実現、自立支援、基本的人権、最善の利益などの理念と関連させて考察し、自己の対応に関する気づきを得て、児童と家庭の支援者となる実践力を身につける。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>1. 保育実習Ⅰ-Bは、実習日数は10日間であり、児童福祉法施行規則の「指定保育士養成施設における保育実習の実施基準について」等に基づいて行います。</p> <p>2. 保育実習Ⅰ-Bの内容は、以下のようなものです。</p> <p>① 実習施設・事業等について理解する(各種別の施設・事業等の特性、個々の施設・事業等の特徴)。</p> <p>② 施設・事業等の一日の流れを理解し、参加する。</p> <p>③ 人間の発達過程に関する理解や、児童・利用者の方々の観察やかかわりを通して、児童・利用者の方々のニーズを理解する。</p> <p>④ 児童・利用者の方々への援助等の計画を理解する</p>			<p>実習中に実習施設から課題等が指示されることがありますが、その場合は指示内容に従って学修や制作し、施設に提出する必要があります。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:「早期現場体験」で得られる知見が求められる。					
課題に対するフィードバック:事後指導の授業及び個別面談を通して、実習での課題に関するフィードバックを行います。					
評価方法・基準:実習施設の成績報告書(60%)、実習の取り組みの程度及び実習記録等(40%)を目安としますが、その他実習態度などと総合的に評価します。					
教科書:参考書『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編(株)みらい 保育実習指導Ⅰ-Bでは教科書にしています。実習施設の機能、職員、利用等の理解に必要です。					
備考:保育実習Ⅰ-Bのための各実習施設におけるオリエンテーションは必ず実施、出席する必要があります。 実習期間中は巡回指導を行い、その際の指導等は実習内容に含まれます。また実習前後の実習に関する各実習施設と実習生のやり取り等も実習とみなされることがあります。					
実務経験の内容・期間:家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士20年 公認心理師4年					

科目名称:保育実習指導Ⅱ					
担当者名:木谷葉子、斎藤修啓、枝村美夏、岡部智子、永坂晃子、川邊音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24208086
授業概要:保育実習を通して、保育所や認定こども園の役割や機能について理解すると共に子どもの観察や関わりの視点を明確にする。「保育実習Ⅰ」及び「保育実習指導Ⅰ」、その他既習の科目をベースに子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶと共に、保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけ理解する。事後指導の中では、保育士としての自己の課題も明確にする。					
到達目標:保育実習Ⅱに向けた課題への積極的な取り組みをする。 指導案作成を通して「保育の流れ」「遊びの連続性」を理解し、実践における多角的な視点を知るとともに、自らの実習における学びの視点(自己課題)を明確にする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 保育実習Ⅰ-A振り返り①「自己課題を探る」【永坂、木谷】			保育実習Ⅰ-A実習簿、記録の確認と保育実習Ⅰ-Aの振り返りをする(120)		
第2回 保育実習Ⅰ-A振り返り②「保育所の生活の理解」各自の記録を基にグループ討議【永坂、木谷】			振り返り課題「保育所の一日の流れ」と保育実習Ⅱの実習園概要について調べる(120)		
第3回 保育実習Ⅰ-A振り返り③「部分指導の反省」各自の記録を基にグループ討議【永坂、木谷】			振り返り課題「部分指導の反省」として実際の子どもの姿について追記する(90)		
第4回 保育実習Ⅱの意義と目的、内容・保育の連続性について【木谷】			保育実習Ⅰ-A振り返りのレポートを作成する(120)		
第5回 課題「遊びのマップ」、視聴覚教材制作【木谷】			課題「遊びのマップ」、視聴覚教材制作の準備をする(120)		
第6回 課題発表(視聴覚教材)【木谷】			保育教材の制作をする(120)		
第7回 実習に必要な文書の作成(実習簿及び記録用紙)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			3歳未満児の各年齢のレポートを作成しておく(120)		
第8回 実習記録の意義と記入方法:目標(ねらい)について【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			実習簿を作成し、保育所保針を精読する(120)		
第9回 遊びの連続プラン作成【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			あそびのプランを立案し、保育所保育指針を精読する(180)		
第10回 指導案作成演習(部分指導案)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			実習園でのオリエンテーションを実施しておく(120)		
第11回 指導案作成演習(一日指導案)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			指導案の演習課題をする(90)		
第12回 指導案作成①(書き方の確認)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			指導案の作成課題と教材準備をする(120)		
第13回 指導案作成②(グループ指導)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			指導案の作成課題と教材準備をする(120)		
第14回 指導案作成③(グループでの活動)【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			指導案の作成課題と教材準備をする(120)		
第15回 実習目標、実習心得等の最終確認【木谷、斎藤、枝村、岡部、永坂、川邊】			全国保育士会倫理綱領精読し、実習準備の確認をする(90)		
履修に必要な予備知識や技能:保育実習Ⅰを終えていることを原則とする。保育所保育指針解説の精読、及び保育実習Ⅰの振り返りを十分に行なっておく。					
課題に対するフィードバック:授業内で提示される課題は、課題ごとに、担当教員やグループ担当教員によって提出期日や返却方法などが示される。					
評価方法・基準:課題実施(事前学習、教材制作、オリエンテーション、事前体験学習、指導案作成)70%、受講態度30%。					
教科書:保育所保育指針解説、実習テキスト					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)					

科目名称:保育実習Ⅱ					
担当者名:木谷葉子、齋藤修啓、枝村美夏、岡部智子、川邊音生、永坂晃子、松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	実習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24208087
授業概要:個別的・集団的特徴を観察し、子ども理解を更に深める。特に子どもの遊ぶ姿から興味関心、発達の個人差について考え保育観の確立に繋げる。また家庭と地域社会の連携や子育て支援としての役割を理解する。					
到達目標:実習保育所において、部分実習、責任実習の実践を通して自らの課題を見出し、保育所保育の意義と保育士の責務を十分に理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>時期:2年次後期に実施する。</p> <p>期間:保育所にて、10日間の連続した実習を実施する。但し、実習保育所の都合により連続できないこともあり得る。</p> <p>条件:①保育実習Ⅰ-Aを終了していること。  ②保育実習指導Ⅱを受講していること。  ③オリエンテーション、自主実習を実施する。  ④実習中の無断欠席は、即時実習中止となる。  ⑤養成校の教員による巡回指導を受ける。  ⑥適切な実習とみなされない場合は、実習を即時中止する。  ⑦実習終了後、養成校にて行われる「振り返り」「まとめ」に参加する。</p>			①保育実習Ⅰ-Aの十分な振り返りをしておく ②保育実習指導Ⅱを受講し、課題に適切に取り組めるようにしておく ③実習保育所(こども園)のオリエンテーション、事前体験学習を実施しておく ④現場での体験に相応しい態度、服装・身だしなみ等、心構えや準備をしておく ⑤担当する年齢に応じた遊びを子どもの姿を予想して描き、部分指導案、一日指導案を立案する		
履修に必要な予備知識や技能:保育実習指導Ⅱの履修、事前課題(指導案立案)、オリエンテーション、事前体験学習を行なっておく。					
課題に対するフィードバック:事後指導を通して、実習での課題に関するフィードバックを行う。					
評価方法・基準:実習内容80%(うち実習園からの評価45%)、実習記録20%					
教科書:実習保育所のパンフレット、保育所保育指針解説、実習テキスト					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習指導 I					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210085
授業概要:ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに現場体験学習、見学実習等を通して、ソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術や実習計画書の作成方法などについて具体的かつ実践的に学ぶ。					
到達目標:①ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を習得する。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク実習指導 I・II・III」及び「ソーシャルワーク実習 I・II・III」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第3回 実習を行う福祉分野に関する基本的な理解			『事前学習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第4回 実習を行う福祉分野の利用者理解			『事前学習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第5回 実習施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解			実習先の実習施設・事業者・機関・団体の概要についてホームページ等から情報収集しておくこと(45)		
第6回 実習先で行われる介護や保育等の関連事業に関する基本的な理解			実習先の実習施設・事業者・機関・団体の概要についてホームページ等から情報収集しておくこと(45)		
第7回 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識技術に関する理解			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第8回 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解			日本社会福祉士会の『倫理綱領』および『行動規範』の該当箇所を読んでおくこと。(60)		
第9回 「実習記録」への記録内容及び記録方法に関する理解			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第10回 実習指導者が実習生に望むこと (現場講師講話)			実習指導者に質問したいこと等整理しておくこと(30)		
第11回 実習計画書の作成(1. 実習計画書作成の意義)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第12回 実習計画書の作成(2. 実習計画書に盛り込む事項)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第13回 実習計画書の作成(3. 実習計画書の確認)			実習計画書(案)を完成させておくこと(60)		
第14回 現場体験学習及び見学実習にむけて			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第15回 巡回指導について			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク論 I～IV」及び「ソーシャルワーク演習 I」で学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また主体的に実習に臨む態度を構築しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:受講態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習指導Ⅱ					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210086
授業概要:ソーシャルワーク実習Ⅰの事後学習として、個別指導、集団指導を通して振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として体系化していくことができる能力を修得する。また、ソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術や実習計画書の作成方法などについて具体的かつ実際に理解し、実習Ⅱに必要な準備を行う。					
到達目標:①ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を習得する。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(1. 実習Ⅰの「実習記録」の整理)			実習Ⅰで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第3回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(2. 実習Ⅰの「実習のまとめ」の振り返り)			実習Ⅰで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第4回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(3. 実習Ⅰの到達点と課題の明確化)			実習Ⅰで作成した「実習のまとめ」について振り返りを踏まえて加筆しておくこと。(60)		
第5回 実習Ⅰ総括会			実習Ⅰの到達点と課題についての発表の準備しておくこと(90)		
第6回 実習を行う福祉分野と利用者に関する理解			実習Ⅰを「職場実習」として体験し理解したことを整理しておくこと(60)		
第7回 実習施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する理解			実習Ⅰを「職場実習」として体験し理解したことを整理しておくこと(60)		
第8回 実習先で行われる介護や保育等の関連事業に関する理解			実習Ⅰを「職場実習」として体験し理解したことを整理しておくこと(60)		
第9回 実習先で必要とされるソーシャルワークに係る知識技術に関する実際理解			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第10回 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の実際理解			日本社会福祉士会の『倫理綱領』および『行動規範』の該当箇所を読んでおくこと(60)		
第11回 「実習記録」への記録内容及び記録方法に関する発展的理解			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと。また実習Ⅰでの自分の記録を見直しておくこと(90)		
第12回 実習計画書の作成(1. 実習Ⅰの到達点と課題の確認)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第13回 実習計画書の作成(2. 実習計画書に盛り込む事項)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第14回 実習計画書の作成(3. 実習計画書の確認)			実習計画書(案)を完成させておくこと(60)		
第15回 巡回指導及び帰校日の指導について			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくこと。「ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容をしっかり理解しておくこと。また主体的に実習に臨む態度を構築しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準:受講態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
教科書:担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習指導Ⅲ					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年通年(隔週開講)	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210087
<p>授業概要: 前期には、ソーシャルワーク実習Ⅱの事後学習として、個別指導、集団指導を通して振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として体系化していくことができる能力を修得し、実習Ⅰ・Ⅱ総括レポートを作成する。</p> <p>また、フィールド・ソーシャルワークとして実施するソーシャルワーク実習Ⅲにむけて事前学習及び実習計画書を作成する。</p> <p>後期には、ソーシャルワーク実習Ⅲの事後学習として、個別指導、集団指導を通して振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として体系化していくことができる能力を修得し、実習Ⅲ総括レポートを作成する。またソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通しての総括報告会を行う。</p>					
到達目標: ①社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うことができる。					
②ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。					
③実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。					
④新たな学習課題や研究課題を発見できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			『シラバス』中の「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(1. 実習Ⅱの「実習記録」の整理)			実習Ⅱで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第3回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(2. 実習Ⅱの「実習のまとめ」の振り返り)			実習Ⅱで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第4回 実習総括レポートの作成(1. 実習Ⅰ・Ⅱを通じての実習課題の達成度についてまとめる)			実習Ⅰ・Ⅱを通じての実習課題の達成度についてまとめること(60)		
第5回 実習総括レポートの作成(2. 実習Ⅰ・Ⅱを通じての自己の課題についてまとめる)			実習Ⅰ・Ⅱを通じての自己の課題についてまとめること(60)		
第6回 実習計画書の作成(1. 実習Ⅲをフィールド・ソーシャルワークとして実施することの理解)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第7回 実習計画書の作成(2. 実習計画書に盛り込む事項)			『実習の手引き』の該当箇所を読んでおくこと(45)		
第8回 実習計画書の作成(3. 実習計画書の確認)			実習計画書(案)を完成させておくこと(60)		
第9回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(3. 実習Ⅲの「実習記録」の整理)			実習Ⅲで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第10回 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理(4. 実習Ⅲの「実習のまとめ」の振り返り)			実習Ⅲで作成した記録やメモ等について整理しておくこと(60)		
第11回 実習総括レポートの作成(3. 実習Ⅲでの実習課題の達成度についてまとめる)			実習Ⅲでの実習課題の達成度についてまとめること(60)		
第12回 実習総括レポートの作成(4. 実習Ⅲでの自己の課題についてまとめる)			実習Ⅲでの自己の課題についてまとめること(60)		
第13回 実習評価全体総括会(1. 実習総括レポートを基に発表原稿の作成)			実習総括レポートを基に発表原稿の下書きを用意すること(60)		
第14回 実習評価全体総括会(2. 実習総括レポートを基にプレゼンテーション資料の作成)			実習総括レポートを基にプレゼンテーション資料案を用意すること(90)		
第15回 実習評価全体総括会(3. 実習評価全体総括会の実施)			実習評価全体総括会での発表の練習をしておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能: ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの振り返りを行うので、実習記録や関連資料等を用意しておくこと					
課題に対するフィードバック: 授業内外での課題やレポート、成果物等の講評・解説、返却等の方法に関しては、担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
評価方法・基準: 受講態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から学期初めのオリエンテーションで案内する。					
教科書: 担当教員により異なるので、学期初めのオリエンテーションで案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間: 社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習 I					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	実習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210088
<p>授業概要:①実習先の施設・事業者等が地域において果たしている役割と機能についての理解。          ②利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成。          ③社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解。</p>					
<p>到達目標:①レジデンシャル・ソーシャルワークが実践されている現場について体験的に理解できる。          ②ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。          ③専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>レジデンシャル・ソーシャルワーク実習の第1段階である「職場実習」として実施する(5日間)          ・実習先の施設・事業者等が地域において果たしている役割と機能についての理解          ・利用者やその関係者、施設・事業者機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成          ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解          ・実習中は、実習指導者による指導と実習指導担当教員の巡回指導等を通して指導を受ける。</p>			<p>実習の振り返り。          次の日の実習目標を立て、達成課題を明らかにする。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク実習指導 I」で学んだ内容をしっかり理解して実習に臨むこと。					
課題に対するフィードバック:実習期間中の巡回指導の際に、諸記録の点検・指導を行う。					
評価方法・基準:実習施設・事業からの評価、実習態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から実習指導 I のオリエンテーションで案内する。					
教科書:参考書:担当教員より必要に応じて案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習Ⅱ					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	選択	3	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210089
<p>授業概要:①ソーシャルワーク援助過程の実践を通じての理解。  ②利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成と実施及び評価。  ③利用者やその関係者との援助関係の形成。  ④社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解。  ⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解。  ⑥施設・事業者等の経営やサービスの管理運営の実際。  ⑦利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価  ⑧ソーシャルワーク実践に求められている技術の実践的理解(アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ソーシャルアクション)</p>					
<p>到達目標:① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力の基礎を習得する。  ② 支援を必要とする人の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。  ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行うことができる。  ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>レジデンシャル・ソーシャルワーク実習の第2段階である「職種実習」「ソーシャルワーク実習」として実施する  「職種実習」(おおむね第1週)  「ソーシャルワーク実習」(おおむね第2週～4週)  ※「職種実習」と「ソーシャルワーク実習」あわせて18日間  ・ソーシャルワーク援助過程の実践を通じての理解。  ・利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成と実施及び評価。  ・利用者やその関係者との援助関係の形成。  ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任への理解。  ・多職種連携及びチームアプローチの実践</p>			<p>実習の振り返り。  次の日の実習目標を立て、達成課題を明らかにする。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容をしっかり理解して実習に臨むこと。ソーシャルワーク実習Ⅰにおける到達点と課題を明確にしておくこと。					
課題に対してのフィードバック:実習期間中の巡回指導及び帰校日の際に、諸記録の点検・指導を行う。					
評価方法・基準:実習施設・事業からの評価、実習態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から実習指導Ⅱのオリエンテーションで案内する。					
教科書:参考書:担当教員より必要に応じて案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:ソーシャルワーク実習Ⅲ					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24210090
<p>授業概要:①地域の状況の理解と、その地域における生活上の課題(ニーズ)の把握  ②多職種連携及びチームアプローチの実践的理解  ③当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ  ④地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解  ⑤利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価  ⑥ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解(アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション)</p>					
<p>到達目標:①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を習得することができる。  ②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握することができる。  ③生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用することができる。  ④機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解することができる。  ⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>フィールド・ソーシャルワーク実習として実施する(7日間)  ・地域の状況の理解と、その地域における生活上の課題(ニーズ)の把握  ・多職種連携及びチームアプローチの実践的理解  ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ  ・地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解  ・利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価  ・ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解(アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーショ</p>			<p>実習の振り返り。  次の日の実習目標を立て、達成課題を明らかにする。</p>		
履修に必要な予備知識や技能:「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ内容をしっかり理解して実習に臨むこと。ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱにおける到達点と課題を明確にしておくこと。					
課題に対してのフィードバック:実習期間中の巡回指導の際に、諸記録の点検・指導を行う。					
評価方法・基準:実習施設・事業からの評価、実習態度、レポート等により総合的に評価する。評価の割合は担当教員から実習指導Ⅲのオリエンテーションで案内する。					
教科書:参考書:担当教員より必要に応じて案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称: 幼児教育実習指導					
担当者名: 岡部智子、枝村美夏、斎藤修啓、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期～4年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200380
<p>授業概要: 幼稚園教諭一種免許取得に必要な幼児教育実習の意義・目的を明らかにする。卓越した専門性を持った保育者になるためには、机上の学習だけでなく、実際の子どもと関わる必要が生じる。子どもとの関わりから自らの保育を捉え直し、そこから得た課題を次の実践で取り組む。こういった学びの循環の効果を高めるために、実習の目的意識を把握し、自己課題を明確にして実習に臨む。実習後には取り組みを振り返り、理想とする保育者像、自らの保育観の形成を促し、社会にフィードバックできる力を養う。</p>					
<p>到達目標: 自らの課題に基づいて実習計画を行い、準備する。子ども理解を踏まえた教材研究、教材製作、指導案作成に取り組み、記録の視点を明確にする。実習の考察から自らの課題と保育観を掴む。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 保育実習Ⅱ振り返り①「保育所の生活の理解」【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			保育実習Ⅱの実習簿を基に振り返りをしておくこと(90)		
第2回 保育実習Ⅱ振り返りⅡ②「部分指導、全日指導について」【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			保育実習Ⅱの実習簿を基に振り返りをしておくこと(90)		
第3回 実習報告会①【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			幼児教育実習Ⅰに向けて自己課題を明確にする実習報告書作成(120)		
第4回 実習報告会②【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			保育実習Ⅱ実習簿の整理、幼児教育実習Ⅰに向けての自己課題の明確化(60)		
第5回 幼児教育実習Ⅰの意義と目的、内容 関係書類の配布、課題発表【岡部】			幼稚園教育要領の精読、実習園の概況について調べておくこと(90)		
第6回 課題、教材研究【岡部】			実習園概要作成、実習関係書類作成、実習園でのオリエンテーションの実施、課題、教材制作準備(90)		
第7回 課題、教材研究【岡部】			実習園でのオリエンテーションの実施、課題、教材制作準備(90)		
第8回 教材研究発表【岡部】			事前体験学習の実施、課題、教材制作準備(90)		
第9回 教材研究発表【岡部】			事前体験学習の実施、課題、教材研究の改善(60)		
第10回 指導計画立案(グループ指導)【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第11回 指導計画立案(グループ指導)【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第12回 指導計画立案(グループ指導)【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第13回 指導計画立案(グループ指導)【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第14回 指導計画立案(グループ指導)【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第15回 指導計画立案(グループ指導)、夏期課題について【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			事前体験学習の実施、指導案作成、教材制作(90)		
第16回 幼児教育実習Ⅰの振り返りと自己評価【岡部】			幼児教育実習Ⅰの実習簿確認、実習振り返り課題(90)		
第17回 各自の記録を基にグループ討議①【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習振り返り課題(60)		
第18回 各自の記録を基にグループ討議②【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習振り返り課題(60)		
第19回 事例発表①【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習報告書作成(60)		
第20回 事例発表②【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習報告書作成(60)		
第21回 幼児教育実習Ⅱの意義と目的【枝村】			オリエンテーション準備(60)		
第22回 実習までの動きと関係書類の説明【枝村】			オリエンテーション実施、事前体験学習実施、実習園概要作成、実習関係書類作成(90)		
第23回 自己課題からの指導計画①【枝村】			オリエンテーション実施、事前体験学習実施、自己課題の明確化、指導案立案、教材研究(90)		
第24回 自己課題からの指導計画②【枝村】			自主実習実施、自己課題の明確化、指導案立案、教材研究(90)		
第25回 自己課題からの指導計画③【枝村】			自主実習実施、自己課題の明確化、指導案立案、教材研究(90)		
第26回 幼児教育実習Ⅱの振り返りと自己評価【枝村】			幼児教育実習Ⅱの実習簿確認、実習振り返り課題(60)		
第27回 自己課題を基にグループ討議①【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習振り返り課題(60)		
第28回 自己課題を基にグループ討議②【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習振り返り課題(60)		
第29回 事例発表③【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】			実習報告書作成(90)		

第30回 事例発表④【岡部、枝村、斎藤、川邊、木谷、永坂】	実習報告書作成(90)
履修に必要な予備知識や技能: 保育実習を終えていることを原則とする。幼児教育要領解説を精読しておくこと。保育実習の記録から、自己課題を明確にしておくこと。	
課題に対してのフィードバック: 授業で提出した課題レポートや制作物については、点検・添削された後、次回以降の授業で返却する。その際、講評する。	
評価方法・基準: 課題実施状況(事前学習、教材研究、課題レポート、指導案作成、実習報告書)70%および受講態度 30%。	
教科書: 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習テキスト。	
備考:	
実務経験の内容・期間: 幼稚園教諭(岡部智子、22年)	

科目名称: 幼児教育実習 I					
担当者名: 岡部智子、斎藤修啓、枝村美夏、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子、松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	実習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200381
授業概要: 目的意識を常に意識しながら、幼稚園における指導と援助の実際を体験し、保育技術を高めるとともに、一人の人として如何に「人」と関わるか、という保育者としての適正を探る。					
到達目標: 卓越した専門の保育技術を持つ幼児教育者を目指し、机上の学問だけでなく、実際の子どもと関わることから、理論と実践の結びつきを図る。また、子どもと生活を共にすることで、一日の流れと保育者の職務内容を理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>時期: 3年次後期に実施する。</p> <p>期間: 幼稚園にて、12日間の連続した実習を実施する。但し、実習園の都合により連続できないこともあり得る</p> <p>条件: ①幼児教育実習指導を受講していること。  ②実習園でのオリエンテーションに参加する。  ③事前体験学習を行い、実習園の行事、対象年齢、実習計画と実習生の実習計画との整合性を図る。  ④実習園の教育方針に従い、適正な実習に努める。  ⑤自己の課題を明確にし、課題に沿った実習計画を立てる。  ⑥養成校の教員による巡回指導を受ける。  ⑦実習終了後、</p>			<p>①幼稚園における保育の概要を学ぶ。  ②保育実習からの自己課題を明確にする。  ③幼児教育実習指導を受講し、課題に適切に取り組む。</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 幼児教育実習指導の受講。自己課題の明確化、実習計画の綿密な立案。					
課題に対するフィードバック: 事後指導を通して、実習での課題に関するフィードバックを行う。					
評価方法・基準: 実習内容 80%(うち実習園からの評価 45%)、実習記録と総括レポート 20%。					
教科書: 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習テキスト。					
備考:					
実務経験の内容・期間: 幼稚園教諭(岡部智子、22年)、保育教諭(川邊音生 2年)					

科目名称: 幼児教育実習Ⅱ					
担当者名: 枝村美夏、斎藤修啓、岡部智子、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子、松下高信					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	実習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200382
授業概要: 4年制保育者養成課程の集大成となる「幼児教育実習Ⅱ」では、保育者としての総合的な視点と保育技術を総動員して実践に臨み、保育者として自立し、自覚することを目指す。					
到達目標: 理想とする保育者像を意識し、保育観の確立に繋げ、子どもの活動意欲を高める指導・援助法を学ぶ。常に自己分析し、今後の課題を見つけると共に自己の向上を図る。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>時期: 4年次前期に実施する。</p> <p>期間: 幼稚園にて、12日間の連続した実習を実施する。但し、実習園の都合により連続できないこともあり得る。</p> <p>条件: ①幼児教育実習指導を受講していること。  ②実習園でのオリエンテーションに参加する。  ③事前体験学習を行い、実習園の行事、対象年齢、実習計画と実習生の実習計画との整合性を図る。  ④実習園の教育方針に従い、適正な実習に努める。  ⑤自己の課題を明確にし、課題に沿った実習計画を立てる。  ⑥養成校の教員による巡回指導を受ける。  ⑦実習終了後</p>			<p>①幼稚園における一日の流れ等を再確認する。  ②幼稚園実習Ⅰからの自己課題を明確にして、その克服に努める。  ③幼児教育実習指導を受講し、課題に適切に取り組む。</p>		
履修に必要な予備知識や技能: 幼児教育実習指導の受講、自己課題の明確化、実習計画の綿密な立案。					
課題に対するフィードバック: 事後指導を通して、実習での課題に関するフィードバックを行う。					
評価方法・基準: 実習内容 80%(うち実習園からの評価 45%)、実習記録と総括レポート 20%。					
教科書: 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習テキスト。					
備考:					
実務経験の内容・期間: 幼稚園教諭(岡部智子、22年)、保育教諭(川邊音生、2年)					

科目名称:早期現場体験指導					
担当者名:齋藤修啓、枝村美夏、岡部智子、木谷葉子、永坂晃子、川邊音生					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200080
授業概要:免許・資格取得の目標をもって幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設で対象となる子ども・利用者と関わり、現場の保育者・職員の職務、施設の役割を知るとともに、対象となる子ども・利用者に「合わせて関わること」をその後「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「幼児教育実習Ⅰ」「幼児教育実習Ⅱ」の第一歩とする。					
到達目標:早期現場体験に向けた事前課題に取り組み、現場で学ぶに必要な知識、意識、心構えなど、十分に準備を整える。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説の精読(60)		
第2回 4年間での学生のあるべき姿【齋藤】			課題への取り組み、必要書類の作成(60)		
第3回 保育に携わる学生としての学園祭への取り組み①計画立案【齋藤】			課題への取り組み(60)		
第4回 保育に携わる学生としての学園祭への取り組み②計画の実践【齋藤】			課題への取り組みと実施後の振り返りレポート(60)		
第5回 早期現場体験の概略と、資格・免許必要条件について【齋藤】			体験園の概要調査、必要書類の記入、保育教材課題の製作(180)		
第6回 保育に従事する者としての倫理について【齋藤】			体験園の概要調査、保育教材課題の製作(180)		
第7回 早期現場体験のオリエンテーションについて【齋藤】			保育教材課題の製作、保育技術の習得(60)		
第8回 早期現場体験の目標の目安と心構え【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			第1回～第8回までの授業内容の十分な理解、オリエンテーション実施(60)		
第9回 早期現場体験の具体的課題(記録演習)【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			オリエンテーション実施、事前体験学習実施、記録演習課題(60)		
第10回 早期現場体験上の注意事項【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			記録演習課題、事前体験学習実施、保育教材の収集、保育技術の習得(60)		
第11回 対象年齢別グループでの説明①3歳以上児を中心に【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			事前体験学習実施、保育教材の製作、保育教材の収集、保育技術の習得(180)		
第12回 対象年齢別グループでの説明②3歳未満児を中心に【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			事前体験学習実施、保育教材の製作、保育教材の収集、保育技術の習得(180)		
第13回 早期現場体験実施における諸注意(証明等の説明)【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			体験に向けた準備(60)		
第14回 早期現場体験の具体的課題(手遊び、自己紹介)【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			体験に向けた準備(60)		
第15回 早期現場体験に向けての最終確認【齋藤、枝村、岡部、木谷、永坂、川邊】			体験に向けた準備、諸証明手続き(60)		
履修に必要な予備知識や技能:保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説を精読。					
課題に対してのフィードバック:授業内で提示される課題は、課題ごとに、担当教員やグループ担当教員によって提出期日や返却方法などが示される。					
評価方法・基準:課題実施(事前学習、オリエンテーション、事前体験学習)70%、受講態度30%。					
教科書:保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、実習テキスト。					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)、幼稚園教諭(岡部智子、22年)					

科目名称: 早期現場体験					
担当者名: 斎藤修啓、枝村美夏、岡部智子、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	実習	選択	1	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200081
授業概要: 保育士資格、幼稚園教諭一種免許取得の各実習に対する、事前の現場体験である。保育の理論的学びを支えるため、自分の肌で感じる経験を重ねる。この体験を通し「人と関わる力」を養い、「相手の動きにあわせる」ことから「保育に必要なこと」を自ら見出し主体的に学ぶ力をつける。					
到達目標: 保育所・幼稚園・認定こども園において、保育に参加し保育所・幼稚園の役割、保育者の仕事などを知る。子どもとの関わりを記録し、自らの関わりに気づく力を養う。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<b>【体験内容】</b> 時期: 1年次後期2月第3週～1年次後期3月第1週 (体験園の都合等により、日程が変更になる場合もある) 期間: 保育所 → 5日間の連続した体験 対象年齢は未満児を基本とするが、体験園と相談し実施する。 幼稚園 → 5日間の連続した体験 対象年齢は3歳児を基本として実施する。 条件: ①早期現場体験指導を受講し、無断欠席していないこと。 ②体験前にオリエンテーション、事前体験学習を行う。 ③体験中は体験園の指示・注意に従い、適切な体験に努める。 ④体験中の無断			①早期現場体験指導を受講し、課題に適切に取り組むこと。 ②体験園のオリエンテーション、事前体験学習の実施。 ③現場での体験に相応しい態度、心構え。		
履修に必要な予備知識や技能: 早期現場体験指導の受講、オリエンテーション・事前体験学習の実施。					
課題に対してのフィードバック: 事後指導を通して、実習での課題に関するフィードバックを行います。					
評価方法・基準: 体験内容 80%、体験記録 20%。					
教科書: 体験園からのパンフレット等、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、実習テキスト。					
備考:					
実務経験の内容・期間: 保育士(木谷葉子、6年)、幼稚園教諭(岡部智子、22年)					

科目名称:教育制度論					
担当者名:岡野大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200313
<p>授業概要:日本の教育制度は、日本国憲法及び種々の法令によって組織、運営されている。本講義では、基本的な教育制度を概説し、併せて学校現場における具体的な問題について考察する。とりわけ、平成18年の教育基本法改正以降の教育法制に焦点を当てるとともに、幼稚園経営に必要な学校評価についても考察を行う。</p>					
<p>到達目標:憲法、教育基本法、学校教育法など、教育に関する基本的な法令を学び、併せて教育制度についての基本的事項を習得する。主要な教育裁判を考察し、教育現場における様々な活動の法的根拠を確かめ、教育制度を総合的に理解する。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 法、憲法			事前配布の資料及び教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第2回 我が国の公教育制度			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第3回 教育・教育制度の基本(1)教育基本法			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第4回 教育・教育制度の基本(2)教育基本法、学校教育法			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第5回 国の教育行政			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第6回 地方の教育行政			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第7回 学校教育・教育課程(1)学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第8回 学校教育・教育課程(2)地方教育行政法、学校管理規則			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第9回 教育職員制度			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第10回 教育制度改革			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第11回 第三者評価から見た幼稚園の運営			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第12回 第三者評価から見た幼稚園の管理			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第13回 学校安全			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第14回 懲戒・校則と生徒の権利			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
第15回 教育裁判の考察			教科書の該当箇所を熟読すること(90)		
履修に必要な予備知識や技能:文部科学省のウェブサイトにある「教育に関する基本的政策」「幼児教育」「小学校、中学校、高等学校」「大学・大学院、専門教育」「特別支援教育」「学校保健、学校給食、食育」「学校安全」「教師の養成・採用・研修等」「社会教育」「生涯学習の推進」の各カテゴリーに掲載されている資料を一読しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:資料配布または個別に対応する					
<p>評価方法・基準:筆記試験を中心に、提出課題(レポート)などを加味して評価する。 [定期試験 70% 提出課題 20% 受講態度(授業への参加度)等 10%]</p>					
教科書:教科書:「やさしい教育法規の読み方(新訂第5版)」菱村幸彦 著 教育開発研究所					
参考書:「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考:シラバスの変更箇所は事前配布する資料を参照のこと					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:保育・教職実践演習(幼稚園)					
担当者名:斎藤修啓、枝村美夏、岡部智子、川邊音生、木谷葉子、永坂晃子、三宅右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	演習	選択	2	子ども福祉学科(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24209380
授業概要:総合的表現と討論を積み重ねることで、他者と出会うことのできる自己を築く。					
到達目標:その人らしく保育士・教員となることを目指し、人間理解と自己表現を総体的に体験する。また、保育士・幼稚園教諭としての感性を磨くことをテーマとする。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション、履修カルテを用いたこれまでの学修の振り返り【斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷、永坂、三宅】			保育所保育指針、幼児教育要領の復習(30)		
第2回 グループ討論(1)使命感、責任感、教育的愛情【斎藤】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第3回 グループ討論(2)社会性、対人関係能力【斎藤】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第4回 グループ討論(3)幼児児童理解、学級経営【斎藤】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第5回 グループ討論(4)教科・保育内容等の指導力【斎藤】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第6回 現場に必要な文書の作成【斎藤、川邊、木谷】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第7回 幼稚園または幼保連携型認定こども園でのフィールドワーク【斎藤、川邊、木谷】			フィールドワーク先について調べておくこと(30)		
第8回 安全対策に関するロールプレイング(1)模擬演習【斎藤、枝村、岡部、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第9回 安全対策に関するロールプレイング(2)発表【斎藤、枝村、岡部、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第10回 気になる子に関するロールプレイング(1)模擬演習【斎藤、枝村、岡部、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第11回 気になる子に関するロールプレイング(2)発表【斎藤、枝村、岡部、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第12回 保護者との協働、地域との連携に関するロールプレイング(1)模擬演習【斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第13回 保護者との協働、地域との連携に関するロールプレイング(2)発表【斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷、永坂】			前回授業時に配布した資料を復習しておくこと(30)		
第14回 私の園紹介ー私の園ってこんなところ！ー(1)計画【斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷、永坂、三宅】			課題に向けて積極的に取り組むこと(30)		
第15回 私の園紹介ー私の園ってこんなところ！ー(2)発表【斎藤、枝村、岡部、川邊、木谷、永坂、三宅】			課題に向けて積極的に取り組むこと(30)		
履修に必要な予備知識や技能:保育実習・幼児教育実習を振り返り、自分の保育者としての課題を整理する。幼稚園教育要領解説をふまえ、幼児の生活を5領域から見る習慣をつけておく。					
課題に対するフィードバック:授業中に示された課題などの提出物は、点検されたあと次回以降の授業で返却する。復習・理解度のチェックに活用すること。					
評価方法・基準:授業への参加度 60%、授業の課題 20%、最終レポート 20%。					
教科書:幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説。					
備考:					
実務経験の内容・期間:保育士(木谷葉子、6年)、幼稚園教諭(岡部智子、22年)					

科目名称:ジェンダー					
担当者名:高島 智世					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200073
<p>授業概要:この授業における「ジェンダー」とは、「その社会で共有されている性別に対する考え方」です。まず、言葉、家族、教育、労働、結婚、性暴力、売買春、人工妊娠中絶、同性愛、性同一性障害などの具体的なトピックスを通して、ジェンダーと性現象にまつわる基本的な考え方を学びます。次に、日本の歴史の流れや他の先進国の状況を参照しながら、現代日本の状況を知り、それに関する論点について考えます。また、社会福祉士科目のジェンダー・家族分野についても触れます。</p>					
<p>到達目標:1ジェンダーについての社会学の基本概念を取得する 2ジェンダーに関する現代日本の状況を理解する 3学んだことを自分の人生の将来設計に応用して考える。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション ～準備ワーク			授業課題 1(15)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第2回 ジェンダー概念の検討 ～<性別>について社会的に考えてみる			授業課題 2(15)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第3回 フェミニズムの歴史 ～女と男を社会はどのように考えてきたか			授業課題3(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第4回 言葉とジェンダー ～日本語の中の女と男			授業課題 4(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第5回 教育とジェンダー ～学校は男女平等か			授業課題 5(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第6回 労働とジェンダー ～男と女はどのように働かされてきたか			授業課題 6(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第7回 結婚とジェンダー ～「結婚」の意味はどのように変わってきたのか			授業課題 7 (20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第8回 <近代家族> ～私たちが「フツウの家族」と考えるものの成り立ち			授業課題 8(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第9回 「超少子化社会ニッポン」～中間まとめ			授業課題 9(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第10回 近代の性規範の成立 ～近代は「性」をどのように扱ってきたか			授業課題 10(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第11回 「性暴力」という問題構成 ～性暴力被害者の扱いは変わったのか			授業課題 11(20) 授業ブログでの発展学習(10-)		
第12回 DV ～支配とコントロールから自由になるために			授業課題 12(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第13回 Sexual an Reproductive Health and Right ～「性と生殖の自己決定権」とはなにか			授業課題 13(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第14回 性売買 ～「売春」はどのように扱われてきたか			授業課題 14(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
第15回 SOGI ～LGBT という言葉と私たちの社会			授業課題 15(20)・授業ブログでの発展学習(10-)		
履修に必要な予備知識や技能:社会学を履修していることが望ましいですが、ジェンダーに強い関心がある場合には履修していなくてもかまいません。					
<p>課題に対するのフィードバック:毎回の成果レポートや質問に対しては、授業ブログを用いてフィードバックを行います。 授業ブログ <a href="http://kinjogender.seesaa.net/">http://kinjogender.seesaa.net/</a> (パスワードは授業で告知します)</p>					
評価方法・基準:平常点(準備課題および授業終了前 10 分間の「成果レポート」の提出)65%+特別課題及び学期末レポート 35%。「成果レポート」や「質問」で優れているものには加点を行います。					
教科書:決まった教科書は使用しません。授業時には毎時レジュメを配布します。授業ブログに教科書リストがあり、授業ごとに参考文献を紹介しします。また授業ブログにて、web で読める参考論文・記事・動画等を紹介しします。					
備考:卒論でジェンダーを扱う予定の 3 年生は履修をおすすめします。また社会福祉士国家試験の「社会理論と社会システム」・「社会調査の基礎」・「現代社会と福祉」の近接分野の復習もします(5.6 問分程度)。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:海外文化・福祉事情					
担当者名:高島智世、竹腰敦、松田淳、呂夢					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年後期	講義・実習	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24200074
授業概要:事前に訪問地域の知識を習得し、訪問国の文化・福祉を学ぶ。 訪問国への海外研修を体験する。					
到達目標:海外の文化事情及び福祉事情を学び、日本と比較検討する。 海外研修を通して自己の価値を評価できる。 海外研修を通して学生としての学びを深め、思考の幅を広めることができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 授業オリエンテーション			訪問国・訪問都市について予習しておくこと(60)		
第2回 訪問国・訪問都市の地理と基礎知識 1			「訪問国・訪問都市の地理と基礎知識 1」で扱った内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第3回 訪問国・訪問都市の地理と基礎知識 2			「訪問国・訪問都市の地理と基礎知識2」で扱った内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第4回 訪問国の言語・旅行会話			「訪問国の言語・旅行会話」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第5回 訪問国の言語・コミュニケーション会話			「訪問国の言語・コミュニケーション会話」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第6回 訪問国・訪問都市の歴史 1			「訪問国・訪問都市の歴史 1」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第7回 訪問国・訪問都市の歴史 2			「訪問国・訪問都市の歴史 2」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第8回 訪問国・訪問都市の福祉事情 1			「訪問国・訪問都市の福祉事情 1」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第9回 訪問国・訪問都市の福祉事情 2			「訪問国・訪問都市の福祉事情2」の内容を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第10回 研修先での交流計画 1			「研修先での交流計画 1」で話し合った内容をもとに各自、必要があればグループで準備を行う(60)		
第11回 研修先での交流計画 2			「研修先での交流計画2」で話し合った内容をもとに各自、必要があればグループで準備を行う(60)		
第12回 研修先での留意事項			「研修先での留意事項」を復習し、しっかりと身につけておくこと(60)		
第13回 直前オリエンテーション 1			「直前オリエンテーション 1」の内容に基づき各自準備を行う(60)		
第14回 直前オリエンテーション 2			「直前オリエンテーション 2」の内容に基づき各自準備を行う(60)		
第15回 意見交換・まとめ			研修で得たものを各自まとめておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:訪問国・訪問都市の予備知識					
課題に対するフィードバック:研修ノート、レポートは研修終了後に提出、チェック後に返却する。					
評価方法・基準:研修ノート・研修レポート 60%、研修先での交流 20%、授業への参加度 20%で評価する。					
教科書:教科書:なし					
参考書:訪問国・訪問都市に関する書籍					
備考:訪問国・訪問都市によって、一部内容が変わる場合があります。第一回目の授業の時に訪問先に基づいた詳細な講義計画と事前事後学修の具体的な内容について提示します。					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:国際福祉政策					
担当者名:岡村 綾子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200075
授業概要:欧米主要国を中心とした各国の労働施策や社会保障制度について日本と比較しながら学ぶ。					
到達目標:①各国の労働施策についての違いについて理解できる。②各国の社会保障制度についての違いについて理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			日本の労働施策・社会保障施策についての項目を調べておく。(120)		
第2回 労働政策①(労働賃金・労働費用)			日本の労働賃金について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第3回 労働政策②(労働時間)			日本の労働時間について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第4回 労働政策③(育児休業・介護休業)			日本の育児休業・介護休業について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第5回 労働政策④(雇用対策)			日本の雇用対策について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第6回 労働政策⑤(失業対策)			日本の失業対策について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第7回 社会保障制度①(労働保険)			日本の労働保険について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第8回 社会保障制度②(公的年金)			日本の公的年金について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第9回 社会保障制度③(公的扶助)			日本の公的扶助について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第10回 社会保障制度④(医療保険)			日本の医療保険について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第11回 社会保障制度⑤(介護保険)			日本の介護保険について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第12回 子育て支援			日本の子育て支援について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第13回 障がい者支援			日本の障がい者支援について調べ、初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第14回 教育・職業能力開発			日本の教育・職業能力開発について調べ、テ初回授業に配布する資料の該当箇所を読んでおく。(90)		
第15回 総括			第1回から第14回までの授業内容について、初回授業に配布する資料等で復習しておく。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:日本の労働施策・社会保障施策について復習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内で行った小テスト等の返却・解説等は、次回以降の授業において実施する。					
評価方法・基準:定期試験 50%・授業内課題(レポート等) 30%・受講態度(小テスト) 20%					
教科書:テキスト:使用しない。テキストの代わりに授業の初回に資料を配布する。					
参考書:必要に応じて授業時に紹介する					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎ゼミ I					
担当者名:内慶瑞、枝村美夏、岡部智子、斎藤修啓、永坂晃子、三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24100091
授業概要:文献の輪読・議論、ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等を担当教員の指導のもとに行う。 (担当する教員によって授業内容は異なる)					
到達目標:この授業で、保育・幼児教育及び福祉の専門・関連分野やその他専門分野における多様な問題とそのような問題へのアプローチの方法を理解できるようになる。また、研究データの収集や調査・分析の方法を習得する(担当する教員によって目標は異なる)。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション::研究倫理の基本的考え方及びその概要についての説明			担当教員から別途指示する。		
第2回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第3回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第4回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第5回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第6回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第7回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第8回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第9回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第10回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第11回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第12回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第13回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第14回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第15回 総まとめの議論:基礎ゼミ I の総評			担当教員から別途指示する。		
履修に必要な予備知識や技能:担当教員から別途案内する。					
課題に対するフィードバック:担当教員から別途案内する。					
評価方法・基準:担当教員から別途案内する。					
教科書:担当教員から別途案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:基礎ゼミⅡ					
担当者名:内慶瑞、枝村美夏、岡部智子、斎藤修啓、永坂晃子、三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24100092
授業概要:文献の輪読・議論、ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等を担当教員の指導のもとに行う。 (詳細については、担当教員から別途案内する)					
到達目標:基礎ゼミⅠで蓄積された専門領域の知識や理論的な思考力を基に、文献を読み込む力、応用・発展させる力を習得する。4年次の卒業論文につながる自分の研究テーマを探求し発見する(担当する教員によって目標は異なる)。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション			担当教員から別途指示する。		
第2回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第3回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第4回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第5回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第6回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第7回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第8回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第9回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第10回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第11回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第12回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第13回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第14回 文献の輪読・議論:ゼミ全体の統一したテーマによる調査や分析等			担当教員から別途指示する。		
第15回 総まとめの議論:基礎ゼミⅡの総評			担当教員から別途指示する。		
履修に必要な予備知識や技能:担当教員から別途案内する。					
課題に対するフィードバック:担当教員から別途案内する。					
評価方法・基準:担当教員から別途案内する。					
教科書:担当教員から別途案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:卒業研究ゼミ I					
担当者名:枝村美夏、岡部智子、斎藤修啓、永坂晃子、三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24100093
<p>授業概要:指導教員のもとで、</p> <p>①各自の研究テーマの決定、</p> <p>②研究テーマに関連する文献検索・文献収集・文献リストの作成、</p> <p>③研究目的・研究動機の明確化、</p> <p>④研究デザイン・研究方法の検討、</p> <p>⑤研究計画の立案、文献収集・文献リスト作成、</p> <p>⑥計画に沿ってのデータ収集、</p> <p>を行う。</p> <p>卒業研究の進捗状況発表と意見交換、個人指導を行う。</p>					
<p>到達目標:①学生個人が保育・幼児教育及び福祉等の分野において明らかにしたいテーマに基づき、既習した知識・技術を統合し研究活動の実践ができる。</p> <p>②研究倫理の意味を理解するとともに、基礎的な研究方法や問題・課題解決の方法を学習し、将来にわたる研究活動の基盤を学ぶ。</p> <p>③データの処理方法や統計的手法の理解ができる。</p> <p>④研究の過程と得られた知見を論文としてまとめ口頭発表する。</p> <p>⑤研究過程の基本が理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ①ゼミの進め方・研究テーマの決定、研究への取り組みのディスカッション ②研究倫理の研究活動への具体的適用について説明			担当教員から別途指示する。		
第2回 研究テーマの決定、研究への取り組みのディスカッション			担当教員から別途指示する。		
第3回 研究テーマに関連する文献検索・文献収集・文献リストの作成			担当教員から別途指示する。		
第4回 研究目的・研究動機を明らかにする。			担当教員から別途指示する。		
第5回 研究デザイン・研究方法の共有(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
第6回 研究デザイン・研究方法の議論(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
第7回 研究デザイン・研究方法の活用(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
第8回 研究計画の立案、文献収集・文献リスト作成(個人の取り組みと個別指導)			担当教員から別途指示する。		
第9回 研究計画の立案、文献収集・文献リスト作成(個人の取り組みと個別指導)			担当教員から別途指示する。		
第10回 研究計画の立案、文献収集・文献リスト作成(個人の取り組みと個別指導)			担当教員から別途指示する。		
第11回 卒論研究の進捗状況発表と意見交換			担当教員から別途指示する。		
第12回 卒論研究の進捗状況発表と意見交換			担当教員から別途指示する。		
第13回 計画に沿ってデータ収集(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
第14回 計画に沿ってデータ収集(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
第15回 計画に沿ってデータ収集(個別指導も含む)			担当教員から別途指示する。		
履修に必要な予備知識や技能:担当教員から別途案内する。					
課題に対してのフィードバック:担当教員から別途案内する。					
評価方法・基準:担当教員から別途案内する。					
教科書:担当教員から別途案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:卒業研究ゼミⅡ					
担当者名:枝村美夏、岡部智子、斎藤修啓、永坂晃子、三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24100094
<p>授業概要:指導教員のもとで、</p> <p>①データ収集とデータ処理、結果の分析・解釈、</p> <p>②論文作成、</p> <p>③論文要旨作成、</p> <p>④卒業論文発表会</p> <p>を行う。</p> <p>論文作成については個人指導を行う。</p>					
<p>到達目標:①学生個人が保育・幼児教育及び福祉等の分野において明らかにしたいテーマに基づき、既習した知識・技術を統合し研究活動の実践ができる。</p> <p>②研究倫理を研究活動へ適用することができる。</p> <p>③基礎的な研究方法や問題・課題解決の方法を学習し、将来にわたる研究活動の基盤を学ぶ。</p> <p>④データの処理方法や統計的手法の理解ができる。</p> <p>⑤研究の過程と得られた知見を論文としてまとめ口頭発表する。</p> <p>⑥研究過程の基本が理解できる。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ゼミの進め方・卒論進捗状況とディスカッション			担当教員から別途指示する。		
第2回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第3回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第4回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第5回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第6回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第7回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第8回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第9回 論文作成、個人指導			担当教員から別途指示する。		
第10回 論文要旨作成			担当教員から別途指示する。		
第11回 論文要旨作成			担当教員から別途指示する。		
第12回 卒業論文発表準備			担当教員から別途指示する。		
第13回 卒業論文口頭発表			担当教員から別途指示する。		
第14回 卒業論文口頭発表			担当教員から別途指示する。		
第15回 卒業論文口頭発表			担当教員から別途指示する。		
履修に必要な予備知識や技能:担当教員から別途案内する。					
課題に対してのフィードバック:担当教員から別途案内する。					
評価方法・基準:担当教員から別途案内する。					
教科書:担当教員から別途案内する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:福祉総合学習					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子、岡野 大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年前期	講義	選択	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24200097
授業概要:社会福祉士に必要な基本的知識を確実に身に付けることができるよう、これまで学んできた社会福祉関係科目の総合的なふりかえりを行う。					
到達目標:社会福祉士資格取得に必要な基本的知識を確実に修得できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第1回 オリエンテーション			『講義概要』を事前に読み、授業の概要を理解しておくこと。(30)		
第2回 第2回 「地域福祉と包括的支援体制」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【西】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第3回 第3回 「貧困に対する支援」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡野】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第4回 第4回 「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門含む)」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【柴田】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第5回 第5回 「ソーシャルワークの理論と方法(専門含む)」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【内】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第6回 第6回 「保健医療と福祉」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡村】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第7回 第7回 「社会福祉調査の基礎」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【西】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第8回 第8回 「高齢者福祉」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【柴田】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第9回 第9回 「社会福祉の原理と政策」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡村】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第10回 第10回 「権利擁護を支える法制度」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡野】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第11回 第11回 「障害者福祉」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【内】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第12回 第12回 「児童・家庭福祉」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡村】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第13回 第13回 「刑事司法と福祉」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【西】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第14回 第14回 「社会保障」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【岡野】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
第15回 第15回 「福祉サービスの組織と経営」指定した範囲の小テストを実施し、その解説を行う。【内】			テキストの指定された範囲を十分読み込み理解した上で授業に臨むこと。(180)		
履修に必要な予備知識や技能:既習の授業科目のまとめとなるため、該当科目のこれまでの学習内容の要点を理解しておく。					
課題に対するのフィードバック:毎回の小テストの解説の際に質疑応答の時間を設ける。					
評価方法・基準:毎回の小テスト70% 定期試験30%					
教科書:TAC社会福祉士受験対策研究会編著(2023)『2024年版 みんなが欲しかった!社会福祉士の教科書 共通科目編/専門科目編』TAC出版					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:福祉総合演習					
担当者名:内 慶瑞、柴田 紀子、岡村 綾子、西 郁代子、岡野 大輔					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200098
授業概要:社会福祉士資格取得に向けて学生が各自で行う自己学習の学習計画(長期学習計画、週間学習計画)の作成及びその振り返りをサポートする。併行して、学生が自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導を行う。					
到達目標:社会福祉士資格取得に求められる水準の知識を修得するための計画的な取り組みとその振り返りを主体的に行うことができるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 第1回 オリエンテーション			『講義概要』を事前に読み、授業の概要を理解しておくこと。(30)		
第2回 第2回 長期学習計画の作成			「長期計画表」の原案を作成しておくこと。		
第3回 第3回 週間学習計画の作成方法についての確認と、週間学習計画の作成			「週間計画表」の原案の作成(30)		
第4回 第4回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第5回 第5回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第6回 第6回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第7回 第7回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第8回 第8回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第9回 第9回 長期学習計画の中間総括と、必要に応じて計画の修正次週の週間学習計画の作成			長期学習計画の達成度の自己評価を行うこと(30)。「週間計画表」の「目標達成度・課題」の欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第10回 第10回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第11回 第11回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第12回 第12回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第13回 第13回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第14回 第14回 週間学習計画表の振り返りと次週の週間学習計画の作成(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
第15回 第15回 週間学習計画表の振り返り(自己学習で理解できなかった点、疑問点等への指導)			「週間計画表」の「目標達成・課題」欄の記入と次週「週間計画表」の原案の作成(30)		
履修に必要な予備知識や技能:「福祉総合学習」の学修内容を確実に理解しておく。					
課題に対するフィードバック:演習に際しての課題(週間計画表等)と取組内容は、確認と点検された後に返却されます。そのうえで次の1週間の取組課題として確認してください。					
評価方法・基準:授業への参加度 50% 準備学習課題 50%					
教科書:資料等の配布					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士(内 慶瑞 市町村社会福祉協議会のボランティア・コーディネーター4年、福祉活動専門員5年)					

科目名称:卒業論文					
担当者名:枝村美夏、岡部智子、斎藤修啓、永坂晃子、三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	4年通年	演習	選択	4	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24200095
授業概要:基礎ゼミⅡ、卒業研究ゼミⅡの受講を通して学習した、研究テーマの立案、実施、データ分析などを行い、根拠に基づく卒業研究を教員の指導を通じて行う。					
到達目標:卒業研究としてあらかじめ定められた要項をもとに論文を執筆することができる。 保育・幼児教育及び福祉に関連する理念・知識・技術を基礎として各自が設定したテーマについて調査等を行い卒業論文としてまとめることにより4年間の学習の集大成とすることができる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
以下の項目について教員の指導が行われる。 ① 卒業研究のテーマの登録 ② 卒業研究の計画、実施 ③ 調査結果の分析 ④ 経過報告会の開催とディスカッション ⑤ 卒業研究発表会の準備、経過報告 ⑥ 卒業論文の執筆と添削 ⑦ 卒業論文の提出 ⑧ 卒業研究発表会			授業計画に沿って、担当教員の指導を受けながら、計画、実施の準備を行う。所要時間は担当者から別途示される。 ① 文献検索 ② 研究日程の調整 ③ 調査の準備 ④ 分析の準備 ⑤ 卒業論文の提出方法および提出期限の確認 ⑥ 卒業研究発表会の日程確認		
履修に必要な予備知識や技能:基礎科目・主題科目・専門基本科目・専門展開科目にて修得した理念・知識・技術が基盤となる。					
課題に対するフィードバック:担当者から、別途指示する。					
評価方法・基準:卒業論文:80%、卒業研究・卒業研究発表会・卒業論文への取り組みの姿勢:20%。					
教科書:担当者から、別途指示する。					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本語 I					
担当者名:長田 明子、鹿野 みどり、桜井 正美、田中 裕子、寺崎 祐子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
留学生	1年前期	演習	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		25200041
授業概要:日本語表現文型の学習を進めるとともに、言語知識(文字・語彙)や聴解や読解などの練習も行う。					
到達目標:日本語能力試験N3合格を目指す。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 動作の対象をあらわす表現(助詞を中心に)			教科書P.15~19を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第2回 動作の対象をあらわす表現(慣用表現)			教科書P.15~19を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第3回 文字・語彙練習(初級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第4回 文字・語彙練習(初級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第5回 目的・手段・媒介をあらわす表現(話しことば)			教科書P.20~27を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第6回 目的・手段・媒介をあらわす表現(書きことば)			教科書P.20~27を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第7回 読解練習(短文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第8回 読解練習(中文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第9回 起点・終点・限界・範囲をあらわす表現(基本)			教科書P.28~34を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第10回 起点・終点・限界・範囲をあらわす表現(応用)			教科書P.28~34を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第11回 聴解練習(2人の会話)			聴解のテキストのCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第12回 聴解練習(複数人の会話)			聴解のテキストのCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第13回 時点・場面をあらわす表現(基本)			教科書P.35~40を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第14回 時点・場面をあらわす表現(応用)			教科書P.35~40を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第15回 文字・語彙練習(初中級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第16回 文字・語彙練習(初中級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第17回 時間的同時性・時間的前後関係をあらわす表現(基本)			教科書P.41~48を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第18回 時間的同時性・時間的前後関係をあらわす表現(応用)			教科書P.41~48を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第19回 読解練習(中長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第20回 読解練習(長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第21回 進行・相関関係をあらわす表現(基本)			教科書P.49~54を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第22回 進行・相関関係をあらわす表現(応用)			教科書P.49~54を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第23回 聴解練習(レポート)			聴解のテキストのCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第24回 聴解練習(シャドーイング)			聴解のテキストのCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第25回 付帯・非付帯をあらわす表現(基本)			教科書P.55~61を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第26回 付帯・非付帯をあらわす表現(応用)			教科書P.55~61を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第27回 文字・語彙練習(中級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第28回 文字・語彙練習(中級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第29回 日本語能力試験 N3 模試練習(1回目)			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
第30回 日本語能力試験 N3 模試練習(2回目)			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:教科書やプリントを事前に予習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業での課題に対しては、適宜評価しフィードバックする。					
評価方法・基準:定期試験 60% 授業への参加度 40%					
教科書:教科書:どんな時どう使う日本語表現文型 500 聴解が弱いあなたへ 日本語能力試験対策 N3(文字・語彙・読解)					
参考書:どんな時どう使う日本語表現文型辞典					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本語Ⅱ					
担当者名:長田 明子、鹿野 みどり、桜井 正美、田中 裕子、寺崎 祐子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
留学生	1年後期	演習	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		25200042
授業概要:日本語Ⅰに引き続き、日本語表現文型の学習を進める。また、言語知識(文字・語彙)や聴解や読解などの練習も行う。					
到達目標:日本語能力試験N2レベルの実力をつけるとともに、さらなる日本語能力の向上を目指す。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	限定をあらわす表現(話しことば)	教科書P.62~66を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第2回	限定をあらわす表現(書きことば)	教科書P.62~66を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第3回	文字・語彙練習(初級基本)	前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第4回	文字・語彙練習(初級応用)	前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第5回	非限定・付加をあらわす表現(基本)	教科書P.67~75を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第6回	非限定・付加をあらわす表現(応用)	教科書P.67~75を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第7回	読解練習(短文)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第8回	読解練習(中文)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第9回	比較・最上級・対比をあらわす表現(基本)	教科書P.76~84を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第10回	比較・最上級・対比をあらわす表現(応用)	教科書P.76~84を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第11回	聴解練習(2人の会話)	日本語能力試験 N2 のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第12回	聴解練習(複数人の会話)	日本語能力試験 N2 のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第13回	判断の立場・評価の視点をあらわす表現(基本)	教科書P.85~92を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第14回	判断の立場・評価の視点をあらわす表現(応用)	教科書P.85~92を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第15回	文字・語彙練習(初中級基本)	前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第16回	文字・語彙練習(初中級応用)	前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第17回	基準をあらわす表現(基本)	教科書P.93~98を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第18回	基準をあらわす表現(応用)	教科書P.93~98を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第19回	読解練習(中長文)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第20回	読解練習(長文)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第21回	関連・対応をあらわす表現(基本)	教科書P.99~104を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第22回	関連・対応をあらわす表現(応用)	教科書P.99~104を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第23回	聴解練習(レポート)	日本語能力試験 N2 のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第24回	聴解練習(シャドーイング)	日本語能力試験 N2 のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第25回	無関係・無視・例外をあらわす表現(基本)	教科書P.105~109を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第26回	無関係・無視・例外をあらわす表現(応用)	教科書P.105~109を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第27回	読解練習(説明文)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第28回	読解練習(小説)	前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)			
第29回	日本語能力試験 N2 模試練習(1回目)	これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)			
第30回	日本語能力試験 N2 模試練習(2回目)	これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)			
履修に必要な予備知識や技能:教科書やプリントを事前に予習しておくこと。					
課題に対してのフィードバック:授業での課題に対しては、適宜評価しフィードバックする					
評価方法・基準:定期試験 60% 授業への参加度 40%					
教科書:教科書:どんな時どう使う日本語表現文型 500 日本語能力試験対策N2(文字・語彙・聴解・読解) 参考書:どんな時どう使う日本語表現文型辞典					
備考:					
実務経験の内容・期間:なし					

科目名称:日本語Ⅲ					
担当者名:王 迪					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
留学生	2年前期	演習	選択	2	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		25200043
授業概要:日本語Ⅱに引き続き、日本語表現文型の学習を進めます。また、言語知識(文字・語彙)・聴解や読解の練習も行います。					
到達目標:日本語能力試験N2(2級)合格を目指します					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 例示をあらわす表現(読み書き)			教科書P.110~114を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第2回 例示をあらわす表現(対人演習)			教科書P.110~114を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第3回 文字・語彙練習(中級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第4回 文字・語彙練習(中級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第5回 強調をあらわす表現(基本)			教科書P.115~122を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第6回 強調をあらわす表現(応用)			教科書P.115~122を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第7回 読解練習・新聞の講読(中長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第8回 読解練習・新聞の講読(長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第9回 話題をあらわす表現(基本)			教科書P.123~128を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第10回 話題をあらわす表現(応用)			教科書P.123~128を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第11回 聴解練習(2人の会話)			日本語能力試験 N2(2級)のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第12回 聴解練習(複数人の会話)			日本語能力試験 N2(2級)のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第13回 逆説・譲歩をあらわす表現(基本)			教科書P.129~136を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第14回 逆説・譲歩をあらわす表現(応用)			教科書P.129~136を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第15回 文字・語彙練習(上級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第16回 文字・語彙練習(上級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第17回 原因・理由をあらわす表現(基本)			教科書P.137~148を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第18回 原因・理由をあらわす表現(応用)			教科書P.137~148を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第19回 読解練習・新聞の講読(中長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第20回 読解練習・新聞の講読(長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第21回 仮定条件・確定条件をあらわす表現(基本)			教科書P.149~154を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第22回 仮定条件・確定条件をあらわす表現(応用)			教科書P.149~154を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第23回 逆接仮定条件をあらわす表現(基本)			教科書P.155~159を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第24回 逆接仮定条件をあらわす表現(応用)			教科書P.155~159を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第25回 逆接仮定条件をあらわす表現(話しことば)			教科書P.155~159を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第26回 逆接仮定条件をあらわす表現(書きことば)			教科書P.155~159を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第27回 読解練習・新聞の講読(中長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第28回 読解練習・新聞の講読(応用)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第29回 日本語能力試験 N2(2級)模試練習(1回目)			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
第30回 日本語能力試験 N2(2級)模試練習(2回目)			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:テキストやプリントを事前に予習しておくこと					
課題に対するフィードバック:授業内プリントは、評価し返却する					
評価方法・基準:試験 60%、受講態度 40%					
教科書:教科書:どんな時どう使う日本語表現文型 500 日本語能力試験対策N2(文字・語彙・聴解・読解)					
参考書:どんな時どう使う日本語表現文型辞典					
備考:					
実務経験の内容・期間:日本語教師(15年)、高校公民科免許					

科目名称:言葉と文化(日本語) I					
担当者名:王 迪					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
留学生	2年後期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		25200044
授業概要:日本語表現文型の学習を進めます。また、言語知識(文字・語彙)や聴解や読解の練習に加え、新聞の講読を通じて現代的な新語や流行語、略語などの意味や用法についても学びます。					
到達目標:日本語能力試験N1(1級)レベルの実力をつけることを目的とします。合格を目指します。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 不可能・可能・困難・容易をあらわす表現			教科書P.160~165を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第2回 文字・語彙練習(上級基本)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第3回 傾向・状態・様子・経過・結末をあらわす表現			教科書P.166~184を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第4回 解練習・新聞の講読(中長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第5回 否定・部分否定・伝聞・推量をあらわす表現			教科書P.185~197を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第6回 聴解練習(2人の会話)			日本語能力試験 N1(1級)のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第7回 心情の強調・強制をあらわす表現			教科書P.198~205を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第8回 文字・語彙練習(上級応用)			前回到配った文字・語彙のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第9回 誘い・進め・注意・禁止をあらわす表現			教科書P.206~210を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第10回 読解練習・新聞の講読(長文)			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第11回 主張・断定をあらわす表現			教科書P.211~216を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第12回 聴解練習(複数人の会話)			日本語能力試験 N1(1級)のCDを聞いて予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第13回 感嘆・願望をあらわす表現			教科書P.217~221を予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第14回 読解練習・新聞の講読			前回到配った読解のプリントを予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第15回 日本語能力試験 N1(1級)模試練習			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:テキストやプリントを事前に予習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内プリントは、評価し返却する					
評価方法・基準:定期試験 60% 受講態度 40%					
教科書:教科書: どんな時どう使う日本語表現文型 500 日本語能力試験対策N1(文字・語彙・聴解・読解)					
参考書: どんな時どう使う日本語表現文型辞典					
備考:					
実務経験の内容・期間:日本語教師(15年)、高校公民科免許					

科目名称:言葉と文化(日本語)Ⅱ					
担当者名:王 迪					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
留学生	3年前期	演習	選択	1	子ども福祉学科(1)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		25200045
授業概要:日本語能力試験N1(1級)に合格するための必要な言語知識(文字・語彙)の習得、聴解、読解及び文型の練習を行います。					
到達目標:日本語能力試験N1(1級)合格を目指します。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 文型(中上級基本)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第2回 文字・語彙(中上級基本)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第3回 聴解(発音に関する聞き取り)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第4回 読解(短文)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第5回 文型(上級基本)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第6回 文字・語彙(上級基本)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第7回 聴解(2人の会話)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第8回 読解(中文)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第9回 文型(上級応用)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第10回 文字・語彙(上級応用)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第11回 聴解(複数人の会話)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第12回 読解(長文)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第13回 日本語能力試験N1(1級)過去問題模擬練習(1回目)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第14回 日本語能力試験N1(1級)過去問題模擬練習(2回目)			プリントを事前に予習(予めその範囲を読み確認する)(30)		
第15回 日本語能力試験N1(1級)過去問題模擬練習(3回目)			これまでの学習内容を見直し、しっかり復習しておくこと(60)		
履修に必要な予備知識や技能:プリントを事前に予習しておくこと。					
課題に対するフィードバック:授業内プリントは、評価し返却する					
評価方法・基準:定期試験 60% 受講態度 40%					
教科書:教科書:日本語能力試験対策N1(文字・語彙・聴解・読解・文型)					
備考:					
実務経験の内容・期間:日本語教師(15年)、高校公民科免許					